

宮崎市文化財調査報告書第40集

石ノ迫第2遺跡

1999

宮崎市教育委員会

序

宮崎市は国指定、県指定を含めて数多くの古墳が存在します。そのなかでも生目古墳群は古墳群を構成する古墳の築造開始時期、墳丘規模の面において、特色があり、学術的にも大変重要な歴史遺産であります。

宮崎市では市制70周年記念事業の一環として生目古墳群を保存・整備して永く後世に伝えるべく生目古墳群の保存整備事業に着手し、平成5年度から平成7年度の遺跡確認調査を経て、このほど基本計画を策定するに至りました。また、史跡公園化に向けた公有地化も順調に進んでおります。

今後も地元の方々をはじめとする市民の皆様の文化財に対する関心の深さ、史跡整備への大きな期待をしっかりと受け止め、より一層、努力して参りたいと思います。

本書は平成9年度から平成10年度にかけて実施した石ノ迫第2遺跡発掘調査の報告書であります。この報告書によって本遺跡の重要性が再認識されて本遺跡と生目古墳群との関連について理解を深めていただくことの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたりご協力いただいた関係機関の方々、献身的に作業していただいた作業員の皆様に感謝申し上げます。

平成11年3月

宮崎市教育委員会

教育長 内藤 泰夫

例 言

1. 本書は、宮崎市教育委員会が国・県の補助を受けて、平成9～10年度の2年度にわたって実施した石ノ迫第2遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、平成9年11月4日～平成9年12月25日及び平成10年9月14日～平成10年12月22日にかけて宮崎市教育委員会が行った。

3. 調査体制

宮崎市教育委員会 文化振興課

(平成9年度)

課長 野間 重孝
係長 井手上 仁悟
庶務技師 鳥枝 誠
調査 〃 中山 豪
技師補 稲岡 洋道
補助 嘱託 椎 由美子
〃 松永 光雄
〃 小川 正子
〃 久富 なをみ

(平成10年度)

課長 野間 重孝
係長 永井 淳生
庶務主事 竹野 隆司
調査技師 鳥枝 誠
〃 時任 直也
〃 稲岡 洋道
技師補 宇田川 美和
整理主査 中山 豪 (国民年金課)
補助 嘱託 椎 由美子
〃 松永 光雄
〃 小川 正子
〃 久富 なをみ

4. 本書の執筆は鳥枝、稲岡、宇田川が行った。
5. 写真撮影は中山、鳥枝、時任、稲岡、宇田川が行ったが、空中写真については、株式会社スカイサーベイによるものである。
6. 本書に掲載した図面の実測・製図・図版の作成は中山、鳥枝、時任、稲岡、宇田川、小川、椎、松永が分担して行った。
7. 本書の編集は稲岡、宇田川、久富が行った。
8. 出土遺物については宮崎市教育委員会で整理・保管している。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の立地と環境	1
II. 調査の概要	7
III. 平成9年度の調査	8
1. 遺構について	8
2. 遺物について	30
IV. 平成10年度の調査	48
1. 遺構について	48
2. 遺物について	79
V. まとめ	103

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査区周辺図	4
第3図 遺構配置図	5
第4図 1号竪穴住居実測図	10
第5図 2号竪穴住居実測図	10
第6図 3号竪穴住居実測図	11
第7図 4号竪穴住居実測図	12
第8図 5号竪穴住居実測図	13
第9図 5号竪穴住居内土坑実測図	13
第10図 7号竪穴住居実測図	13
第11図 6号竪穴住居実測図	14

第12图	9号竖穴住居实测图	14
第13图	8号竖穴住居实测图	15
第14图	10号竖穴住居、6号土坑实测图	15
第15图	11·12·13·14·15号竖穴住居、1号沟状遺構实测图	16
第16图	2号竖穴状遺構、2号周溝状遺構实测图	18
第17图	7号竖穴状遺構、3号土坑、3号周溝状遺構实测图	18
第18图	17号竖穴住居、12·13号竖穴状遺構实测图	21
第19图	8号竖穴状遺構实测图	21
第20图	4号土坑实测图	21
第21图	5号土壙实测图	25
第22图	6号土壙实测图	25
第23图	7号土壙实测图	25
第24图	8号土壙实测图	25
第25图	10号土壙实测图	26
第26图	11号土壙实测图	26
第27图	14号土壙实测图	26
第28图	15号土壙实测图	26
第29图	16号土壙实测图	27
第30图	17号土壙实测图	27
第31图	18号土壙实测图	27
第32图	19号土壙实测图	27
第33图	20号土壙实测图	28
第34图	21号土壙实测图	28
第35图	22号土壙实测图	28
第36图	23号土壙实测图	28
第37图	24号土壙实测图	29
第38图	25号土壙实测图	29
第39图	26号土壙实测图	29
第40图	27号土壙实测图	29
第41图	28号土壙实测图	29
第42图	1·2号竖穴住居出土遺物实测图	31
第43图	3号竖穴住居·4号竖穴住居(1)出土遺物实测图	32
第44图	4号竖穴住居(2)出土遺物实测图	33
第45图	5~8号竖穴住居出土遺物实测图	35
第46图	9~11·14·15号竖穴住居、 1号竖穴状遺構·2号竖穴状遺構(1)出土遺物实测图	37

第47图	2号竖穴状遺構(2)、6~8号竖穴状遺構出土遺物実測図	38
第48图	9·11·12·14号竖穴状遺構、4号土坑(1)出土遺物実測図	41
第49图	4号土坑(2)出土遺物実測図	42
第50图	4号土坑(3)、1号周溝状遺構出土遺物実測図	43
第51图	2·3号周溝状遺構、1号溝状遺構(1)出土遺物実測図	44
第52图	1号溝状遺構出土遺物(2)、一括遺物(1)実測図	45
第53图	土壙出土遺物、一括遺物(2)実測図	47
第54图	18号竖穴住居実測図	50
第55图	23号竖穴住居実測図	50
第56图	19~22号竖穴住居実測図	51
第57图	24·25号竖穴住居実測図	52
第58图	26号竖穴住居実測図	55
第59图	27号竖穴住居実測図	55
第60图	31号竖穴住居実測図	55
第61图	34号竖穴住居実測図	55
第62图	28~30号竖穴住居実測図	56
第63图	28号竖穴住居内土坑実測図	56
第64图	32号竖穴住居実測図	57
第65图	33号竖穴住居実測図	57
第66图	19号竖穴状遺構実測図	60
第67图	20号竖穴状遺構実測図	60
第68图	20号土坑実測図	60
第69图	21号土坑実測図	63
第70图	22号土坑実測図	63
第71图	23号土坑実測図	63
第72图	32号土坑実測図	63
第73图	24号土坑実測図	64
第74图	25·26号土坑実測図	64
第75图	5号周溝状遺構実測図	64
第76图	29号土壙実測図	67
第77图	30号土壙実測図	67
第78图	31号土壙実測図	67
第79图	34号土壙実測図	67
第80图	35号土壙実測図	68
第81图	36号土壙実測図	68
第82图	37号土壙実測図	68

第83図	38号土壙実測図	68
第84図	39号土壙実測図	68
第85図	40号土壙実測図	69
第86図	41号土壙実測図	69
第87図	42号土壙実測図	69
第88図	43号土壙実測図	69
第89図	指定39号墳実測図	71
第90図	指定39号墳周溝土層断面図	71
第91図	指定40号墳実測図	72
第92図	指定40号墳周溝土層断面図(1)	72
第93図	指定40号墳周溝土層断面図(2)	72
第94図	未指定A号墳実測図	74
第95図	未指定B号墳実測図	75
第96図	未指定C号墳実測図	76
第97図	1号地下式横穴墓実測図	77
第98図	2号地下式横穴墓実測図	77
第99図	5号地下式横穴墓実測図	77
第100図	3号地下式横穴墓実測図	78
第101図	4号地下式横穴墓実測図	78
第102図	19・20・22~24号竪穴住居出土遺物実測図	81
第103図	25号竪穴住居出土遺物実測図	82
第104図	26~30号竪穴住居出土遺物実測図	83
第105図	31~34号竪穴住居、15号竪穴状遺構出土遺物実測図	86
第106図	19・20号竪穴状遺構、9・12・14・18・19・20(1)号土坑出土遺物実測図	88
第107図	20(2)・21~25号土坑出土遺物実測図	89
第108図	26・28・30・32号土坑、ピット、土壙、指定古墳周溝、未指定古墳周溝、 地下式横穴墓出土遺物実測図	91

表 目 次

第1表	出土土器観察表 1	92
第2表	出土土器観察表 2	93
第3表	出土土器観察表 3	94

第4表	出土土器觀察表 4	95
第5表	出土土器觀察表 5	96
第6表	出土土器觀察表 6	97
第7表	出土土器觀察表 7	98
第8表	出土土器觀察表 8	99
第9表	出土土器觀察表 9	100
第10表	出土土器觀察表 10	101
第11表	出土土器觀察表 11	102

図版目次

図版1	平成9年度調査区	107
図版2	平成10年度調査区	108
図版3	1号周溝状遺構周辺	109
図版4	2・3号周溝状遺構周辺	109
図版5	1号竪穴住居	110
図版6	2号竪穴住居	110
図版7	3号竪穴住居、9号土壇、2号溝状遺構	110
図版8	4号竪穴住居	111
図版9	4号竪穴住居出土遺物	111
図版10	5号竪穴住居	111
図版11	5号竪穴住居内炉	112
図版12	6号竪穴住居	112
図版13	6号竪穴住居出土遺物	112
図版14	7号竪穴住居、8号竪穴状遺構	113
図版15	9号竪穴住居	113
図版16	9号竪穴住居出土遺物	113
図版17	10号竪穴住居	114
図版18	4号土坑	114
図版19	4号土坑出土遺物	114
図版20	2号周溝状遺構	115
図版21	5号土壇	115
図版22	5号土壇出土遺物	115

图版23	6号土壙	116
图版24	7号土壙	116
图版25	8号土壙	116
图版26	11号土壙	117
图版27	15号土壙	117
图版28	18号土壙	117
图版29	18号土壙出土遺物	118
图版30	19号土壙	118
图版31	20号土壙	118
图版32	21号土壙	119
图版33	22号土壙	119
图版34	22号土壙出土遺物	119
图版35	24号土壙	120
图版36	25号土壙	120
图版37	26号土壙	120
图版38	21·22号豎穴住居	121
图版39	23号豎穴住居	121
图版40	26号豎穴住居	121
图版41	24·25号豎穴住居	122
图版42	27号豎穴住居	122
图版43	30号豎穴住居	123
图版44	32·33号豎穴住居、5号周溝状遺構	123
图版45	33号豎穴住居	124
图版46	34号豎穴住居	124
图版47	19号豎穴状遺構	124
图版48	20号豎穴状遺構	125
图版49	20号豎穴状遺構出土遺物	125
图版50	20号土坑	125
图版51	21号土坑	126
图版52	22号土坑	126
图版53	23号土坑	126
图版54	24~26号土坑	127
图版55	29号土壙	127
图版56	31号土壙	127
图版57	30号土壙	128
图版58	34号土壙	128

图版59	35号土壙	128
图版60	11号土坑、36号土壙	129
图版61	41号土壙	129
图版62	42号土壙	129
图版63	4号周溝状遺構	130
图版64	指定40号墳周溝	130
图版65	指定40号墳周溝出土遺物	130
图版66	1号地下式横穴墓	131
图版67	2号地下式横穴墓	131
图版68	3号地下式横穴墓	131
图版69	4号地下式横穴墓	132
图版70	4号地下式横穴墓出土遺物	132
图版71	5号地下式横穴墓	132
图版72	出土遺物 1	133
图版73	出土遺物 2	134
图版74	出土遺物 3	135
图版75	出土遺物 4	136
图版76	出土遺物 5	137
图版77	出土遺物 6	138
图版78	出土遺物 7	139
图版79	出土遺物 8	140



I. はじめに

1. 調査に至る経緯

石ノ迫第2遺跡は、平成5～7年度にかけて実施された生目古墳群周辺遺跡発掘調査の際に、G区として報告された地区にあたる。

調査は平成7年度に実施され、標高25m程の畑地部分に2箇所、その西側の削平され一段低く帯状に巡る緩斜面部分に5箇所のトレンチを設定して行った。その結果、下段の5本のトレンチよりV字溝が検出された。V字溝上幅は約1.5～2m、下幅約10～25cm、深さ約2～2.5mを測り、溝埋土下層より弥生時代中期中葉の土器が、上面より後期～終末期の土器が出土した。調査の結果や周囲の崖面の観察から、V字溝は畑地部分を囲むような形で巡るものと思われる。また、V字溝の内側からは竪穴住居が4軒、土坑が6基、土壌が13基検出され、後期～終末期の弥生土器、石包丁、磨製石鏃、鉄鏃等が出土した。また、表面採集で、小銅鏡、石剣が発見されている。

前回の調査の結果、当遺跡が環濠集落であることが想定され、同時に、数多くの土壌墓が検出され、住居域から、墓域への変化が推測された。また、調査の際、ゴボウ耕作によるトレンチャー痕が碁盤の目状に縦横に見られ、将来の遺構破壊の進行が危惧された為、平成9・10年度の2箇年に渡って発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は9年度が11月4日～12月25日、10年度は9月14日～12月22日にかけて行われた。

2. 遺跡の立地と環境

石ノ迫第2遺跡は宮崎市西部、大淀川右岸に位置する跡江丘陵南東部の大字跡江字石ノ迫に所在する。遺跡は標高約25mの台地上に立地し、周辺水田面からの比高は16mを測る。

跡江台地上及び、台地下には国指定史跡生目古墳群が所在する。古墳群は現在、前方後円墳7基、円墳22基が確認され、1・3・22号墳は古墳時代前期に遡る100m級の前方後円墳である。その他、台地上の遺跡として、平成5～7年度 of 古墳群周辺の調査で弥生時代終末期に比定される円形周溝墓、二段掘り土壌、古墳時代後期に比定される地下式横穴墓が検出された。また、1号墳前方部南側側面、台地北端の3号墳西側斜面に跡江横穴群が、石ノ迫第2遺跡の西側に石ノ迫遺跡、南側に跡江城が所在する。台地南西端には縄文時代早期～前期の土器が出土した跡江貝塚が所在している。

石ノ迫第2遺跡の立地する跡江台地周辺には数多くの遺跡が知られている。縄文時代の遺跡としては大淀川対岸の丘陵斜面に跡江貝塚と同時期の柏田貝塚が所在する。

弥生時代の遺跡としては石ノ迫第2遺跡の東約3.2km、大淀川を挟んだ対岸の丘陵上に下郷遺跡が所在する。下郷遺跡は弥生時代前期末～後期後半の環濠集落で、竪穴住居、竪穴状遺構、貯蔵穴、土坑等が検出され、弥生土器、石器が大量に出土している。下郷遺跡の立地する丘陵裾に茶園遺跡が所在し、弥生時代中期初頭～後葉の土器が出土している。茶園遺跡の東側に隣接して、

垣下遺跡が所在する。弥生時代中期の溝状遺構、旧河道と思われる大溝遺構が検出され、弥生土器、土師器、竹製の筥、木製品等が出土している。垣下遺跡の北約1.6kmの標高約12mの微高地上には黒太郎遺跡が所在する。周溝状遺構、溝状遺構が検出され、弥生時代後期の土器が出土している。

石ノ迫第2遺跡の西約3.5kmの標高約9～10mの微高地上には二月田遺跡が所在する。溝状遺構より弥生時代中期～終末期の土器が大量に出土しており、遺跡周辺に集落が存在した可能性を示す。

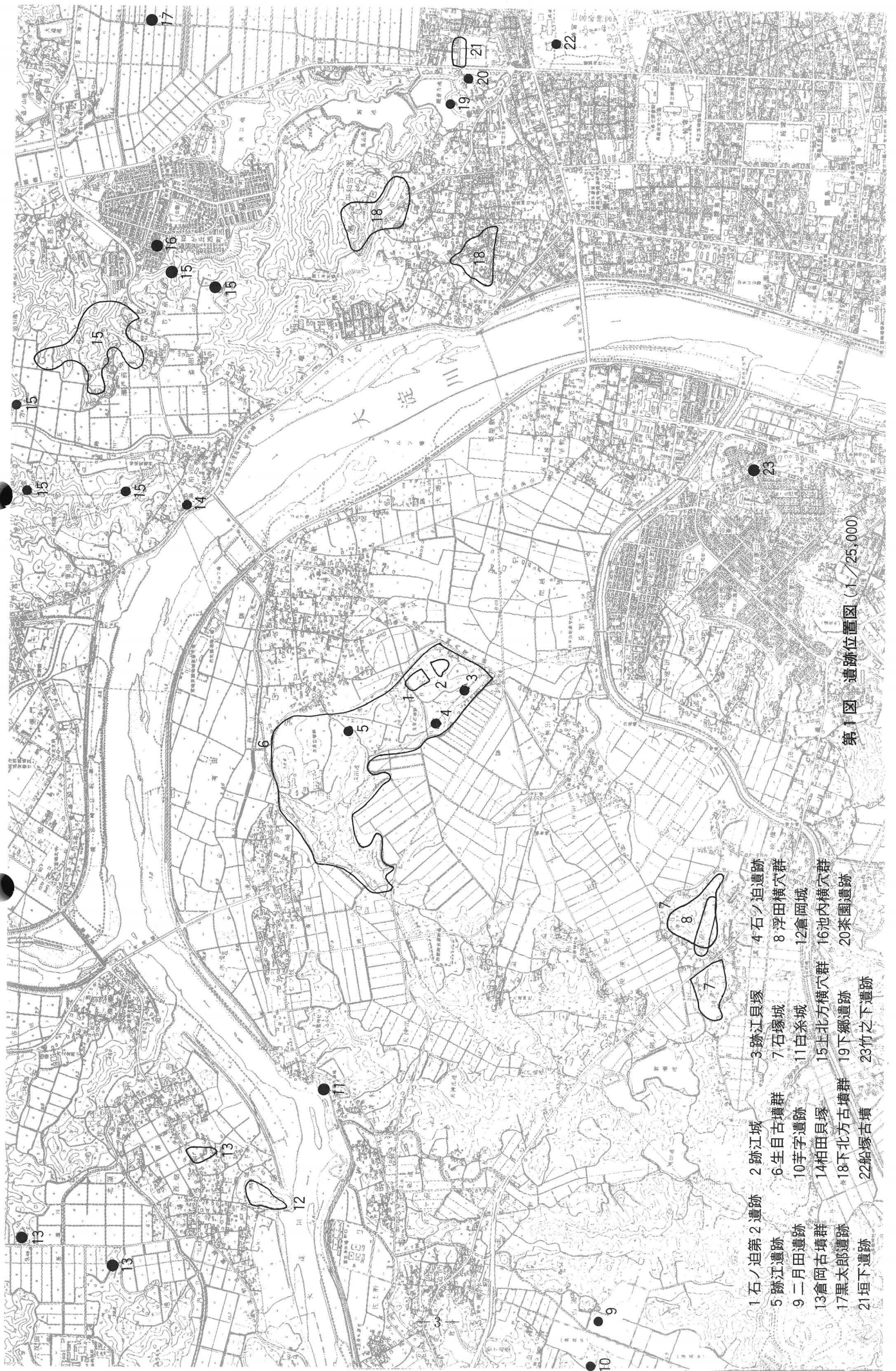
古墳時代の遺跡としては、石ノ迫第2遺跡の東約2.2km、大淀川左岸の標高約70mの丘陵上及び、その南側に広がる標高20mの台地上に下北方古墳群が所在する。下北方古墳群は前方後円墳4基、円墳12基、地下式横穴墓9基より構成され、5世紀中葉より古墳の築造を開始している。また、円墳である指定9号墳の墳丘下から検出された5号地下式横穴墓からは、金製垂飾付耳飾り、鏡、玉類、武器・武具類、馬具等、豊富な副葬品が出土している。下北方古墳群の立地する台地の南東、標高約9mの微高地上には周溝を巡らす前方後円墳である船塚古墳が立地する。下北方古墳群の北約1.5kmほどの丘陵東側の尾根斜面には池内横穴群が分布する。横穴群は6世紀後葉～7世紀末の横穴墓31基より構成される。丘陵の西側及び、侵食谷を挟んだ丘陵の東側斜面に50基余りの横穴墓より構成される上北方横穴墓群が所在する。

大淀川右岸では、石ノ迫第2遺跡の南東約2.7kmの微高地上に、周溝から4世紀末の壺形埴輪が出土した大淀3号墳が、その北方に古墳時代後期の集落遺跡である竹ノ下遺跡、多宝寺遺跡が所在する。跡江台地の南方2km、大字浮田字照明院、字鳥越の丘陵斜面には19基の横穴墓より構成される浮田横穴群が所在する。その他、細江、富吉地区に数基の円墳、横穴墓が点在している。

古代以降の遺跡は、浮田地区に五輪塔群、流路状遺構が調査され、流路状遺構より150点あまりの墨書土器が出土した余り田遺跡が、富吉地区に9～11世紀の土師器が出土した芋字遺跡が所在する。また、中世山城としては、南から下郷遺跡～下北方古墳群～池内横穴墓群の立地する丘陵北側に宮崎城が、石ノ迫第2遺跡の南西約2kmの丘陵上に石塚城が、石塚城の北西約2.1kmの大淀川右岸の丘陵上に白糸城が、その対岸の丘陵上に倉岡城が、それぞれ所在する。

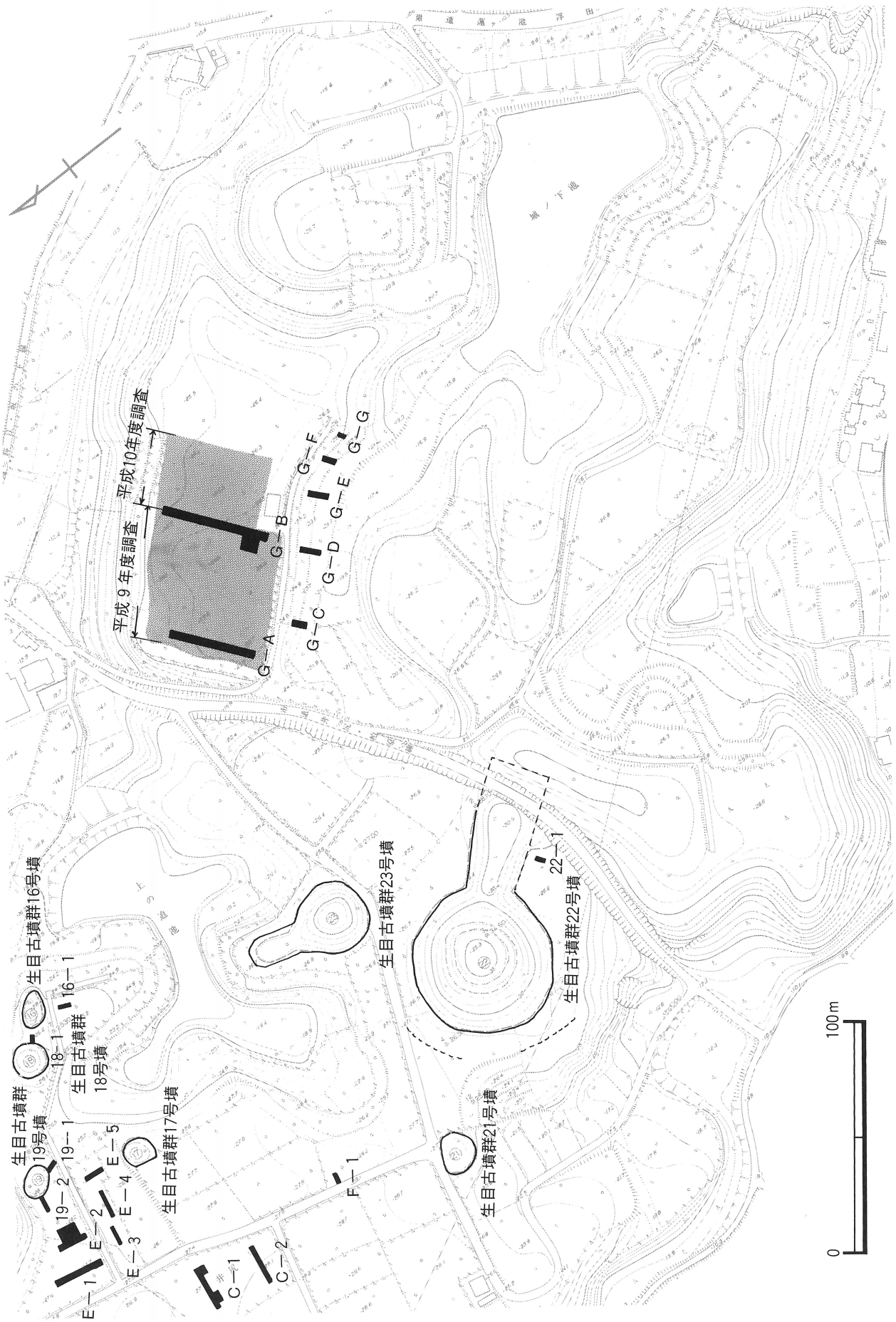
【参考文献】

- 『史跡生目古墳群周辺遺跡発掘調査報告書』 1996 宮崎市教育委員会
- 『宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書Ⅱ [リゾート地区を中心として]』 1990 宮崎市教育委員会
- 『垣下遺跡』 1991 宮崎市教育委員会
- 『二日月遺跡・芋字遺跡』 宮崎市文化財調査報告書第35集 1998 宮崎市教育委員会
- 『余り田遺跡』 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第1集 1997 宮崎県埋蔵文化財センター
- 『宮崎県史 資料編 考古1』 1989 宮崎県
- 『宮崎県史 資料編 考古2』 1993 宮崎県

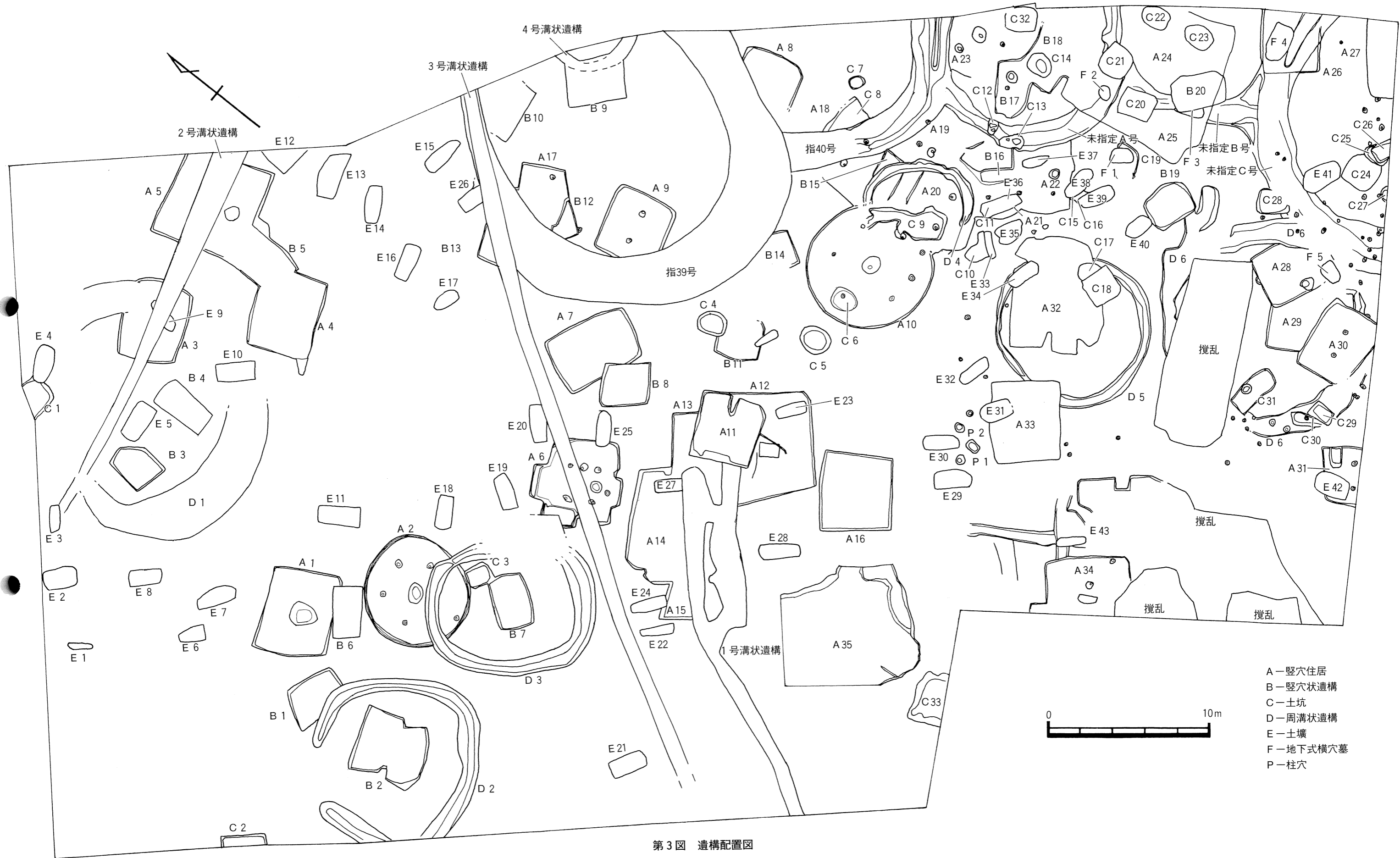


- | | | | | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------|----------|---------|-----------|----------|
| 1 石ノ迫第2遺跡 | 2 跡江城 | 3 跡江貝塚 | 4 石ノ迫遺跡 | 5 跡江遺跡 | 6 生目古墳群 | 7 石塚城 | 8 浮田横穴群 |
| 9 二月田遺跡 | 10 芋字遺跡 | 11 白糸城 | 12 倉岡城 | 13 倉岡古墳群 | 14 柏田貝塚 | 15 正北方横穴群 | 16 池内横穴群 |
| 17 黒太郎遺跡 | 18 下北方古墳群 | 19 下郷遺跡 | 20 茶園遺跡 | 21 垣下遺跡 | 22 船塚古墳 | 23 竹之下遺跡 | |

第1図 遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 調査区周辺図 史跡生目古墳群周辺遺跡発掘調査時トレンチ



第3図 遺構配置図

Ⅱ 調査の概要

平成7年度のトレンチ調査の結果を踏まえて、平成9年度は台地北側部分3,800㎡、平成10年度は南側部分1,200㎡を2箇年に渡って調査した。また、昭和18年に生目古墳群が国指定史跡となった際、今回の調査区内に39号墳、40号墳の2つの円墳が確認されていたが、現在では削平を受け場所を特定することができなくなっていたため併せてその2つの消滅古墳の調査も行った。

調査の結果、弥生時代中期～後期の集落跡が確認され、竪穴住居35軒、竪穴状遺構20基、土坑33基、周溝状遺構6基、溝状遺構2条、土壇43基、柱穴が検出され、遺構は調査区南側に集中しており、さらに南側にある平坦な林への集落の広がりを感じさせる。

また周溝を伴った円墳5基、地下式横穴墓5基、時期不明の土坑1基、溝状遺構2条が確認され、周溝は調査区東側端（台地縁辺部）に4基が連続して並ぶ状態で検出された。

ゴボウ作付けの際のトレンチャー痕（以後、トレンチャー）によって遺構破壊が著しく、検出状況、セクションでの遺構相互の切り合い関係を見極めるのが非常に困難な状態で、壁面破壊のためサイズ、プランさえはつきり掴めないものも多かった。

基本層序はⅠ層表土よりⅡ層黒褐色土、Ⅲ層黄色土（アカホヤ火山灰）、Ⅳ層明褐色土、Ⅴ層黒褐色土、Ⅵ層黄色土（AT）で、Ⅲ層、Ⅳ層露出面で遺構検出を行った。

7年度の調査も含めると3年に渡って調査されたため、調査区が重複し、7年度は調査面積の制限もあった。その結果、9・10年度の面的な調査により、遺構名の変更と整合が必要となるものがでてきた。7年度調査の北側トレンチ（G-A）で検出された遺構の番号は今回の報告でもそのまま使用することとし、9年度の調査で検出された遺構はその次から付ける事とした。7年度調査の中央部トレンチ（G-B）は10年度の調査結果を重要視し、遺構番号をすべて変更した。

遺構番号対称表

平成7年度 調査遺構番号	報告書遺構番号	備 考	平成7年度 調査遺構番号	報告書遺構番号	備 考
1号竪穴住居	35号竪穴住居	H8報告済	3号土壇	3号土壇	H8報告済
2号竪穴住居	——	未確認	4号土壇	4号土壇	H8報告済
3号竪穴住居	21号竪穴住居		5号土壇	29号土壇	
4号竪穴住居	17号竪穴状遺構		6号土壇	30号土壇	
1号土坑	1号土坑	H8報告済	7号土壇	31号土壇	
2号土坑	33号土坑	H8報告済	8号土壇	32号土壇	
3号土坑	——	未確認	9号土壇	5号周溝状遺構	
4号土坑	10号土坑		10号土壇	33号土壇	
5号土坑	35号土壇		11号土壇	36号土壇	
6号土坑	11号土坑		12号土壇	13号土坑	
1号土壇	1号土壇	H8報告済	13号土壇	12号土坑	
2号土壇	2号土壇	H8報告済			

Ⅲ. 平成9年度の調査

1. 遺構について

竪穴住居

1号竪穴住居（第4図）

5.4m×4.2m、深さ約22cmを測り、方形プランを呈する。南側が6号竪穴状遺構と切り合う。柱穴は確認されなかったが、住居のほぼ中央に炉と思われる掘り込みが検出された。平面1.7m×1.3mの楕円形のプランを呈し、床面からの深さは約20cmを測る。炉内北側では20cm×18cmの範囲で焼土が検出されている。

遺物は床面から15cm浮いた位置で出土しており、特に炉の上部で集中して出土した。

2号竪穴住居（第5図）

直径約6.4m、深さ約50cmを測り、ほぼ円形プランを呈する。南側を3号周溝状遺構に切られる。柱穴はもともと6本だったと思われるが、確認されたのは4本である。P1は直径40cm、深さ20cmを測る。P2は直径60cm、深さ30cmを測る。P3は直径40cm、深さ70cmを測る。P4は直径40cm、深さ20cmを測る。各ピット間の距離は、P1からP2が2.0m、P2からP3が2.0m、P3からP4が4.0mを測る。また、ほぼ中央に炉と思われる掘り込みが確認され、1.4m×1.0m、深さ約20cmを測り、楕円形のプランを呈する。焼土は確認されていない。住居内に、断面がV字を呈する幅40cm、深さ約10cmの壁帯溝を持つが、完周せずに南側で収束する。

遺物は10～30cm浮いた位置で大量に出土しており、床面では住居北側壁面近くで、台石が2個、東側壁近くで石斧が出土した。また床面近くで炭化木が多量に出土しており、住居廃棄は焼失によるものと考えられる。

3号竪穴住居（第6図）

5.5m×4.0m、深さ約45cmを測り、長方形プランを呈する。2号溝状遺構と9号土壌に切られる。柱穴等は確認されなかった。

遺物は床面において僅かに出土している。

4号竪穴住居（第7図）

5.0m×4.0m、深さ約40cmを測り、ほぼ方形プランを呈する。5号竪穴状遺構を切っている。柱穴は確認されなかった。

遺物は住居中心よりやや南の位置のほぼ床面で、土器が完形、破片の状態、甕、壺、鉢が大量に集中して出土した。住居廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。

5号竪穴住居（第8図）

5.8m×5.7m、深さ30cmを測り、方形プランを呈する。2号溝状遺構に切られ、5号竪穴状遺構を切っている。柱穴は確認されなかったが、住居の中央より南壁寄りに炉が検出された。直径約2.0m、深さ約45cmの円形プランを呈し、内部では40cm×25cmの範囲で焼土が検出されている。

遺物は炉内から、15cm大の礫が3個と土器片が出土し、住居南壁寄りの中央部分で壺(57)がほぼ完形の状態出土した。遺物55・59・60は流れ込みの土器と考えられる。

6号竪穴住居（第11図）

5.5m×5.5m、深さ60cmを測り、5箇所突出部を持つ「間仕切り住居」である。3号溝状遺構と25号土壌に切られ、北側と西側に、深さ50cmの位置でテラスを持つ。テラスの大きさは北側

が2.0m×0.5m、西側が1.8m×1.4mを測る。主柱穴は4本で、P1は28cm×24cm、深さ40cm、P2は44cm×40cm、深さ55cm、P3は52cm×44cm、深さ62cm、P4は68cm×52cm、深さ49cmを測る。各ピット間の距離は、P1からP2が2.0m、P2からP3が2.0m、P3からP4が1.8mを測る。P2とP3の間で炉が検出され、直径80cm、住居床面からの深さ15cmを測り、円形のプランを呈する。また、炉の南側に直径40cmの範囲で焼土が検出されている。

遺物は住居東側隅のほぼ床面から完形の壺(61)が出土し、埋土中から壺、鉢、蓋が破片の状態出土した。

7号竪穴住居(第10図)

5.5m×3.7m、深さ約50cmを測り、長方形のプランを呈する。南側で8号竪穴状遺構に切られており、柱穴等は確認されなかった。

遺物は埋土中から土器片が少量出土したのみである。

8号竪穴住居(第13図)

3.2m×2.4m、深さ約25cmを測る。遺構の北西部約2分の1をトレンチャー痕と指定39号墳周溝に切られているためプランは不明である。柱穴等は確認されなかった。

遺物は床面及び床面から10cm浮いた位置で甕、鉢、高杯、台石が出土した。

9号竪穴住居(第12図)

4.5m×4.0m、深さ70cmを測り、方形プランを呈する。遺構の南西隅が指定39号墳周溝に切られている。主柱穴は2本で、P1は直径40cm、深さ57cm、P2は直径40cm、深さ45cm、2本間の距離は1.9mを測る。また、住居中心よりやや南で焼土が確認された。

遺物は床面と床面から20cmの間で甕、壺、石包丁が完形、破片の状態出土した。

10号竪穴住居(第14図)

直径約7.5m、深さ40cmを測り、円形プランを呈する。住居東側で20号住居、15号竪穴状遺構、9号土坑に切られ、住居内西側で6号土坑を切っている。主柱穴は6本と考えられるが、5本しか検出されなかった。P1は直径30cm、深さ29cmを測る。P2は直径30cm、深さ29cmを測る。P3は直径20cm、深さ25cmを測る。P4は直径40cm、深さ50cmを測る。P5は直径30cm、深さ30cmを測る。各ピット間の距離は、P4からP5が4.3mであるほかはすべて2.5mである。また住居のほぼ中央に炉と考えられる掘り込みが検出された。1.2m×1.0m、深さ40cmを測り、楕円形のプランを呈する。焼土は確認されていない。

遺物は床面で台石が2個出土したものの、土器は埋土中から破片が少量出土したのみである。

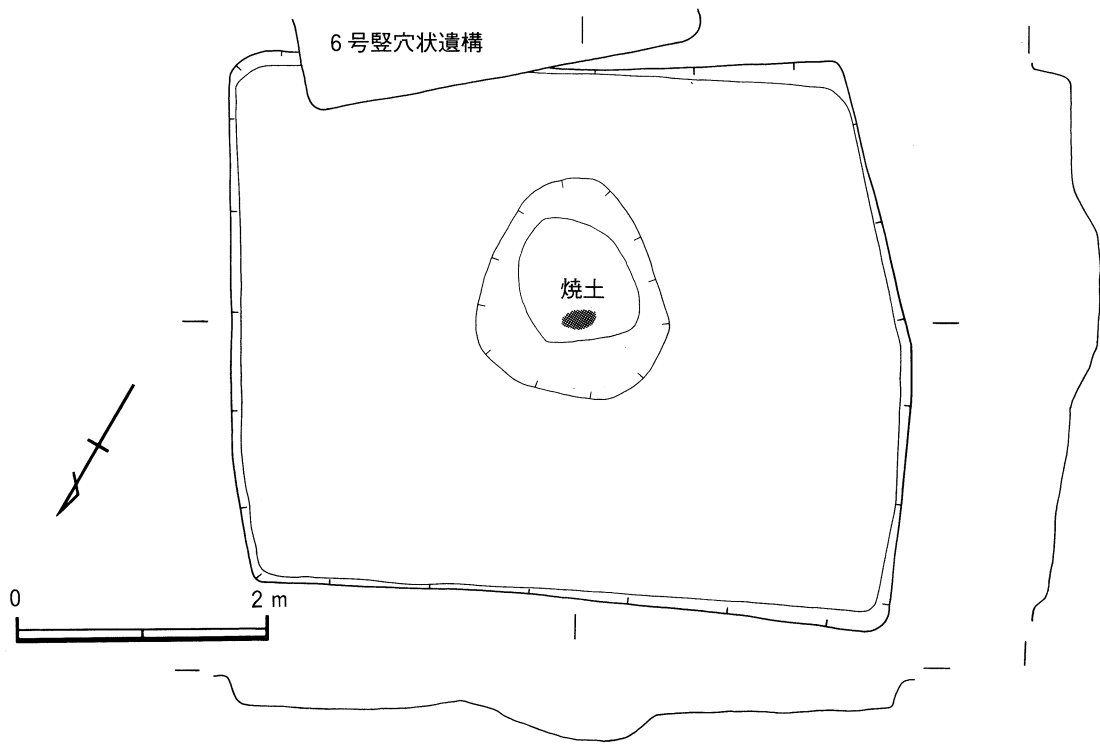
11号竪穴住居(第15図)

4.2m×4.0m、深さ40cmを測り、東壁、西壁の中央で突出部を持つ方形プランを基調とする「間仕切り住居」である。12・13号住居と1号溝状遺構と切り合っている。柱穴は確認されなかった。

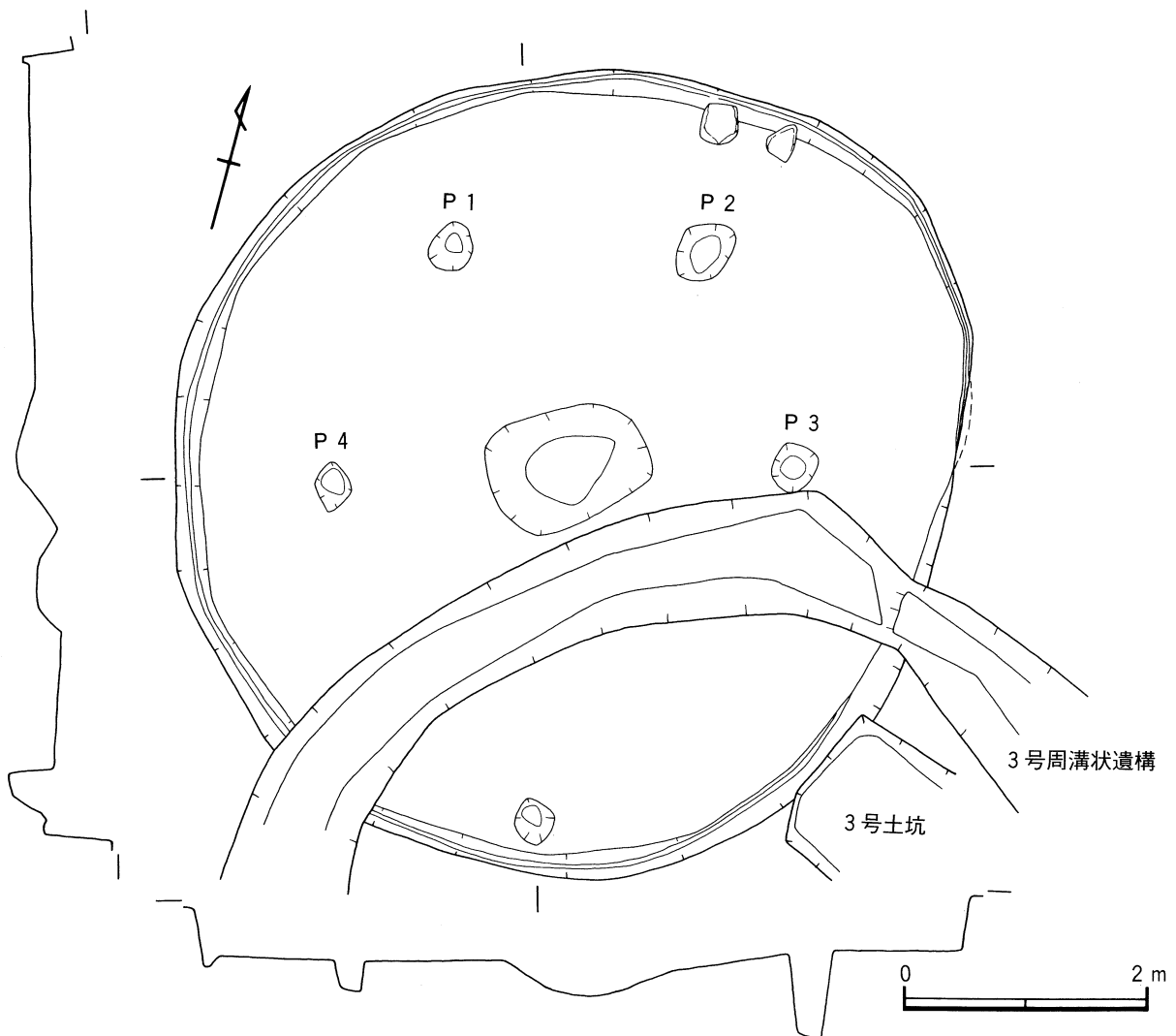
遺物は床面から10cm浮いた位置で土器片が少量出土している。

12号竪穴住居(第15図)

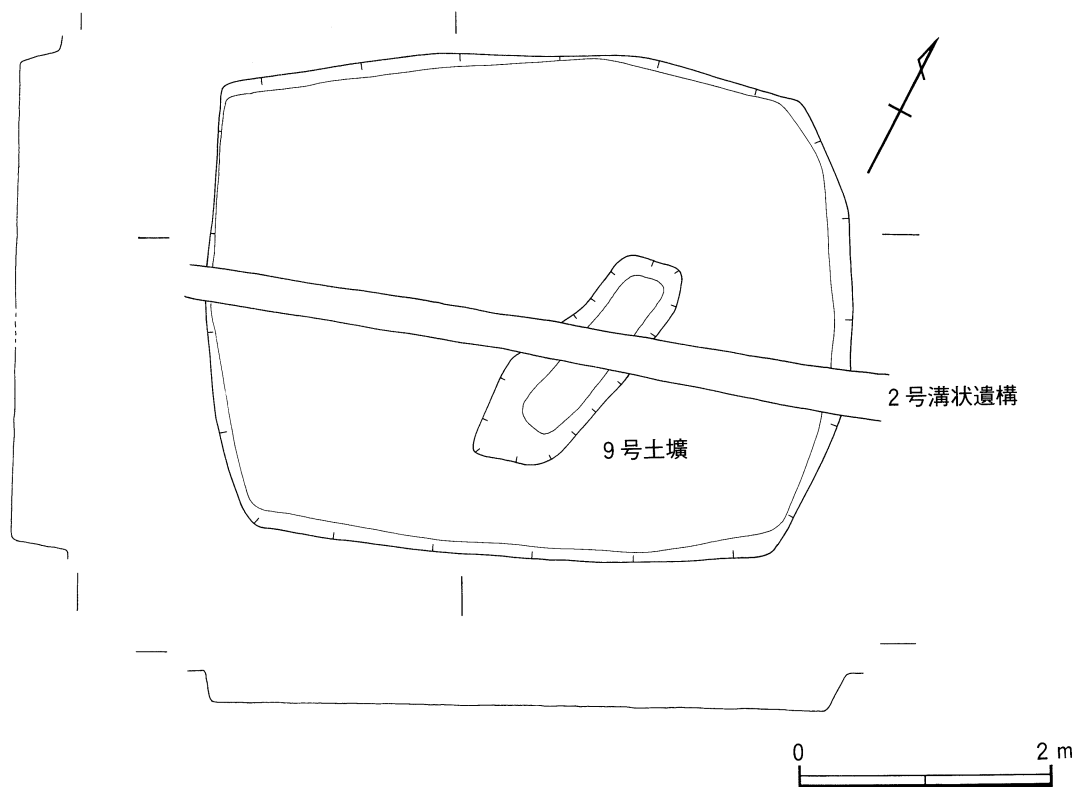
平面6.0m×4.4m以上、深さ約20cmを測り、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられる。11号住居・1号溝状遺構・23号土壇に切られ、13号住居と切り合う。柱穴は確認されなかった。



第4图 1号竖穴住居实测图



第5图 2号竖穴住居实测图



第6図 3号竖穴住居実測図

遺物は埋土中で土器破片が僅かに出土したのみである。

13号竖穴住居 (第15図)

3.4m以上×1.4m以上、深さ約30cmを測り、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられる。11号住居・1号溝状遺構に切られ、12・14号住居と切り合う。柱穴は確認されなかった。

遺物は埋土中で土器破片が僅かに出土したのみである。

14号竖穴住居 (第15図)

7.4m×3.6m以上、深さ約15cmを測り、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられる。1号溝状遺構と27号土壇に切られ、13・15号住居と切り合う。柱穴は確認されなかった。

住居西寄りの床面より10cm浮いた位置で土器片が数十点出土している。

15号竖穴住居 (第15図)

2.4m以上×2.0m以上、深さ24cmを測り、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられる。1号溝状遺構と24号土壇に切られ、13・14号住居と切り合う。柱穴は確認されなかった。

遺物は完形の壺(88)が床面から出土し、埋土中から土器破片が数十点出土した。

16号竖穴住居 (第3図)

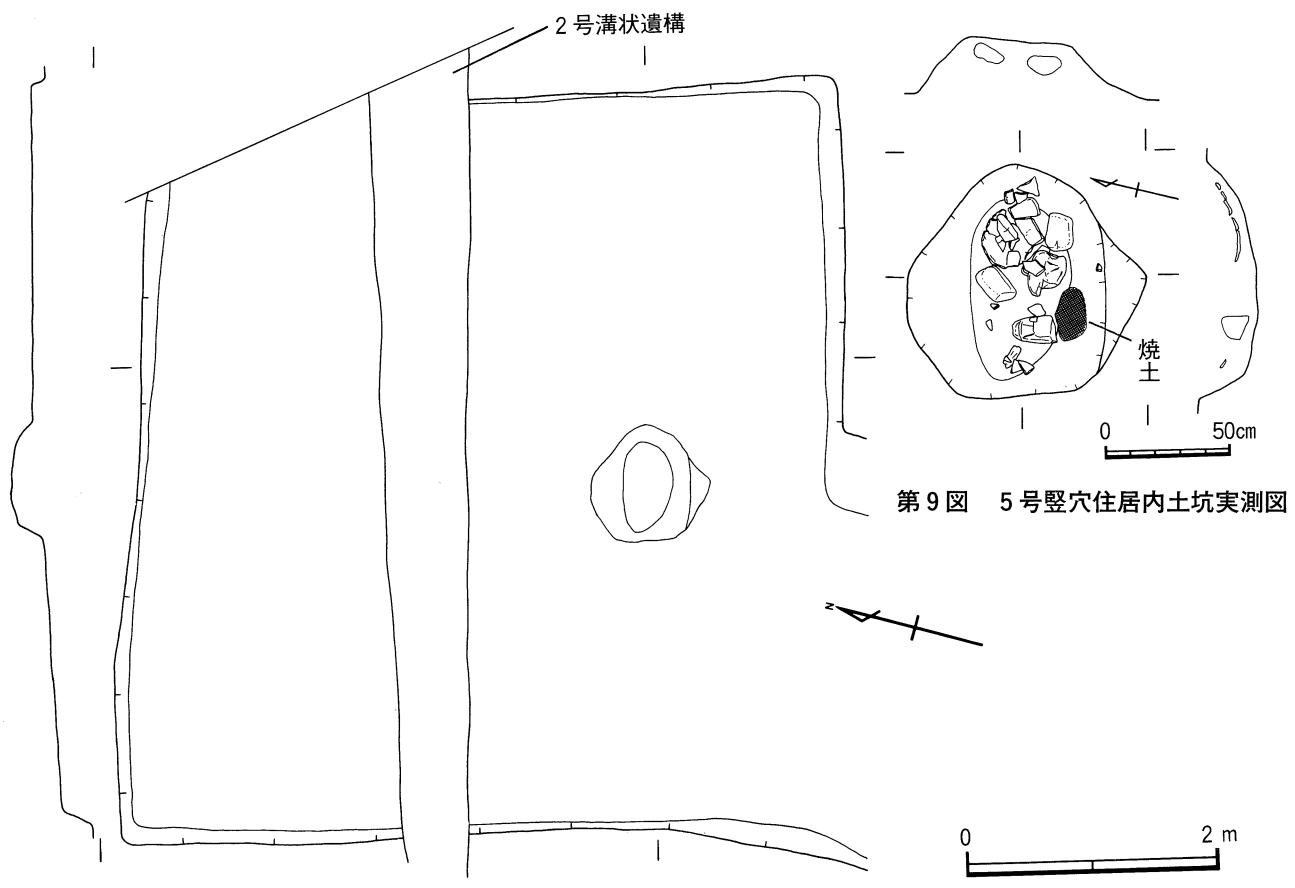
4.8m以上×4.2m以上、深さ30cmを測り、方形プランを呈すると考えられるが、4壁がすべて、トレンチャーによって破壊されている。柱穴は確認されなかった。住居中央と西隅近くの床面で焼土が確認されたが、炉は確認されなかった。

17号竖穴住居 (第18図)

3.8m以上×2.6m以上、深さ約45cmを測り、プランは不明である。12号竖穴状遺構と指定39号墳の周溝に切られる。柱穴は確認されなかった。

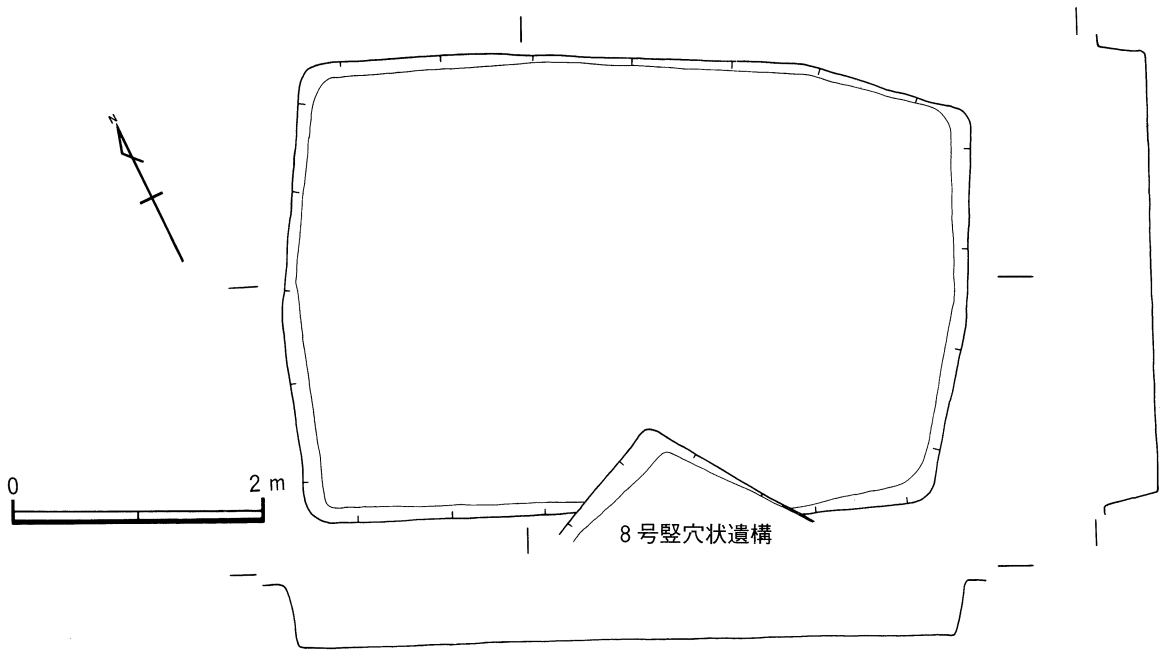


第7图 4号竖穴住居实测图

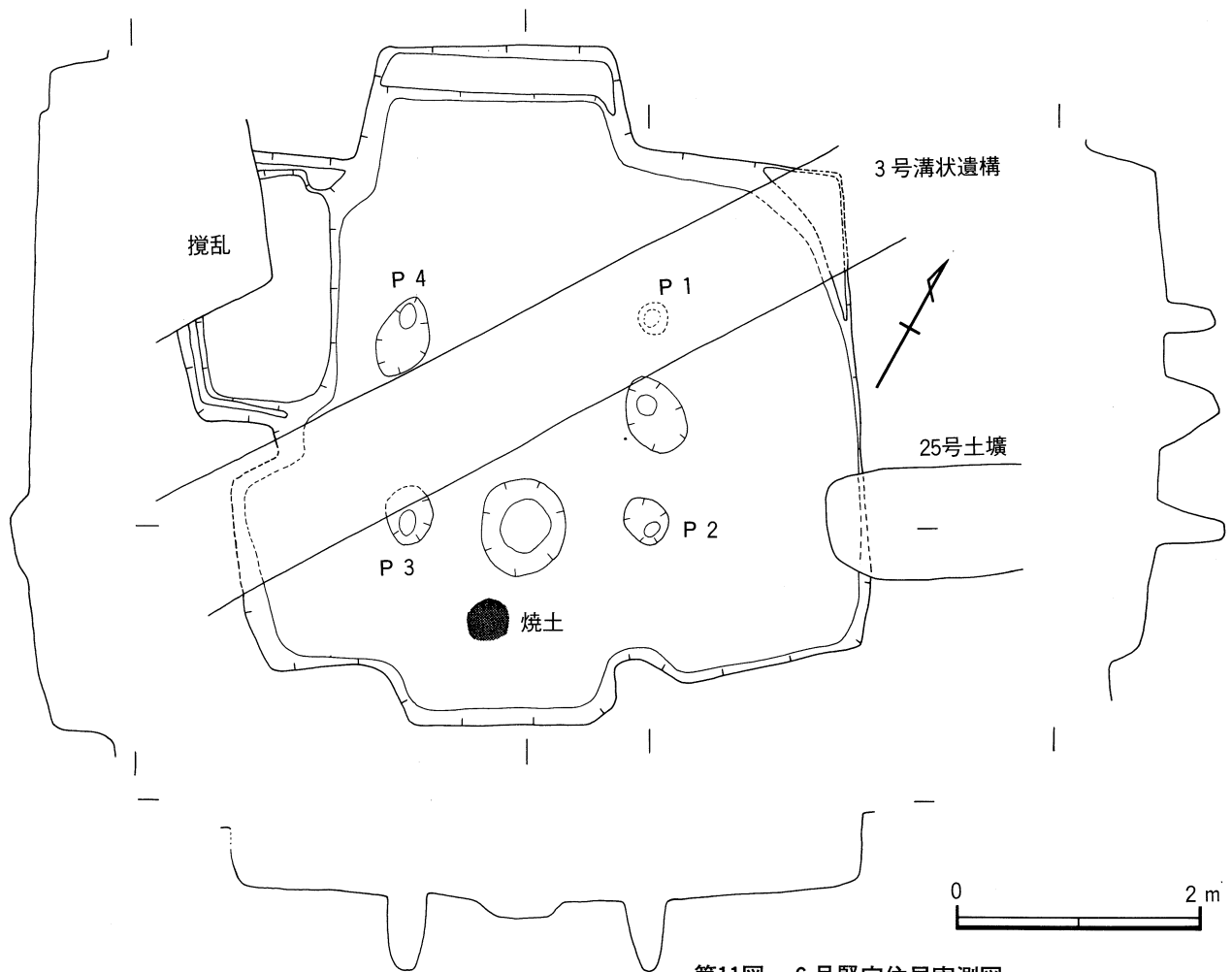


第8图 5号竖穴住居实测图

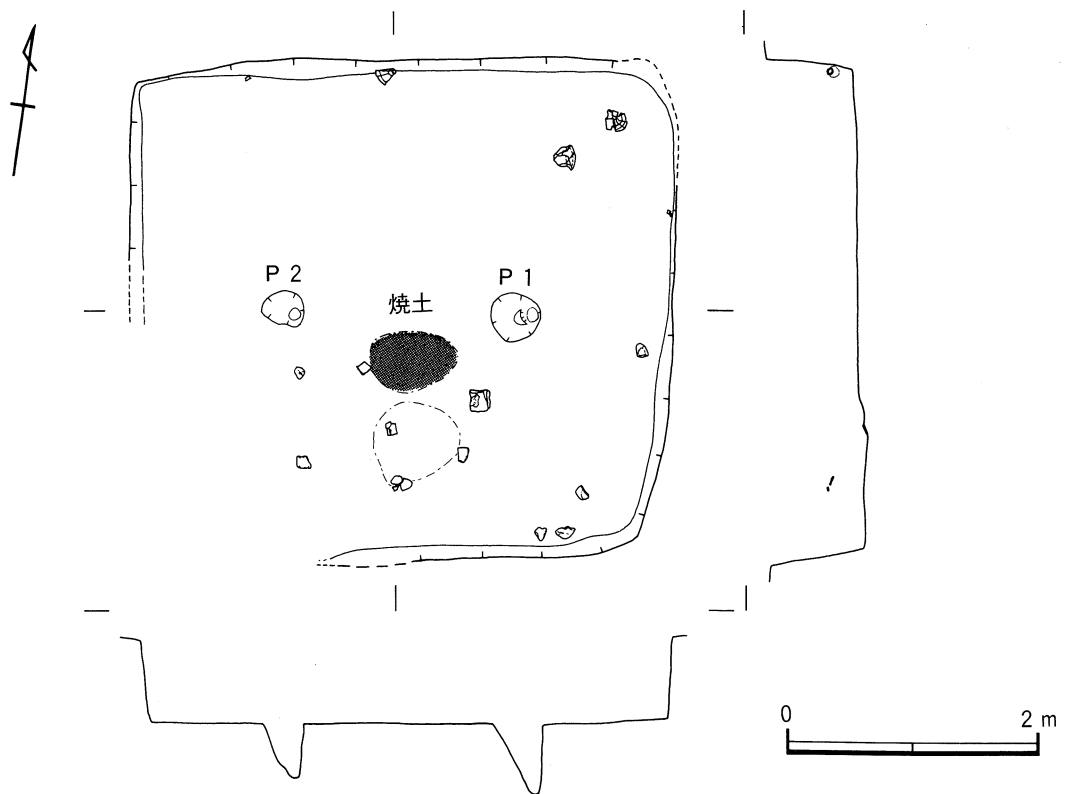
第9图 5号竖穴住居内土坑实测图



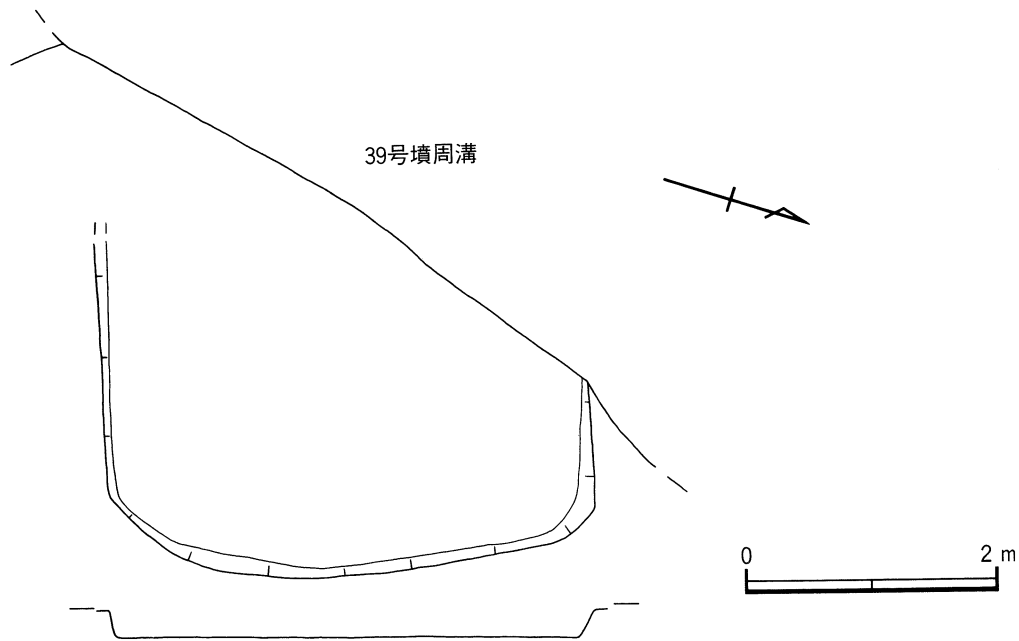
第10图 7号竖穴住居实测图



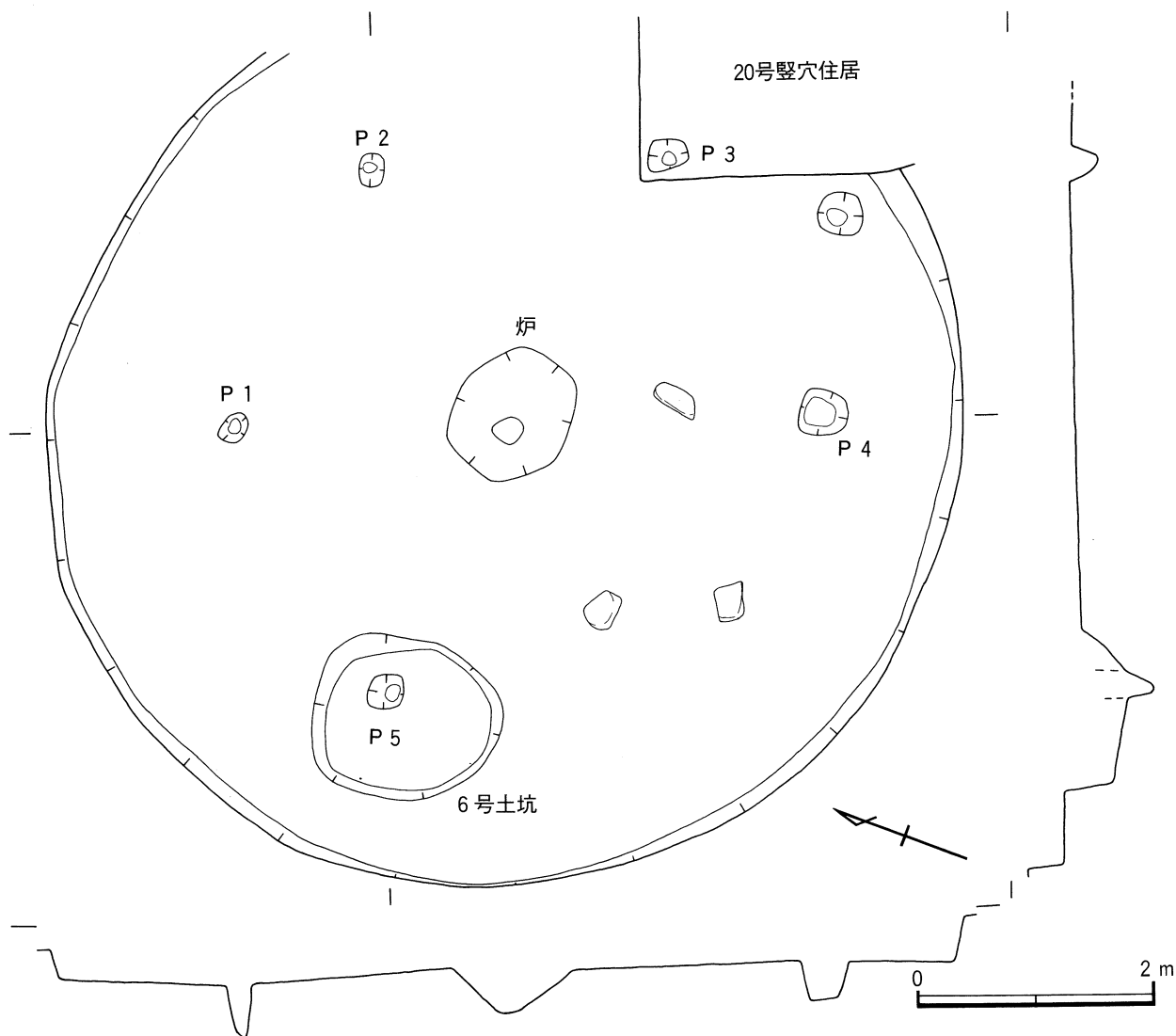
第11图 6号竖穴住居实测图



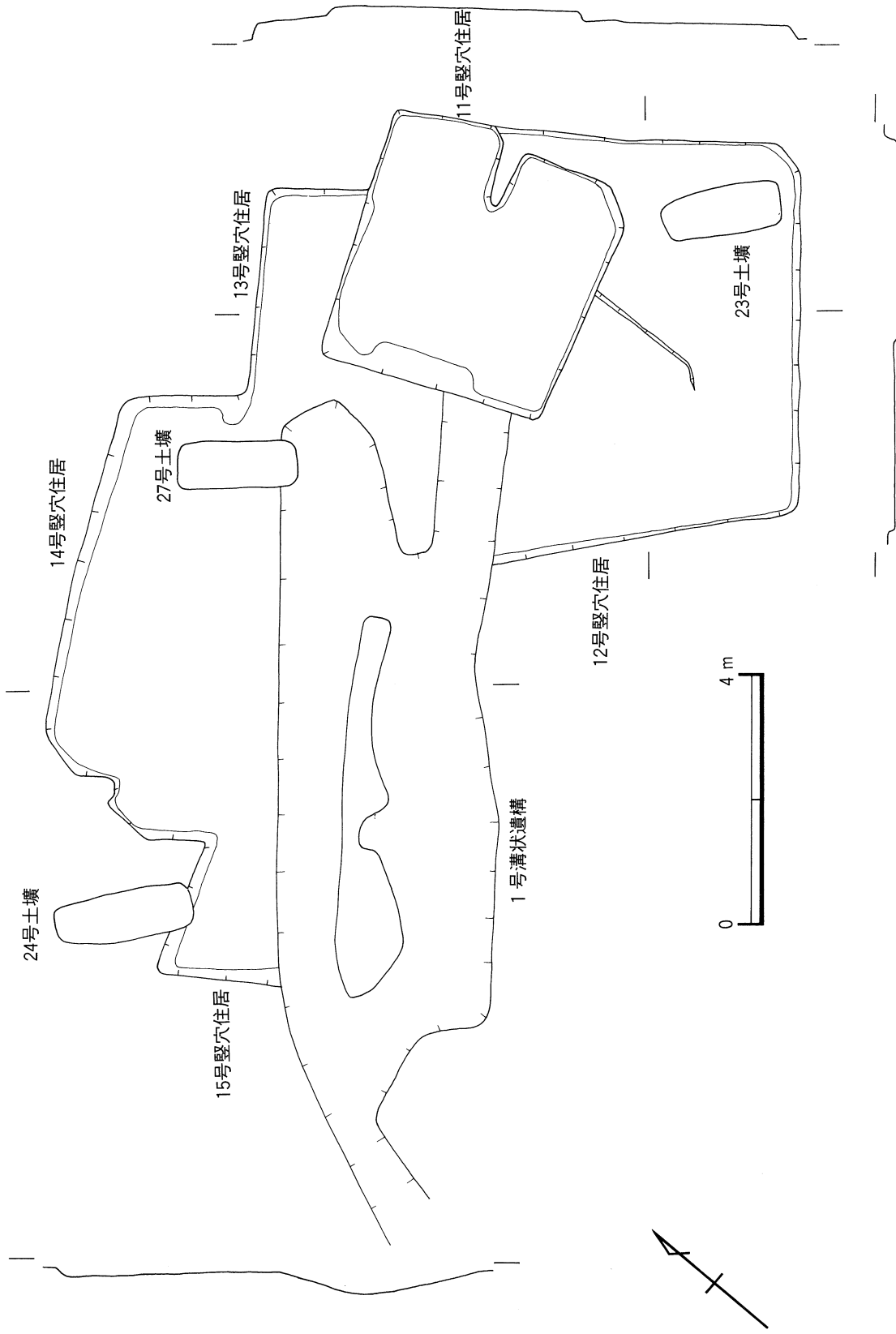
第12图 9号竖穴住居实测图



第13图 8号竖穴住居实测图



第14图 10号竖穴住居、6号土坑实测图



第15图 11·12·13·14·15号竖穴住居、1号沟状遺構実測図

遺物は埋土中から土器片が僅かに出土したのみである。

竪穴状遺構

1号竪穴状遺構 (第3図)

3.5m×2.5m、深さ約40cmを測り、長方形プランを呈する。南東隅を2号周溝状遺構と切り合う。遺物は埋土中で僅かに土器片が数十点出土したのみである。

2号竪穴状遺構 (第16図)

2号周溝状遺構のほぼ中央部に位置する状態で検出された。4.5m×4.0m、深さ30cmを測り、遺構中央部でくびれ、不定形プランを呈する。長方形プランを呈する2基の竪穴状遺構が切り合った可能性も考えられるがセクションでの確認はできなかった。

遺物は住居の床面から25cm浮いた位置で、遺構一面に甕、壺、高杯、器台の土器片が大量に出土している。

3号竪穴状遺構 (第3図)

2.8m×1.4m、深さ約30cmを測る。不定五角形のプランを呈する。

遺物は埋土中から数点土器片が出土した。

4号竪穴状遺構 (第3図)

3.5m×2.0m、深さ30cmを測る。長方形プランを呈する。

遺物は埋土中から数点土器片が出土している。

5号竪穴状遺構 (第3図)

3.4m×2.8m、深さ約40cmを測る。4・5号住居に切られる。長方形プランを呈する。

遺物は底面から25cm浮いた位置で数点土器片が出土している。

6号竪穴状遺構 (第3図)

3.1m×1.8m、深さ20cmを測り、長方形プランを呈する。北側で1号住居と切り合う。

遺物は遺構内東寄りの底面から10cm浮いた位置で壺、高杯、器台が破片の状態出土した。

7号竪穴状遺構 (第17図)

3号周溝状遺構の中央部で検出された。3.4m×2.2m、深さ約55cmを測り、長方形プランを呈する。3号土坑と切り合う。遺物は埋土中から数点出土した。3号周溝状遺構のほぼ中央部に位置しているため3号周溝状遺構と関連のある遺構と考えられるが、時期を比較するべき遺物が出土していないため問題が残る。

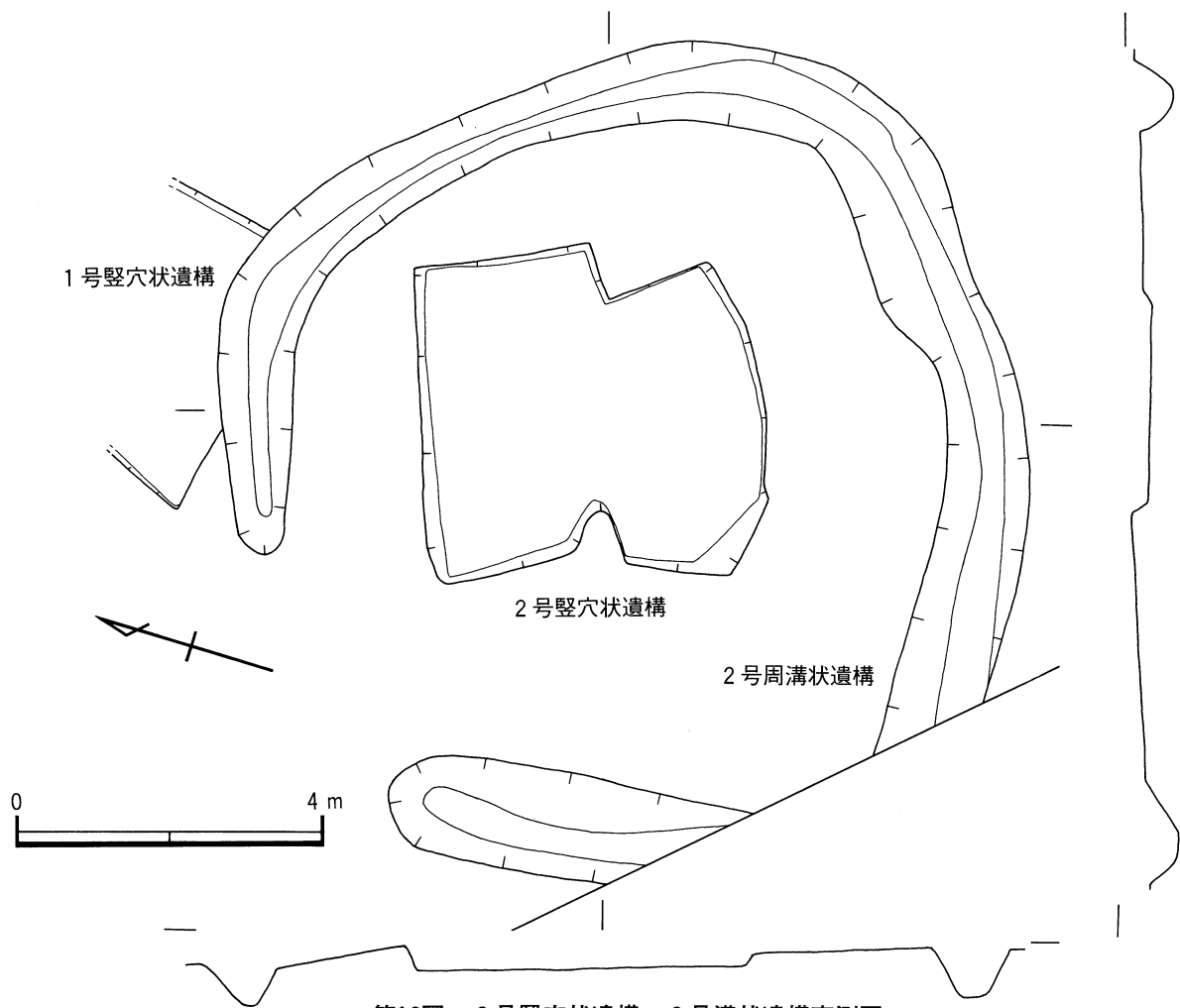
8号竪穴状遺構 (第19図)

3.0m×2.6m、深さ約28cmを測り、東西の軸が長くなる菱形様のプランを呈する。7号住居を切っている。遺構中央部で焼土が確認された。

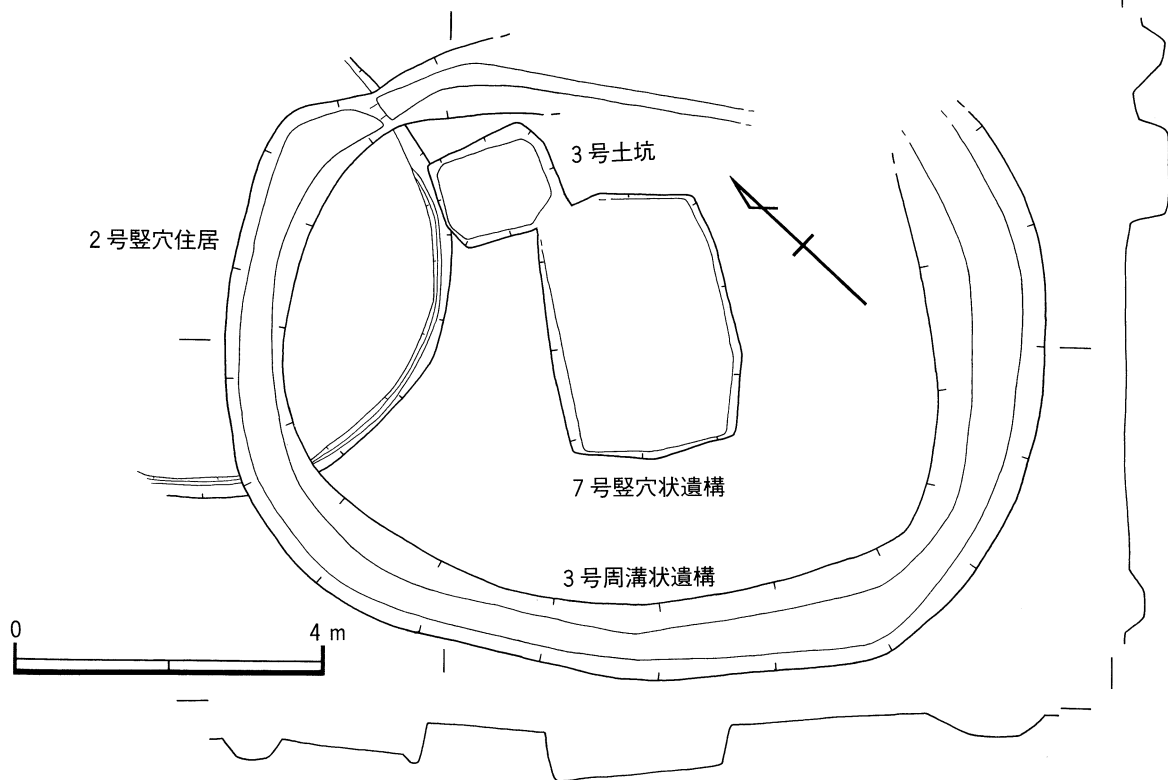
遺物は床面から5～10cm浮いた位置で甕、壺、高杯が潰れた状態で出土した。

9号竪穴状遺構 (第89図)

調査区東壁に位置する。3.8m×3.0m、深さ約50cmを測り、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられるが、遺構南東側壁は幅広のトレンチャー痕に破壊されている。



第16图 2号豎穴状遺構、2号溝状遺構実測図



第17图 7号豎穴状遺構、3号土坑、3号周溝状遺構実測図

遺物は埋土中から鉢が数点破片の状態出土した。

10号竪穴状遺構（第89図）

3.6m以上×0.8m以上、深さ約30cmを測り、トレンチャー痕と指定39号墳周溝により切られているため、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられるがはっきりしない。

遺物は埋土中から少量出土したのみである。

11号竪穴状遺構（第3図）

2.8m×2.4m、深さ約20cmを測り、方形プランを呈する。4号土坑と切り合う。

遺物は埋土中から甕、鉢、高杯の土器片が出土した。

12号竪穴状遺構（第18図）

2.0m以上×1.0m以上、深さ約35cmを測り、指定39号墳周溝に切れ、17号住居と切り合う。プランは方形もしくは長方形だと考えられる。遺物は埋土中から少量出土している。

13号竪穴状遺構（第18図）

3号溝状遺構及び指定39号墳周溝に切れ、2.0m以上×1.5m以上、深さ約30cmを測り、プランは長方形と考えられる。

遺物は埋土中から少量出土している。

14号竪穴状遺構（第3図）

2.1m×1.0m以上、深さ約30cmを測り、トレンチャーと指定39号墳周溝により切られているため、方形もしくは長方形プランを呈すると考えられるがはっきりしない。

遺物は埋土中から甕、鉢、砥石、軽石製品が出土した。

土坑

2号土坑（第3図）

調査区西壁に位置し、遺構の大半が調査区外にかかる。プランは方形ないしは長方形だと思われる。現状で3.0m×1.2m以上、深さ約55cmを測る。

3号土坑（第17図）

1.5m×1.0m以上、深さ約50cmを測る。7号竪穴状遺構と切り合う。

遺物は埋土中から少量出土している。

4号土坑（第20図）

1.7m×1.5m、深さ約128cmを測る。楕円形のプランを呈する。11号竪穴状遺構と切り合う。

遺物は床面と床面から25cmの範囲で、甕、壺、鉢、器台、柄杓形土器が土器溜り状に大量に出土している。

5号土坑（第3図）

2.0m×1.5m、深さ約120cmを測る。楕円形のプランを呈する。遺物は埋土中から少量出土した。サイズ、形態から貯蔵穴と考えられる。

6号土坑（第14図）

1.5m×1.3m、深さ約30cmを測る。楕円形のプランを呈する。10号住居に切られる。遺物は出土していない。

周溝状遺構

1号周溝状遺構 (第3図)

遺構の北端が平成7年度調査のトレンチにかかる。外径16.5m×12.0m以上、内径11.0m×10.0m以上、幅2m、深さ約20cmを測る。楕円形のプランを呈する。3号住居および1号溝状遺構に切られる。南東部で陸橋部を持つ。遺構中央部より5号土壙が検出されている。

遺物は遺構南側から壺、高杯、ミニチュア甕・壺が破片の状態で少量出土している。

2号周溝状遺構 (第16図)

遺構の西端が調査区外にかかる。外径10.8m×10.4m、内径9.4m×8.6m、幅1.3m、深さ約70cmを測り、楕円形プランを呈し、北側に幅3.4mの陸橋部を持つ。1号竪穴状遺構を切り、遺構中央部で2号竪穴状遺構が検出されている。

遺物は遺構南側の底面から20cm浮いた位置でほぼ完形の壺(174)、15cm浮いた位置で小型壺(178)が出土しており、埋土中からも土器片が少量出土した。

3号周溝状遺構 (第17図)

外径10.4m×8.0m以上、内径8.0m×6.0m以上、幅1.6m、深さ約40cmを測り、楕円形プランを呈する。全体の8分の1が攪乱によって失われているため、陸橋部の有無は判明しない。2号住居を切っており、遺構中央部で7号竪穴状遺構が検出されている。

遺物は遺構北西部の底面より完形の小型壺(181)が出土している他は殆ど出土していない。

溝状遺構

1号溝状遺構 (第15図)

遺構の南側が調査区外にかかる。最大幅3.4m、最小幅1.0mを測り、深さは最大幅の位置で約40cm、最小幅の位置で約15cmを測る。11号住居および27号土壙に切れ、12・13・14・15号住居を切る。東側で2条に分岐する。

遺物は埋土中から甕、壺、鉢、高杯、ミニチュア壺、蓋が破片の状態で出土した。

2号溝状遺構 (第3図)

遺構の東側が調査区外に、西側が平成7年度調査のトレンチにかかる。幅1.2m、深さ約70cmを測る。遺物は全く出土せず、埋土は直径2～3mmの火山灰粒子を多量に含む。

3号溝状遺構 (第3図)

調査区を南西から北東へ走る溝で、北東部分は調査区外にかかる。幅1.0m、深さ約25cmを測る。遺物は全く出土せず、埋土は直径2～3mmの火山灰粒子を多量に含む。

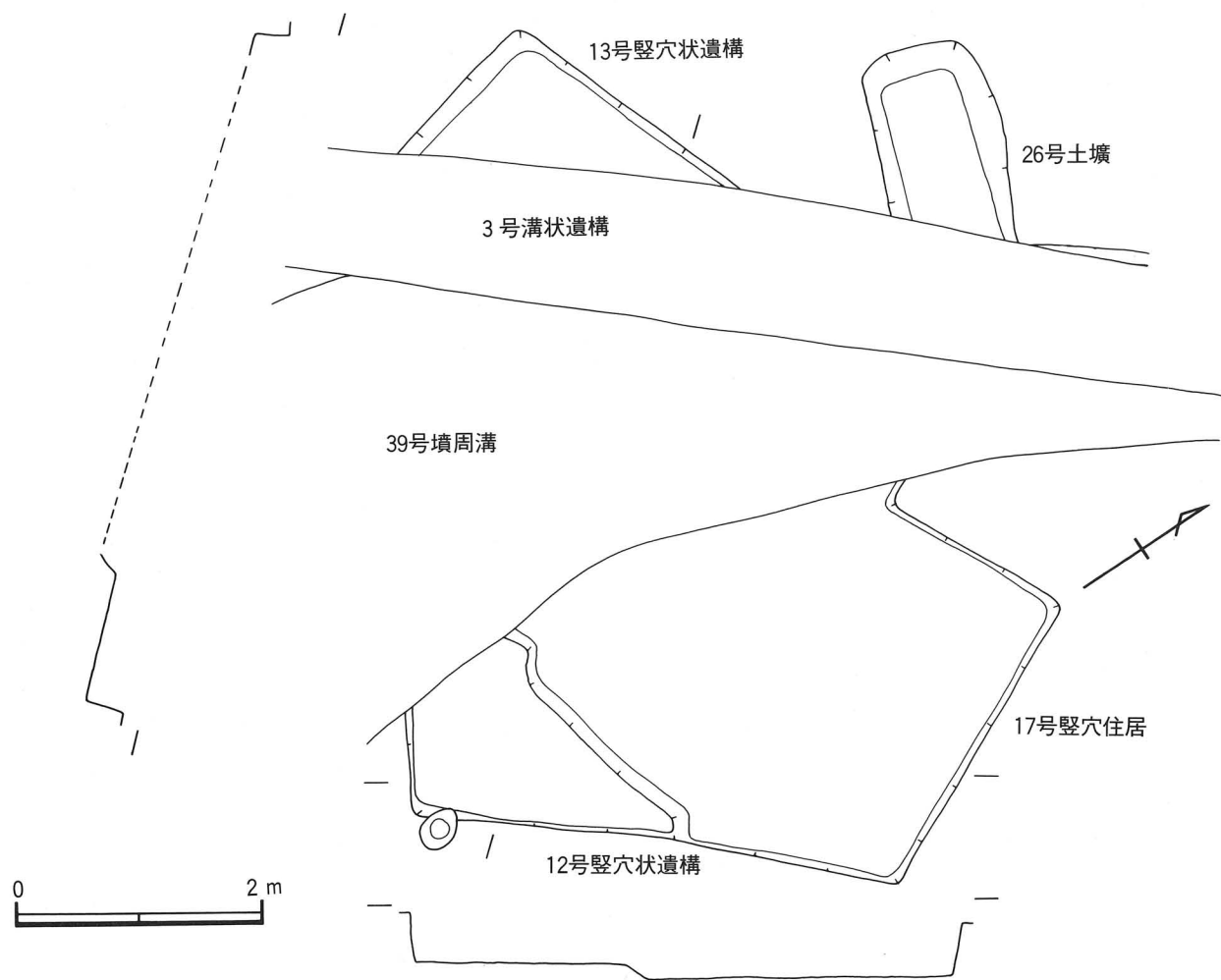
4号溝状遺構 (第89図)

遺構の東側ほとんどが調査区外にかかり、弧を描いて巡っており、幅25cm、深さ約15cmを測る。遺物は出土しなかった。

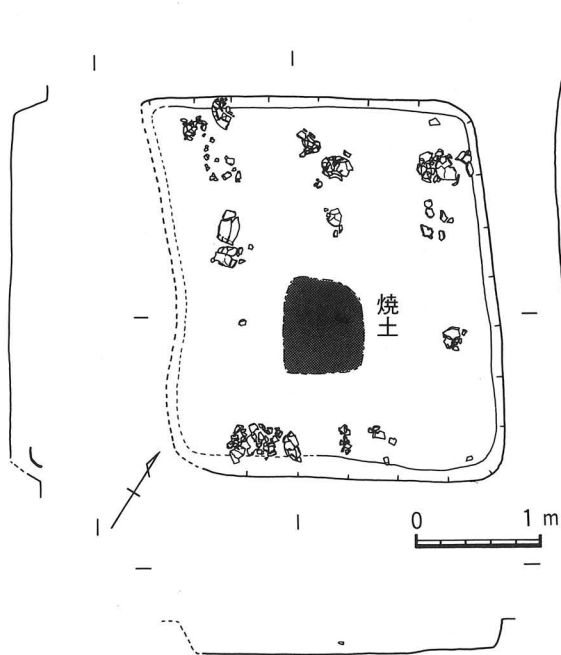
土壙

5号土壙 (第21図)

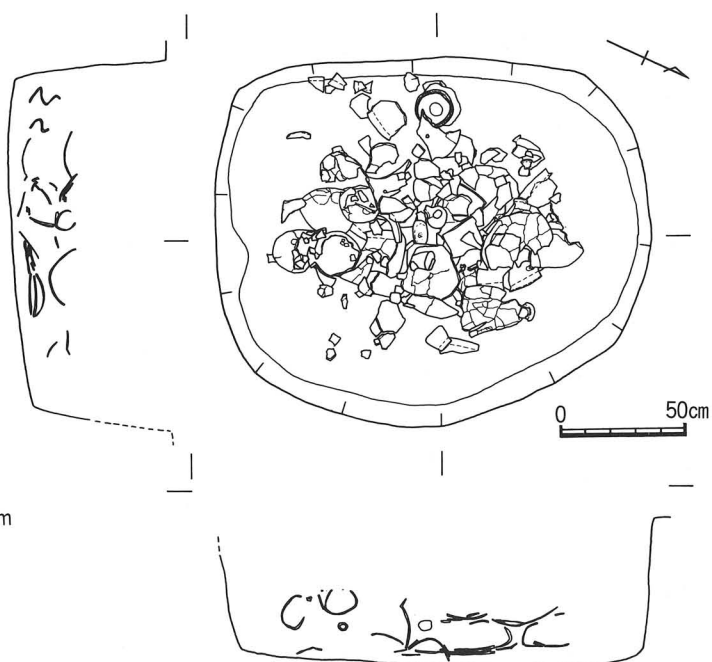
二段掘りの土壙で、南側以外はほとんどをトレンチャーで切られている。墓壙掘り方は長方形



第18图 17号竖穴住居、12・13号竖穴状遺構実測図



第19图 8号竖穴状遺構実測図



第20图 4号土坑实測図

を呈し、推定で主軸長2.6m、幅1.4m、深さ62cmを測る。上段墓壙底中央に平面長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長2.1m、幅0.6m、深さ38cmを測り、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

遺物は上段墓壙底北東側で鉄剣が出土している。

6号土壙 (第22図)

二段掘りの土壙である。上段上端のほとんどがトレンチャーに切られている。墓壙掘り方は不明で、推定で主軸長1.7m、幅0.8m、深さ60cmを測る。上段墓壙底中央に長方形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.3m、幅0.4m、深さ14cmを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

遺物は上段墓壙底東側で鉄鏃が出土している。

7号土壙 (第23図)

二段掘りの土壙である。上段上端のほとんどがトレンチャーによって切られているため、墓壙掘り方は不明で、推定で主軸長2.5m、幅1.2m、深さ125cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.8m、幅0.4m、深さ14cmを測る。底面は小口東側から僅かに傾斜し、断面が逆台形を呈する。

遺物は上段墓壙底北側で鉄鏃が出土している。

8号土壙 (第24図)

二段掘りの土壙である。上段上端南西部、下端北側、下段上端南側がトレンチャーによって切られている。墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.0m、幅1.0m、深さ44cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.0m、幅0.3m、深さ30cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面は逆台形を呈する。

遺物は埋土中から小土器片が、上段墓壙底より礫が2点出土している。

9号土壙 (第6図)

墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.0m、幅0.8m、深さ約40cmを測る。2号溝状遺構に切れ、3号住居を切っている。

10号土壙 (第25号)

二段掘りの土壙である。上段のほとんどがトレンチャーによって切られているため、墓壙掘り方は不明で、推定で主軸長2.5m、短軸は不明、深さ40cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.7m、幅0.5m、深さ18cmを測る。底面主軸中央で僅かに段を持ち、主軸北側小口に向かい僅かに上がる。断面は逆台形を呈する。

遺物は下段墓壙底より小土器片が出土している。

11号土壙 (第26号)

二段掘りの土壙である。上段のほとんどがトレンチャーによって切られているため、墓壙掘り方は不明である。推定で主軸長2.9m、幅1.3m、深さ56cmを測る。上段墓壙底中央部に長方形の下段墓壙を掘り込んでおり、両端に小口坂の掘り込み跡を残す。規模は主軸長2.1m、幅0.6m、深さ24cmを測る。床面は平坦で、断面は逆台形を呈する。組合式木棺による埋葬が考えられる。

12号土壙（第3図）

約半分が調査区外にかかる。主軸長1.5m以上、幅2.0m以上、深さ約80cmを測る。

13号土壙（第3図）

上段のほとんどがトレンチャーによって切られている。主軸長2.5m、幅1.5m以上、深さ約70cmを測る。

14号土壙（第27図）

墓壙掘り方は長楕円形を呈し、主軸長2.4m、幅1.1m、深さ78cmを測る。深さ50cmの位置で僅かに一段の屈曲があり、掘り方が変化する。

遺物は西側小口側底面より敲石が出土している。

15号土壙（第28図）

二段掘りの土壙である。上段上端の南側と西側がトレンチャーによって切られている。墓壙掘り方は長楕円形を呈し、主軸長2.6m、幅1.0m、深さ38cmを測る。上段墓壙底中央部に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.3m、幅0.5m、深さ9cmを測る。底面は平坦である。

16号土壙（第29図）

二段掘りの土壙である。上段上端のほとんどがトレンチャーに切られている。墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.3m、幅1.0m、深さ58cmを測る。上段墓壙底中央に長方形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.0m、幅0.6m、深さ12cmを測る。底面はほぼ平坦である。

17号土壙（第30図）

上端のほとんどがトレンチャーに切られているため、墓壙掘り方は不明である。推定で主軸長1.7m、幅0.9m、深さ30cmを測る。床面はほぼ平坦で、断面は逆台形を呈する。

18号土壙（第31図）

二段掘りの土壙である。上段のほとんどがトレンチャーで切られているため、墓壙掘り方は不明である。推定で主軸長2.3m、幅1.1m、深さ78cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は1.6m、幅0.4m、深さ24cmを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。遺物は下段墓壙より15cm浮いた位置で鉄鏃が出土している。

19号土壙（第32図）

二段掘りの土壙である。墓壙掘り方はほぼ長方形を呈し、主軸長2.4m、幅1.1m、深さ90cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込み、規模は主軸長1.7m、幅0.5m、深さ14cmを測る。底面は北側にやや下降するが、ほぼ平坦である。

20号土壙（第33図）

二段掘りの土壙である。北側をトレンチャーで切られている。墓壙掘り方はほぼ長方形を呈し、推定で主軸長2.4m、幅0.9m、深さ90cmを測る。上段墓壙底中央にほぼ長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は1.8m、幅0.4m、深さ22cmを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。

遺物は下段墓壙側面中央部の底面から10cm浮いた位置で鉈が出土している。

21号土壙（第34図）

上段のほとんどがトレンチャーで切られている。墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.4m、幅1.1m、深さ70cmを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。

遺物は遺構やや東寄りの位置の底面で鉄鏃が、底面から30cm浮いた位置で礫が出土している。

22号土壙 (第35図)

上端の半分以上がトレンチャーに切られている。墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.4m、幅0.5m、深さ40cmを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。

遺物は西壁南側寄りの底面から15cm浮いた位置で鉄鏃と鉈が出土している。

23号土壙 (第36図)

二段掘りの土壙である。主軸長2.0m、幅0.7m、深さ30cmを測り、上段墓底壙中央に不定形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長は1.6m、幅0.6m、深さ28cmを測る。底面は断面が中央が深くなる半月形を呈している。

24号土壙 (第37図)

上段のほとんどがトレンチャーで切られている。墓壙掘り方は長方形を呈し、主軸長2.3m、幅0.8m、深さ66cmを測る。床面は平坦で、断面は箱形を呈する。

25号土壙 (第38図)

二段掘りの土壙である。遺構の西側が6号住居を切っており、東端がトレンチャーによって切られている。墓壙掘り方は不明で、主軸長2.3m以上、幅0.9m、深さ24cmを測る。上段墓壙底中央に下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.9m、幅0.4m、深さ12cmを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。

26号土壙 (第39図)

二段掘りの土壙である。全体の南側3分の1が3号溝状遺構に切られ、上段上端のほとんどがトレンチャーに切られる。墓壙掘り方は不明で、主軸長2.7m以上、幅1.0m、深さ62cmを測る。上段墓壙底中央に長方形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.8m、幅0.4m、深さ12cmを測る。また、北側小口上部に、幅8cmのテラスを持つ。底面は平坦で、断面は半月形を呈する。

遺物は上段墓壙底東側より鉈が出土している。

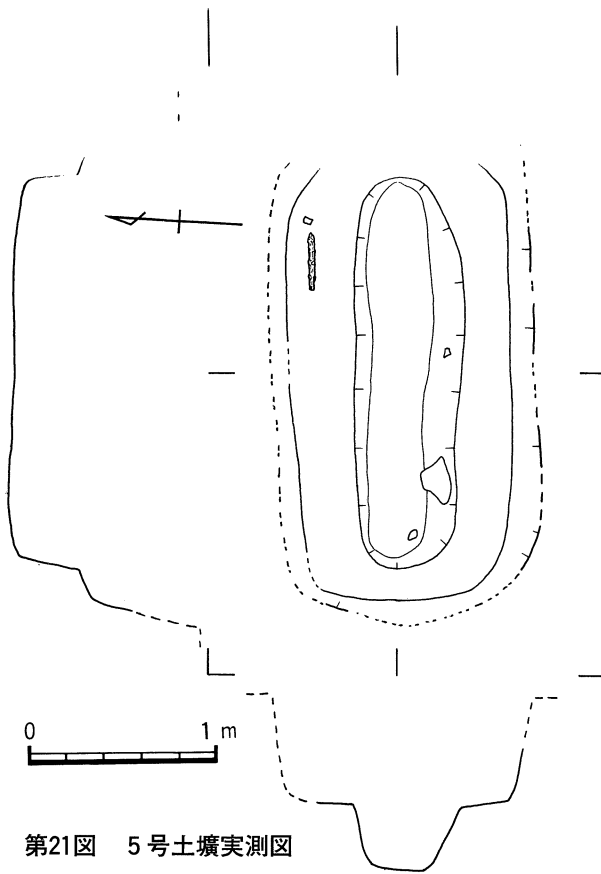
27号土壙 (第40図)

トレンチャーによって切られるが、南側の下端が立ち上がりを見せ、主軸の両端で上端と思われるプランが確認されたことから、二段掘りの土壙と考えられる。主軸長2.1m、幅、深さは不明である。下段墓壙と考えられる掘り込みは長楕円形を呈し、主軸長1.7m、幅0.3m、深さ20cmを測る。

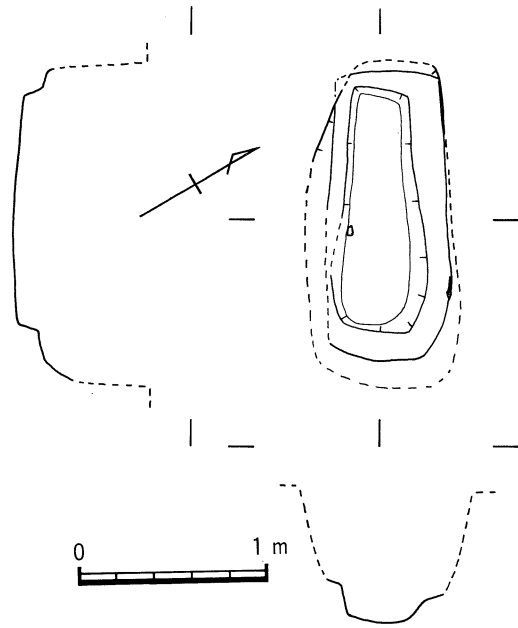
28号土壙 (第41図)

二段掘りの土壙である。上段・下段ともほとんどがトレンチャーによって切られ、南東壁近くを攪乱されている。墓壙掘り方は長楕円形を呈し、主軸長2.6m、幅1.0m、深さ20cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込み、規模は主軸長1.8m、幅0.4m、深さ20cmを測る。床面は平坦である。断面は逆台形を呈する。

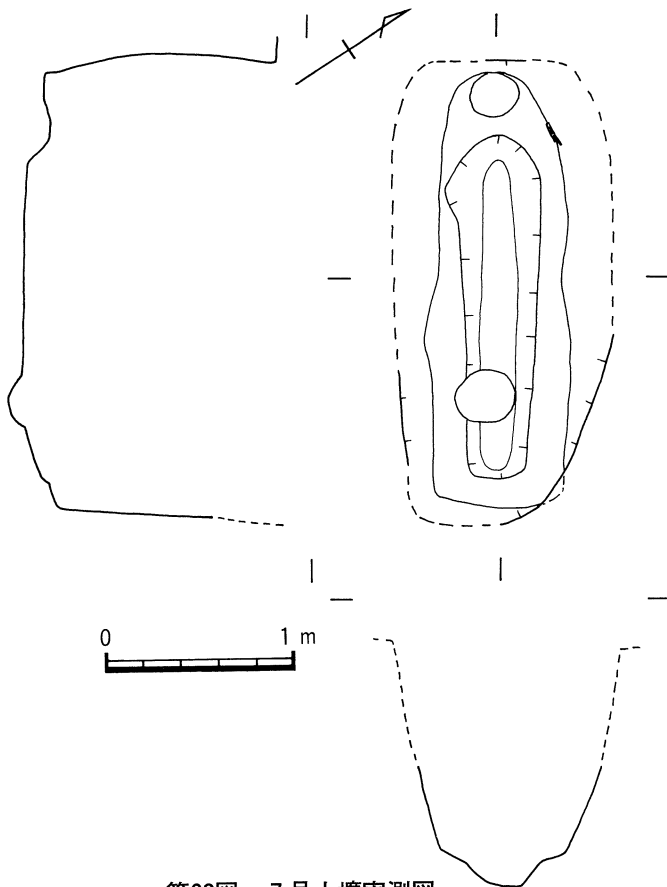
遺物は埋土中からの甕の破片が出土した。



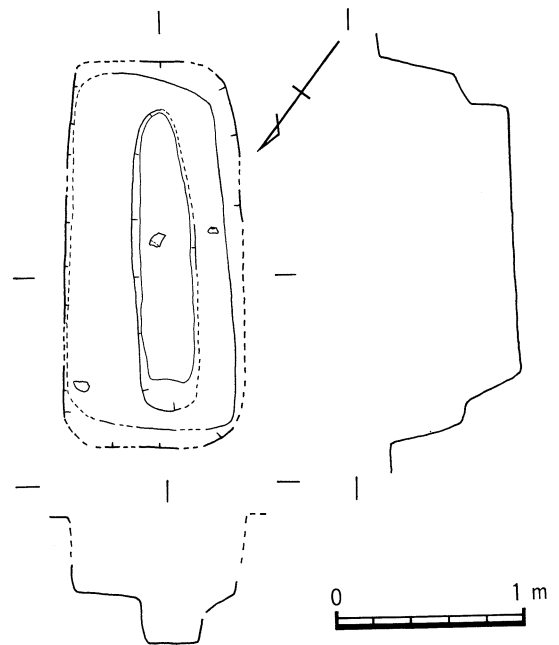
第21图 5号土壤实测图



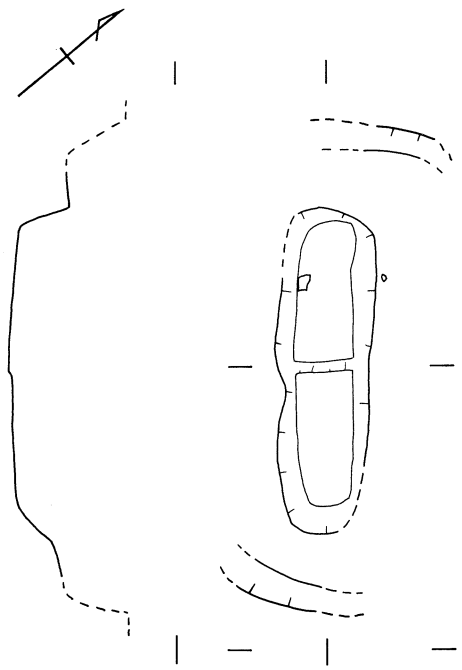
第22图 6号土壤实测图



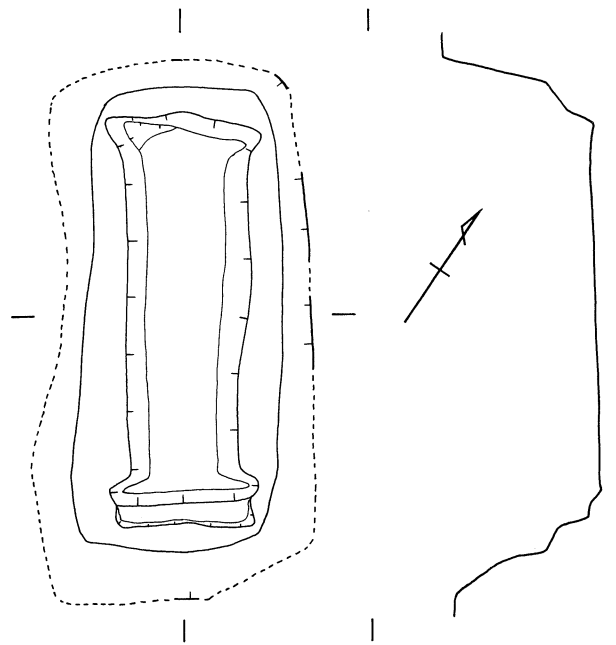
第23图 7号土壤实测图



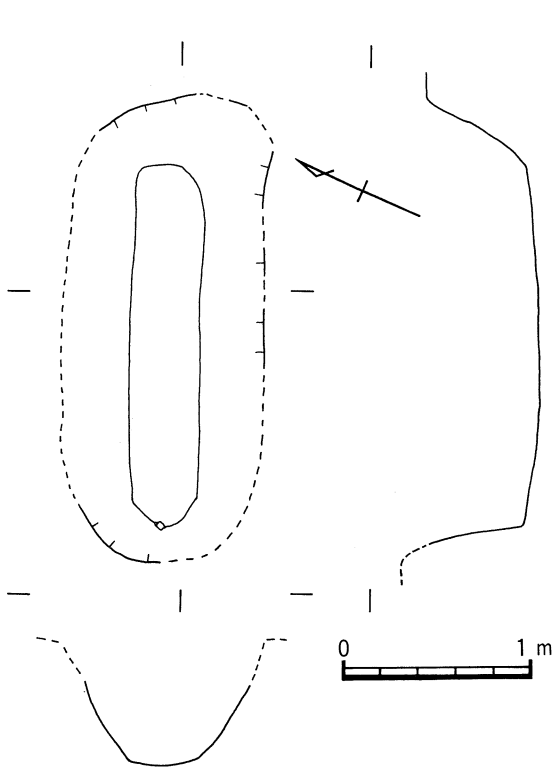
第24图 8号土壤实测图



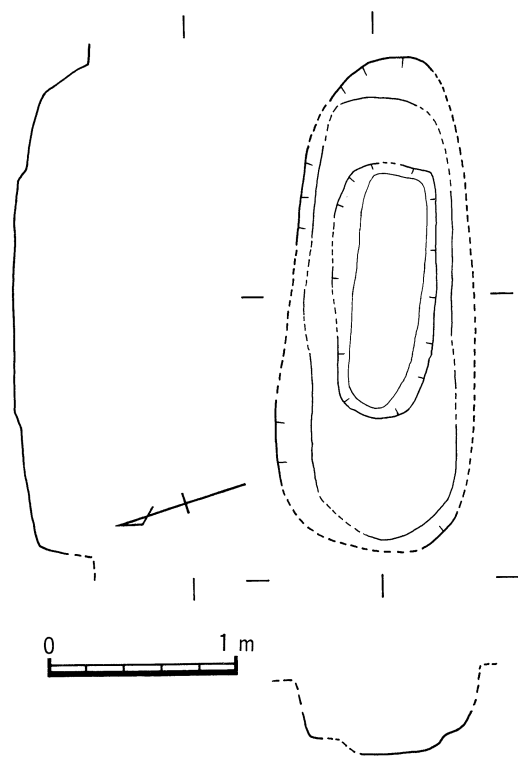
第25图 10号土壤实测图



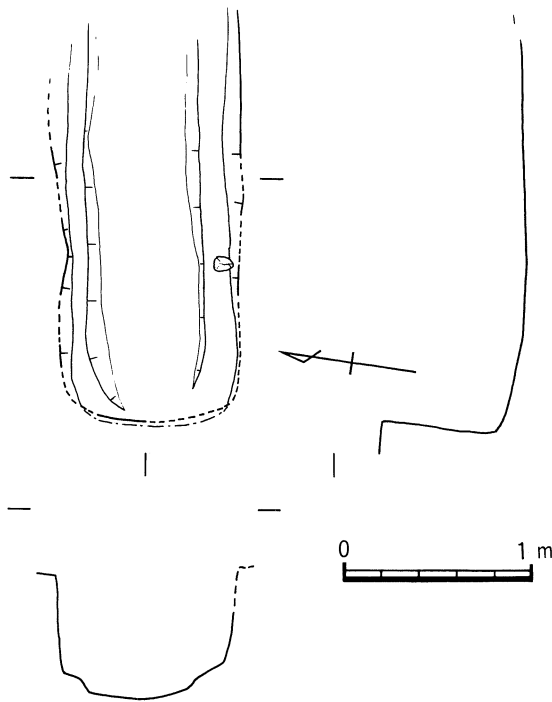
第26图 11号土壤实测图



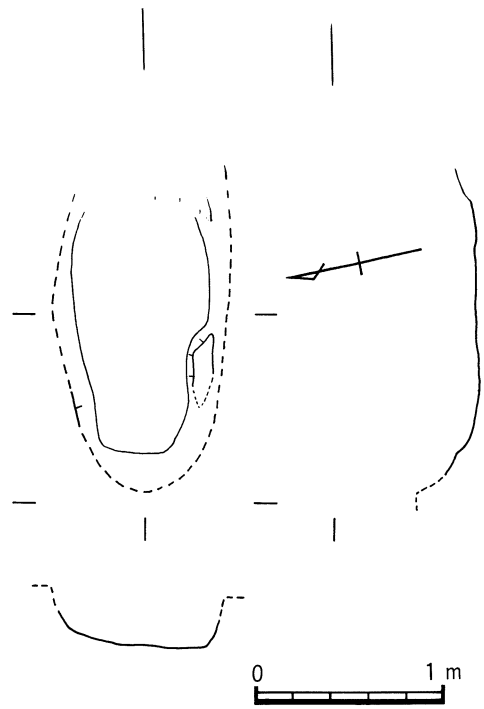
第27图 14号土壤实测图



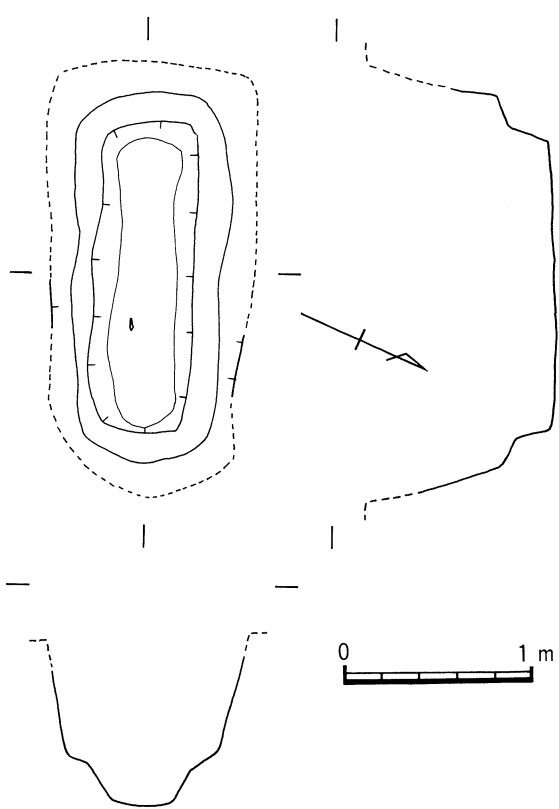
第28图 15号土壤实测图



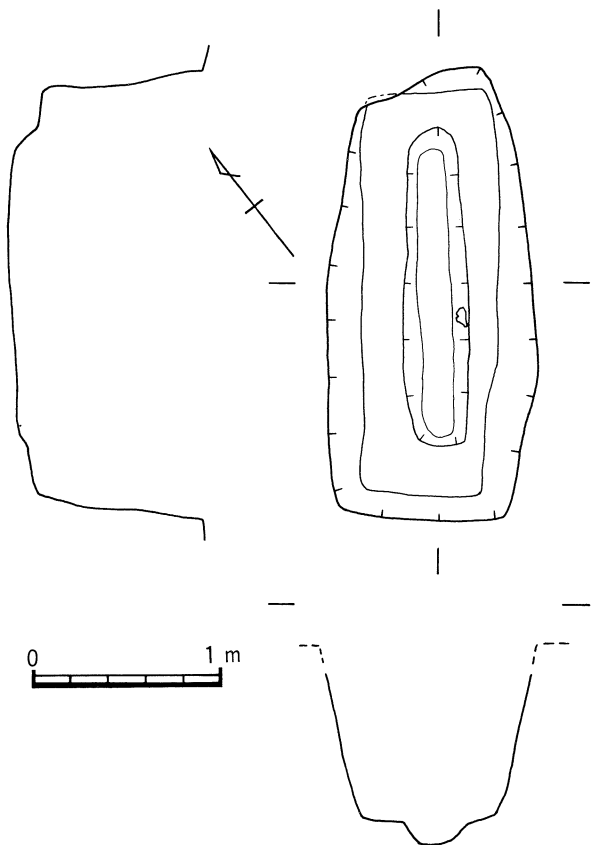
第29图 16号土坑实测图



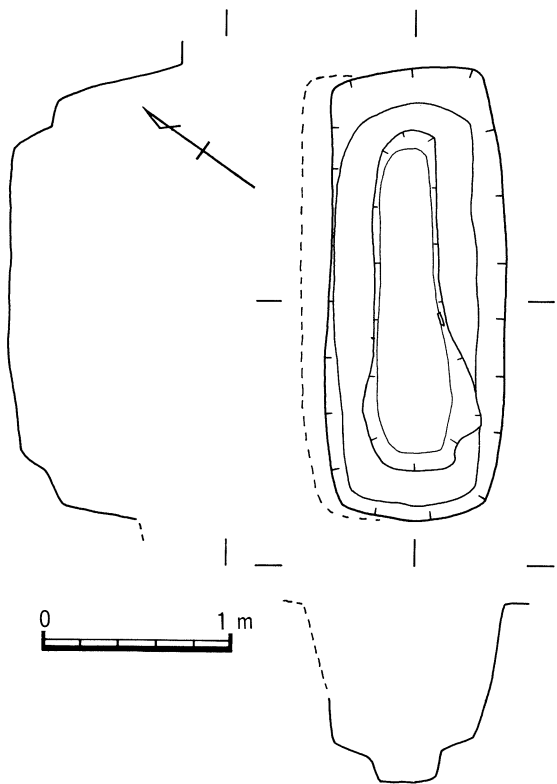
第30图 17号土坑实测图



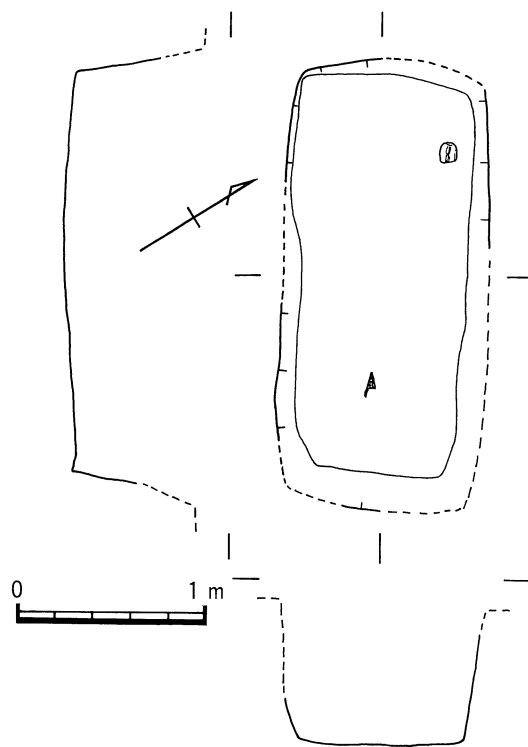
第31图 18号土坑实测图



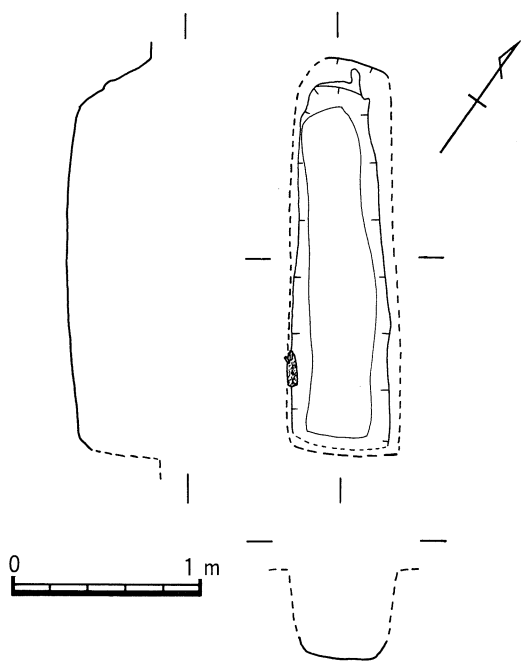
第32图 19号土坑实测图



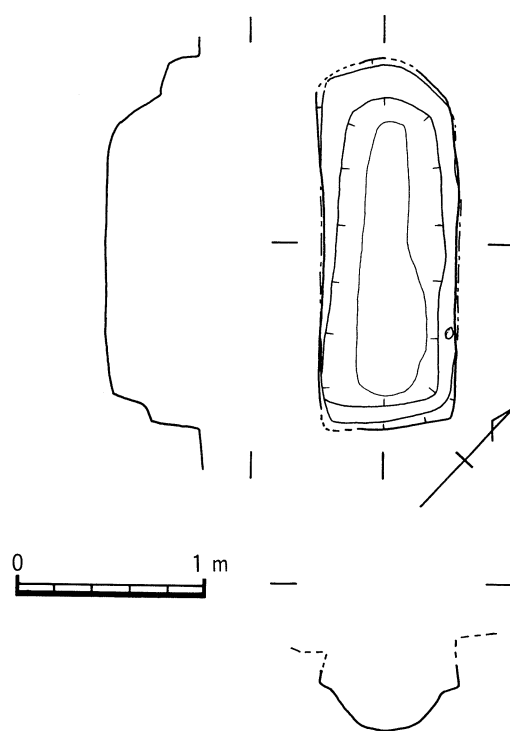
第33图 20号土壤实测图



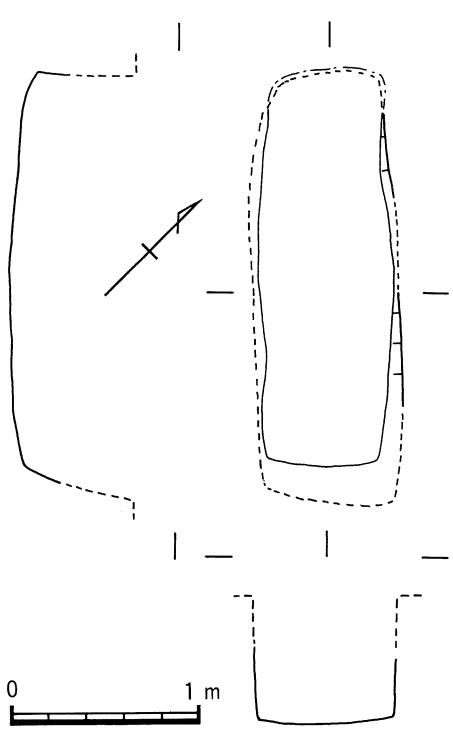
第34图 21号土壤实测图



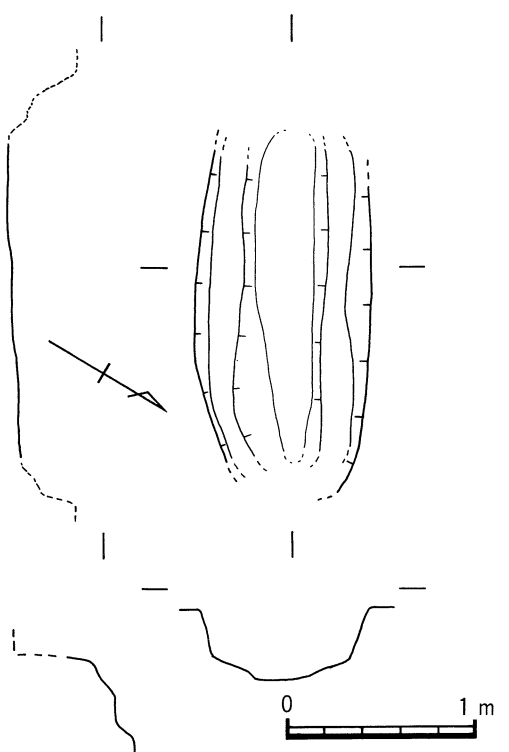
第35图 22号土壤实测图



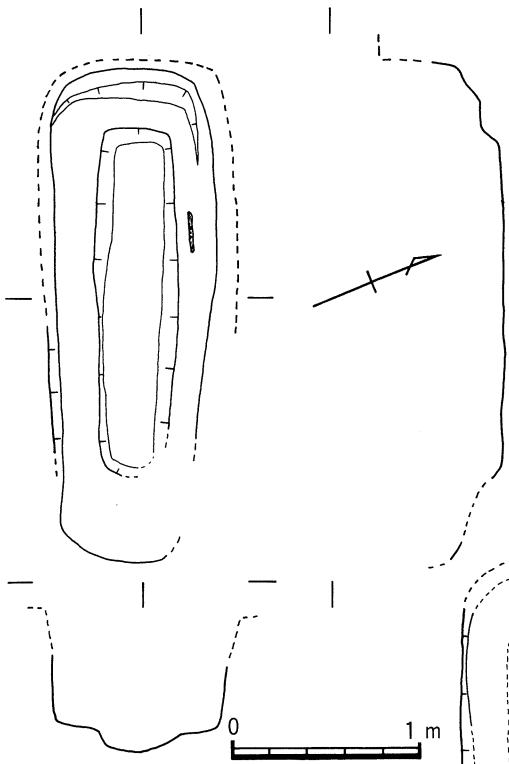
第36图 23号土壤实测图



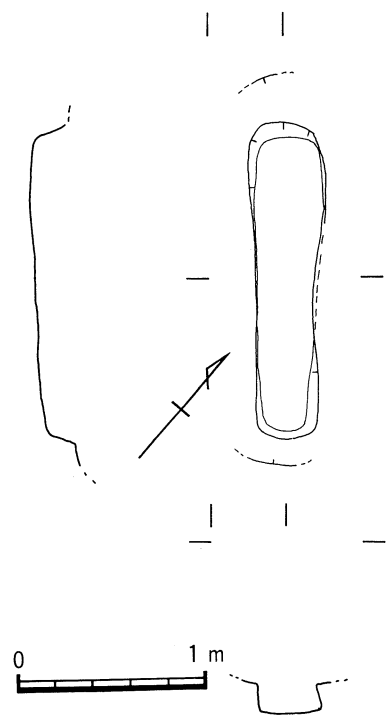
第37图 24号土壤实测图



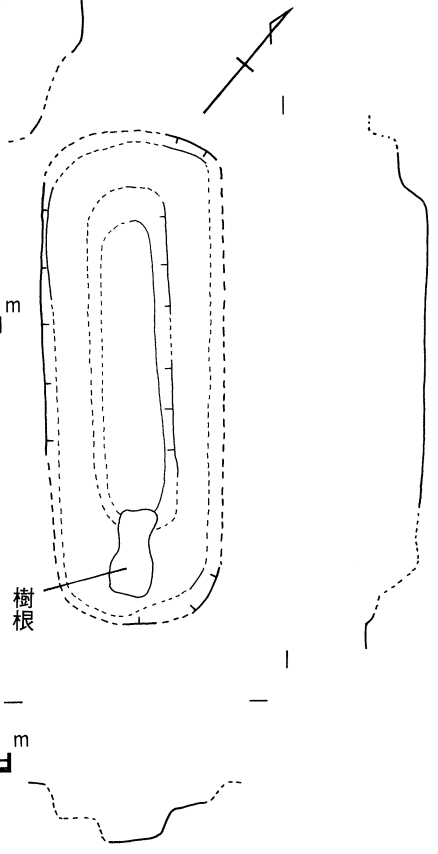
第38图 25号土壤实测图



第39图 26号土壤实测图



第40图 27号土壤实测图



第41图 28号土壤实测图

2. 遺物について

1号竪穴住居出土遺物（第42図）

1～3は壺である。1は複合口縁壺の口縁部で口縁部中央に沈線を巡らし、上半は垂直気味に立ち波状文を施す。2は1の肩から胴部にかけてと考えられる。3は丸底を呈する。

2号竪穴住居出土遺物（第42図）

4～6は甕である。4は口縁部に窪みのある台形突帯を施し、胴部に2条の三角突帯を施す。5・6は充実した底部である。

7～14は壺である。7・9・10は口縁部に下方に垂れた台形突帯を施す。8は口縁部が大きく外反し、口縁端部よりやや下に三角突帯を施す。11～14は底部で、11・13は僅かに上げ底を呈する。

15・16は高杯で、15は鋤先口縁を呈し、脚部が伸びる。いわゆる「須玖式」の高杯である。

17は蛤刃石斧で、石材は安山岩である。最大長12.1cm、最大幅7.1cm、最大厚4.75cm、重さ638gを測る。

18は磨製石鏃で、石材は頁岩である。最大長33cm、最大幅1.6cm、最大厚2.0cm、重さ17.7gを測る。

3号竪穴住居出土遺物（第43図）

19は甕である。胴部から口縁部にかけて直線的に立上がり、口縁部とその下に刻目突帯を施す。

4号竪穴住居出土遺物（第43・44図）

20～24は甕である。20～23は口縁部が「く」の字に外反し、20・23は口縁部が最大径、21・22は胴部径と口縁部径がほぼ同じである。23は僅かに上げ底、24は平底を呈する。

25～47は壺で、25～34は単口縁壺、36～38は複合口縁壺である。25～27・29～31・40・41・43・47は凸レンズ状の平底、28・39・46は平底、45は安定した平底、42は丸底を呈する。25は長胴で、27・41・42は球形の胴部を持ち、28～32・39は胴部が丸く張り、特に30・31は著しく張る。口縁部は25・26・31・34は肩部から直線的に、28～30は肩部から強く、27は短い頸部を持って外反し、33は短い口縁部を持つ。36～38の複合口縁壺は口縁部上半に波状文を施す。43はタタキ調整を施している。25～31・35・44は線刻を施す。

48～51は鉢で、48～50は安定した平底、51は尖底気味の平底を呈する。48は強く内湾しながら立上がり、口縁端部で僅かに外反する。内外面にミガキを施す。

52・53は敲石で中央に敲打痕が見られる。

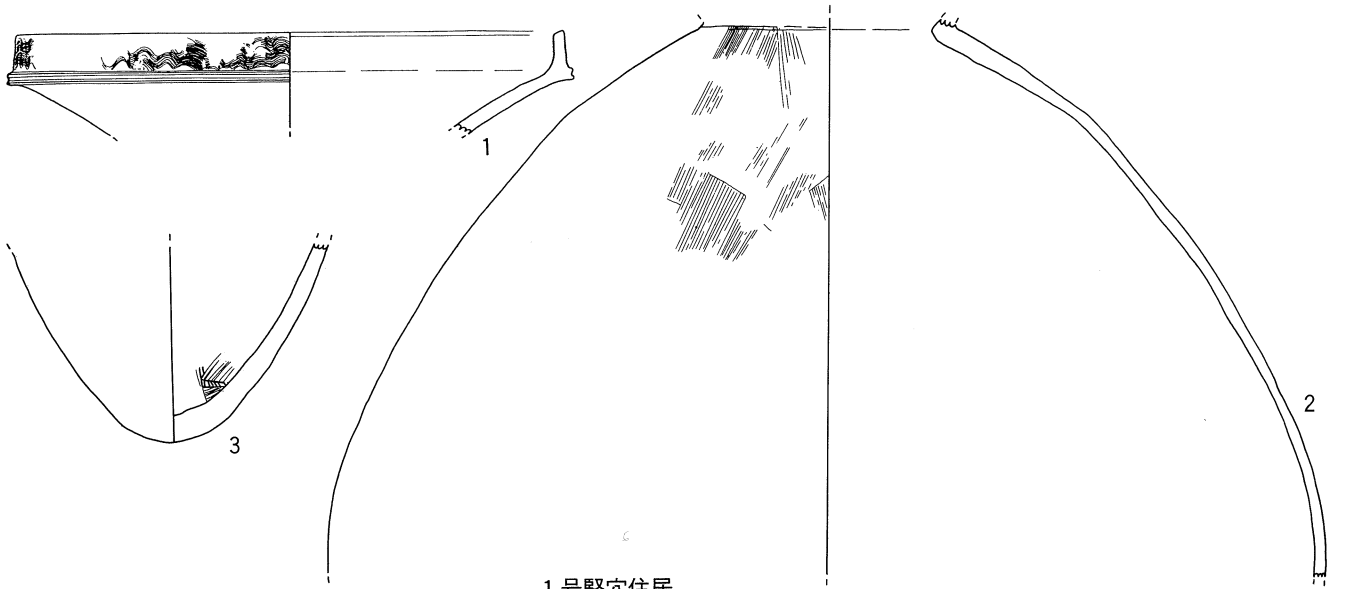
54は圭頭鏃で身長4.2cm、身幅2.5cm、重さ2.87gを測る。

5号竪穴住居出土遺物（第45図）

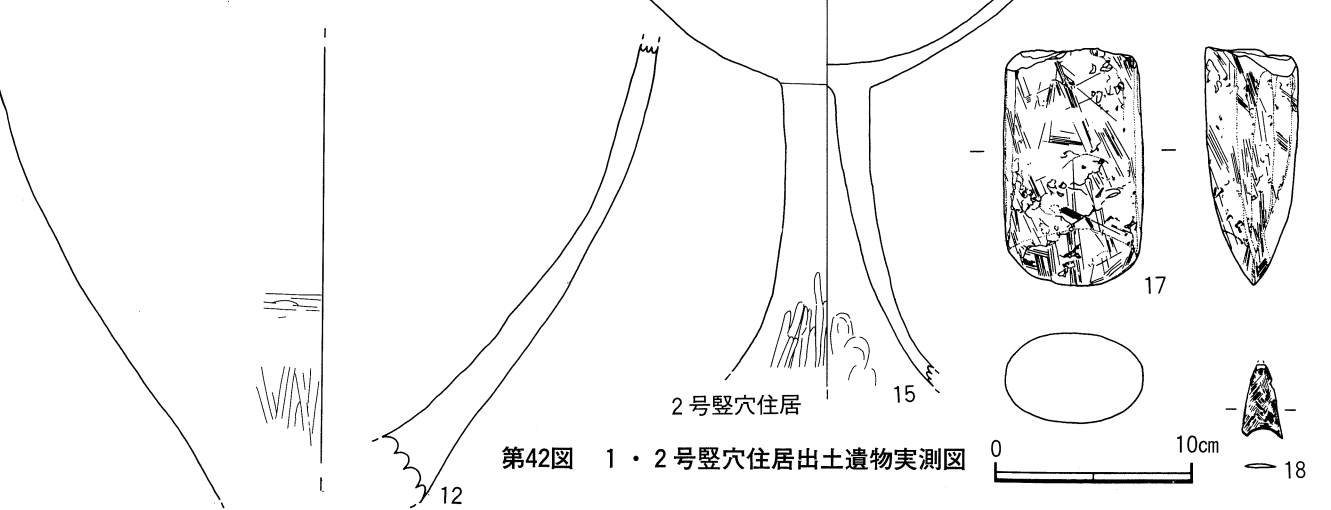
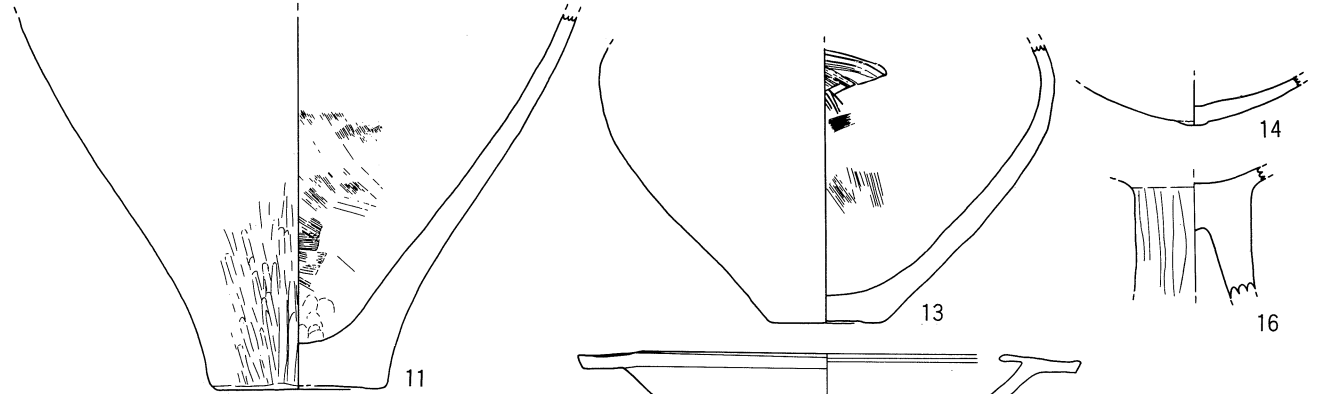
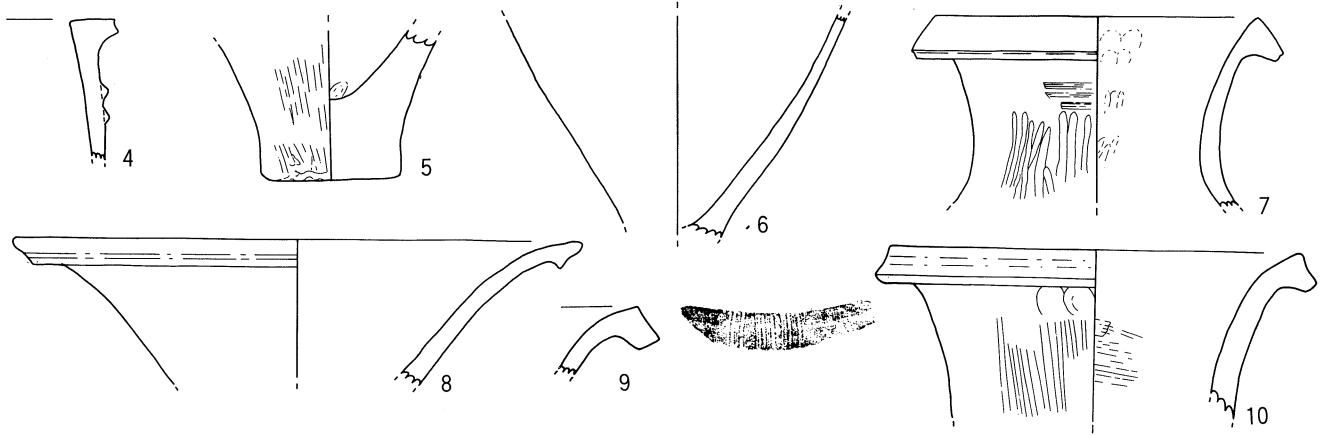
55は甕で、口縁部に窪みのある台形突帯、胴部に4条の三角突帯を施す。

56～58は壺で56・57は丸底、58は凸レンズ状の平底を呈する。56は丸く張った胴部を持ち、口縁部は肩部から強く外反する。56・57は線刻を施す。

59は鉢の口縁部でL字気味に外反する。

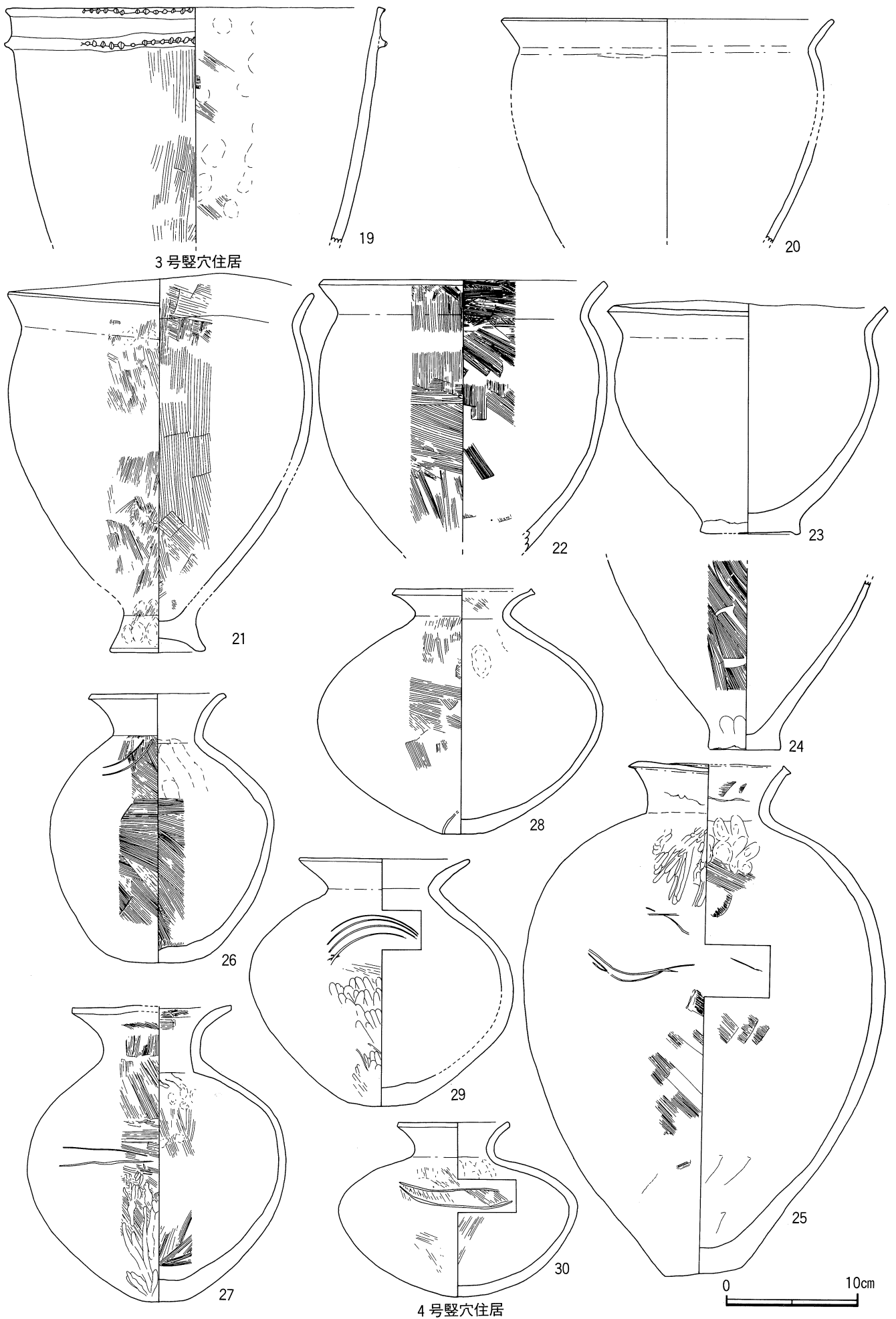


1号竖穴住居

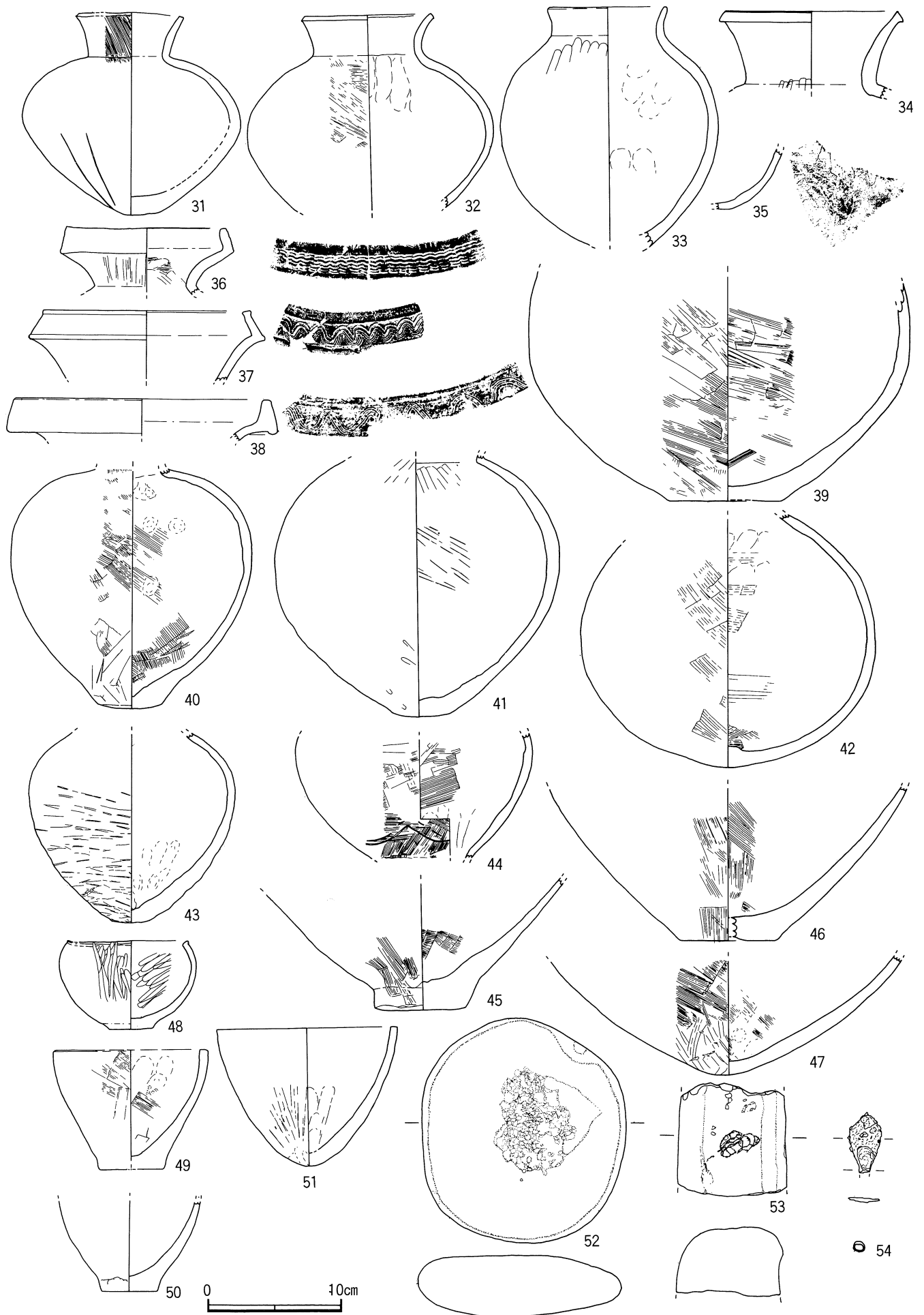


2号竖穴住居

第42图 1・2号竖穴住居出土遺物実測図



第43图 3号竖穴住居・4号竖穴住居(1)出土遺物実測図



第44图 4号竖穴住居(2)出土遺物実測図

60は高杯の口縁部である。

6号竪穴住居出土遺物（第45図）

61～63は壺である。61・63は凸レンズ状の平底を呈する。61は胴部が張り、口縁部は肩部から外反する。線刻を施す。62は複合口縁壺の口縁部で、上半は内傾し端部を摘み上げ、波状文を施す。

64・65は鉢である。64は口縁部が「く」の字に外反する。

66は蓋で摘みに穿孔を有する。

7号竪穴住居出土遺物（第45図）

67・68は甕である。67は口縁部に窪みのある台形突帯、胴部に三角突帯を施す。68は口縁部がL字気味に外反し端部が丸く肥厚する。口縁部下に三角突帯を施す。

8号竪穴住居出土遺物（第45図）

69～71は甕である。69・70は口縁部が「く」の字に緩く外反し、最大径は胴部にある。69は上げ底を呈する。71は口縁部が「く」の字に強く外反し、最大径は口縁部にある。

72は鉢で安定した平底を呈し、口縁部で短く外反する。

73は高杯の脚部で、「ハ」の字に外反し、端部で僅かに肥厚する。

74は台石で表面に擦痕を残す。石材は砂岩で、最大長17.9cm、最大幅16.8cm、最大厚9.5cm、重さ4,720gを測る。

9号竪穴住居出土遺物（第45図）

75・76は甕である。75は上げ底、76は平底を呈する。共に口縁部が「く」の字に緩く外反し、最大径を口縁部に持つ。

77・78は複合口縁壺で、77が口縁部上半が内傾し、波状文を施す。78は頸部が僅かに伸び、口縁部上半が垂直方向に立ち、波状文を施さず、ヨコナデをする。

79・80は両端抉入の石包丁で80は半分を欠損する。共に石材は頁岩で、79は最大長5.1cm、最大幅9.5cm、最大厚1.3cm、重さ97.0gを測る。

81は深鉢で、縄文時代早期後葉の「塞ノ神式土器」である。

10号竪穴住居出土遺物（第45図）

82は壺で、肩部と頸部の境に刻目突帯を施す。

83はミニチュアの鉢である。

11号竪穴住居出土遺物（第45図）

84は長頸壺で、頸部から口縁部にかけて僅かに外反し、線刻を施す。

85は深鉢で、縄文時代早期前葉の「前平式土器」の口縁部である。

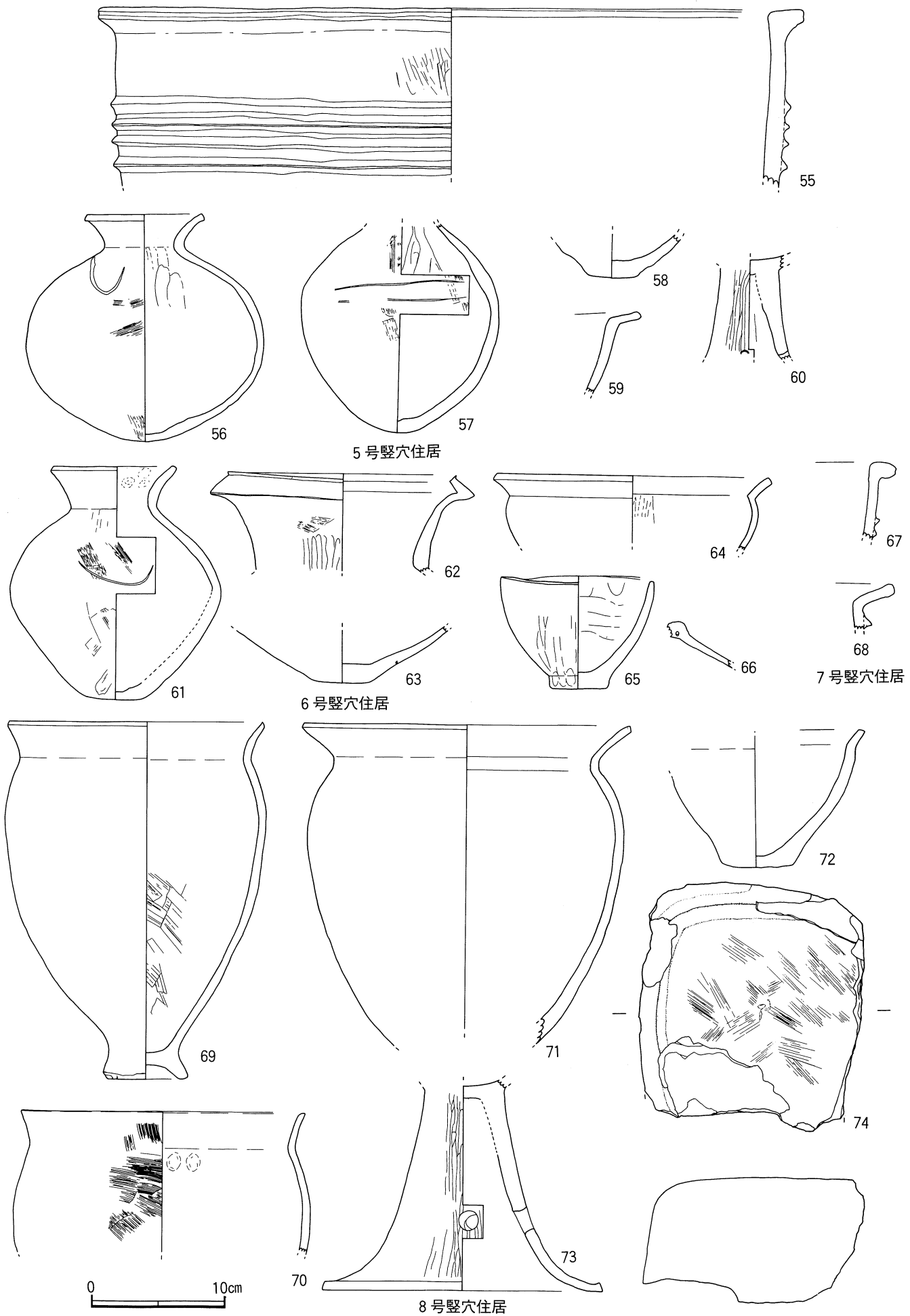
14号竪穴住居出土遺物（第45図）

86は高杯で杯部が一段の稜を持って口縁部が大きく外反する。

15号竪穴住居出土遺物（第45図）

87は甕の底部で平底を呈する。

88・89・90は壺で、88は凸レンズ状の平底を呈し、口縁部は肩部から直線的に外反する。89は



第45图 5~8号竖穴住居出土遗物实测图

複合口縁壺で、口縁部上半が垂直に立つ。90は壺で2本の並行する沈線（線刻？）を施す。

91は高杯の脚部である。

1号竪穴状遺構出土遺物（第45図）

92は壺で、不安定な平底を呈し、丸みのある胴部を持ち、頸部が著しくしまる。

2号竪穴状遺構出土遺物（第46・47図）

93～99は甕である。93～96は口縁部径と胴部径がほぼ同じになる。93～95は口縁部が「く」の字に緩く外反し、96は「く」の字に強く外反する。

100～105は壺である。100・104は平底、105は乳房状の底部を呈する。100・101・104・105は丸く張った胴部を持つ。100・101は短い頸部から口縁部が外反し、102は肩部から直線的に外反する。103は複合口縁壺の口縁部で口縁部上半が内傾し、端部を摘み上げる。波状文を施す。

106は高杯の脚部である。

107は器台で細長い体部を持ち、8個の透しを持つ。

6号竪穴状遺構出土遺物（第47図）

108は壺の底部で丸底を呈する。

109は高杯で、脚部は「ハ」の字に開き、杯部は下部が直線的に伸び、一段の稜を持って外方向に短く開き端部が僅かに肥厚する。

110・111は器台で、細長い体部を持つ。

7号竪穴状遺構出土遺物（第47図）

112は磨製石鏃で基部は緩やかなカーブを描いて抉る。石材は頁岩で、器長3.5cm、最大幅2.6cm、最大厚0.3mm、重さ31.2gを測る。

8号竪穴状遺構出土遺物（第47図）

113～117は甕である。113は口縁部が「く」の字に強く外反し、最大径は口縁部にある。114・115は「く」の字に緩く外反し、口縁部径と胴部径がほぼ同じになる。113・116は僅かに上げ底を呈し、117は平底を呈する。

118は壺の口縁部で、短い頸部から外反する。

119は鉢で口縁部が僅かに外反し、端部に沈線を施す。

120は高杯の杯部で、下部が直線的に伸び一段の稜を持って口縁部は強く短く外反する。

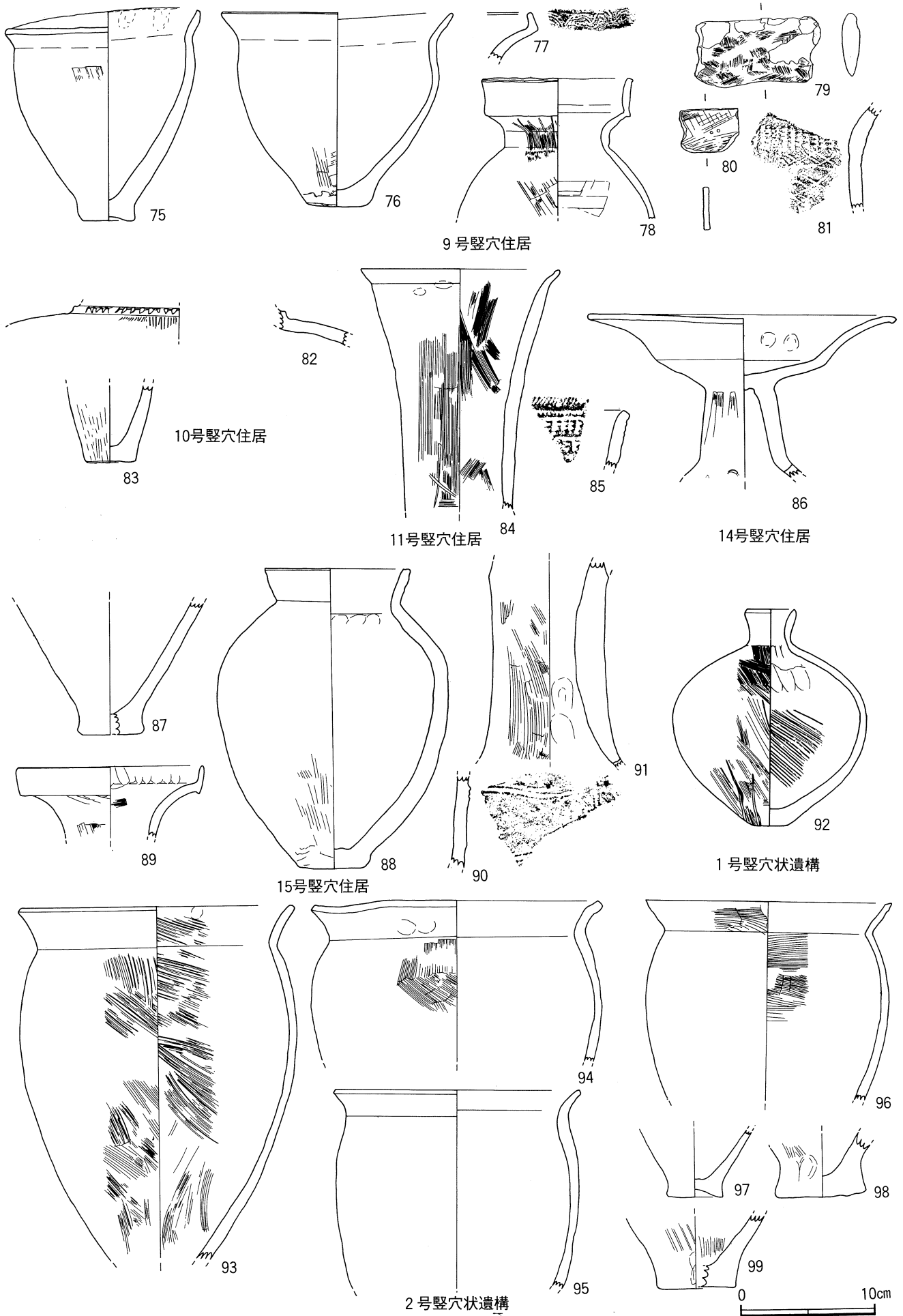
121は器種不明の石器で縦方向中央部に一稜を持つが、意図的な稜であるかは判別できない。左側辺に擦痕が見られる。石材は頁岩で最大長14.4cm、最大幅2.9cm、最大厚1.2cm、重さ50gを測る。

9号竪穴状遺構出土遺物（第48図）

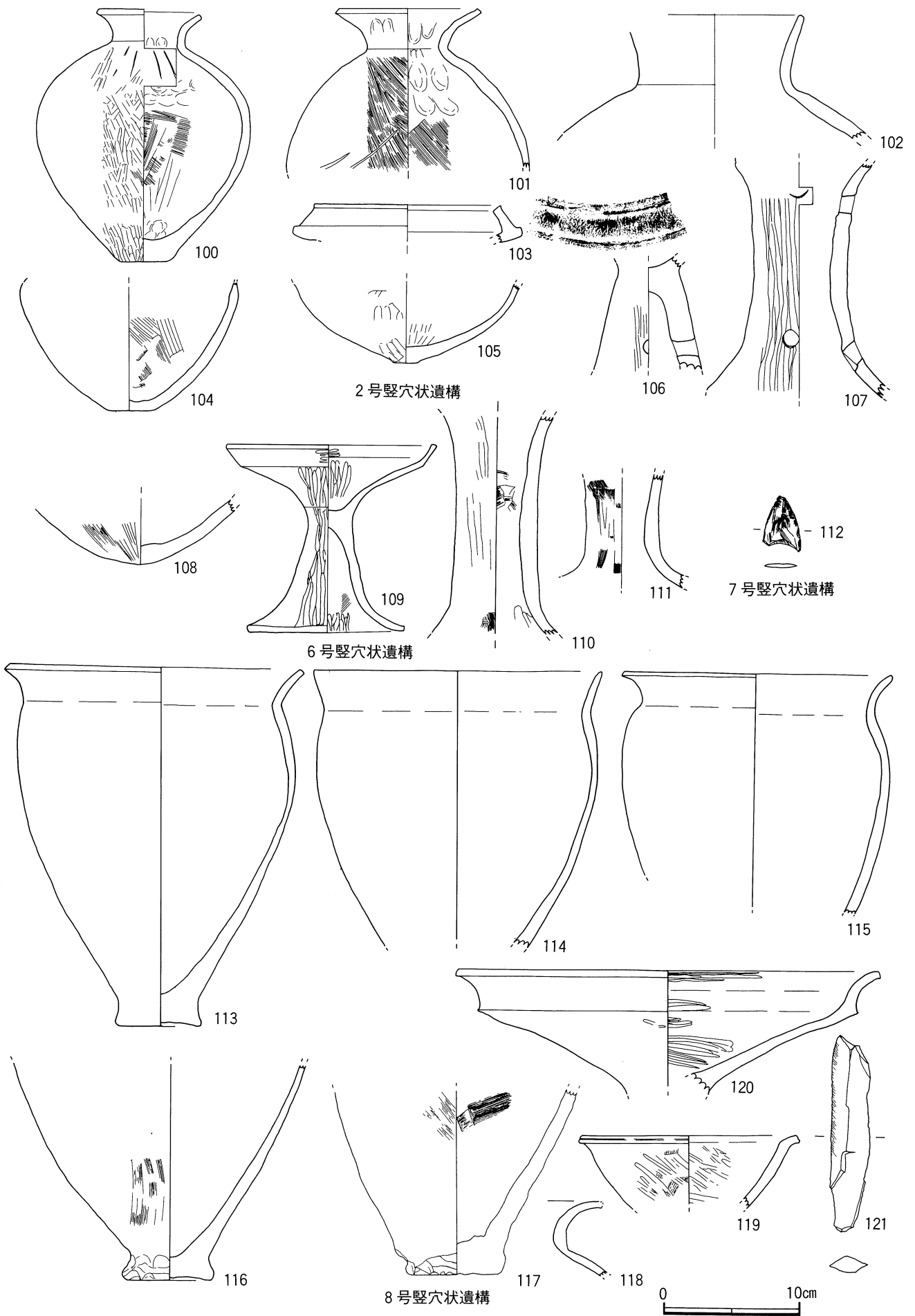
122・123は鉢である。122は丸底を呈し、内湾しながら立上がり、口縁部で「く」の字に外反する。

124は小型の壺もしくは鉢で、尖底気味の丸底を呈する。

125はミニチュアの甕でキャリパー形の器形を呈する。



第46图 9~11·14·15号竖穴住居、1号竖穴状遺構、2号竖穴状遺構(1)出土遺物実測図



第47图 2号竖穴状遺構(2)、6~8号竖穴状遺構出土遺物実測图

11号竪穴状遺構出土遺物（第48図）

126は甕の底部で上げ底を呈する。

127は土師器の鉢の底部で、幅広で僅かに上げ底を呈する。器壁が著しく薄い。

128・129は高杯である。128は杯部で、一段の稜を持って外反する。129は脚部で「ハ」の字に開く。

12号竪穴状遺構出土遺物（第48図）

130は甕の底部で僅かに上げ底を呈する。

14号竪穴状遺構出土遺物（第48図）

131は甕の底部で上げ底を呈する。

132は鉢で安定した平底を呈し、ほぼ直線的に立上がる。

133は砥石で表面、側面に擦痕が見られる。石材は頁岩で、最大長7.8cm、最大幅2.3cm、最大厚0.9cm、重さ28.0gを測る。134は軽石製の石製品で14個の孔を有し、深いものは1.5cmを測る。最大長10.1cm、最大幅7.1cm、重さ70gを測る。

4号土坑出土遺物（第48～50図）

135～145は甕である。135～137・141～143・145は上げ底、140は僅かに上げ底、144は充実した底部を呈する。135～139は口縁部が「く」の字に外反するが、135・137・139はそれが緩い。最大径は135・136は胴部、137・138は口縁部、139は口縁部径と胴部径がほぼ同じになる。

146～155は壺である。146は僅かに上げ底、147・149・152・154は凸レンズ状の平底、155は丸底を呈する。146～149は丸く張った胴部を持ち、149はそれが著しい。口縁部は146・147は肩部から直線的に外反し、148～150は大きく外反する。146・147・149は線刻を施し、150は竹管文を施す。151～153は複合口縁壺で、3者共に口縁部上半が内傾するが、151は短い。口縁部上半にそれぞれ波状文を施す。154は151の胴部から底部である。

156・157は鉢である。156は平底を呈し、口縁部が僅かに外反する。157は上げ底を呈し、口縁部が「く」の字に外反する。

158～160は器台である。158は体部が太く、1個の透しが現存する。159・160は細長い体部を持ち、口縁部にかけて大きく外反する。159は上下2列に4個ずつ、160は現存で4個の透しを持つ。

161はミニチュアの鉢で幅狭の安定した底部を持つ。

162は「柄杓形土器」で口縁部径3.5cm、深さ6.0cmを測り、僅かに柄を残す。外面は粗いミガキを施す。

164は石鏃で基部を欠損する。石材は黒曜石である。

1号周溝状遺構出土遺物（第50図）

165は壺で、口縁部が直線的に外反する。

166～169は高杯である。166・167は杯下部で僅かに内湾しながら伸びる。169は杯部が一段の稜を持ったのち、口縁部は大きく外反する。内面に暗文を施す。

170はミニチュアの甕である。171・172はミニチュアの壺で、172は尖底を呈する。

2号周溝状遺構出土遺物（第51図）

173は甕もしくは鉢で「く」の字に外反し、胴部は下方で窄まる傾向にある。

174・175は壺である。174は球形の胴部を持ち、口縁部は直線的に外反する。175は肩部から胴部にかけてで、平行沈線文、波状文を施す。

176・177は高杯である。176は杯部が僅かに内湾しながら伸び、脚部は屈曲して開く。現存で3個の透しを有する。177はエンタシス状に膨らむ脚部である。

178は小型壺で、丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外反する。

179は鉢で平底を呈する。

3号周溝状遺構出土遺物（第51図）

180は壺の底部である。

181は小型壺で丸底を呈し、丸く張った胴部を持ち、口縁部は直線的に外反する。

182は砥石で表面に擦痕が見られる。石材は安山岩で、最大長7.6cm、最大幅6.9cm、最大厚4.4cm、重さ360gを測る。

1号溝状遺構出土遺物（第51・52図）

183～185は甕である。183は口縁部で僅かに内湾し、丸みを帯びた突帯を施す。184は充実した底部、185は上げ底を呈する。

186～193は壺である。186は口縁部が垂直気味に外反する。187～189は複合口縁壺の口縁部で、187は口縁部上半が内傾し、端部を僅かに外方向に摘み上げる。188は口縁部上半が垂直に立つ。共に上半部に波状文を施し、189はその後、縦方向に突帯を施す。191は胴部で竹管文を施す。192は平底、193は凸レンズ状の底部を呈する。

194は鉢で、内湾しながら立上がり、口縁部は外反する。

195は高杯の脚部で「ハ」の字に外反する。

196・197はミニチュアの壺で、196は丸底を呈し、丸く張った胴部を持ち、口縁部は垂直に立つ。197は屈曲した胴部を持ち、口縁部は複合口縁になる。

198は蓋で幅2.2cmの摘みを持ち、直線的に開き、口縁部は垂直に立つ。

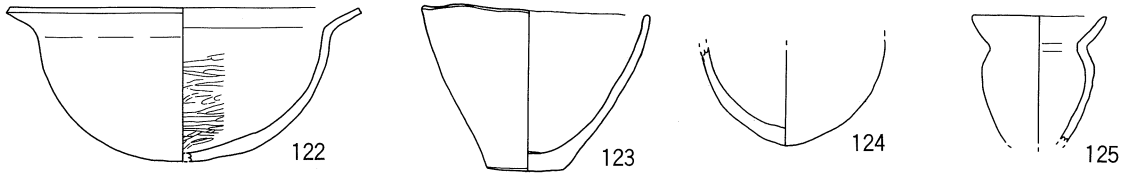
199は敲石で上下2箇所を敲打痕が見られ、裏面には擦痕があり、砥石も兼ねる。石材は砂岩で、最大長19.3cm、最大幅4.0cm、最大厚4.0cm、重さ830gを測る。200は台石で表面に敲打痕が残る。石材は砂岩で、最大長24.1cm、最大幅18.6cm、最大厚10.4cm、重さ7,950gを測る。

一括遺物（第52・53図）

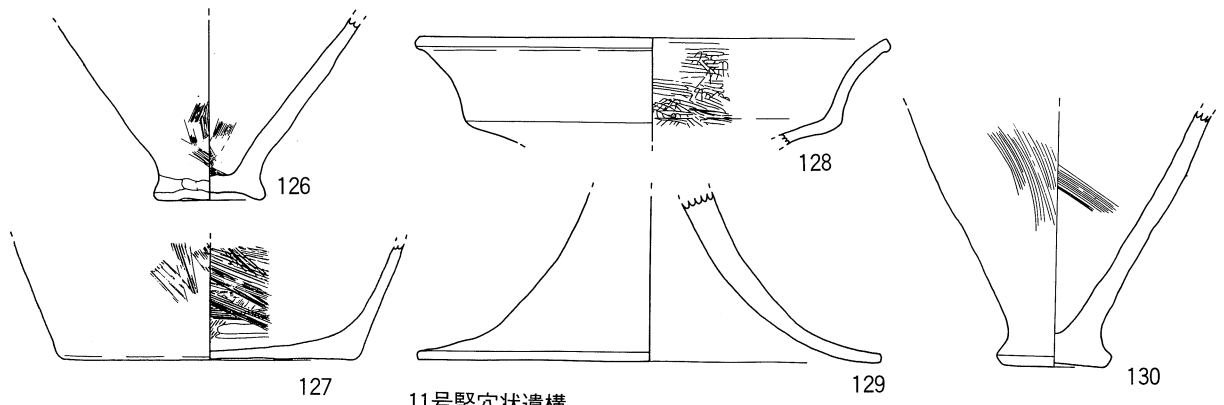
201から204は壺で、201・202は凸レンズ状の底部を呈する。203は尖底気味になり、丸く張った胴部を持つ。内面にミガキを施す。204は上げ底を呈し、丸く張った胴部を持つ。

205は鉢もしくは高杯の杯部で、内湾して立上がり、屈曲して直線的に外反する。206は高杯の杯部で下部が直線的に伸び、一段の稜を持って内傾気味になる。

219～221は磨製石鏃である。219・220は基部がカーブを描いて僅かに抉る。220は先端部を欠損し、221は基部を欠損する。3者ともに石材は頁岩で、219は器長4.1cm、最大幅2.4cm、最大厚0.2cm、重さ2.5gを測る。

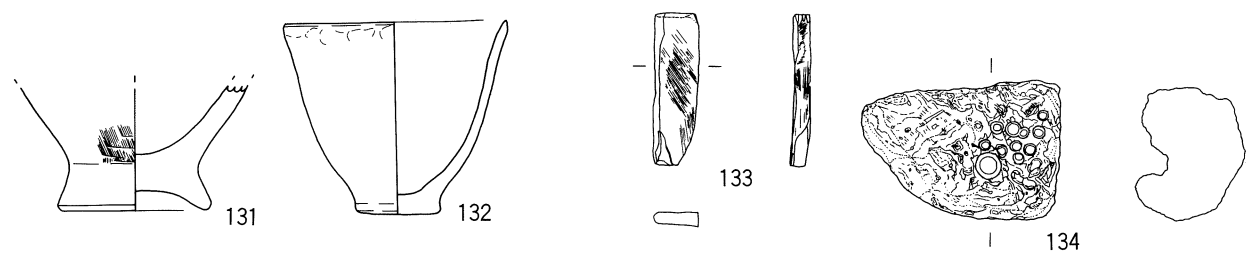


9号竖穴状遺構

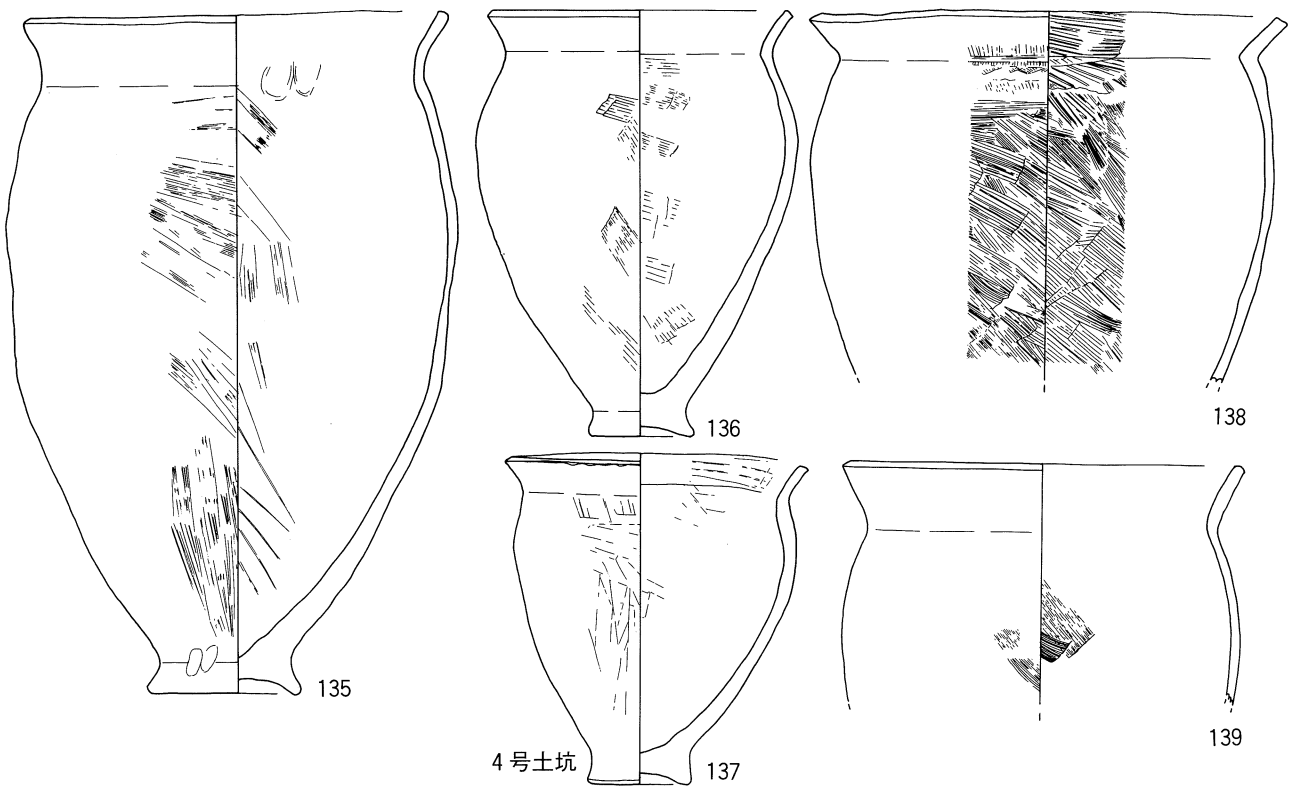


11号竖穴状遺構

12号竖穴状遺構

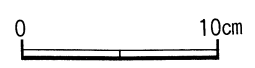


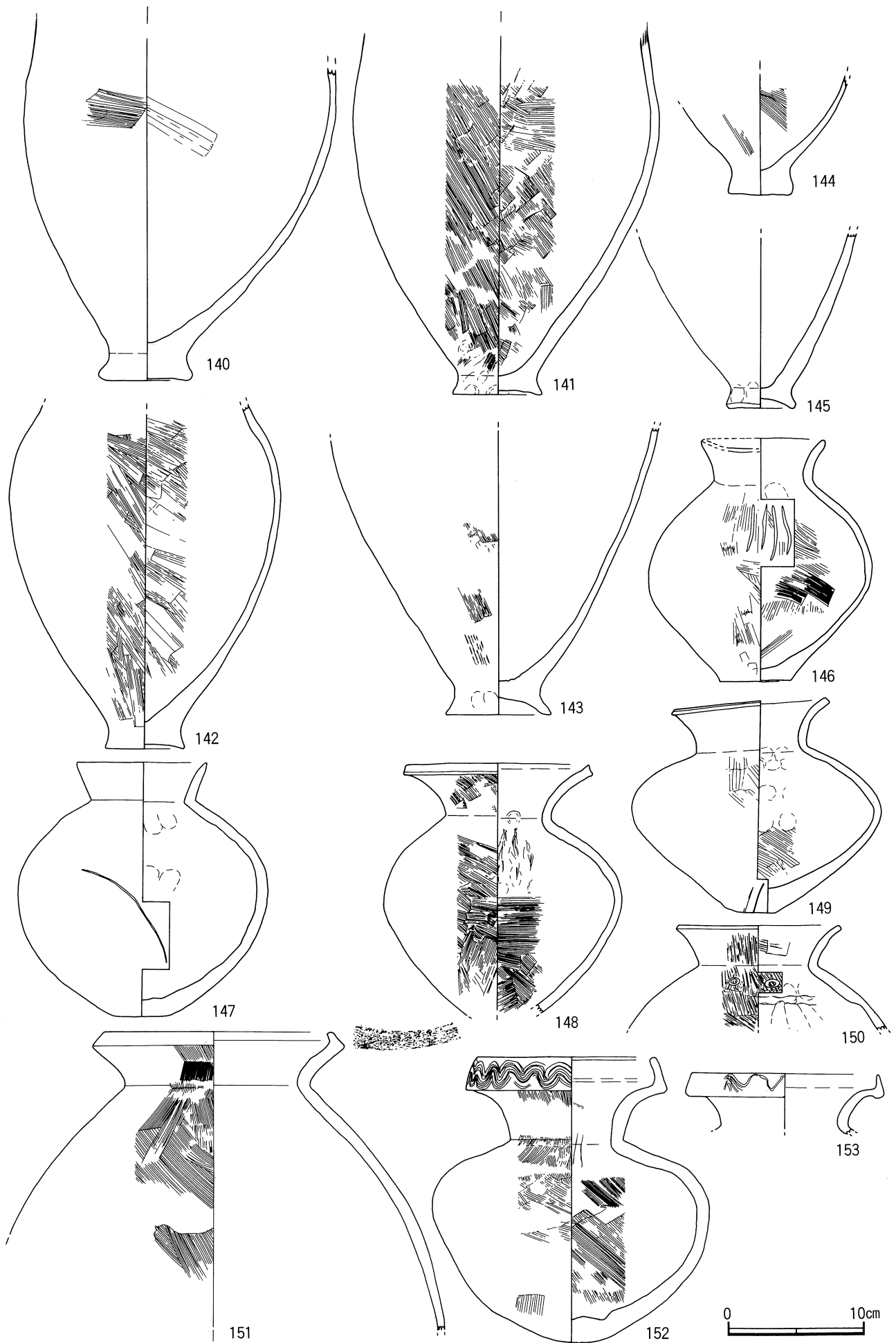
14号竖穴状遺構



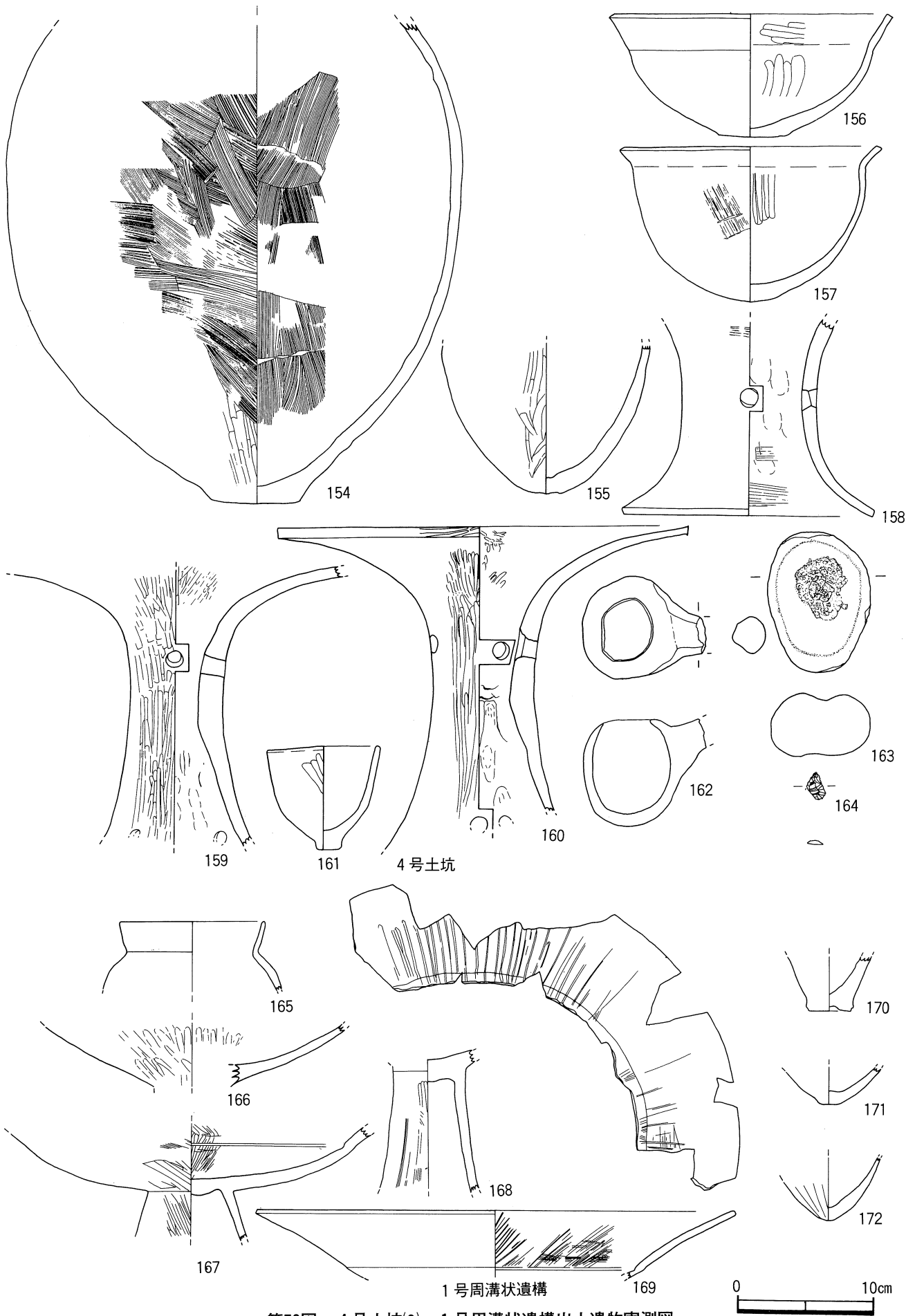
4号土坑

第48图 9·11·12·14号竖穴状遺構、4号土坑(1)出土遺物実測図

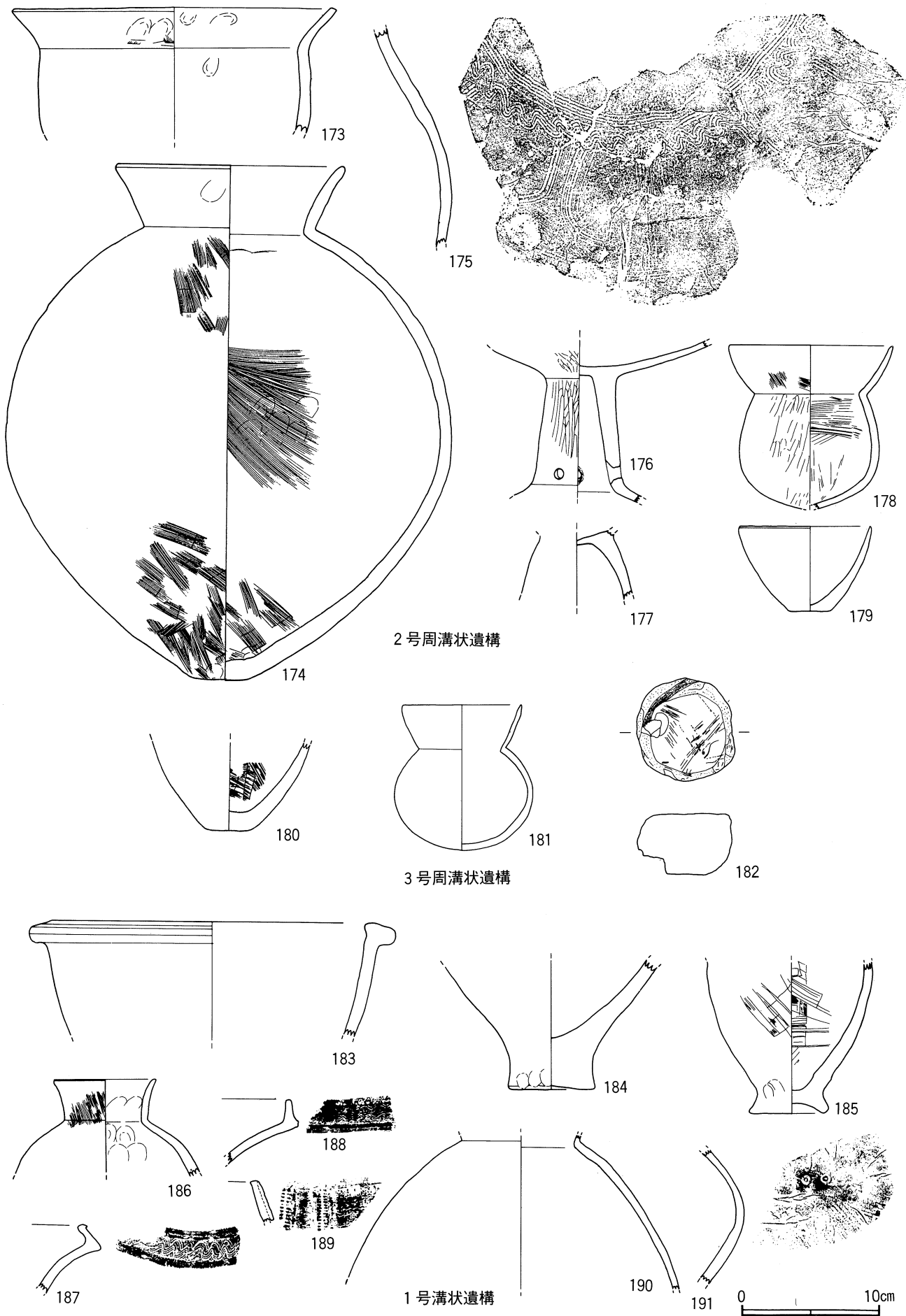




第49图 4号土坑(2)出土遺物実測図



第50图 4号土坑(3)、1号周溝状遺構出土遺物実測図

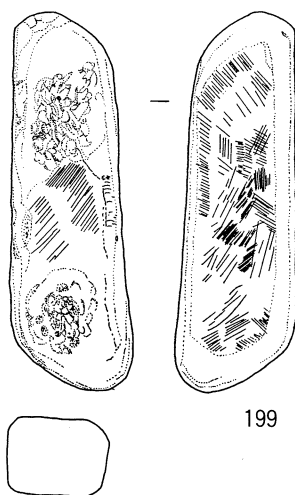
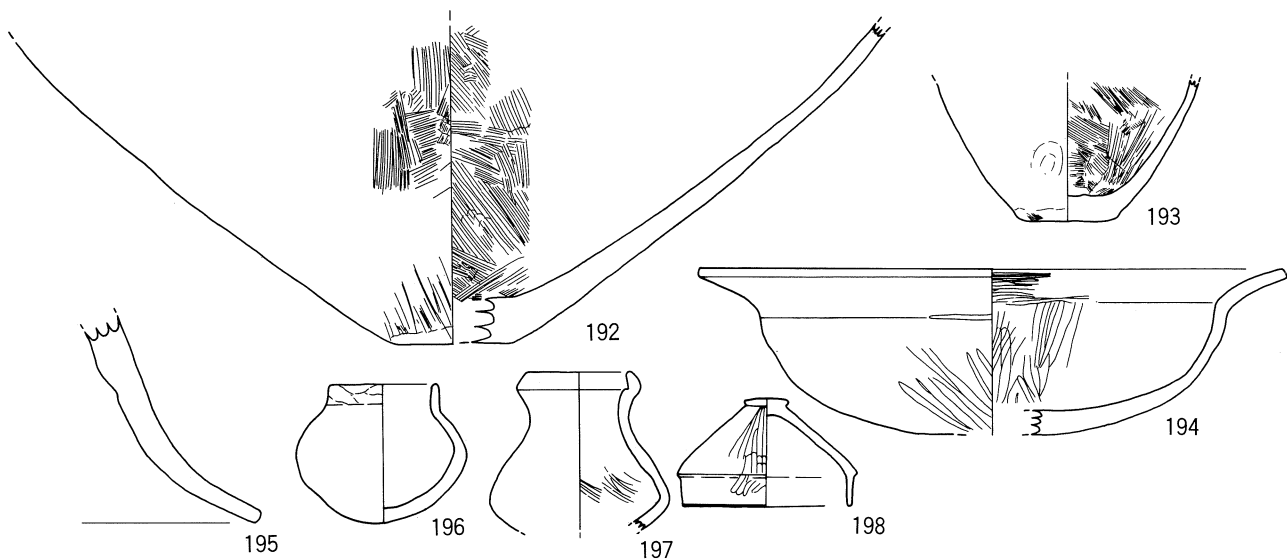


2号周溝狀遺構

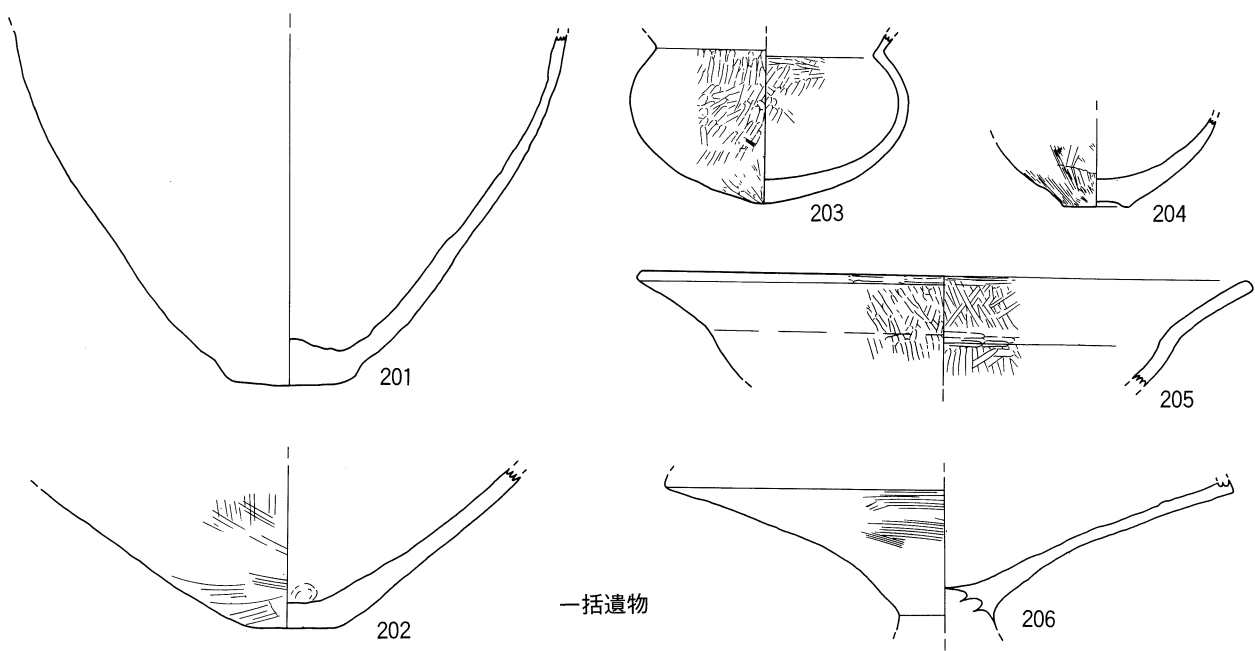
3号周溝狀遺構

1号溝狀遺構

第51图 2·3号周溝狀遺構、1号溝狀遺構(1)出土遺物实測图



1号溝状遺構



一括遺物

第52図 1号溝状遺構出土遺物(2)、一括遺物(1)実測図



222は土製の勾玉で両端を欠損し、現存で3.2cm、直径13mmを測る。

5号土壙出土遺物（第53図）

207は鉄剣で、両関式の茎部を残す。錆び付きが激しく鏑は確認できない。刃長26.0cm、最大刃幅3.5cm、重さ206gを測る。

6号土壙出土遺物（第53図）

208は変形の圭頭鏃で、切っ先を欠損する。矢柄への装着部分が残る。身長5.6cm、身幅2.5cm、重さ13.5gを測る。

7号土壙出土遺物（第53図）

209は柳葉鏃で、切っ先を欠損する。矢柄への装着部分が残る。身長5.5cm以上、身幅2.4cm、重さ18.8gを測る。

14号土壙出土遺物（第53図）

210は敲石で敲打痕が見られる。最大長15.2cm、最大幅10.7cm、最大厚5.7cm、重さ1,120gを測る。

16号土壙出土遺物（第53図）

211は敲石で敲打痕が見られる。最大長8.8cm、最大幅9.7cm、最大厚4.3cm、重さ439gを測る。

18号土壙出土遺物（第53図）

212は圭頭鏃で、僅かに矢柄への装着部分が残る。身長3.6cm、身幅1.7cm、重さ3.6gを測る。

20号土壙出土遺物（第53図）

213は鉞で刃部先端、茎部が欠損する。

214は砥石で、表面、側面に擦痕が見られる。石材は頁岩で、最大長5.5cm、最大幅4.6cm、最大厚1.1cm、重さ37.4gを測る。

21号土壙出土遺物（第53図）

215は柳葉鏃で、身長6.5cm、身幅2.2cm、茎部長4.0cm、重さ18.4gを測る。

22号土壙出土遺物（第53図）

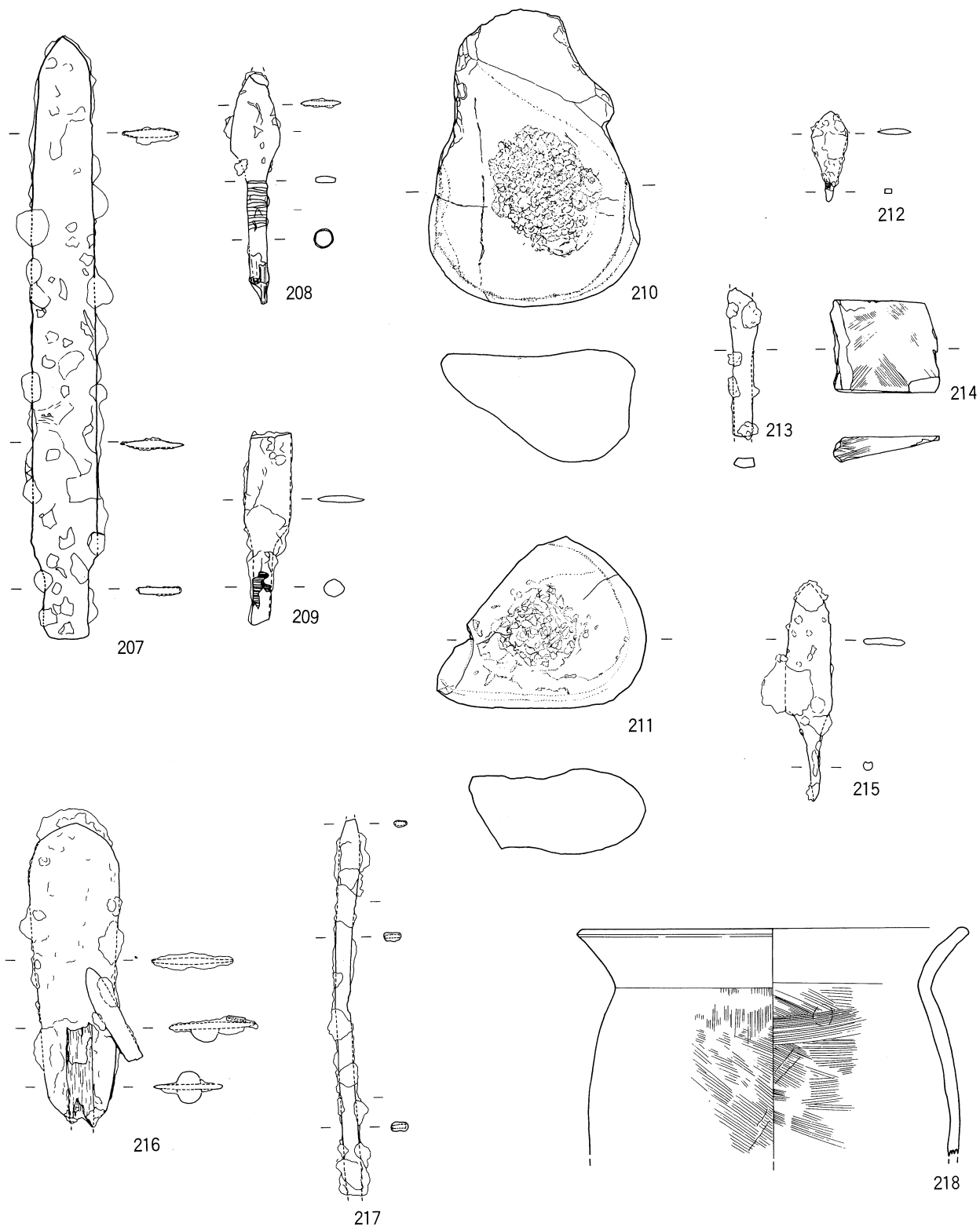
216は大型で無茎の圭頭鏃と鉞の刃部である。圭頭鏃は身長15.5cm、身幅4.4cmを測り、矢柄によって挟まれている。鉞は柳葉形を呈し、現存で身長5.3cm、身幅1.2cmを測る。2つとも合計の重さは101.8gを測る。

25号土壙出土遺物（第53図）

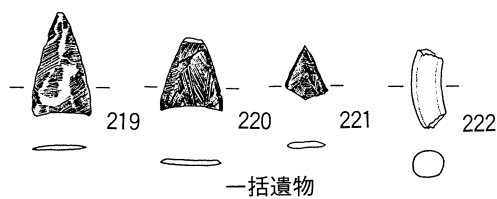
217は鉞で刃部の切っ先を欠損する。現存で全長19.2cm、幅1.5cm、重さ23.6gを測る。

28号土壙出土遺物（第53図）

218は甕の口縁部で「く」の字に外反する。



- | | | | |
|-----|-------|---------|-------|
| 207 | 5号土壤 | 213・214 | 20号土壤 |
| 208 | 6号土壤 | 215 | 21号土壤 |
| 209 | 7号土壤 | 216 | 22号土壤 |
| 210 | 14号土壤 | 217 | 25号土壤 |
| 211 | 16号土壤 | 218 | 28号土壤 |
| 212 | 18号土壤 | | |



第53図 土壤出土遺物、一括遺物(2)実測図

IV. 平成10年度の調査

1. 遺構について

竪穴住居

18号竪穴住居 (第54図)

推定4.7m×4.0m、深さ10cmを測り、平面形態は長方形を呈する。住居東側は8号土坑に、中央部は指定40号墳の周溝に切られ、南側は19号住居、15号竪穴状遺構と切り合う。主柱穴は2本で、P1は径40cm、住居床面からの深さ80cm、P2は径34cm、住居床面からの深さ58cm、主柱穴間の心々距離は1.9mを測る。炉、焼土面は確認されなかった。

遺物は弥生土器が少量出土している。

19号竪穴住居 (第56図)

4.4m以上×3.2m以上、深さ10cmを測り、平面形態は不整形を呈する。住居北西側は18号住居、15号竪穴状遺構と切り合い、北側から南側にかけては指定40号墳、未指定A号墳の周溝に切られる。西側では4号周溝状遺構に切られ、20号住居と切り合う。柱穴は計4基が検出され、P1は径35cm、深さ35cm、P2は径30cm、深さ80cm、P3は径36cm、深さ38cm、P4は径50cm×35cm、深さ57cmを測る。主柱穴2本と想定した場合、P1-P2、P3、P4を結んだラインは住居壁ラインに対して平行関係にならず、主柱穴とは言えない。現状の住居プランが不定形なことから、主柱穴2本の竪穴住居の周囲に別の遺構が切り合っている可能性もある。炉、焼土面は確認されなかった。

遺物は床面より弥生土器の壺、敲石が出土している。

20号竪穴住居 (第56図)

4.4m×4.0m以上、深さ18cmを測り、平面形態は方形を呈する。東側で19号住居と、南側で21号住居と切り合い、北西側で10号住居を切る。また、住居東側から南側にかけて4号周溝状遺構を切り、北西隅辺りで9号土坑と切り合う。主柱穴は2本で、P1が径38cm、深さ58cm、P2が径45cm、深さ54cm、主柱穴間の心々距離は2.1mを測る。炉、焼土面は確認されなかった。

遺物は床面より弥生土器が少量出土している。

21号竪穴住居 (第56図)

3.0m以上×2.4m、深さ20cmを測り、平面形態は長方形を呈する。北側で20号住居、東側で16号竪穴状遺構、南側で22号住居と切り合う。また、住居に11号土坑、36号土壙が重複しており、ともに後出する。主柱穴は2本で、P1が径28cm、深さ50cm、P2が径24cm、深さ50cm、主柱穴間の心々距離は1.9mを測る。炉、焼土面は確認されなかった。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。本遺構は平成7年度調査の3号竪穴住居にあたる。

22号竪穴住居 (第56図)

4.2m以上×3.7m、深さ20cmを測り、平面形態は長方形を呈する。北西側で21号住居、16号竪穴状遺構と切り合い、東側で未指定A号墳周溝に切られる。また、北側の36号土壙、重複してい

る37号土壇はいずれも住居に後出する。主柱穴は検出されなかったが、南側より径25cm、深さ40cmの柱穴と、径70cm、深さ12cmの浅い土坑が検出された。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。

23号竪穴住居（第55図）

5.2m×3.1m以上、深さ20cmを測る。東側は調査区外にかかり、北側は指定40号墳、未指定A号墳周溝に切られ、南側は32号土坑と切り合っている為、全容は不明であるが平面形態は方形を呈するものと思われる。住居床面ほぼ中央より焼土面が検出され、その西側から径60cm×50cm、深さ42cmの柱穴が、南側より径100cm×90cm、深さ20cmの土坑が検出された。柱穴が主柱穴2本のうちの1本、土坑が炉になると思われる。土坑内からは弥生土器の壺（229）が出土している。

遺物の出土状況は良好で、床面及び埋土中より弥生土器が出土している。

24号竪穴住居（第57図）

南壁長8.0m、深さ20cmを測る。北壁及び西壁は切り合いの為、残存しておらず、東壁は約3.1m残るのみで、全容は不明であるが平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。西側に重複して位置する25号住居を切っており、20号竪穴状遺構、土坑群は住居に先行し、未指定B号墳周溝、3号地下式横穴墓は後出する。

主柱穴は2本と推測されるが、径50cm、深さ50cmを測るP1を検出したのみである。柱穴北側からは1.5m×0.8mの楕円形の範囲に焼土面が確認され、その東側に隣接して径50cm×35cm、深さ12cmの土坑が検出された。

遺物は弥生土器の甕、壺、ミニチュア鉢等が出土しており、大半は床面より、やや浮いた位置で出土している。

25号竪穴住居（第57図）

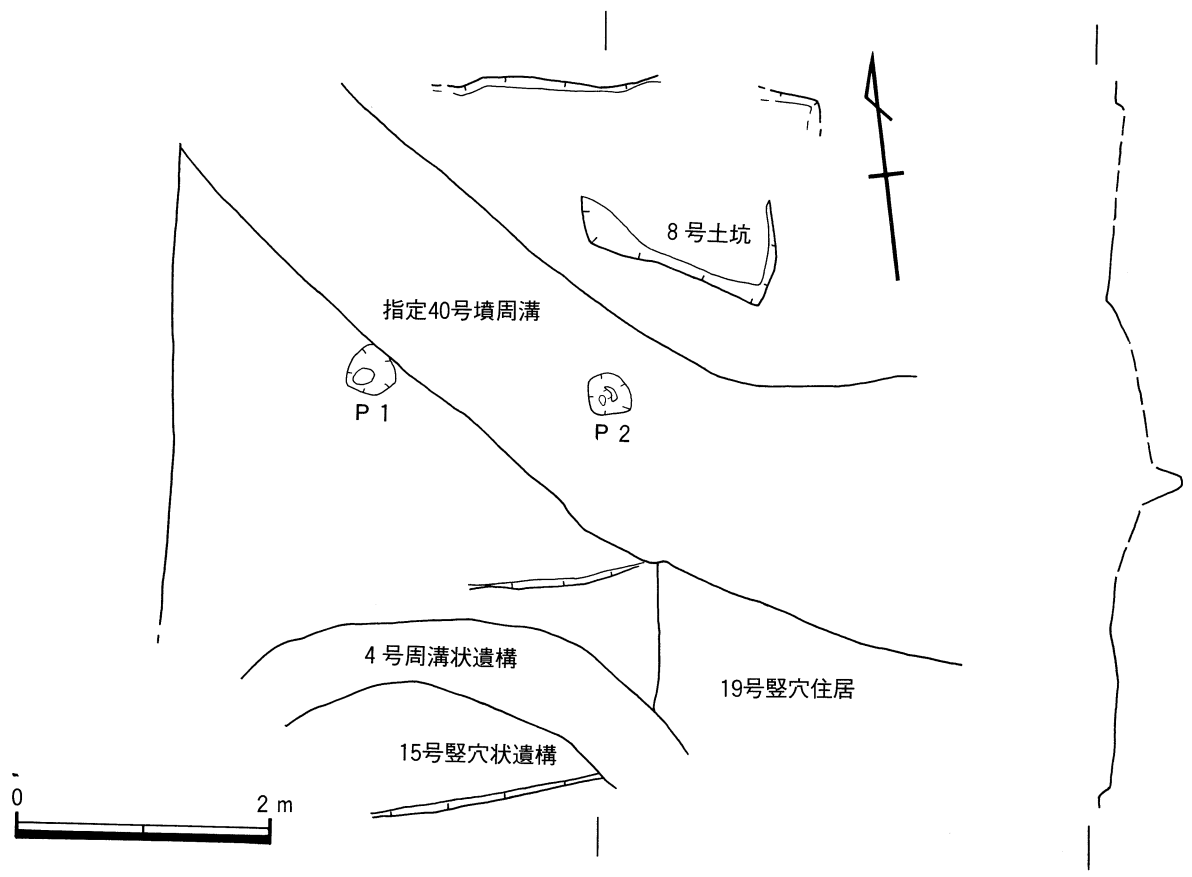
西壁長8.5m、深さ30cmを測る。北・南壁は長さ1m残るのみで、東壁は切り合いの為、残存しておらず、全容は不明であるが平面形は長方形を呈するものと思われる。東側に重複して位置する24号住居に切られており、20号竪穴状遺構、20・21号土坑は住居に先行し、未指定A・B号墳周溝、2・3号地下式横穴墓は後出する。

主柱穴はP1、P2の2本と推測される。切り合いにより検出面が床面より下がってしまった為、規模がひとまわり縮小した形での検出となった。規模はP1が径28cm、深さ57cm、P2は径20cm、深さ42cm、主柱穴間の心々距離は2.4mを測る。炉、焼土面は検出されなかったが住居北西隅付近より炭化物が検出された。また、南側床面より台石（254）が出土している。

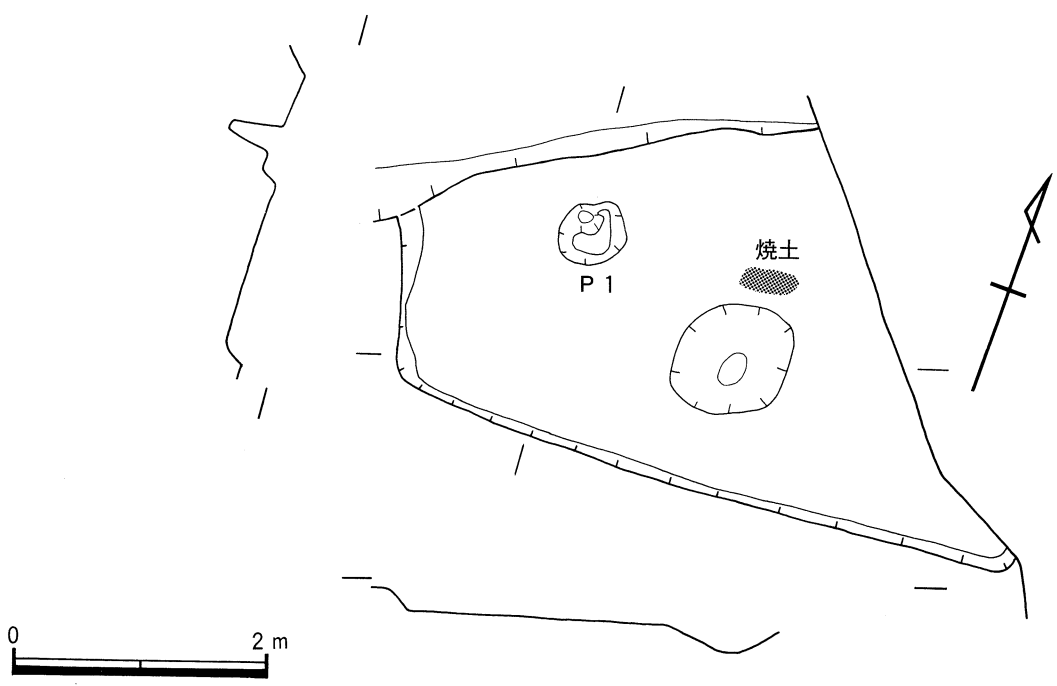
遺物は弥生土器の甕、壺、鉢、高杯、器台、ミニチュア壺等、比較的豊富に出土している。大半の遺物は床面より、やや浮いた位置で出土したが、住居北側においては数点、床面上から出土している。

26号竪穴住居（第58図）

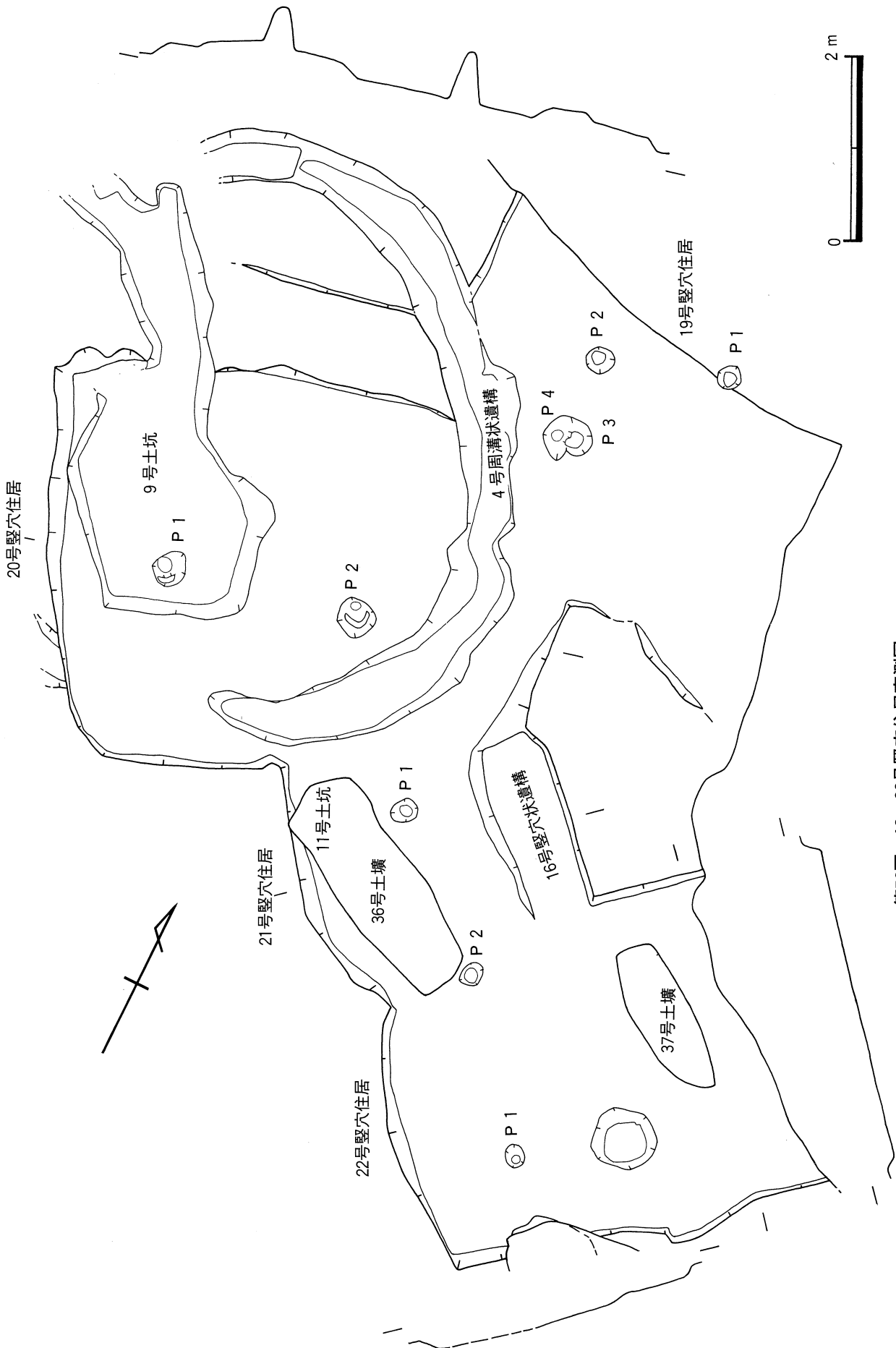
4.0m以上×3.6m、深さ40cmを測り、平面形態は長方形を呈する。東側は調査区外にかかり、住居に未指定B・C号墳周溝、4号地下式横穴墓が重複しており、いずれも住居に後出する。床面から柱穴、炉は検出されなかった。



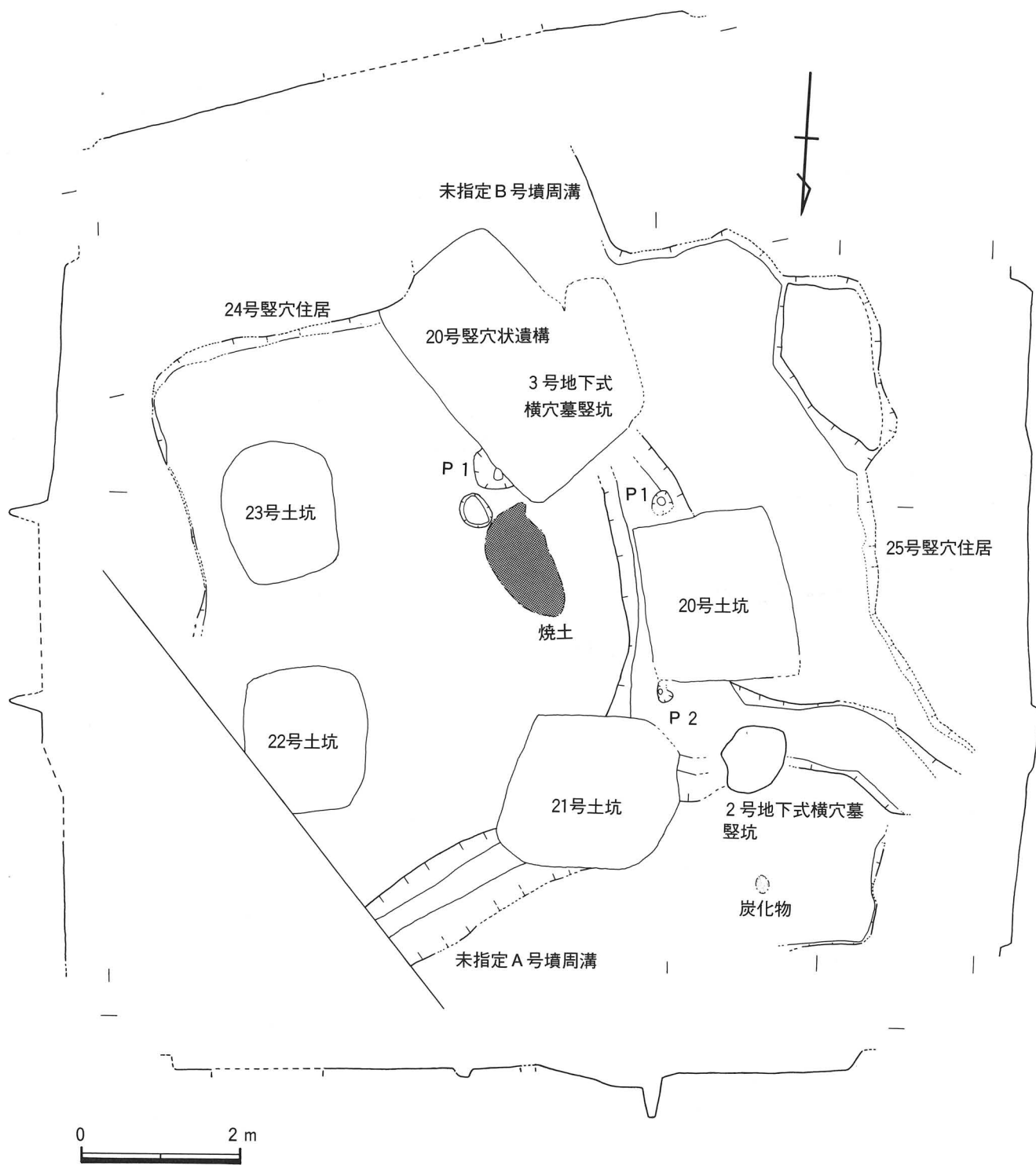
第54图 18号豎穴住居実測図



第55图 23号豎穴住居実測図



第56图 19~22号竖穴住居実測图



第57図 24・25号竖穴住居実測図

弥生土器の甕、壺、磨石が出土している。土器の大半は埋土中からの出土である。

27号竪穴住居（第59図）

4.8m以上×1.8m以上、深さ30cmを測り、平面形態は方形を呈するものと思われる。床面から複数の柱穴が検出されたが、主柱穴になるものはない。炉、焼土面は確認されなかった。

遺物の出土状況は良好で、床面より、やや上位で出土しているものが多い。遺物は弥生土器の甕、壺、鉢、石包丁が出土している。

28号竪穴住居（第62図）

3.6m×3.2m以上、深さ10cmを測り、平面形態は方形を呈する。東側で6号周溝状遺構に切られ、西側では29号住居と切り合う。住居南東側は攪乱により壁を確認できなかった。床面から主柱穴は検出されなかったが、南壁際東寄りから径100cm×70cm、深さ30cmの不整円形の土坑が検出された。土坑内からは弥生土器の甕（266）が出土した。

遺物は弥生土器が少量出土している。

29号竪穴住居（第62図）

3.1m以上×2.6m以上、深さ20cmを測り、平面形態は方形であると思われる。北東側で28号住居と切り合い、南側では30号住居に切られる。住居南東側は攪乱により壁を確認できなかった。床面から主柱穴、炉は検出されなかった。

遺物の出土は少量で、埋土中から弥生土器の甕が出土している。

30号竪穴住居（第62図）

4.6m×3.6m、深さ30cmを測り、平面形態は長方形である。6号周溝状遺構と切り合い、北側では29号住居を切る。主柱穴は2本で、P1が径33cm、深さ63cm、P2が径33cm、深さ48cm、主柱穴間の心々距離は1.6mを測る。炉、焼土面は検出されなかった。

遺物は住居南側隅にややまとまりをもって出土し、弥生土器の甕、高杯、石包丁、砥石が出土している。

31号竪穴住居（第60図）

3.6m×2.8m以上、深さ25cmを測る。南側が調査区外にかかる為、全容は不明であるが、平面形態は長方形を呈するものと思われる。北西側は42号土壇に切られる。主柱穴は2本で、P1が径35cm、深さ55cm、P2が径30cm、深さ50cm、主柱穴間の心々距離は1.5mを測る。住居東壁に接して1.3m×0.75m、深さ25cmの土坑が検出された。

遺物は弥生土器の破片と石包丁の未製品が少量出土したのみである。

32号竪穴住居（第64図）

7.2m×5.9m、深さ20cmを測る。北側を34号土壇、南側を17・18号土坑に切られ、東側は5号周溝状遺構と切り合う。

間仕切り住居と推定され、切り合いの為、全容は不明だが南北長5.9m（西側）、東西長4.7m程度の西側長方形、東側円形のプランを基調とし、西側に2箇所、北東側に1箇所突出壁を設ける。推測であるが南東側にもう1箇所突出壁があった可能性が強い。各間仕切り空間部は東側のものがなだらかに床面が高くなるだけで、他のものについては中央空間部の床面と同じ高さであ

る。柱穴は3基検出され、P1が径20cm×25cm、深さ60cm、P2が径40cm×35cm、深さ43cm、P3が径25cm、深さ80cmを測る。柱配列は明確にすることができなかった。また、炉、焼土面も検出されなかった。

遺物は弥生土器の甕、壺、鉢、高杯、ミニチュア土器、砥石が出土している。278、280の甕は住居東側の間仕切り空間部と中央空間との境付近で床面から10cm程浮いた位置で出土した。遺物の大半は埋土中より出土し、床面出土の遺物はごく僅かである。

33号竪穴住居（第65図）

5.0m×4.2m、深さ30cmを測り、平面形態は長方形を呈する。北側で31号土壌に切られ、東側で5号周溝状遺構と切り合う。主柱穴は2本で、P1が径50cm×35cm、深さ43cm、P2が径30cm、深さ48cm、主柱穴間の心々距離は2.7mを測る。他にも径18～50cm、深さ17～73cmの柱穴と思われるピットが4基検出された。炉、焼土面は検出されなかった。

遺物は少量で小片が多く、大半は床面より浮いて出土した。弥生土器の甕、高杯等が出土している。

34号竪穴住居（第61図）

5.0m×3.6m以上、深さ30cmを測る。西側が調査区外にかかり、南側が攪乱により破壊されており、全容は不明であるが平面形態は方形を呈するものと思われる。住居中央に焼土面が見られ、その東側に柱穴が検出された。柱穴はその位置より主柱穴2本のうちの1本と思われ、径50cm、深さ80cmを測る。また、住居南側の東壁沿いより径35cm、深さ62cmの柱穴が検出されている。

遺物は弥生土器の甕、鉢、高杯が出土している。

竪穴状遺構

15号竪穴状遺構（第54図）

4.2m以上×1.6m以上、深さ15cmを測り、平面形態は方形と思われる。北側から東側では18号住居、東側では19号住居と切り合い、西側は10号住居に切られ、重複する4号周溝状遺構を切っている。床面からは柱穴、炉は検出されなかった。

遺物は弥生土器が少量出土している。

16号竪穴状遺構（第56図）

2.1m以上×0.8m以上、深さ10cmを測り、平面形態は方形と思われる。21号住居と重複しており、南側は22号住居と切り合う。床面からは柱穴、炉は検出されなかった。

遺物は埋土中より弥生土器が数点出土したのみである。

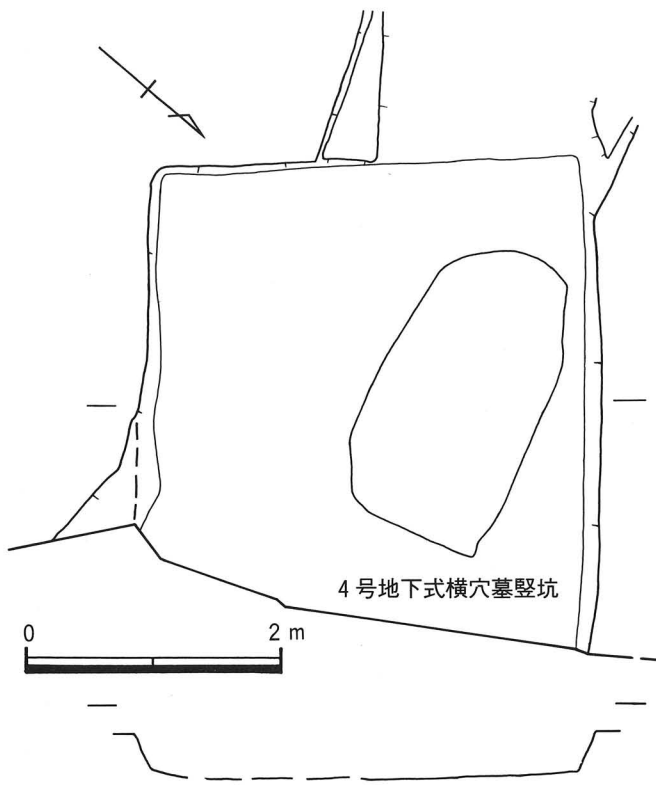
17号竪穴状遺構（第94図）

3.2m×2.1m、深さ10cmを測り、平面形態は長方形を呈する。東側で18号竪穴状遺構と切り合う。中央床面から径26cm、深さ12cmの柱穴と、その東側から78cm×70cm、深さ10cmの円形の土坑が検出された。

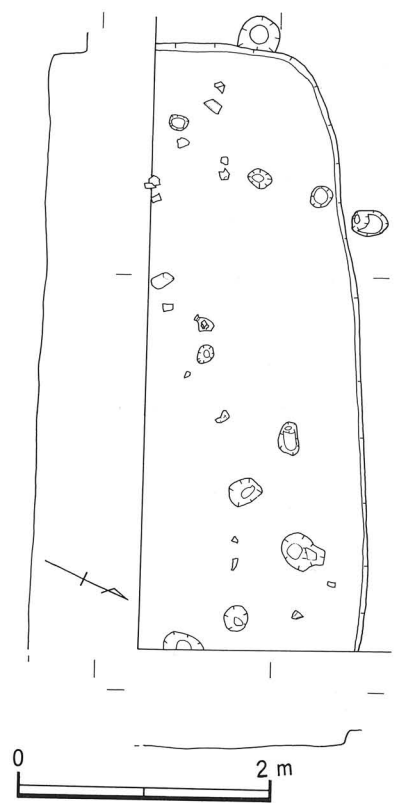
遺物は埋土中より弥生土器の小片が数点出土したのみである。本遺構は平成7年度調査の4号竪穴住居にあたる。

18号竪穴状遺構（第94図）

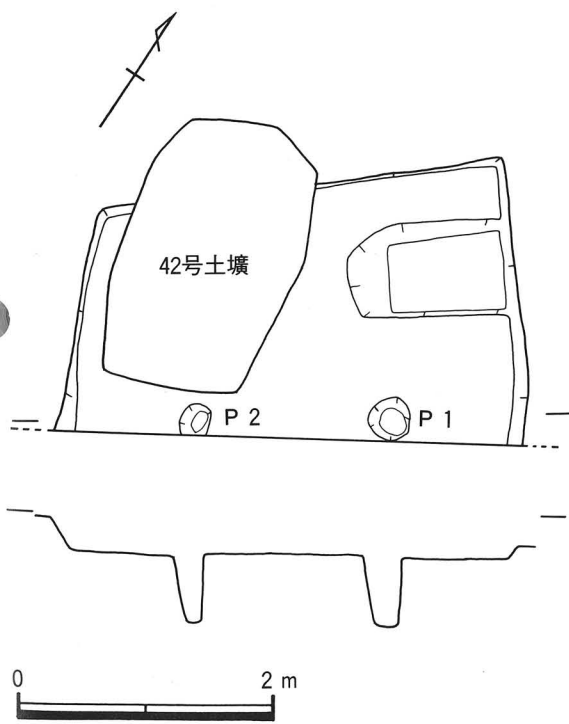
2.7m以上×2.5m以上、深さ10cmを測り、平面形態は方形と思われる。重複する14号土坑に切



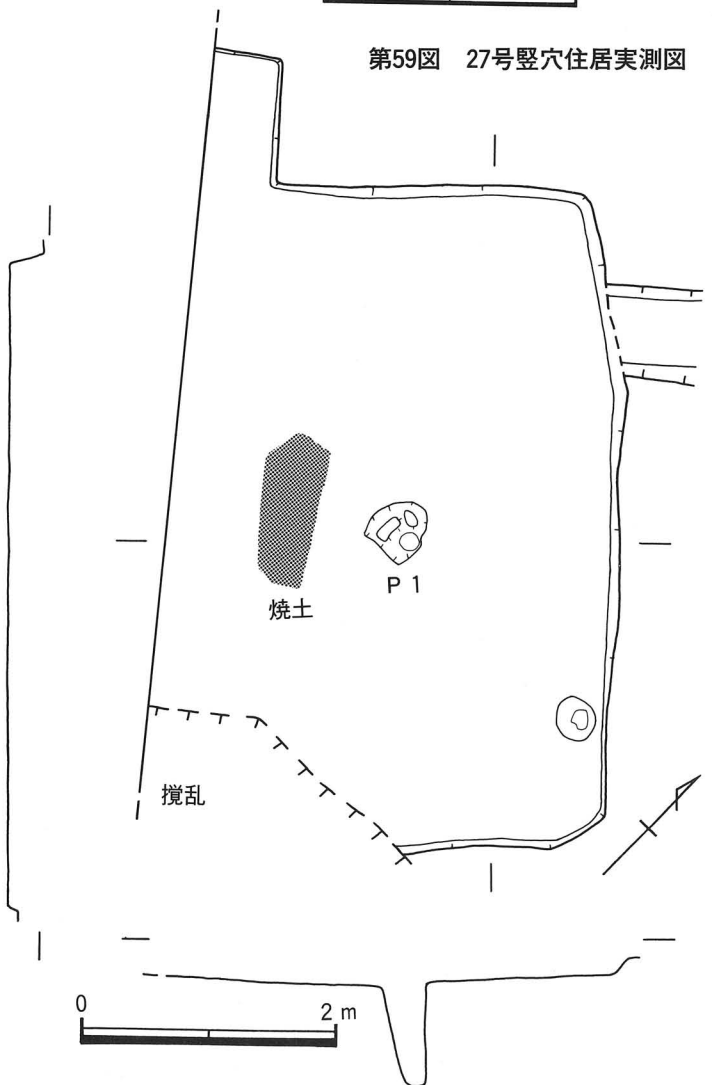
第58图 26号竖穴住居实测图



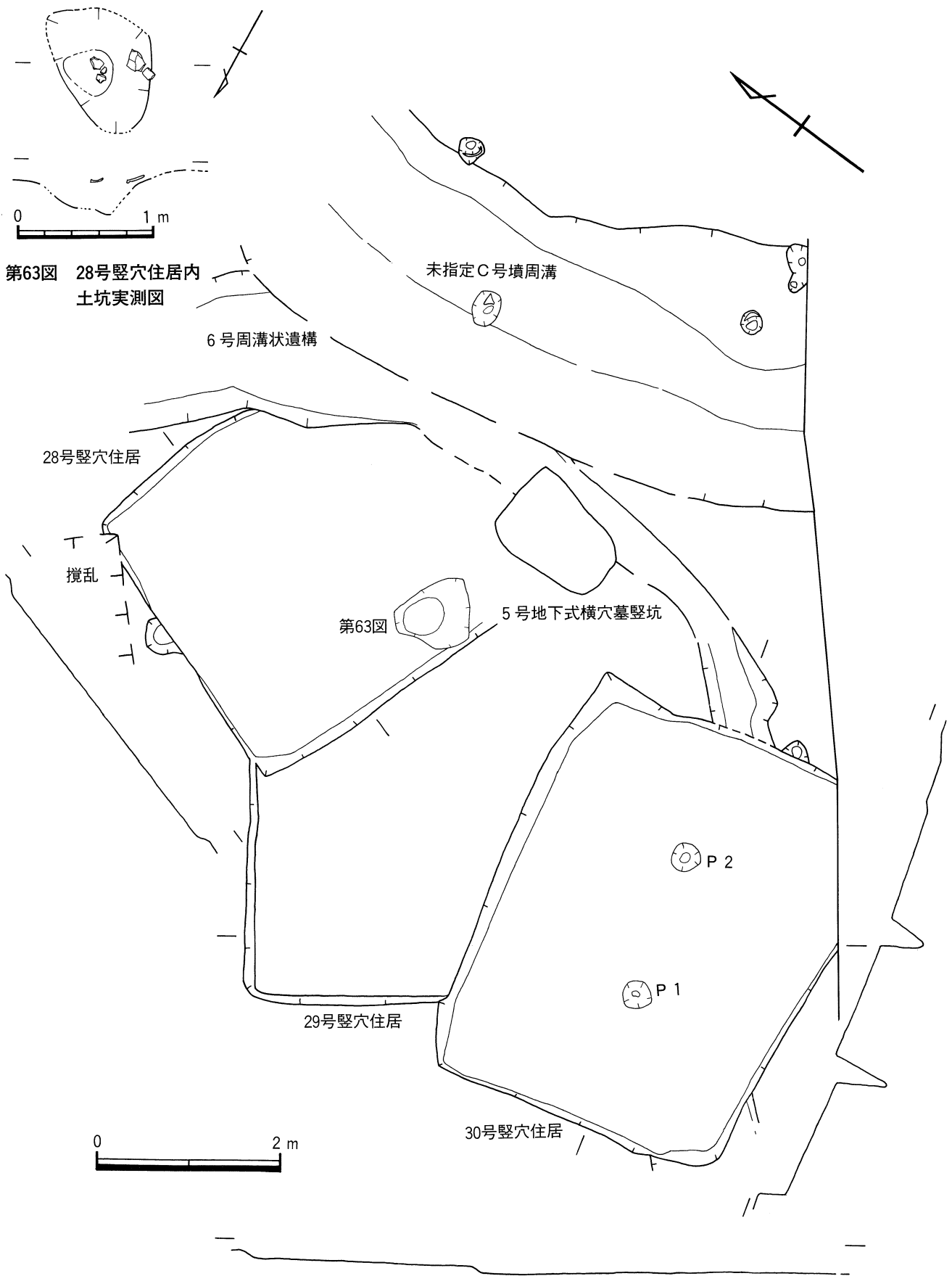
第59图 27号竖穴住居实测图



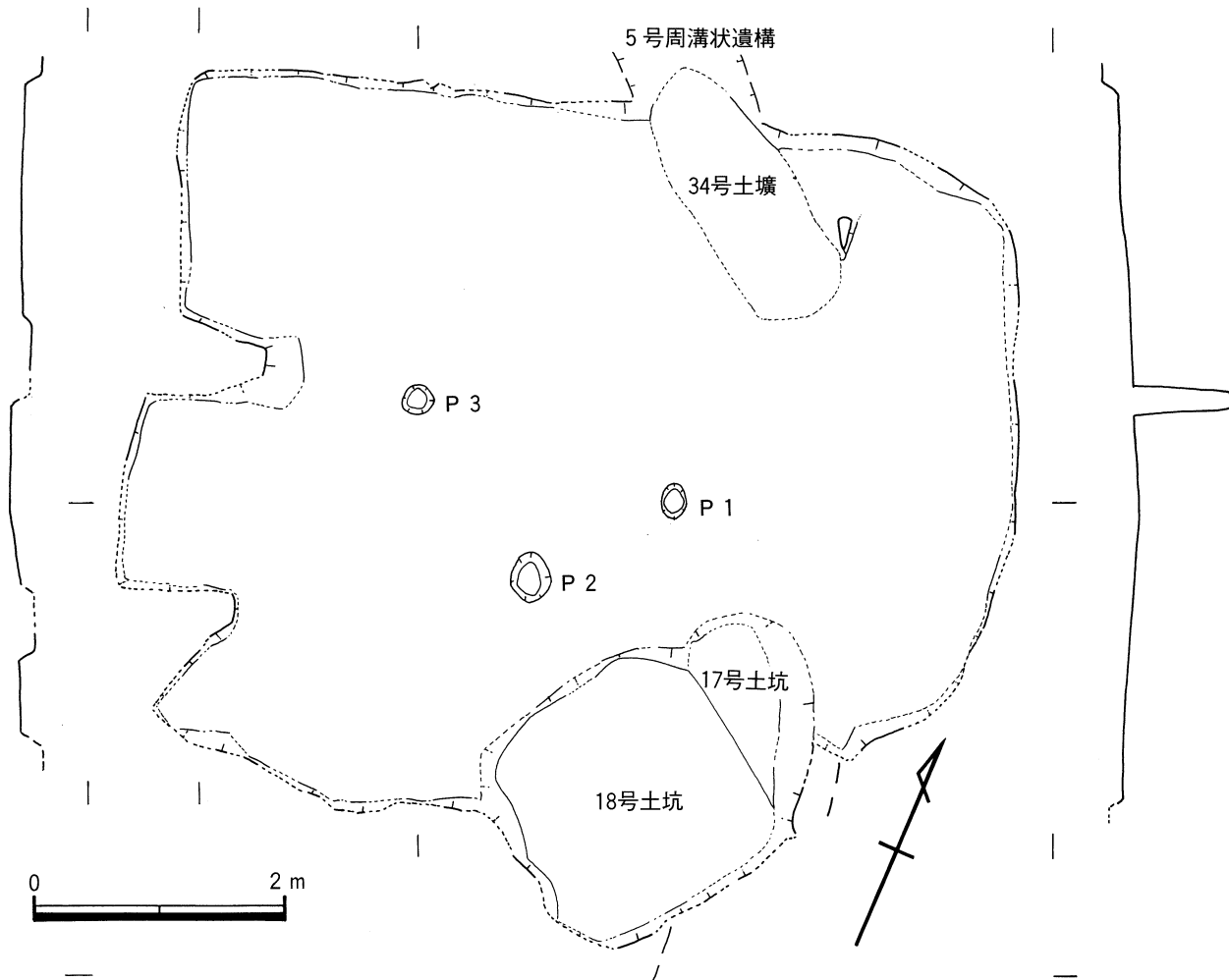
第60图 31号竖穴住居实测图



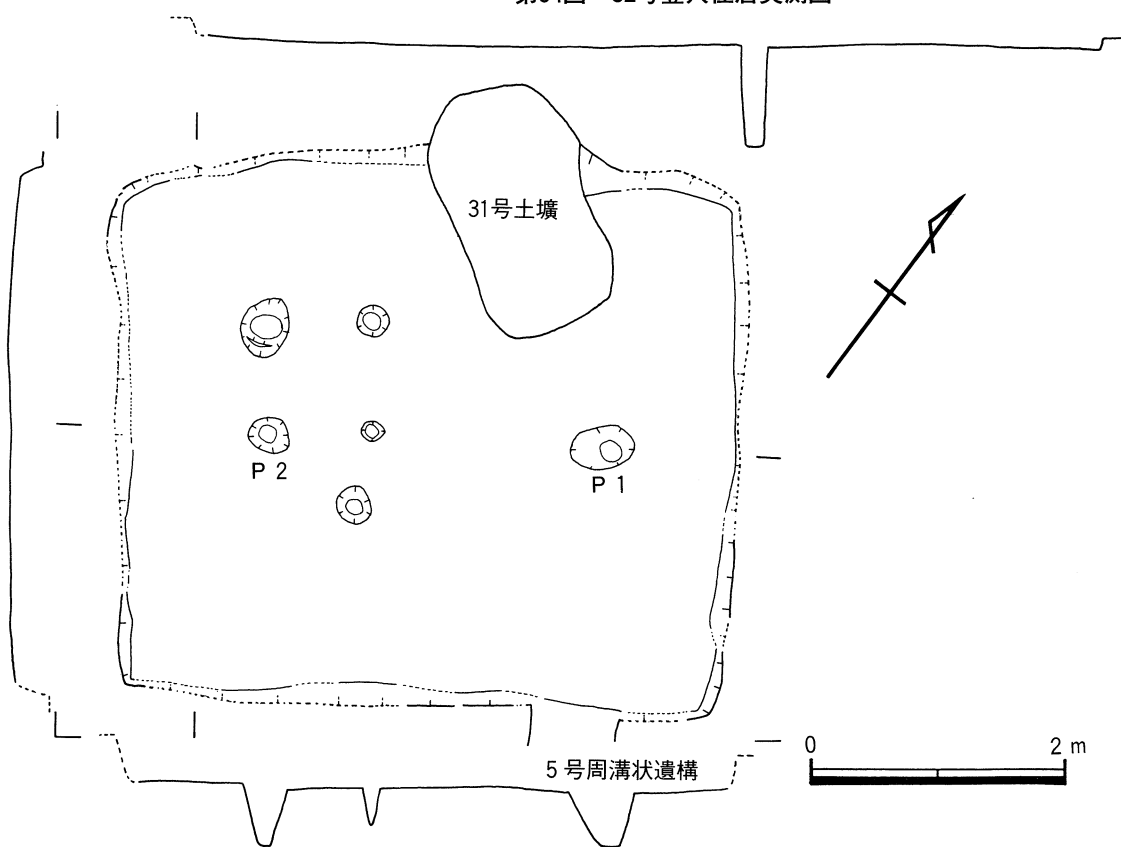
第61图 34号竖穴住居实测图



第62图 28~30号竖穴住居实测图



第64图 32号竖穴住居実测图



第65图 33号竖穴住居実测图

られ、西側で17号竪穴状遺構と切り合う。床面から柱穴、炉は検出されなかった。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。

19号竪穴状遺構（第66図）

2.9m×2.4m、深さ25cmを測り、平面形態は隅丸長方形を呈する。床面から柱穴、炉は検出されなかった。

遺物は埋土中より弥生土器、砥石が出土している。

20号竪穴状遺構（第67図）

3.5m×2.1m、深さ80cmを測り、平面形態は長方形を呈する。重複する24・25号住居に切られ、西側は未指定B号墳周溝、3号地下式横穴墓竪坑に切られている。床面から柱穴、炉は検出されなかったが床面より10cm程上位で炭化木が検出された。

遺物は弥生土器の甕、壺が出土している。床面出土の遺物はなく、大半は床面から、やや浮いた状態での出土である。

土坑

7号土坑（第91図）

1.0m×0.8m、深さ40cmを測り、平面形態は隅丸長方形を呈する。

遺物は出土していない。

8号土坑（第54図）

1.7m×1.4m以上、深さ10cmを測り、平面形態は方形を呈するものと思われる。18号住居と重複する。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。

9号土坑（第56図）

2.9m×2.0m、深さ30cmを測り、平面形態は不整形を呈する。20号住居に重複しており、西側で10号住居を切っている。遺構の北側に向かって幅90cm、深さ18cmの溝状の窪みが延びる。

遺物は弥生土器の甕、壺が、南側床面にややまとまりをもって、出土している。

10号土坑（第3図）

1.6m×1.4m以上、深さ15cmを測る。平面形態は不整形を呈する。複数の遺構が切り合っている可能性もある。南側は33号土壙に切られる。平成7年度調査の4号土坑にあたる。

11号土坑（第81図）

径0.95m、深さ45cmを測り、平面形態は円形を呈する。21号住居、16号竪穴状遺構と切り合い、36号土壙に切られる。平成7年度調査の6号土坑にあたる。

12号土坑（第94図）

径0.7m×0.6m、深さ18cmを測り、平面形態は円形を呈する。未指定A号墳の周溝と重複して検出された。

遺物は埋土中から弥生土器が数点出土している。平成7年度調査の13号土壙にあたる。

13号土坑（第94図）

径1.4m×0.8m、深さ22cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。未指定A号墳の周溝と重複し

て検出された。遺物は出土しなかった。平成7年度調査の12号土壇にあたる。

14号土坑 (第94図)

径1.6m×1.4m、深さ15cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。18号竪穴状遺構と重複しており、埋土より18号竪穴状遺構に後出する。

遺物は埋土中から弥生土器が数点出土している。

15号土坑 (第3図)

径1.2m×1.0m、深さ60cmを測り、平面形態は円形を呈する。重複して位置する38号土壇に切られ、南側では16号土坑と切り合う。

遺物は出土していない。

16号土坑 (第3図)

径1.0m×0.8m、深さ64cmを測り、平面形態は円形を呈する。重複して位置する39号土壇に切られ、北側では15号土坑と切り合う。

遺物は出土していない。

17号土坑 (第64図)

1.4m以上×1.1m以上、深さ25cmを測る。北側で32号住居、東側で5号周溝状遺構、南側で18号土坑と切り合う為、全容は不明だが平面形態は楕円形を呈するものと思われる。

遺物は埋土中から弥生土器の小片が数点出土している。

18号土坑 (第64図)

2.0m×1.95m、深さ30cmを測り、平面形態は正方形を呈する。北から北西側で32号住居、17号土坑と切り合い、東側で5号周溝状遺構と切り合う。

遺物は埋土中から弥生土器が少量出土した。

19号土坑 (第3図)

1.6m以上×1.2m、深さ10cmを測り、平面形態は長方形を呈するものと思われる。重複して位置する1号地下式横穴墓竪坑に切られる。

遺物は弥生土器のミニチュア壺(312)ほか少量出土している。

20号土坑 (第68図)

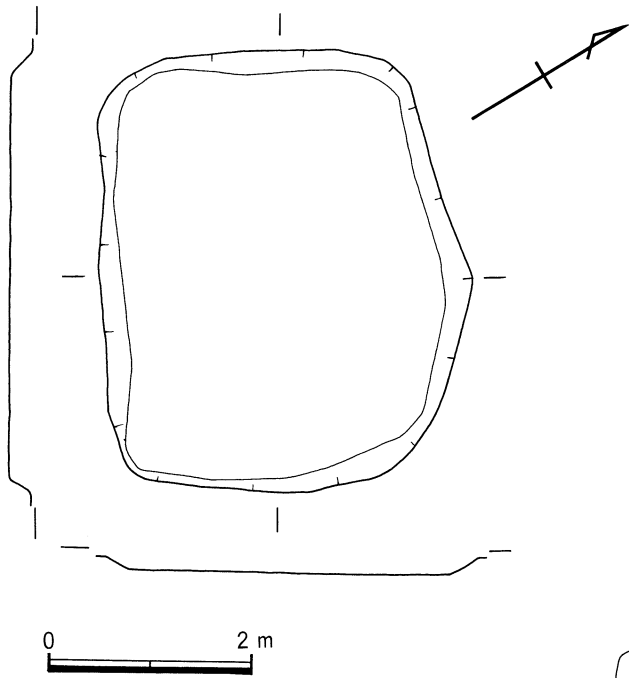
2.0m×1.7m、深さ100cmを測り、平面形態は長方形を呈する。24・25号住居、未指定B号墳周溝に切られる。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平らである。底面より高杯の脚部(319)が出土している。また、埋土上層では炭化物が確認された。形態、遺物出土状況から貯蔵穴と思われる。

遺物は弥生土器の甕、壺、高杯、器台が出土している。遺物の出土量が多いが、大半は埋土中からの出土である。

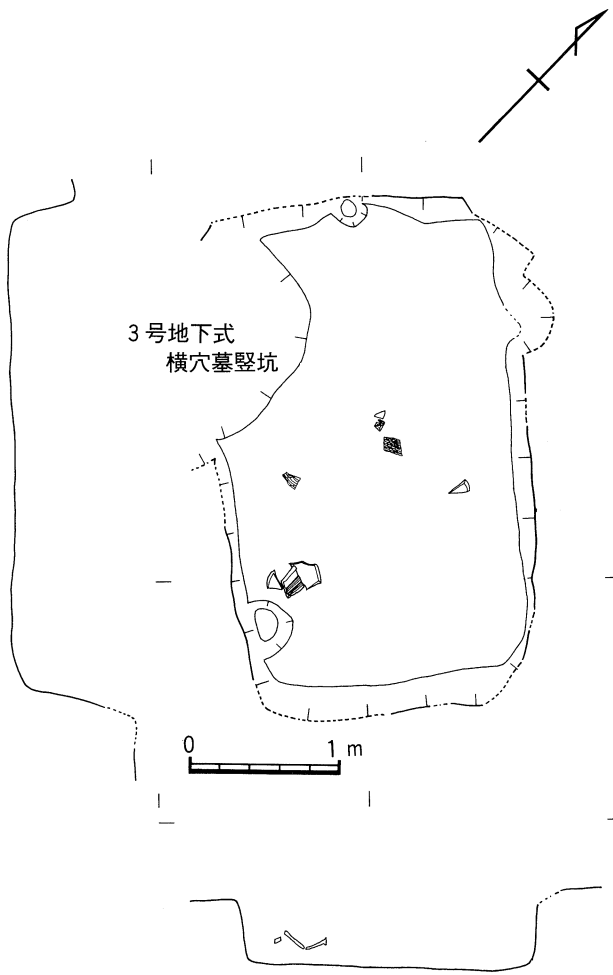
21号土坑 (第69図)

2.0m×1.9m、深さ130cmを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。24・25号住居、未指定A・B号墳周溝に切られる。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平らである。

底面から長さ約45cm、20cmの炭化木や土器がややまとまりをもって出土している。形態、遺物

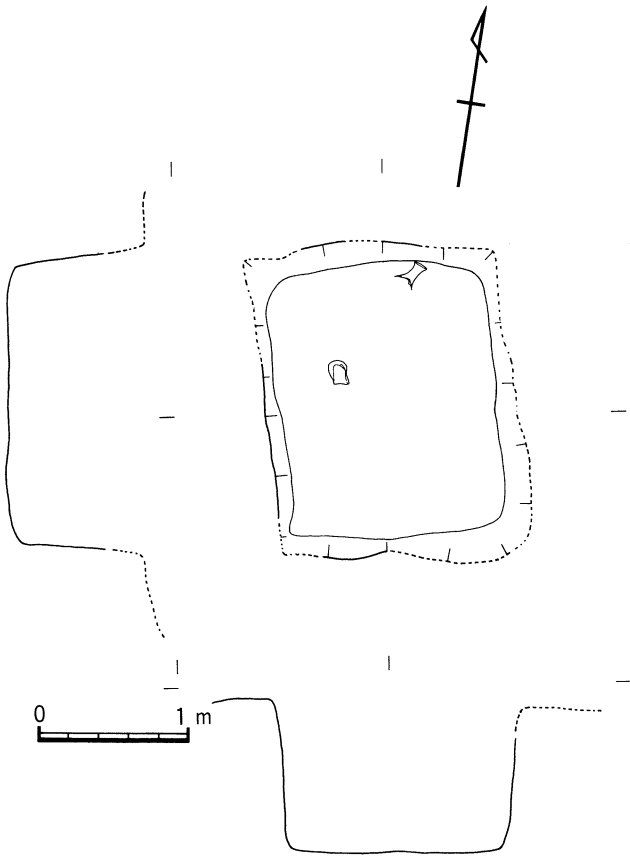


第66图 19号竖穴状遺構実測図



3号地下式
横穴墓竖坑

第67图 20号竖穴状遺構実測図



第68图 20号土坑実測図

の出土状況から貯蔵穴と思われる。

遺物は弥生土器の壺、高杯、石包丁の未製品、不明鉄器が出土している。床面から出土した遺物は少なく、大半は埋土中からの出土である。

22号土坑 (第70図)

1.75m×1.4m、深さ130cmを測り、平面形態は隅丸長方形を呈する。24号住居と重複して位置し、土層より住居に先行する。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平らである。その形態より貯蔵穴としての利用が考えられる。

遺物は弥生土器の甕、壺、石包丁等が出土している。遺物は底面出土のものは少量で、大半は埋土中からの出土である。

23号土坑 (第71図)

1.85m×1.4m、深さ135cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。24号住居と重複して位置し、土層より住居に先行する。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、底面は平らである。その形態より貯蔵穴としての利用が考えられる。

遺物は弥生土器のミニチュア鉢、石包丁の未製品等が出土しているが、大半は埋土中からの出土である。

24号土坑 (第73図)

2.0m×1.8m、深さ25cmを測り、平面形態は方形を呈する。東側で25号土坑と切り合う。

遺物は埋土中から弥生土器の甕が出土している。

25号土坑 (第74図)

1.5m×推定0.9m、深さ20cmを測り、平面形態は楕円形を呈するものと思われる。西側で24号土坑、重複して26号土坑と切り合う。

弥生土器の甕、高杯が出土した。遺物は主に埋土中から出土している。

26号土坑 (第74図)

1.4m以上×1.1m以上、深さ40cmを測り、平面形態は長方形を呈するものと思われる。重複して25号土坑と切り合う。

弥生土器の甕、壺、ミニチュアの高杯が出土した。遺物は埋土中からの出土である。

27号土坑 (第3図)

0.8m以上×0.4m以上、深さ40cmを測る。南側が調査区外にかかる為、全容は不明だが、平面形態は円形を呈するものと思われる。埋土は直径2～3mmの火山灰粒子を多量に含む。

遺物は出土していない。

28号土坑 (第96図)

2.0m以上×1.4m以上、深さ25cmを測り、平面形態は長方形を呈する。南側で未指定C号墳周溝に切られる。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。

29号土坑 (第3図)

1.5m×1.1m、深さ25cmを測り、平面形態は長方形を呈する。北西側で30号土坑と重複して、

6号周溝状遺構と切り合う。

遺物は埋土中より弥生土器が少量出土している。

30号土坑（第3図）

1.8m以上×0.9m、深さ20cmを測り、平面形態は長方形を呈する。南東側で29号土坑と重複して、6号周溝状遺構と切り合う。

遺物は埋土中より弥生土器が数点出土している。

31号土坑（第3図）

3.1m×1.3m、深さ15cmを測り、平面形態は長方形を呈する。遺構内に65cm×50cm、深さ10cmの掘り込みが検出された。

遺物は埋土中から弥生土器の小片が少量出土している。

32号土坑（第72図）

1.7m以上×1.5m、深さ40cmを測る。東側は調査区外にかかり、北側で23号住居と切り合う為、全容は不明だが、平面形態は長方形を呈するものと思われる。

遺物は弥生土器の甕、壺、高杯、砥石が出土した。大半は埋土中からの出土である。

周溝状遺構

4号周溝状遺構（第56図）

10号住居と切り合い、19・20号住居、15号竪穴状遺構に切られる。約半周しか検出できなかったが、周溝外径6.8m×6.0m程度、周溝内径5.7m×4.9m程度の隅丸方形もしくは楕円形プランと推定される。周溝の幅は50～70cm、深さ10～25cmを測る。

遺物は弥生土器の小片が数点出土したのみである。

5号周溝状遺構（第75図）

周溝外径9.6～9.1m、周溝内径8.5～8.1mの円形を呈する。周溝の幅は25～85cm、深さは15cmを測る。32・33号住居、17・18号土坑、34号土壇と切り合う。

遺物は埋土中から弥生土器の小片が少量出土したのみで、他に鉄器が1点出土している。

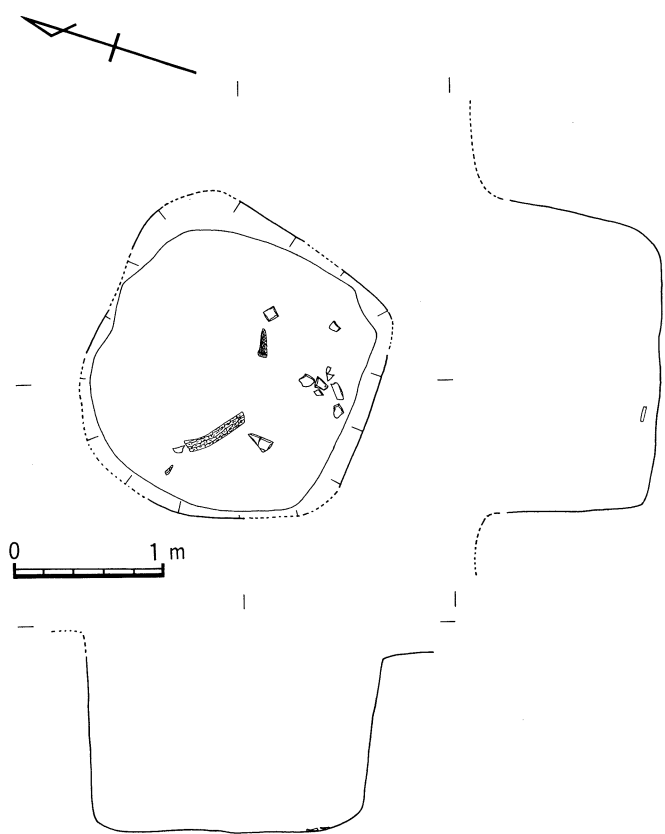
6号周溝状遺構（第3図）

5号周溝状遺構の南側に隣接して位置する。周溝外径12～13m、周溝内径10～10.5mの円形を呈し、周溝の幅は80～160cm、深さ8～15cmを測る。部分的に攪乱している為、全容は不明であるが、周溝は完周するものと思われる。周辺遺構との切り合いを明確にすることができず、また、良好な状態で遺物が出土しなかった為、時期を特定できないが、周溝南東部に5号地下式横穴墓の竪坑が掘られ、円の中心方向に向かって玄室がはいることから円墳である可能性が強い。

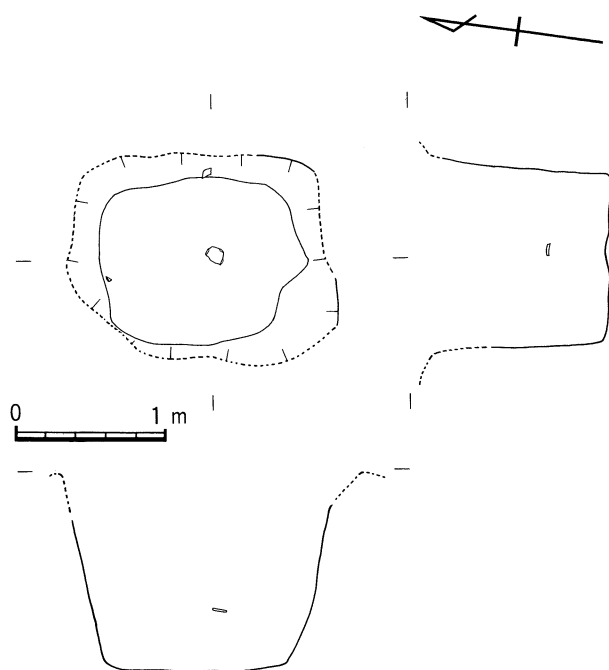
遺物は埋土中から弥生土器の小片が出土したのみである。土器の大半は周溝西側部分からの出土である。

ピット群

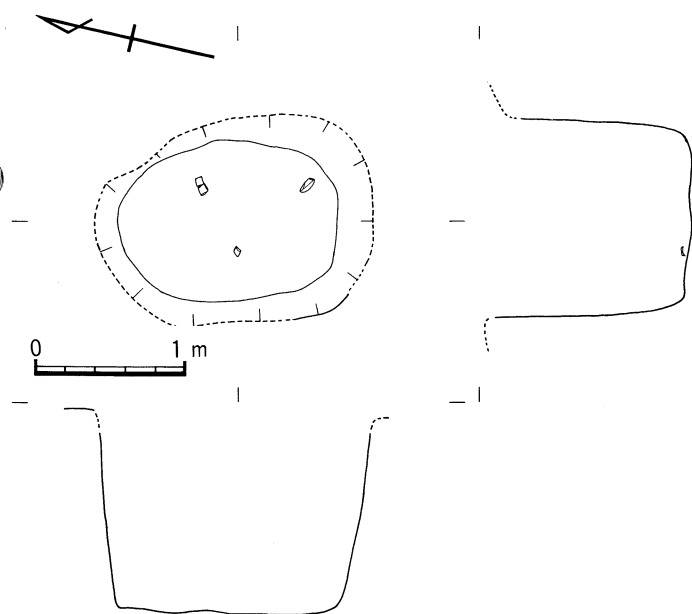
調査区内から50基余りに及ぶピットが検出されたが、掘立柱建物となるものは確認できなかった。縦横に延びるトレンチャー痕の為、検出されなかったピットも数多く存在するものと思われ、



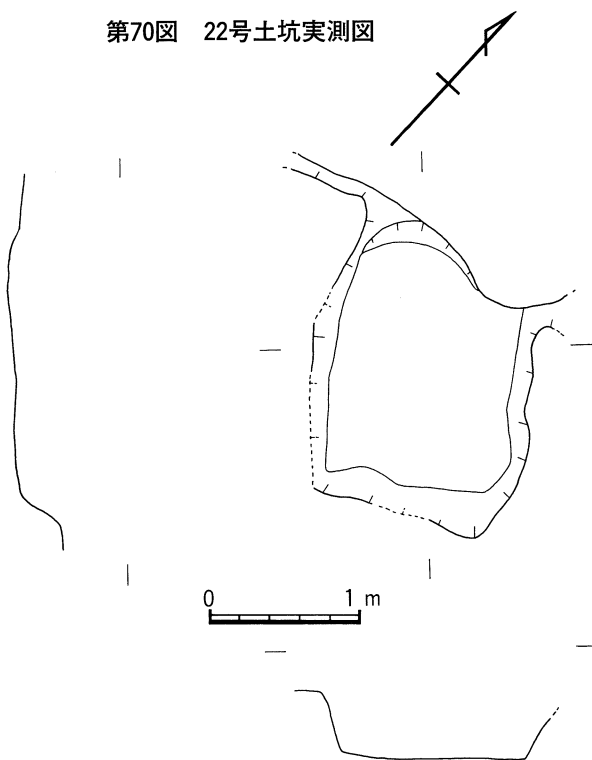
第69图 21号土坑实测图



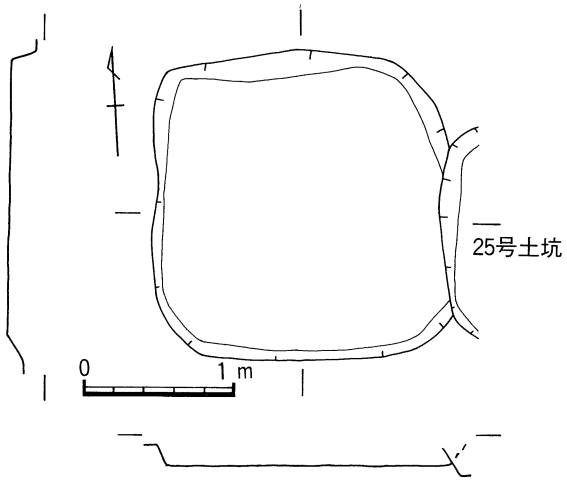
第70图 22号土坑实测图



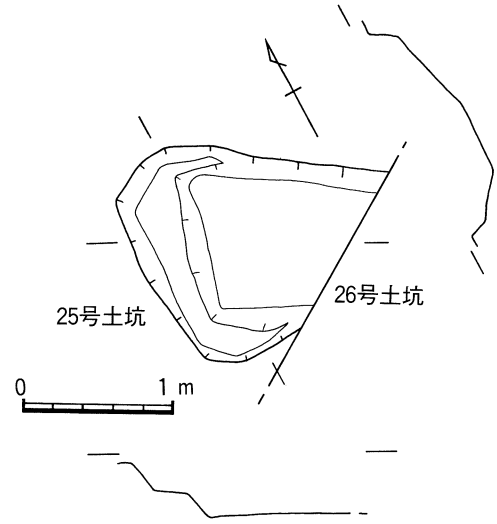
第71图 23号土坑实测图



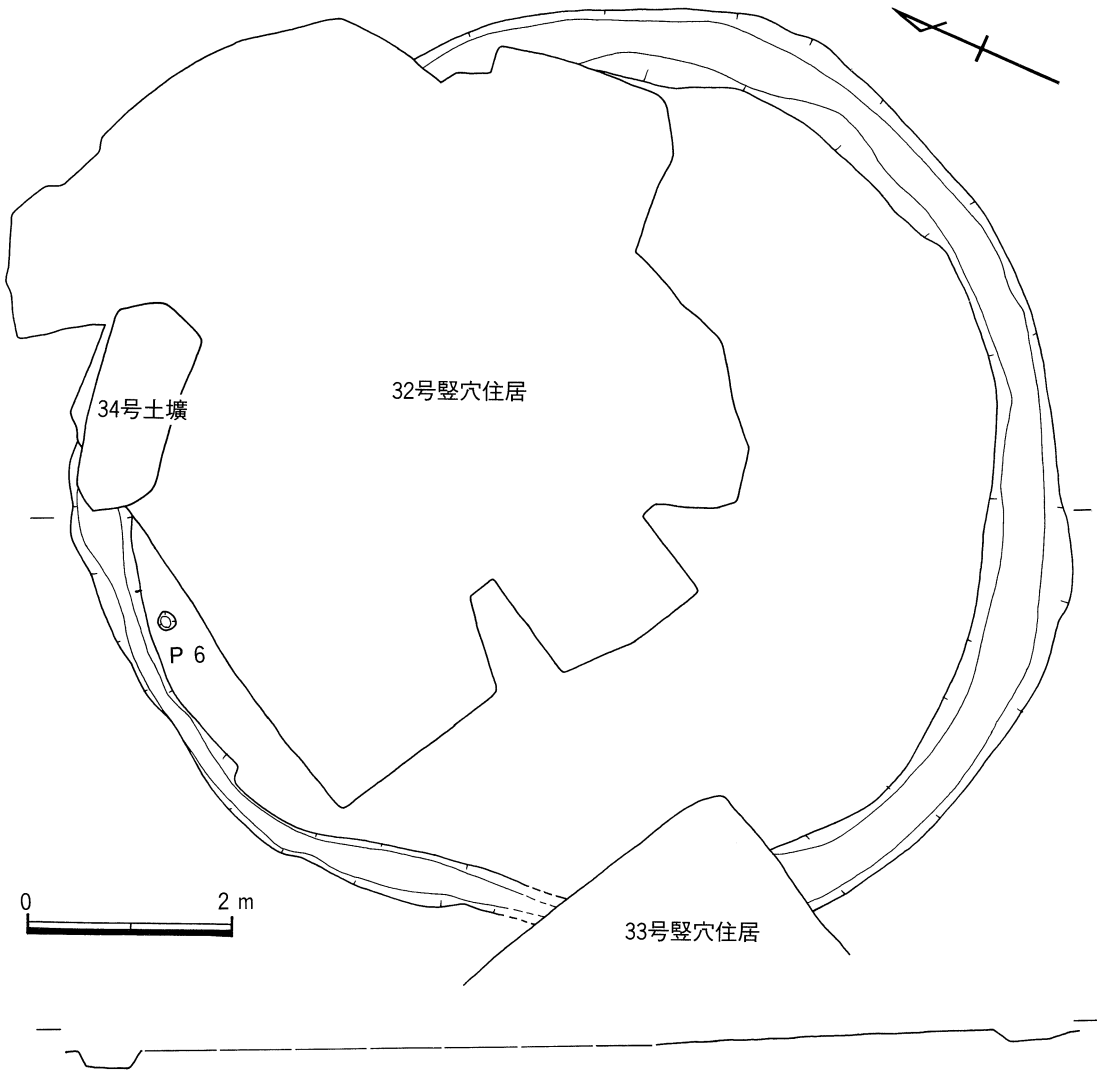
第72图 32号土坑实测图



第73图 24号土坑实测图



第74图 25·26号土坑实测图



第75图 5号周沟状遺構实测图

全容を明らかにすることが出来なかった。

特色のあるものとして、30号土壇の南側に2基並んで位置するP1・2は径60cm程度、深さ約60cmと大きく、何らかの構造物の一部である可能性が考えられる。また、径20cm、深さ9cmのP6（第75図）からは石包丁（355）が出土している。

土壇

29号土壇（第76図）

二段掘りの土壇で、墓壇掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長2.4m、幅1.1m、深さ20cmを測る。上段墓壇底中央に南側が幅広となる隅丸長方形の下段墓壇を掘り込んでおり、規模は主軸長1.9m、幅0.65m、深さ12cmを測る。底面は南側に緩やかに下降し、断面形は浅い皿状を呈する。

平成7年度調査時の5号土壇にあたる。

30号土壇（第77図）

二段掘りの土壇で、墓壇掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長2.35m、幅1.1m、深さ15cmを測る。上段墓壇底中央に隅丸長方形の下段墓壇を掘り込んでおり、規模は主軸長1.85m、幅0.5m、深さ10cmを測る。底面は南側に緩やかに下降し、断面形は浅い皿状を呈する。

平成7年度調査時の6号土壇にあたる。

31号土壇（第78図）

二段掘りの土壇で、33号住居を切っている。墓壇掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長2.0m、幅1.15m、深さ30cmを測る。上段墓壇底中央に隅丸長方形の下段墓壇を掘り込んでおり、南側はテラスを持たず、段がない。規模は主軸長1.78m、幅0.5m、深さ25cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈する。

埋土中から鉄器が出土している。平成7年度調査時の7号土壇にあたる。

32号土壇（第3図）

墓壇掘り方は長楕円形を呈し、規模は主軸長1.9m、幅0.6m、深さ60cmを測る。

平成7年度調査時の8号土壇にあたる。

33号土壇（第3図）

墓壇掘り方は長楕円形を呈し、規模は主軸長1.7m、幅0.4m、深さ20cmを測る。

平成7年度調査時の10号土壇にあたる。

34号土壇（第79図）

二段掘りの土壇で、32号住居、5号周溝状遺構を切っている。土壇西側端部はトレンチャーにより破壊されている。墓壇掘り方は隅丸長方形を呈し、西側先端部付近は丸みが強い。規模は推定主軸長2.2m、幅0.8m、深さ22cmを測る。上段墓壇底中央に隅丸長方形の下段墓壇を掘り込んでおり、西側はテラスを持たず、段がない。また、東側は径50cm×60cm、深さ8cmの掘り込みがあり、テラス面は消滅している。推定主軸長1.8m、幅0.4m、深さ10cm、底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿状を呈する。

35号土壙（第80図）

主軸長1.75m、幅0.8m、深さ27cmの西側が幅広となる平面台形の上段墓壙を掘り、その後、北側側壁全面を水平方向に掘り込み、更に垂直方向に掘り下げ、天井部をもつ下段墓壙を構築している。下段墓壙は隅丸長方形を呈し、主軸長1.95m、幅0.55m、深さ25cm、推定天井高40cmを測る。底面は平坦で、断面形は楕円形を呈する。墓壙内部は黒褐色土が堆積していたが、遺構検出面であるアカホヤ層が陥没していたことから、本来内部は空洞であったと思われる。ここでは便宜上、この様な形態の土壙を横口式二段掘り土壙と呼称する。

36号土壙（第81図）

墓壙掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長2.0m、幅0.75m、深さ45cmを測る。底面は南東側になだらかに下降し、断面形は逆台形を呈する。北西側で11号土坑を切っている。

平成7年度調査時の11号土壙にあたる。

37号土壙（第82図）

墓壙掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長1.8m、幅0.6m、深さ20cmを測る。底面は緩やかに南東側に下降し、断面形は逆台形を呈する。重複して位置する22号住居を切っている。

38号土壙（第83図）

横口式二段掘り土壙で、西側で15号土坑を切っている。上段墓壙は台形を呈するものと思われ、主軸長1.25m以上、幅0.55m以上、深さ20cmを測る。底面は南側に向かって下降する。下段墓壙は隅丸長方形を呈すると思われ、規模は主軸長1.25m以上、幅0.45m、深さ15cmを測る。天井は崩落しており、天井高、断面形は不明である。底面は西側に下降する。

39号土壙（第84図）

二段掘りの土壙で、北西側で16号土坑を切る。墓壙掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は推定主軸長2.3m、幅0.85m、深さ18cmを測る。上段墓壙底中央に長楕円形の下段墓壙を掘り込んでおり、規模は主軸長1.65m以上、幅0.55m、深さ15cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈する。

40号土壙（第85図）

横口式二段掘り土壙で、上段墓壙は長楕円形を呈し、主軸長1.75m、幅0.6m以上、深さ10cmを測る。底面は北側に向かって下降している。下段墓壙も長楕円形を呈し、規模は主軸長1.75m、幅0.65m、深さ25cm、天井高30cm以上を測る。断面形は楕円形を呈するものと思われ、底面はほぼ平坦である。

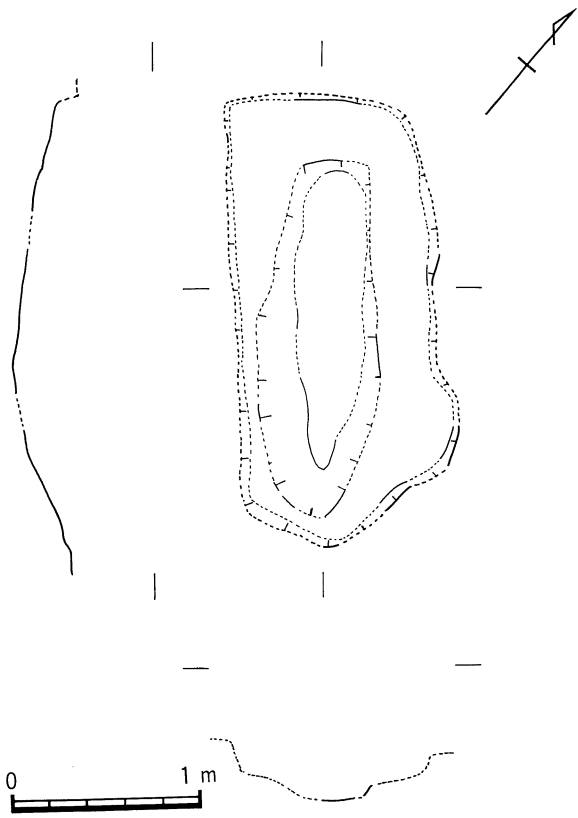
41号土壙（第86図）

墓壙掘り方は長楕円形を呈し、規模は主軸長2.6m、幅1.4m、深さ50cmを測る。底面は僅かに西側に下降し、断面形は逆台形を呈する。

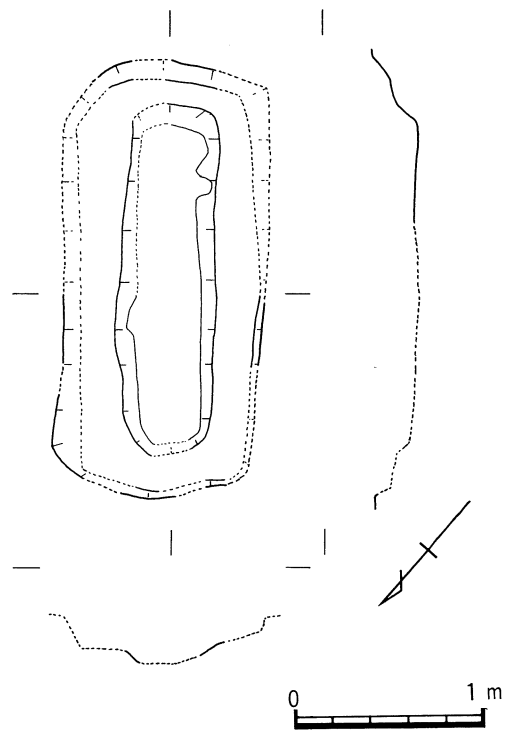
底面から磨石（357）が1点出土した。

42号土壙（第87図）

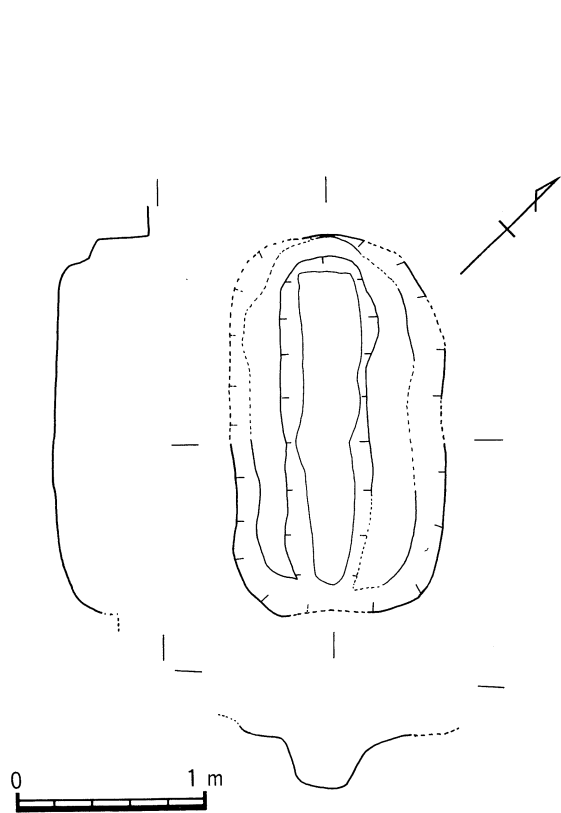
墓壙掘り方は隅丸長方形を呈し、規模は主軸長2.15m、幅1.35m、深さ105cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に近い角度で掘り込まれている。断面形は逆台形を呈する。形態、規模か



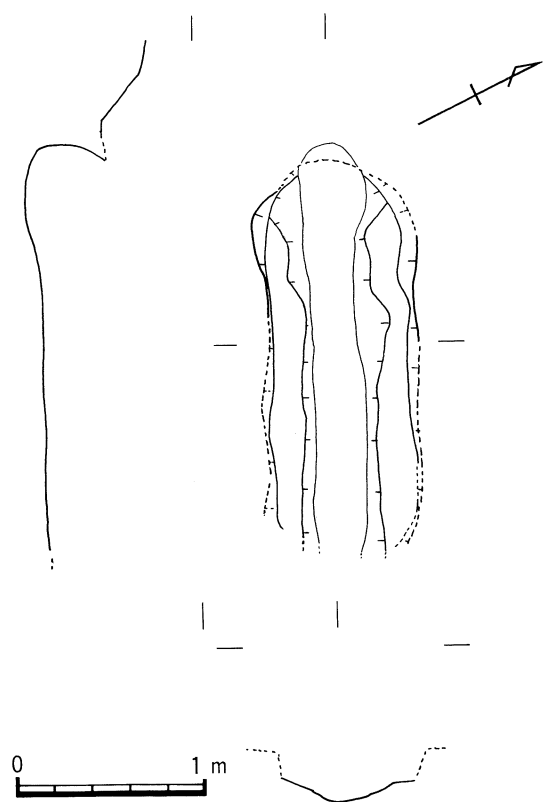
第76图 29号土壤实测图



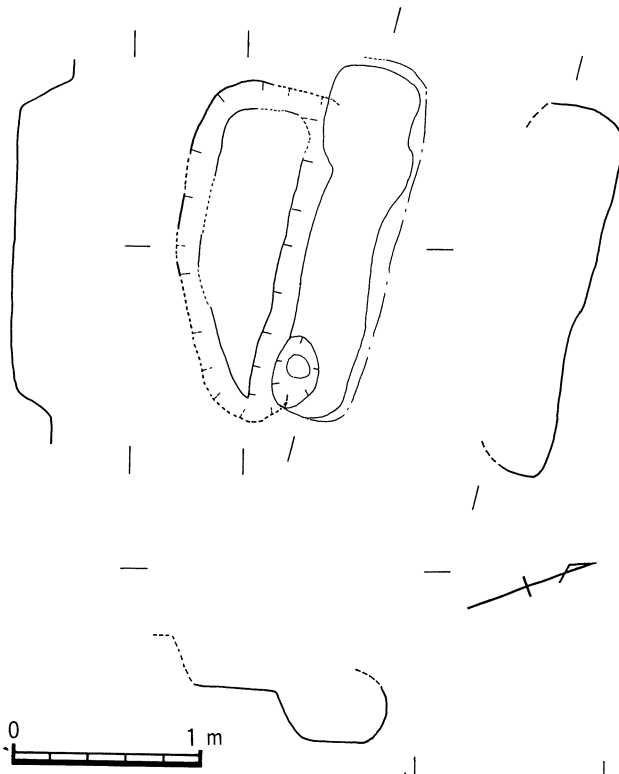
第77图 30号土壤实测图



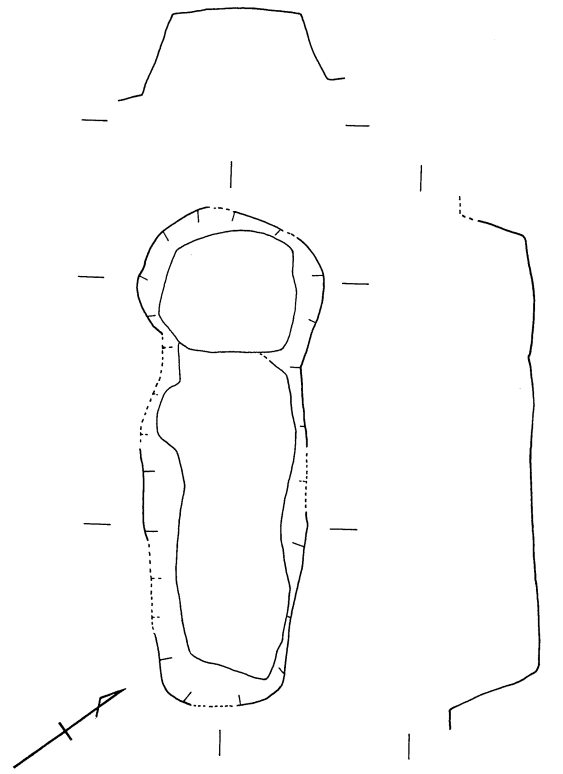
第78图 31号土壤实测图



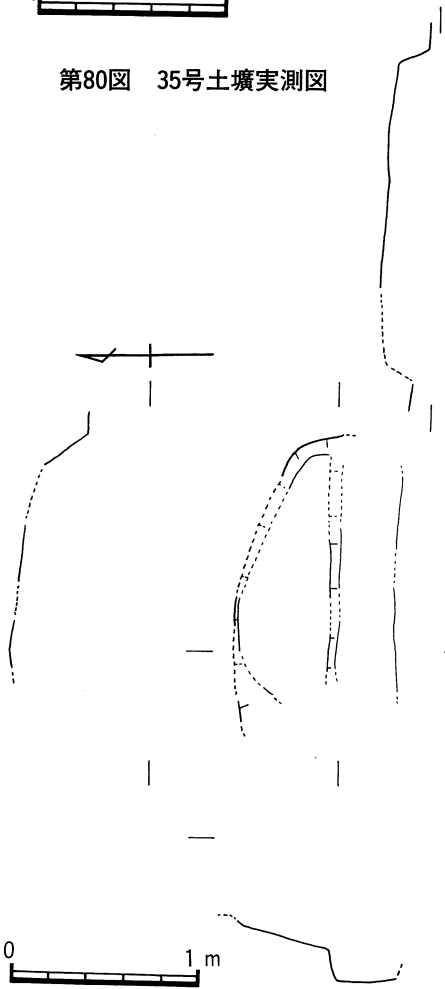
第79图 34号土壤实测图



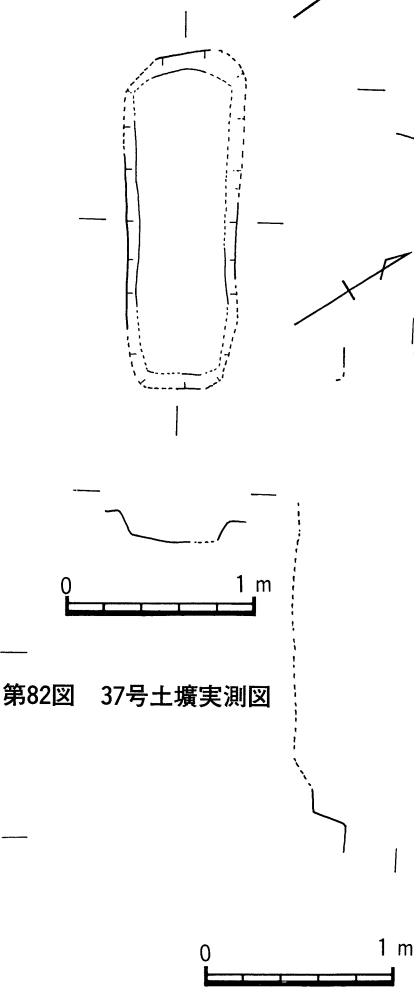
第80图 35号土壤实测图



第81图 36号土壤实测图



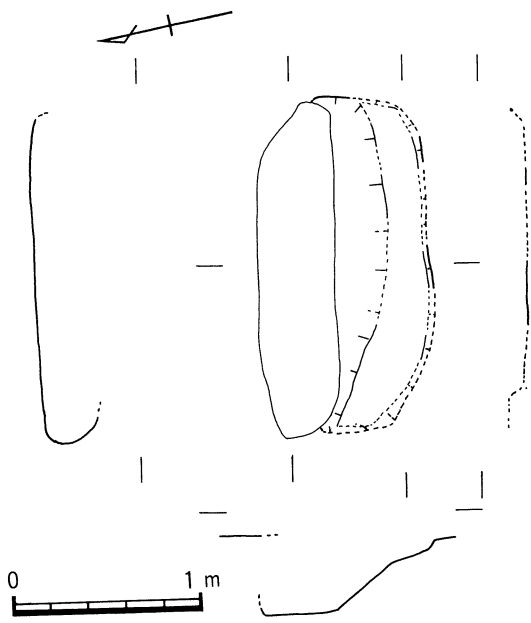
第83图 38号土壤实测图



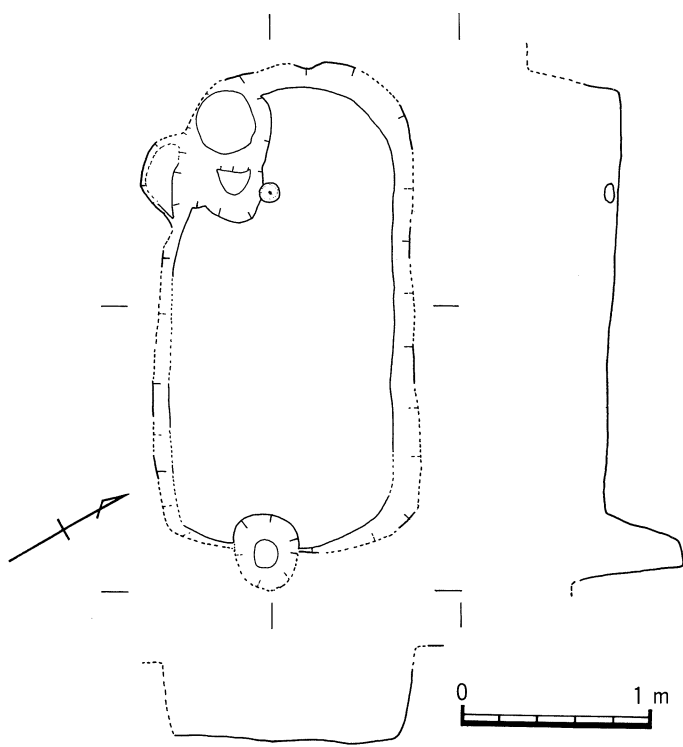
第82图 37号土壤实测图



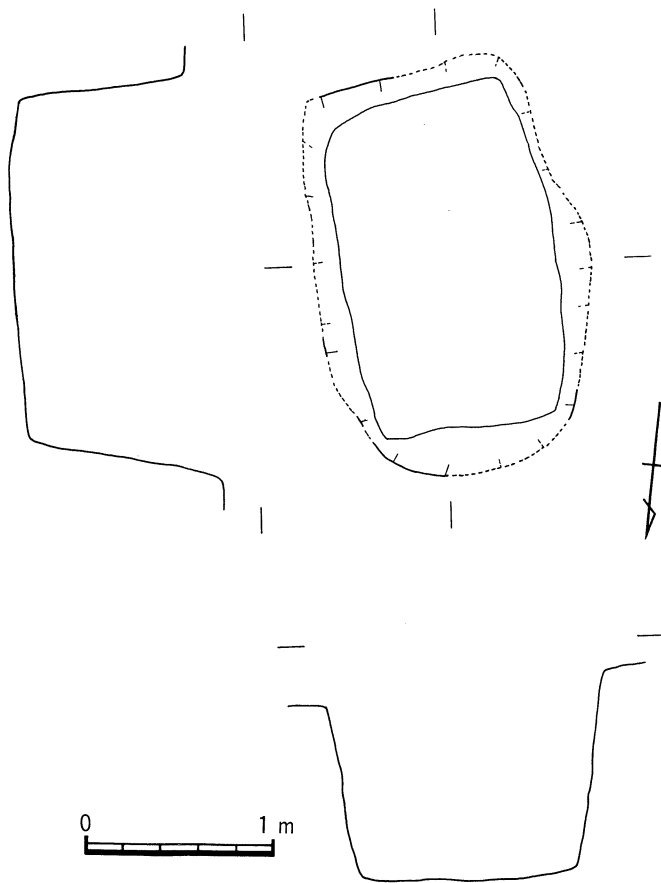
第84图 39号土壤实测图



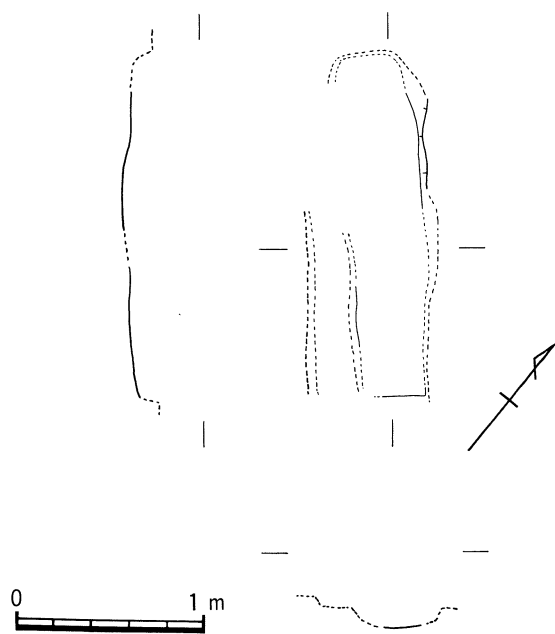
第85图 40号土坑实测图



第86图 41号土坑实测图



第87图 42号土坑实测图



第88图 43号土坑实测图

ら土壌ではなく、貯蔵穴の可能性もある。

遺物は埋土中から弥生土器が少量出土している。

43号土壙（第88図）

両端部がトレンチャーにより破壊されている。墓壙掘り方は隅丸長方形と思われ、規模は主軸長1.85m以上、幅0.5m、深さ10cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は浅い皿状を呈する。土壙でない可能性もある。

古墳周溝

指定39号墳（第89図）

調査区東側に位置する円墳で、全体の3分の1程度は調査区外にかかる。調査は平成9年度に周溝部分3箇所にとレンチを設定して行った。その結果、幅3.7m、深さ70cmの断面U字形の周溝が検出された。周溝の埋土は黒褐色土で、周溝の立ち上がりは墳丘側のほうが傾斜がきつい。推定墳丘径は長径約16m、短径約14mのやや楕円形を呈するものと思われる。周溝は南側で指定40号墳と切り合う。

遺物は出土していない。

指定40号墳（第91図）

指定39号墳の南側に位置する円墳で、全体の2分の1程度は調査区外にかかる。平成9年度にとレンチを2本設定して調査を行い、10年度は周溝の約4分の1を調査した。

推定墳丘径は長径約14m、短径約13m、周溝は幅1.3～2.1m、深さ40～65cmを測る。周溝は北側で指定39号墳、南側では未指定A号墳と切り合う。周溝断面は逆台形を呈し、墳丘側への立ち上がりのほうが傾斜がきつい。また、周溝の立ち上がりから墳丘中心部に向かって、アカホヤ層がなだらかにあがっている。

周溝埋土中より古墳に伴う供献土器と思われる土師器の壺（359）が出土している。

未指定A号墳（第94図）

指定40号墳の南側に位置する円墳で、全体の2分の1程度は調査区外にかかる。推定墳丘径10.5m、周溝幅0.9～1.5m、深さ15～25cmを測る。周溝断面は逆台形を呈し、周溝は北側で指定40号墳、南側では未指定B号墳と切り合う。南側周溝内に2号地下式横穴墓の竪坑が掘られる。

周溝埋土中より土師器壺の口縁部片、弥生土器が出土している。

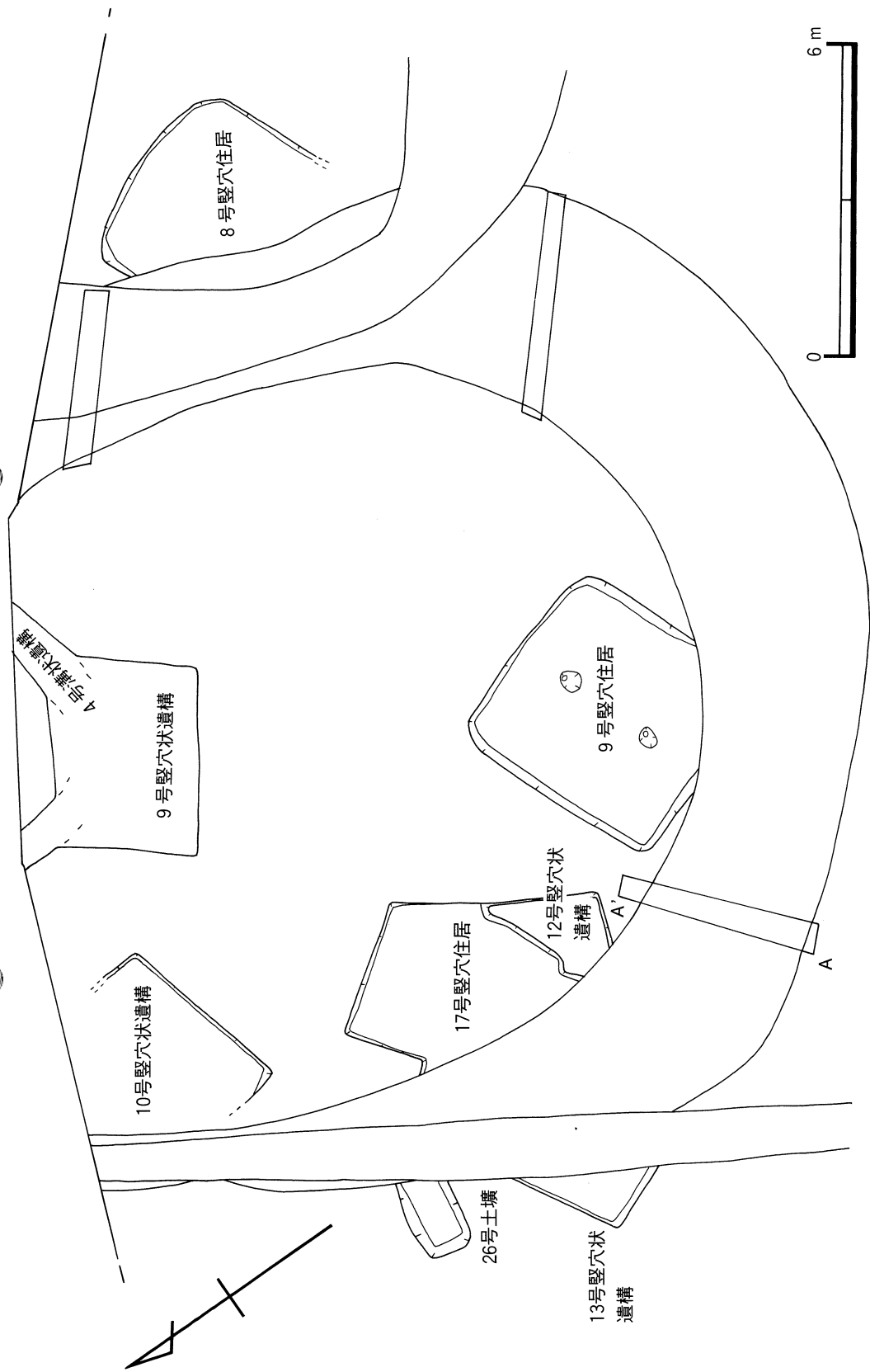
未指定B号墳（第95図）

未指定A号墳の南側に位置する円墳で、全体の2分の1程度は調査区外にかかる。推定墳丘径約9.5m、周溝幅0.9～1.5m、深さ10～25cmを測る。周溝断面は浅い皿状を呈し、周溝は北側で未指定A号墳と、南側で未指定C号墳と切り合う。西側周溝内に3号地下式横穴墓の竪坑が、南側周溝内に4号地下式横穴墓の竪坑が掘られる。

周溝埋土中より土師器、弥生土器が少量出土している。

未指定C号墳（第96図）

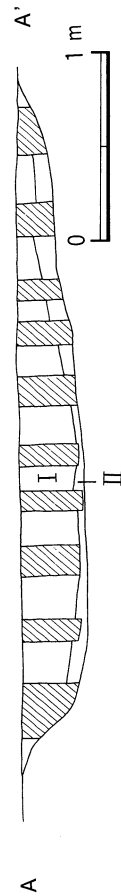
調査区南東隅、未指定B号墳の南側に位置する円墳で、全体の3分の2程度は調査区外にかか



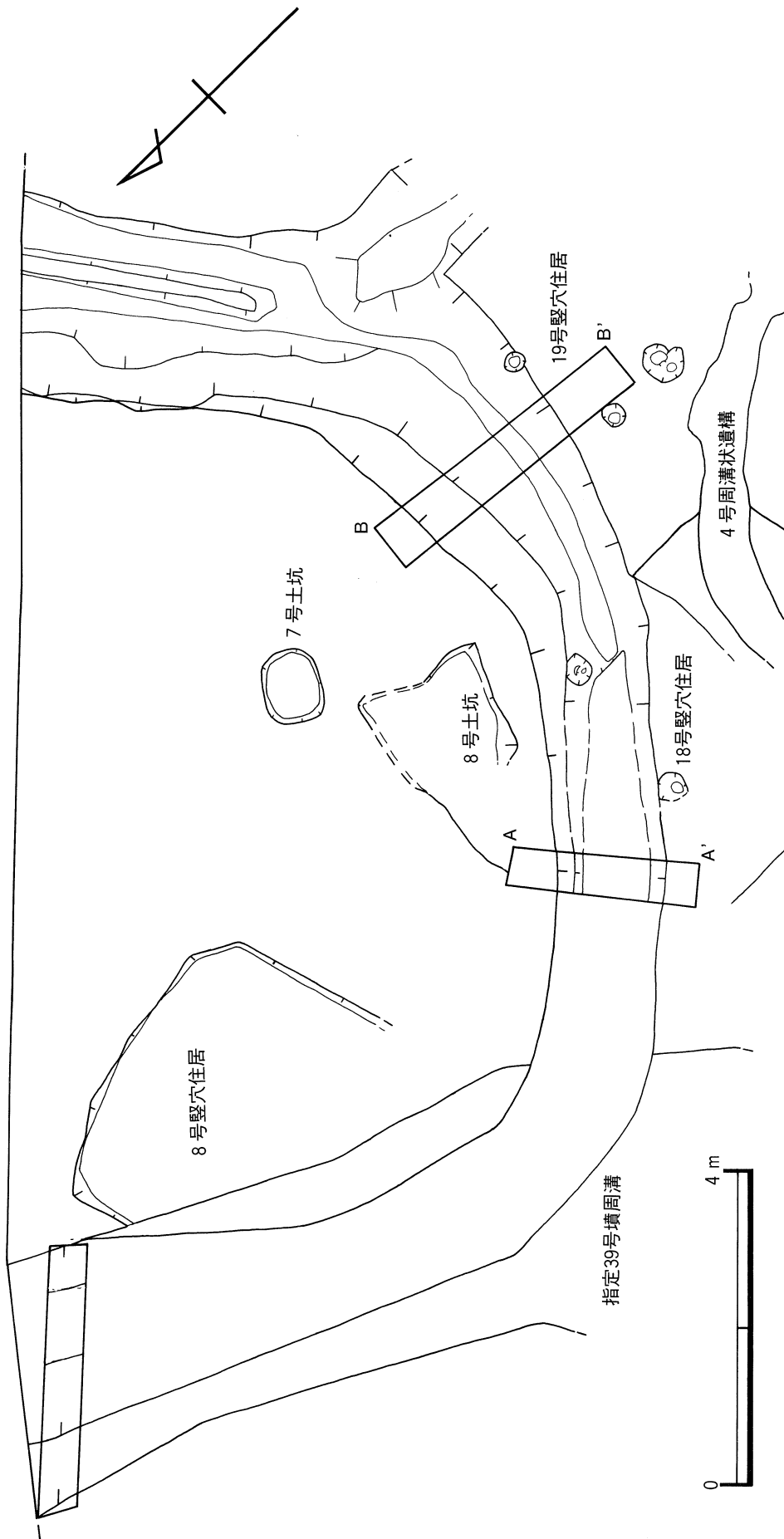
第89図 指定39号墳実測図

3号溝状遺構

- I 暗褐色土
- II 黄褐色土
- トレンチャー

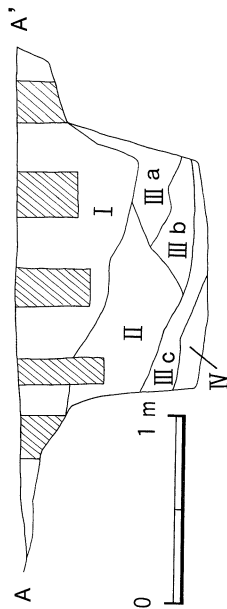


第90図 指定39号墳周溝土層断面図

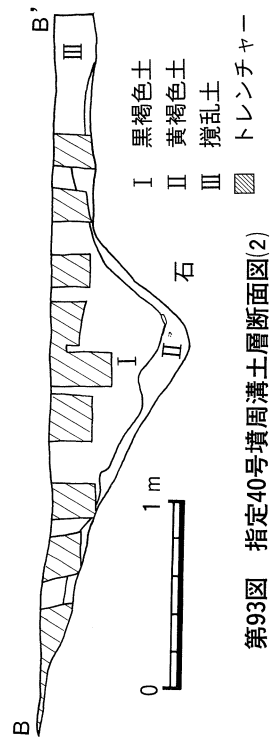


第91図 指定40号墳実測図

- I 黒褐色土 古墳周溝埋土
- II 暗褐色土 暗褐色土にシラスのブロック (1~3cm程度) が入る。
- III a 黄褐色土 黄褐色土にシラスのブロック が入っている。
- III b 黄褐色土 III a層に比べ、暗褐色土の色 が強い。シラスのブロックが入る。
- III c 黄褐色土 詔 CB b層に比べ、黄褐色土 の色が強い。シラスのブロックが入る。
- IV 明黄褐色土 III c層とシラスの漸移層 トレンチャー



第92図 指定40号墳周溝土層断面図(1)



第93図 指定40号墳周溝土層断面図(2)

る。推定墳丘径約17m、周溝幅2.3~2.9m、深さ25~35cmを測る。周溝断面は浅い皿状を呈し、周溝は北側で未指定B号墳と、西側で6号周溝状遺構と切り合う。

地下式横穴墓

1号地下式横穴墓（第97図）

未指定A号墳周溝南側縁辺部より南へ2.5m、未指定B号墳周溝西側縁辺部より西へ4.5mに位置する。竪坑の平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.4m、短軸0.9m、深さ75cmを測る。竪坑から玄室まで底面は平坦で、羨道は幅80cm、長さ25cmを測る。

玄室は平入り楕円形のプランで、幅2.1m、奥行き0.8m、高さは推定で約50cmを測る。竪坑—玄室の主軸は南に屈折して南西—北東方向をとる。玄室内には黒褐色土がつまっており、内部に空間は存在しなかった。中央やや北寄りの奥壁際より骨片が出土している。

2号地下式横穴墓（第98図）

未指定A号墳南側周溝内に竪坑を掘り込み、玄室は墳丘中心に向かって構築されている。竪坑の平面形は不整円形を呈し、二段に掘り込まれている。規模は上面で長径0.85m、短径0.7m、深さ64cmを測る。羨道は竪坑より10cm程高くなり、玄室に向かってなだらかに下降する。幅60cm、長さ25cmを測る。

玄室は平入り楕円形のプランで、幅1.75m、奥行き0.4m、高さ42cmを測る。玄室奥行きは西側で最大値となり、断面形はかまぼこ形を呈する。竪坑—玄室の主軸はほぼ南北方向をとる。玄室内は黒褐色土がつまっており、内部に空間は存在しなかった。また、遺物も出土していない。

3号地下式横穴墓（第100図）

未指定B号墳西側周溝内に竪坑を掘り込み、玄室は墳丘外に向かって構築されている。竪坑の平面形は楕円形を呈し、規模は上面で長径1.8m、短径1m、深さ95cmを測る。底面は竪坑中央付近で段が付き、10cm程下がって羨道に至る。羨道は幅70cm、長さ20cmを測り、玄室では一段高くなり竪坑底とほぼ同レベルになる。

玄室は平入り楕円形のプランで、幅2.1m、奥行き0.9m、高さ85cmを測る。竪坑—玄室の主軸はほぼ東西方向をとる。玄室内は黒褐色土がつまっており、空間は存在しなかった。また、遺物も出土していない。

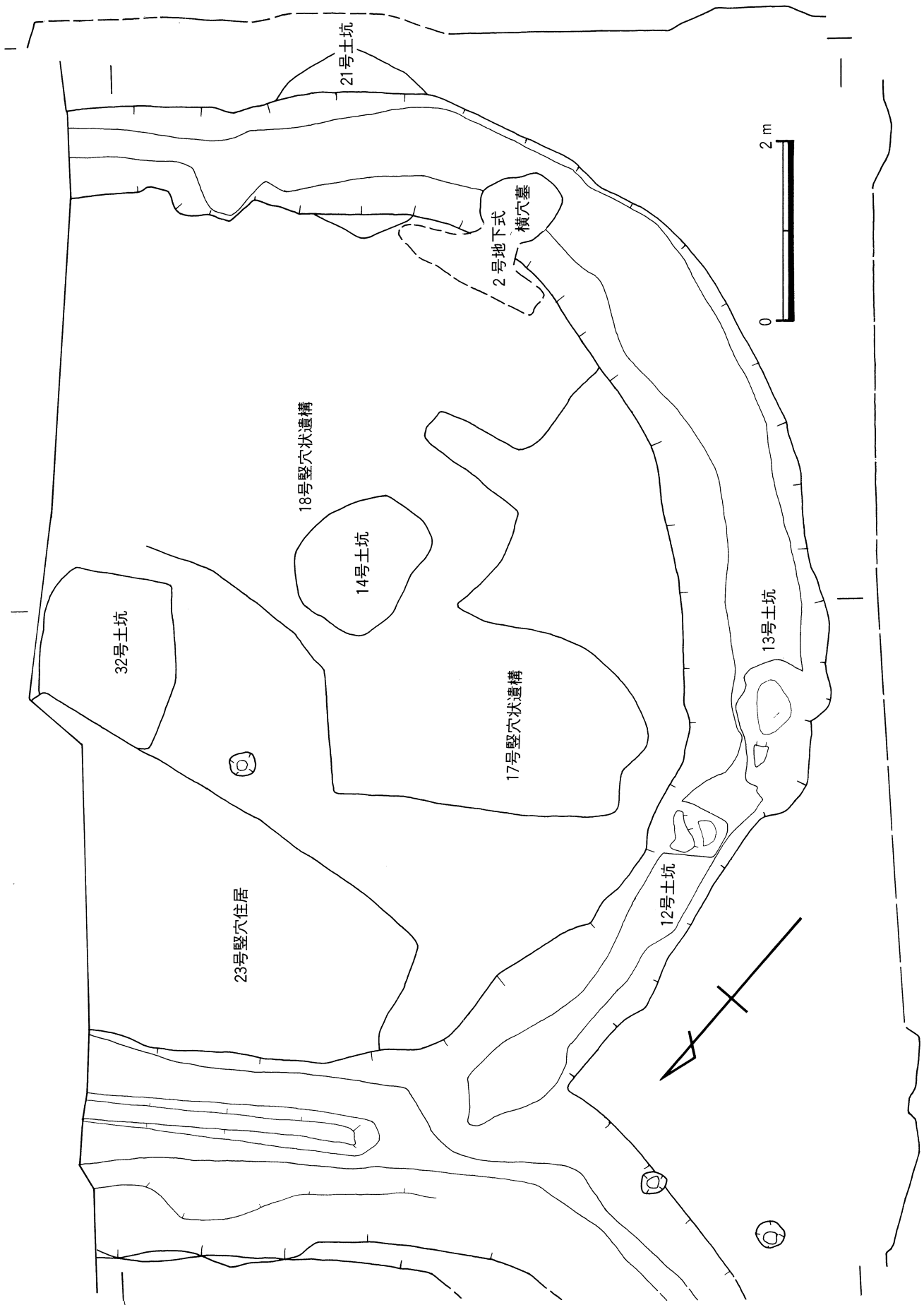
4号地下式横穴墓（第101図）

未指定B号墳南側周溝内に竪坑を掘り込み、玄室は墳丘中心に向かって構築されている。竪坑は大きく、平面形は隅丸方形を呈し、規模は上面で長軸2.3m、短軸1.2m、深さ95cmを測る。底面は竪坑中央付近から玄室に向かってなだらかに下降する。羨道は幅65cm、長さ30cmを測る。

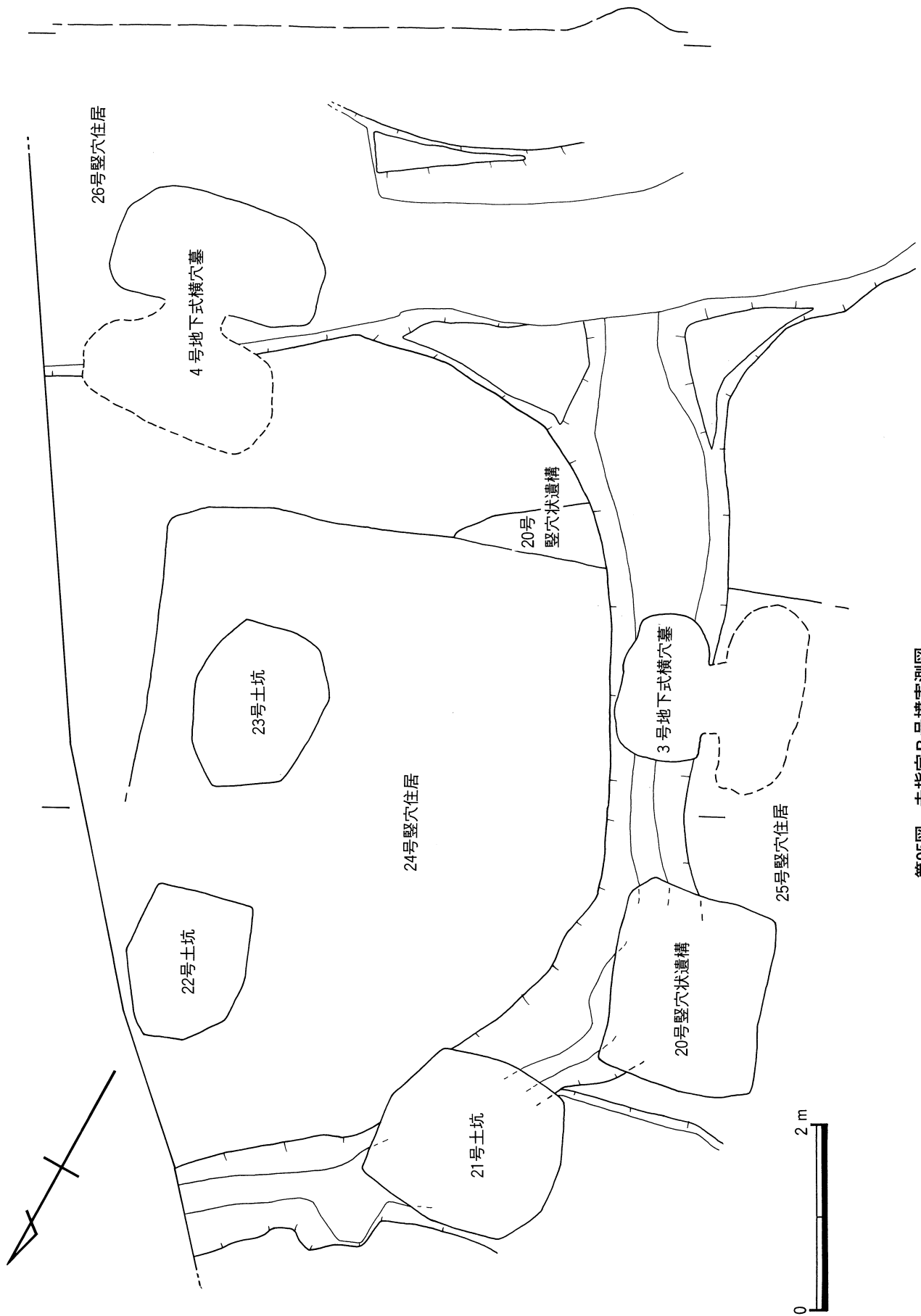
玄室は平入り方形のプランと思われるが、右袖部に比べ、左袖部は不明瞭で、なだらかに広がる。規模は幅1.95m、奥行き1.2m、高さは推定で70cmを測る。竪坑—玄室の主軸は東側に屈折して南北方向をとる。玄室は天井が崩落して埋没した状態で検出され、玄室北東隅奥壁際で微量の赤色顔料が検出され、東側壁羨道寄り壁際から鉄鏃が出土している。

5号地下式横穴墓（第99図）

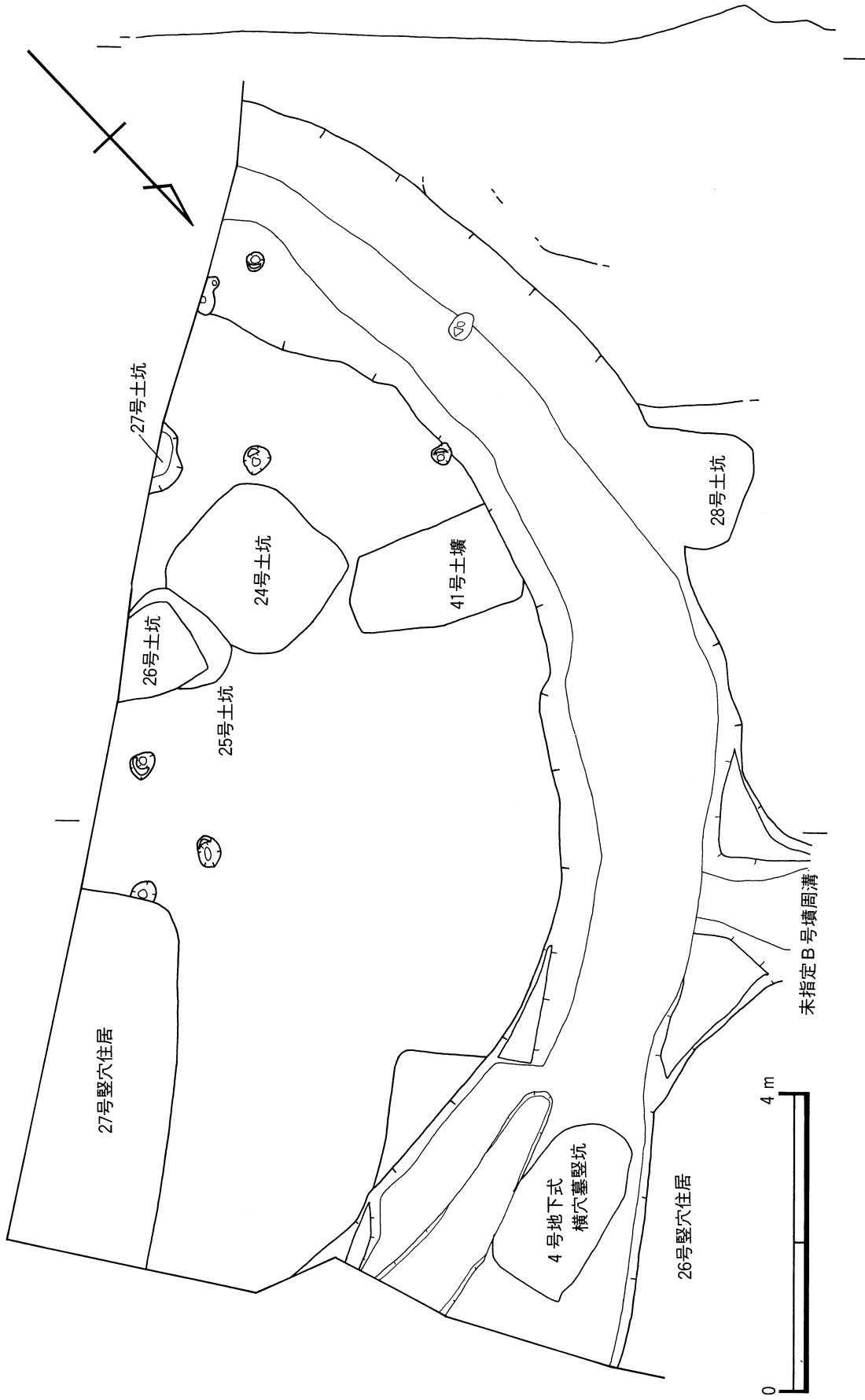
6号周溝状遺構周溝内に竪坑を掘り込んでおり、玄室は周溝状遺構の中心に向かって構築され



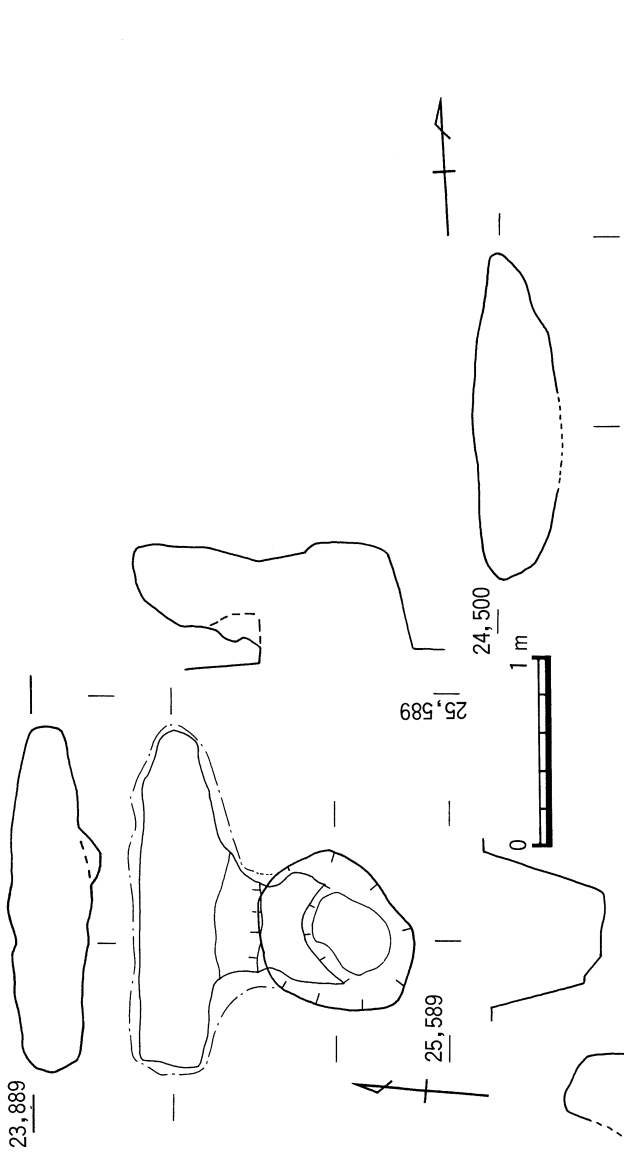
第94図 未指定A号墳夷測図



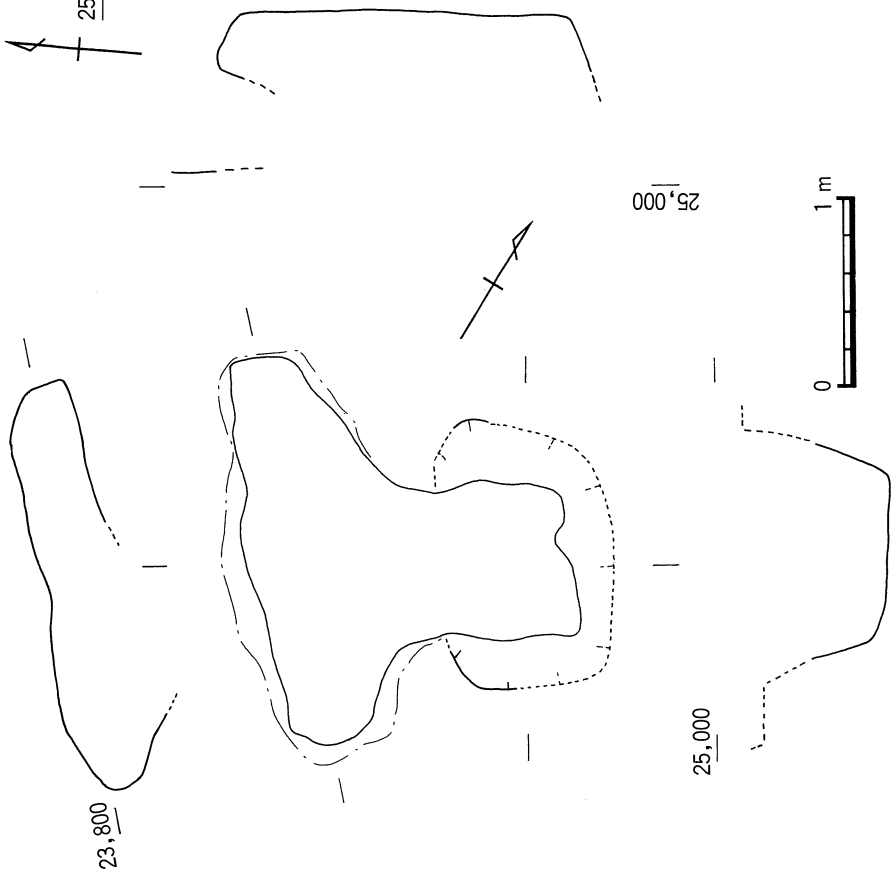
第95図 未指定B号墳実測図



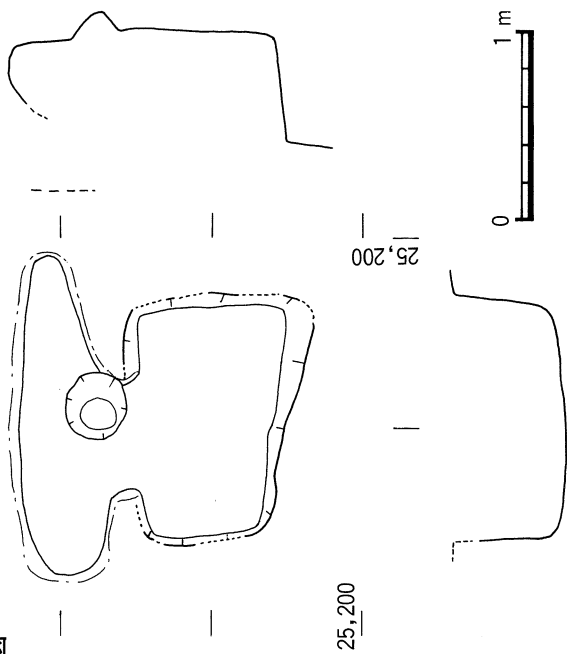
第96图 未指定C号墳实测图



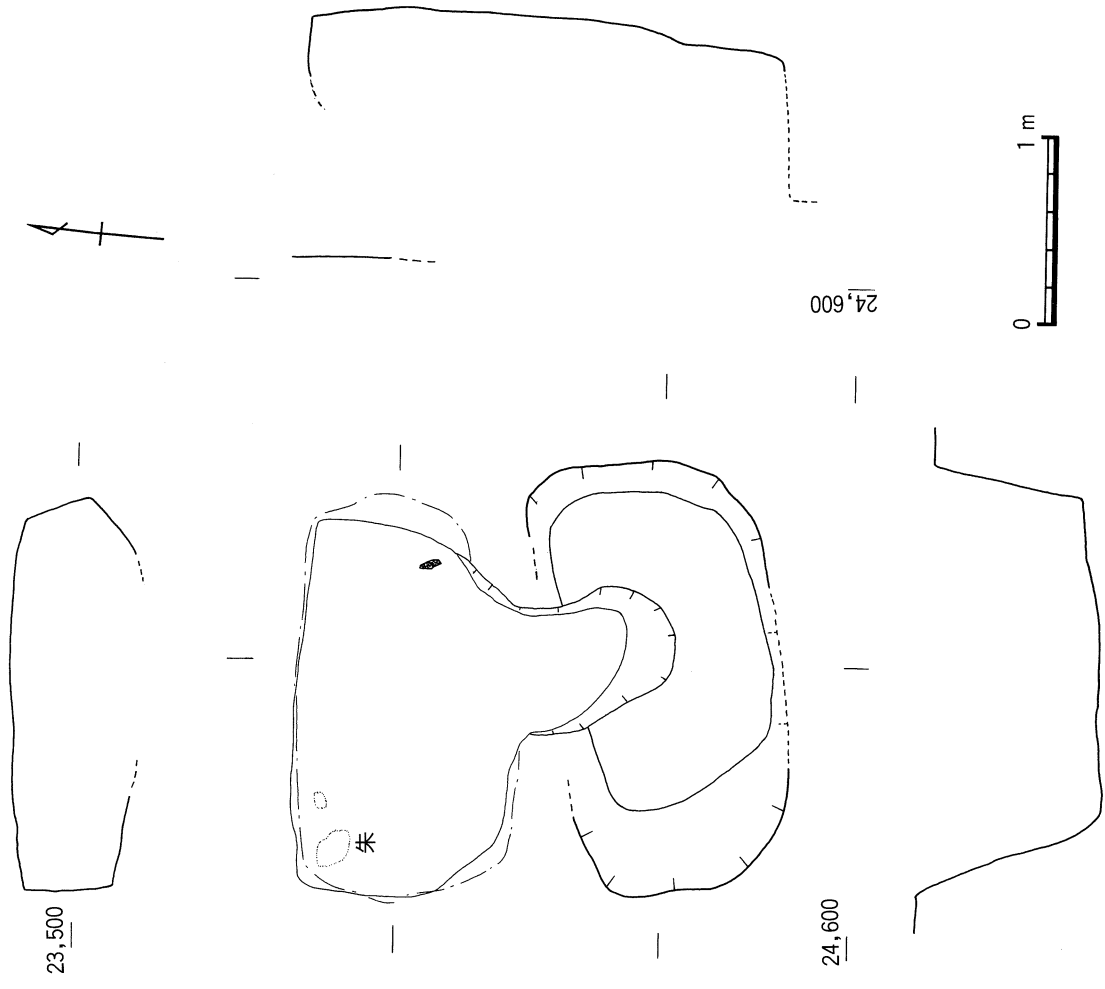
第98图 2号地下式横穴墓夷测图



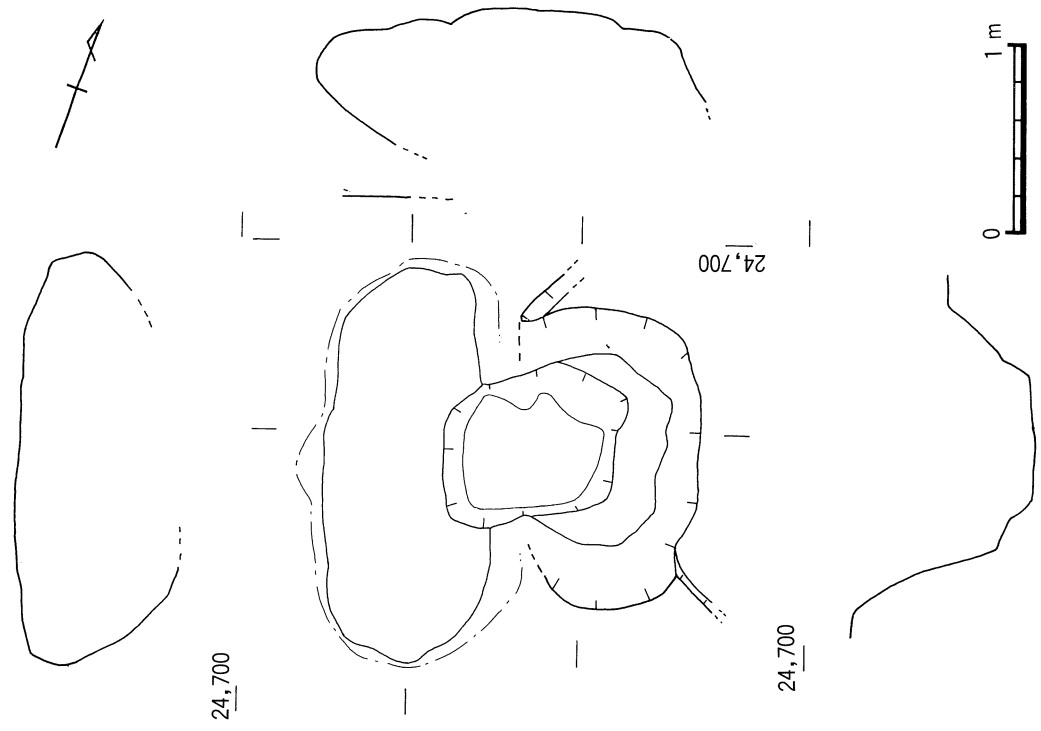
第97图 1号地下式横穴墓夷测图



第99图 5号地下式横穴墓夷测图



第101图 4号地下式横穴墓实测图



第100图 3号地下式横穴墓实测图

ている。竪坑の平面形は台形を呈し、規模は上面で長軸1.35m、短軸0.95m、深さ55cmを測る。羨道は短く、幅60cm、長さ15cmを測る。

玄室は平入り楕円形のプランで、幅1.72m、奥行き0.45m、高さは推定で45cmを測る。玄室奥行きは南側で最大値となり、竪坑—玄室の主軸はほぼ東西方向をとる。玄室内は黒褐色土がつまっており、空間は存在しなかった。遺物は出土していない。

2. 遺物について

19号竪穴住居出土遺物 (第102図)

223～225は壺である。共に丸く張った胴部を持ち、223は僅かに上げ底、224は上げ底を呈する。223は線刻を施す。

226は敲石で、中央に僅かに敲打痕を残す。石材は砂岩で、最大長19.7cm、最大幅10.0cm、最大厚8.6cm、重さ2,060gを測る。

20号竪穴住居出土遺物 (第102図)

227は甕の口縁部で、「く」の字に緩く外反する。

22号竪穴住居出土遺物 (第102図)

228は壺の口縁部である。

23号竪穴住居出土遺物 (第102図)

229・230は壺で、共に丸く張った胴部を持ち、229は安定した平底を呈する。

24号竪穴住居出土遺物 (第102図)

231は甕で、僅かに上げ底を呈する。

232・233は壺で、232は丸く張った胴部を持ち、口縁部は短く外反する。233は小ぶりの壺で丸く張った胴部を持ち、凸レンズ状の平底を呈する。

234はミニチュアの鉢で安定した平底を呈し、直線的に立上がる。内外面にミガキを施す。

25号竪穴住居出土遺物 (第103図)

235～239は甕である。235～238は口縁部で、235～237は口縁部が「く」の字に緩く外反する。238は口縁部が僅かに外反し、口縁部下に刻目の三角突帯を巡らす。239は底部で僅かに上げ底を呈する。

240～245は壺である。240・241は口縁部で240は肩部から直線的に外反する。241は複合口縁壺の口縁部で上半部外面は波状文を施さずに、ヨコナデをする。242～245は底部で242は平底、243は上げ底、244・245は凸レンズ状の平底を呈する。

246は鉢で、口縁部が短く外反する。

247は高杯の口縁部で一段の稜を持って口縁部が外反する。

248～250は器台である。248は口縁部で端部が楕円形に肥厚する。249・250は脚部で、249は端部が肥厚し、沈線を施し、器壁外面に暗文を縦方向に施す。

251・252はミニチュア土器で、251はミニチュアの壺で安定した平底を呈する。252は器種不明

である。

253は敲石で表面に僅かに敲打痕が見られる。石材は安山岩で、最大径13cm、最大厚5.7cmを測る。

254は台石である。最大長38.3cm、最大幅18.0cm、最大厚5.3cm、重さ5,980gを測る。

26号竪穴住居出土遺物（第104図）

255は甕の底部で、上げ底を呈する。

256・257は壺である。256は口縁部が外反し、下方に垂れた窪みのある台形突帯を施す。257は胴部が丸みを帯び、線刻を施す。

258は磨石で表面に擦痕が僅かに見られる。石材は安山岩で、最大長10.5cm、最大幅8.6cm、最大厚5.8cm、重さ750gを測る。

27号竪穴住居出土遺物（第104図）

259は甕の底部で平底を呈する。

260～262は壺である。260は丸みを帯びる胴部を持ち、口縁部は肩部から外反し、端部が肥厚する。261は口縁部である。262は凸レンズ状の平底を呈する。

263は穿孔を有する石包丁で、3分の2を欠損する。石材は頁岩である。

264は深鉢で内外面に縦横方向に条痕を施している。縄文時代早期の「桑ノ丸式土器」である。

28号竪穴住居出土遺物（第104図）

265・266は甕で265は口縁部に窪みのある台形突帯を施す。266は口縁部下に5本1単位の刻みのある三角突帯を施す。

29号竪穴住居出土遺物（第104図）

267～271は甕の口縁部で、267・268は口縁部に窪みのある台形突帯を施す。269は口縁部突帯のみの残存で縦方向に刻みが入る。270・271は口縁部下に三角突帯を施し、270は刻目が入る。

30号竪穴住居出土遺物（第104図）

272は甕で、口縁部が「く」の字に外反する。最大径は口縁部にある。

273は高杯の脚部で裾部が大きく「ハ」の字に開き、端部が肥厚する。

274は穿孔を有する石包丁で、3分の2を欠損する。石材は頁岩である。275は砥石で、表裏面に鋭利なものを研いだと考えられる深い溝が2条ずつ残る。石材は砂岩で最大長7.8cm、最大幅6.0cm、最大厚4.3cm、重さ315gを測る。

31号竪穴住居出土遺物（第105図）

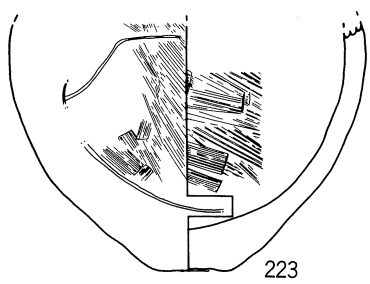
276は甕の口縁部で「く」の字に外反し、端部が僅かに肥厚する。

277は石包丁の未製品で擦痕が表裏面に多量に見られる。石材は頁岩で最大長10.3cm、最大幅5.6cm、最大厚1.0cm、重さ79.7gを測る。

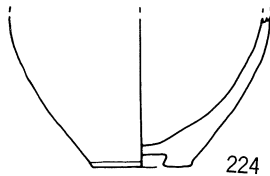
32号竪穴住居出土遺物（第105図）

278・279は甕で278は口縁部が「く」の字に外反し、最大径は口縁部にある。279は口縁部で、「く」の字に緩く外反する。

280は壺で、凸レンズ状の平底を呈し、長胴だが胴部中央で「く」の字に張り、口縁部は短く



223



224



225



226

19号竖穴住居



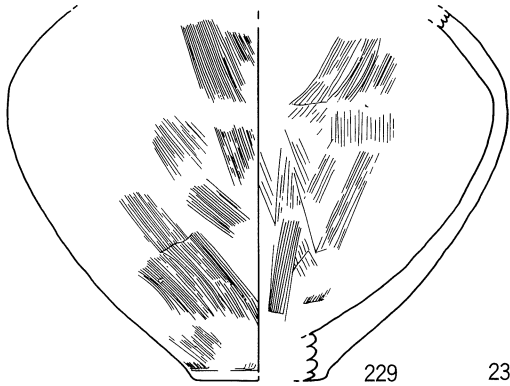
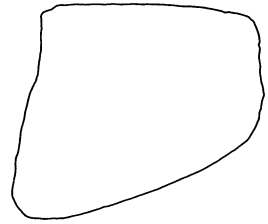
227



228

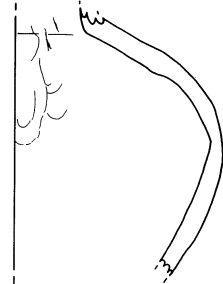
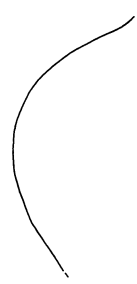
20号竖穴住居

22号竖穴住居

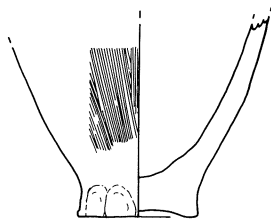


229

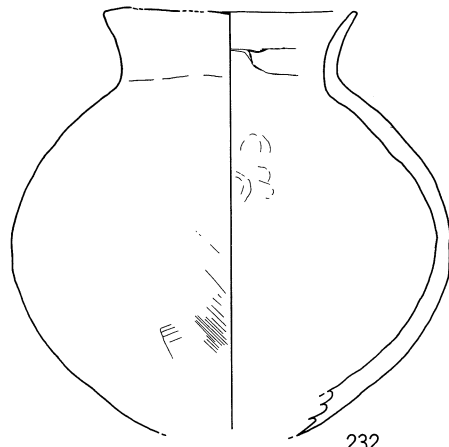
23号竖穴住居



230

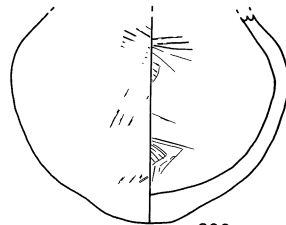


231

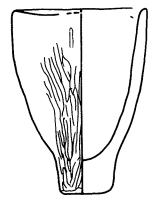


232

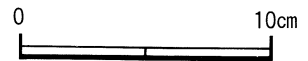
24号竖穴住居



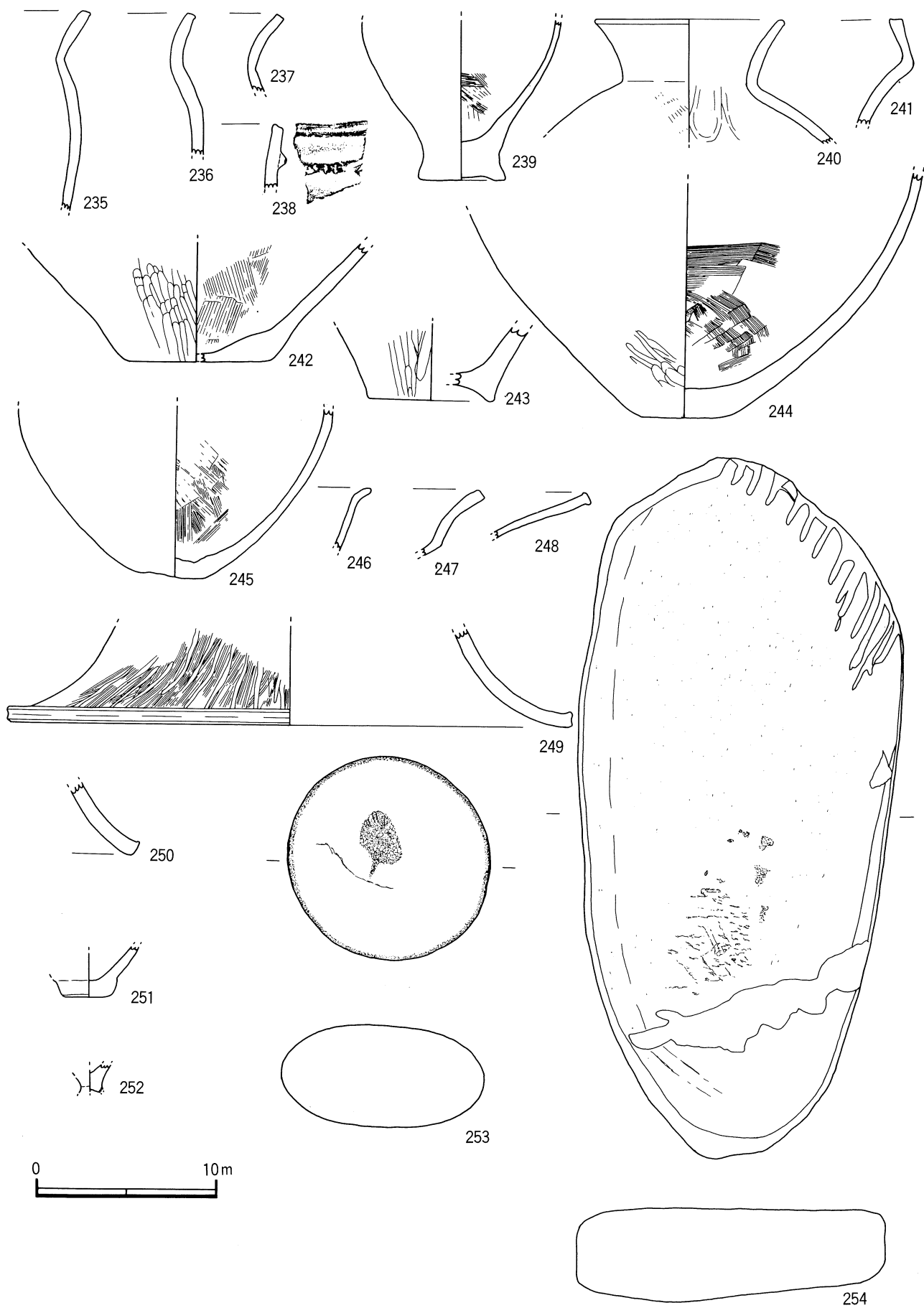
233



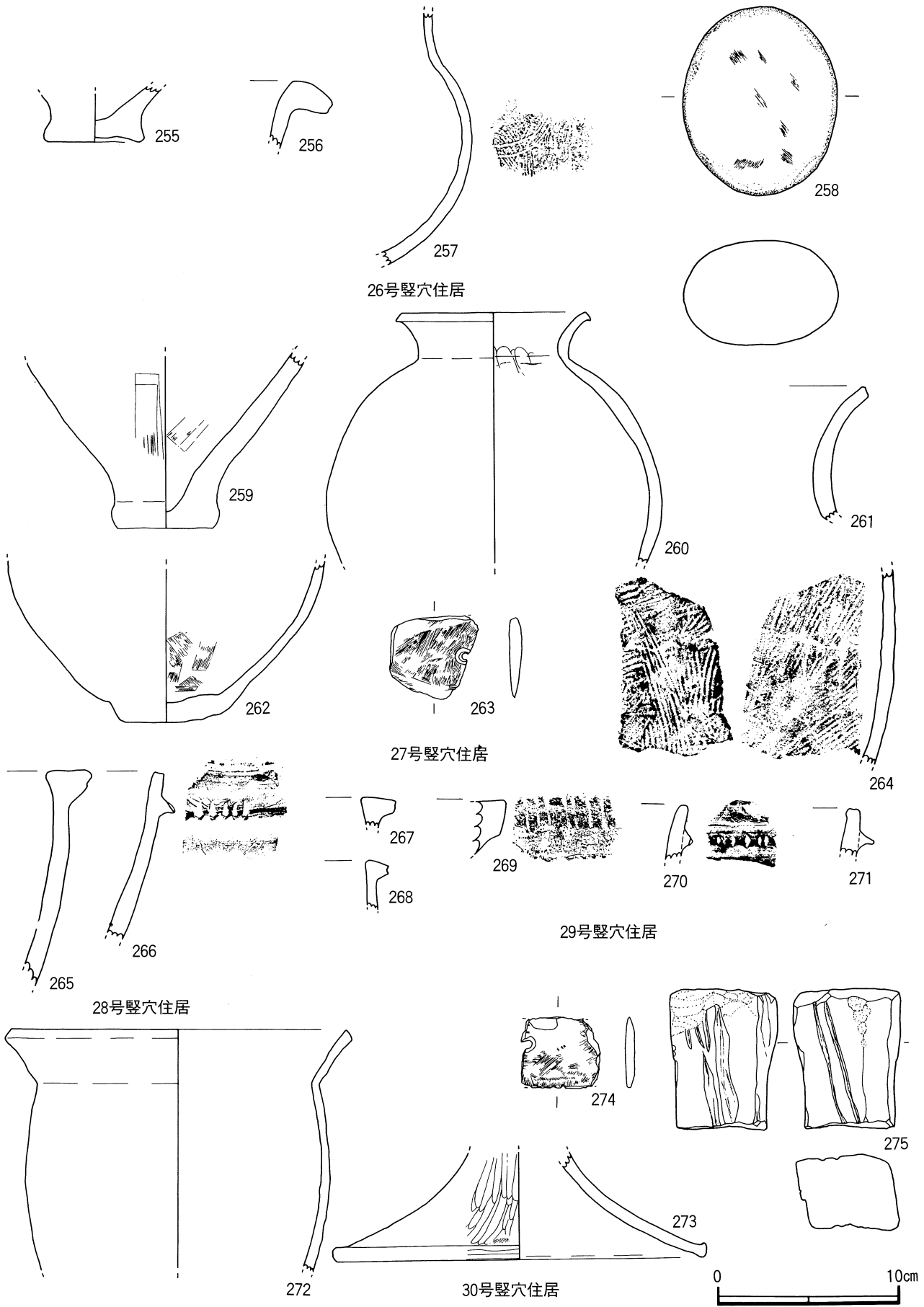
234



第102图 19·20·22~24号竖穴住居出土遺物実測図



第103图 25号竖穴住居出土遺物実測図



第104图 26~30号豎穴住居出土遺物実測図

外反する。

281は鉢で、口縁部は外反せず、端部で面を造る。

282は高杯の脚裾部で、端部が上方に肥厚する。

283はミニチュアの鉢で上げ底を呈する。

284は砥石で全体に擦痕を残す。石材は頁岩で、最大長5.3cm、最大幅2.7cm、最大厚0.7cm、重さ15.7gを測る。

33号竪穴住居出土遺物（第105図）

285・286は甕である。285は口縁部で、「く」の字に外反する。286は僅かに上げ底を呈する。

287・288は高杯である。287は杯部で一段の稜を持ったのち、口縁部が大きく外反する。288は脚部で外面にミガキを施す。

289は深鉢で縄文時代早期後葉の「塞ノ神式土器」の口縁部で、端部に連続刺突文、以下に幾何学状の沈線文を施す。

34号竪穴住居出土遺物（第105図）

290は甕で、口縁部が「く」の字に緩く外反する。

291は鉢で、平底を呈し、内外面にミガキを施す。

292・293は高杯である。292は杯部で一段の稜を持ったのち、口縁部が大きく外反する。293は脚部で裾部が屈曲して開く。

15号竪穴状遺構出土遺物（第105図）

294は甕の底部で僅かに上げ底を呈する。

295は複合口縁壺の口縁部で上半が内傾し、端部を摘み上げる。波状文を施す。

296は敲石で、表面に敲打痕が残る。石材は砂岩で、最大長14.4cm、最大幅11.3cm、最大厚7.4cm、重さ1,840gを測る。

19号竪穴状遺構出土遺物（第106図）

297は複合口縁壺の口縁上半部で波状文を施す。

298は砥石で、僅かに擦痕を残す。最大長10.4cm、最大幅7.5cm、最大厚2.2cm、重さ280gを測る。

20号竪穴状遺構出土遺物（第106図）

299～301は甕である。299は胴部から口縁部にかけて直口し、口縁部に窪みのある台形突帯を施し、胴部に4条の三角突帯を施す。

302は壺で、肩部と頸部の境に薄手の三角突帯を施す。

9号土坑出土遺物（第106図）

303は甕で、上げ底を呈する。

304～307は壺である。304は口縁部が短い頸部から外反する。305は複合口縁壺の口縁部で上半部が内傾し波状文を施す。端部は欠損する。306は肩部から胴部にかけてで、丹塗りの壺で2条の平行沈線文の上下に鋸歯文を施す。307は壺の底部で、平底を呈する。

12号土坑出土遺物（第106図）

308は甕の口縁部で、「く」の字に強く外反する。

309は壺の口縁部である。

14号土坑出土遺物 (第106図)

310は壺の口縁部である。

18号土坑出土遺物 (第106図)

311は高杯の杯部で一段の稜を持ったのち、口縁部が外方向に大きく外反する。

19号土坑出土遺物 (第106図)

312はミニチュアの壺で、肩部から頸部にかけて平行沈線文を施し、その下に縦方向に収束しない重弧文を施す。

20号土坑出土遺物 (第106・107図)

313・314は甕である。313は平底を呈し、口縁部は「く」の字に外反する。最大径は口縁部にある。314は弧を描いて外反したのち、端部が内湾する。

315～318は壺である。315は壺の口縁部で、外反したのち、端部と口縁部下に刻目突帯を施す。316は口縁部が肩部から短く外反する。318は口縁部が外反したのち大きく内湾する。

319は高杯の脚部で、裾近くに現存で4個の透しを持つ。

320・321は、器台の口縁部で、共に端部が肥厚し、321はそれが著しく、格子目状に沈線を施す。

322はミニチュアの甕で上げ底を呈する。

21号土坑出土遺物 (第107図)

323は壺で平底を呈し、丸く張った胴部を持つ。

324は、高杯で一段の稜を持って外反する。

325は石包丁の未製品で、表面の一部に擦痕が見られる。最大長9.0cm、最大幅5.1cm、最大厚0.8cm、重さ50.5gを測る。

326は不明鉄器で、断面は円形になる。最大長5.9cm、最大幅7.0cm、最大厚5.0cm、重さ2.73gを測る。

22号土坑出土遺物 (第107図)

327は甕の口縁部で、口縁部が「く」の字に外反し、内面は口縁部がヨコナデ、外面はハケ後、屈曲部分以下までヨコナデを施す。胴部器壁がやや薄手である。

328は複合口縁壺の口縁部で、口縁部中央に沈線を施す。上半は著しく内傾し、波状文を施す。

329は穿孔を持つ石包丁で、3分の2を欠損する。石材は頁岩である。

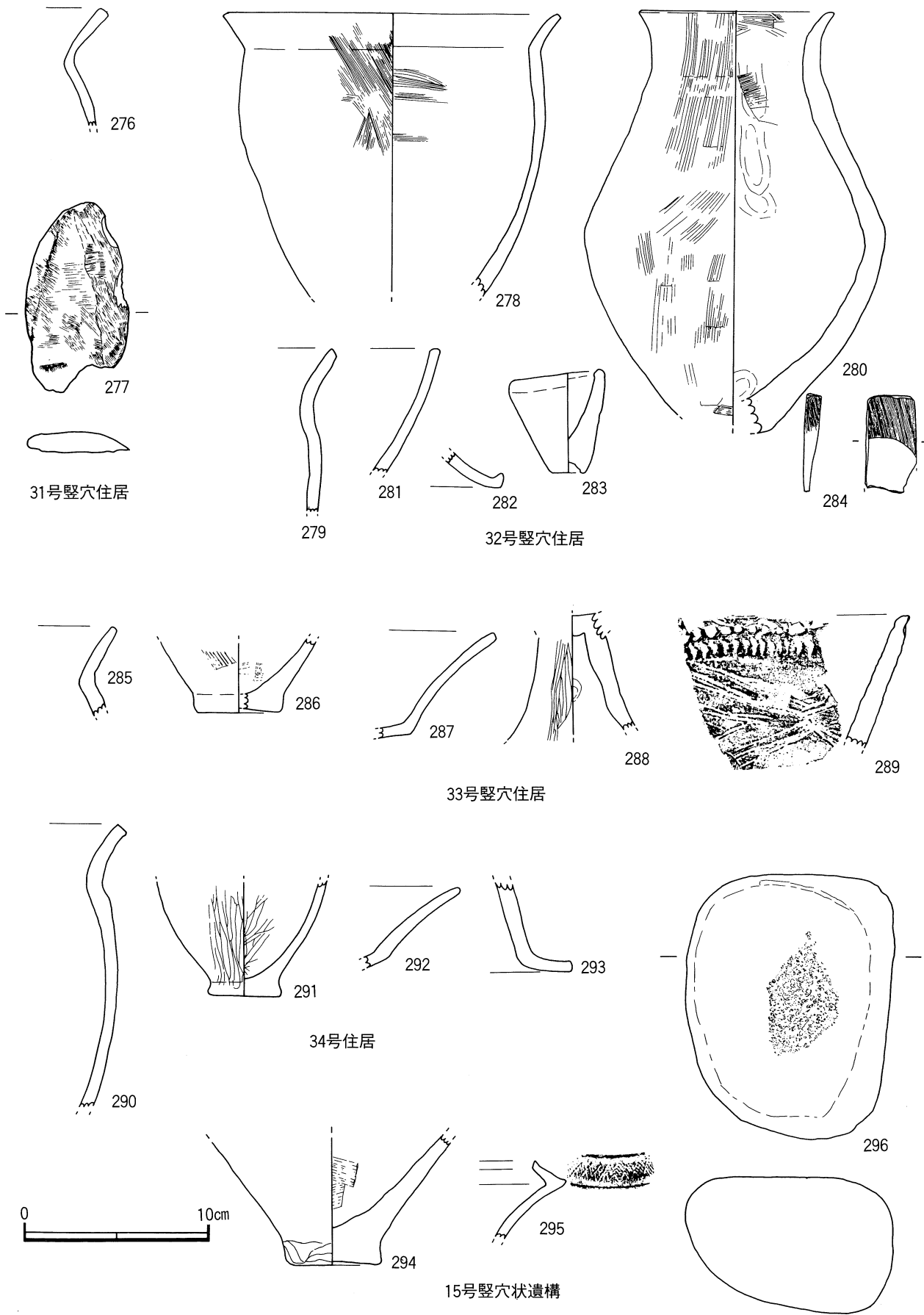
330は砥石で両面に擦痕が見られる。石材は頁岩で、最大長5.9cm、最大幅2.9cm、重さ12.0gを測る。

23号土坑出土遺物 (第107図)

331は器台の脚部である。

332はミニチュアの鉢で安定した平底を呈する。

333～335は石包丁の未製品で、共に擦痕が多く見られるが、刃部、挟入、穿孔は確認できない。石材は頁岩である。333は最大長9.0cm、最大幅5.9cm、最大厚1.3cm、重さ84.8gを測る。334は



第105图 31~34号竖穴住居、15号竖穴状遺構出土遺物実測図

最大長10.6cm、最大幅4.9cm、最大厚1.1cm、重さ113.0gを測る。335は最大長10.5cm、最大幅5.7cm、最大厚1.1cm、重さ102.5gを測る。

24号土坑出土遺物（第107図）

336・337は甕である。336は底部で上げ底を呈する。

25号土坑出土遺物（第107図）

338は甕の底部である。

339は高杯の脚部である。

26号土坑出土遺物（第108図）

340・341は甕である。340は口縁部の外反が著しく弱い。341は口縁部の「く」の字外反部分よりやや下で刻目の三角突帯を施す。

342・343は壺である。342は口縁部で、343は凸レンズ状の平底を呈する。

344はミニチュアの高杯の脚部である。

28号土坑出土遺物（第108図）

345は小ぶりの甕の底部で、平底を呈する。

30号土坑出土遺物（第108図）

346は複合口縁壺の口縁部で上半が内傾し、波状文を施す。

32号土坑出土遺物（第108図）

347は甕の口縁部に窪みを持つ台形突帯である。

348・349は壺である。348は突起状になる底部で、蓋の摘み部分の可能性もある。349は平底を呈する。

350は高杯の口縁部で端部が肥厚する。

351は砥石で表面に擦痕が多く見られる。石材は頁岩で、最大長8.2cm、最大幅4.5cm、最大厚7.0cm、重さ50.0gを測る。

5号周溝状遺構出土遺物（第108図）

352は不明鉄器で、鉋の刃部様の断面を呈するが、厚手である。

6号周溝状遺構出土遺物（第108図）

353・354は壺である。353は複合口縁壺の口縁部下半である。354は肩部から胴部にかけてである。

6号ピット出土遺物（第108図）

355は穿孔を有する石包丁で、両側を欠損する。石材は頁岩である。

31号土坑出土遺物（第108図）

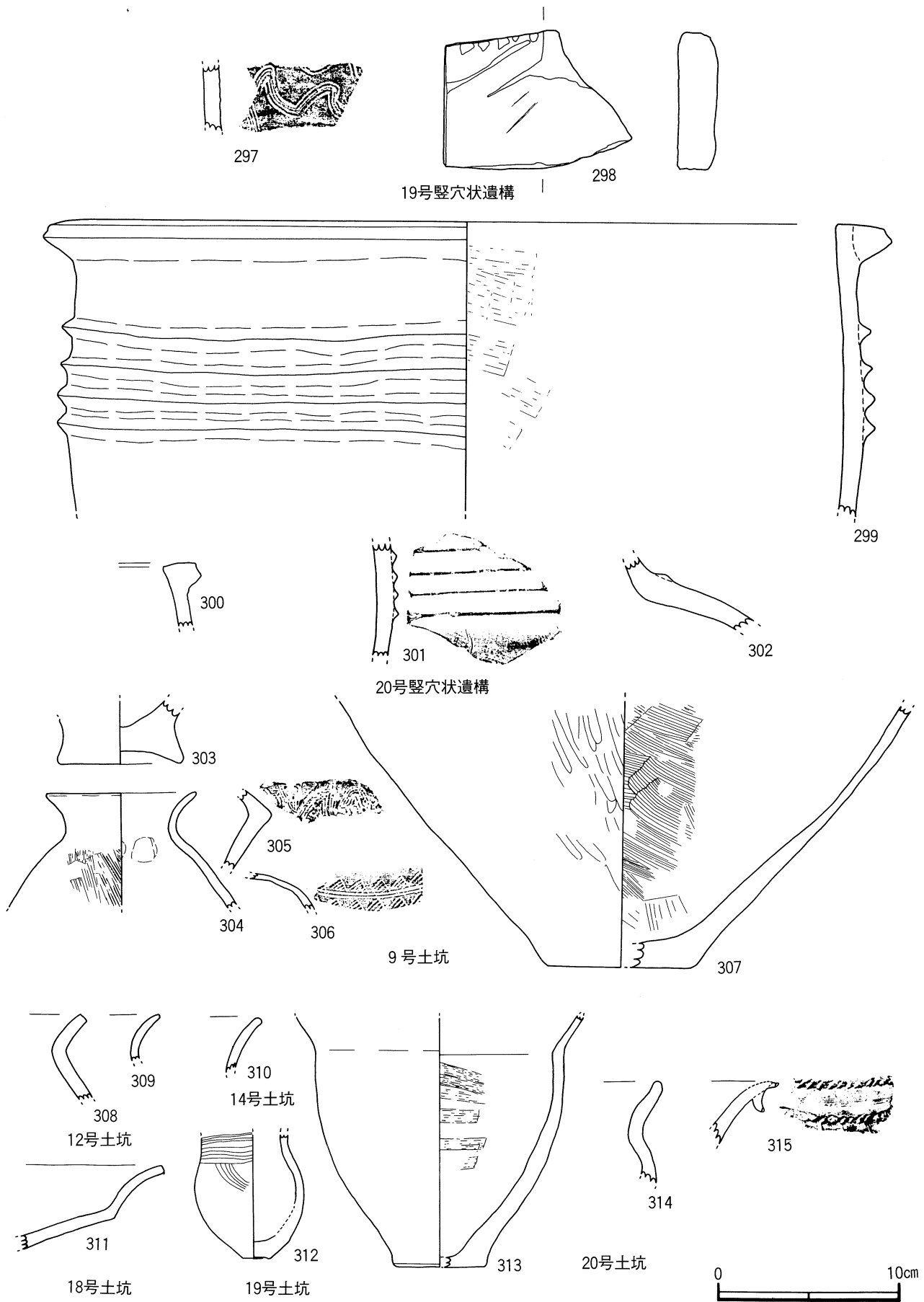
356は不明鉄器である。最大長5.0cm、最大幅2.2cm、最大厚0.3cm、重さ6.7gを測る。

41号土坑出土遺物（第108図）

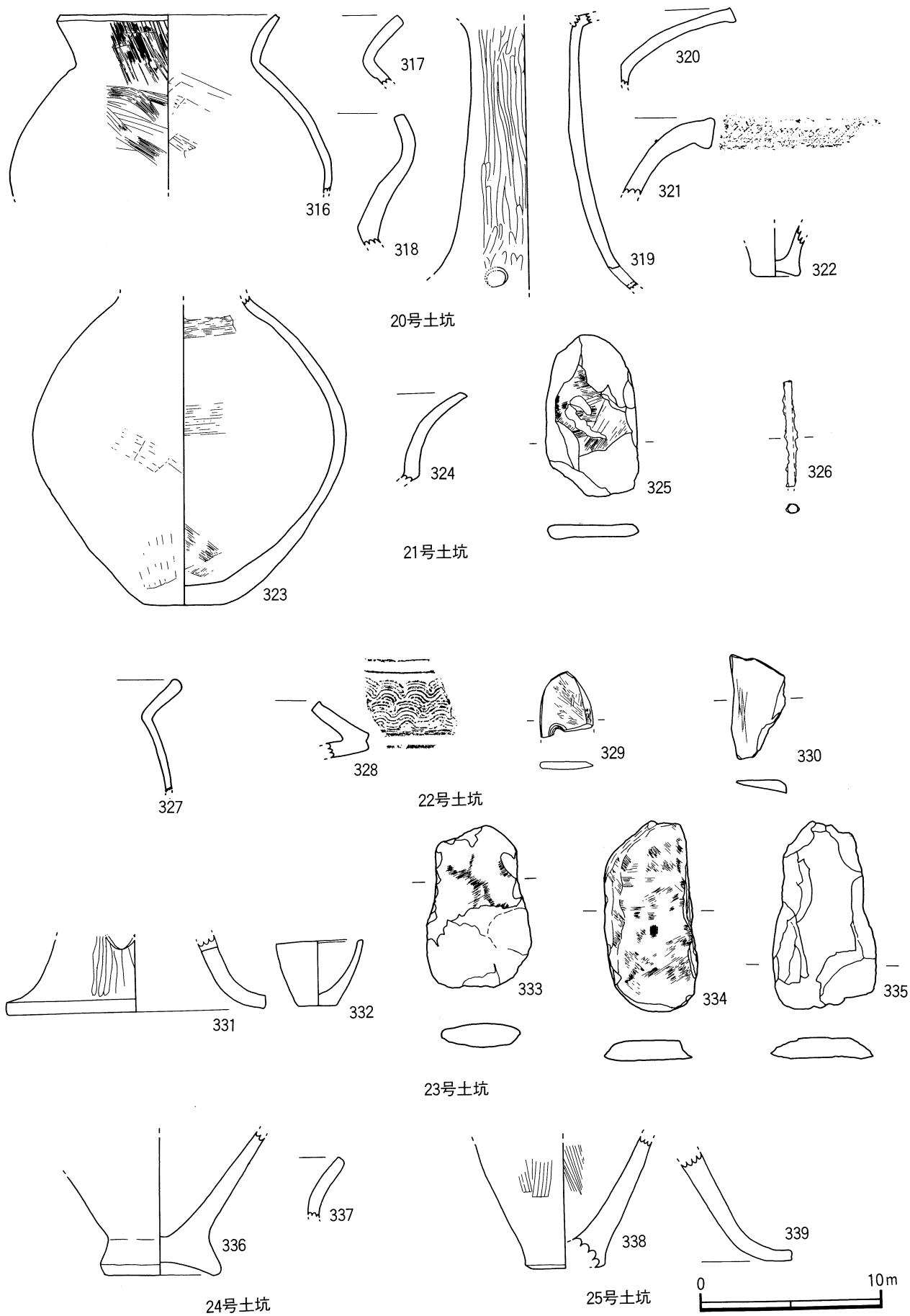
357は磨石で、表面に敲打痕が見られるため敲石も兼ねたと考えられる。

42号土坑出土遺物（第108図）

358は甕の口縁部で、口縁部が短く外反する。



第106图 19·20号竖穴状遺構、9·12·14·18·19·20(1)号土坑出土遺物実測図



第107图 20(2)·21~25号土坑出土遗物实测图

指定40号墳周溝出土遺物（第108図）

359は土師器の壺で、丸底を呈し、胴部中位よりやや下で丸く張り、頸部は締まり内面に稜を持つ。口縁部は僅かに内湾しながら外上方に伸びる。端部は丸くなる。

360は壺の肩部でタタキ調整を施す。

未指定A号墳周溝出土遺物（第108図）

361は甕で口縁部が「く」の字に緩く外反する。

362は土師器の壺の口縁部で、端部が丸くなる。

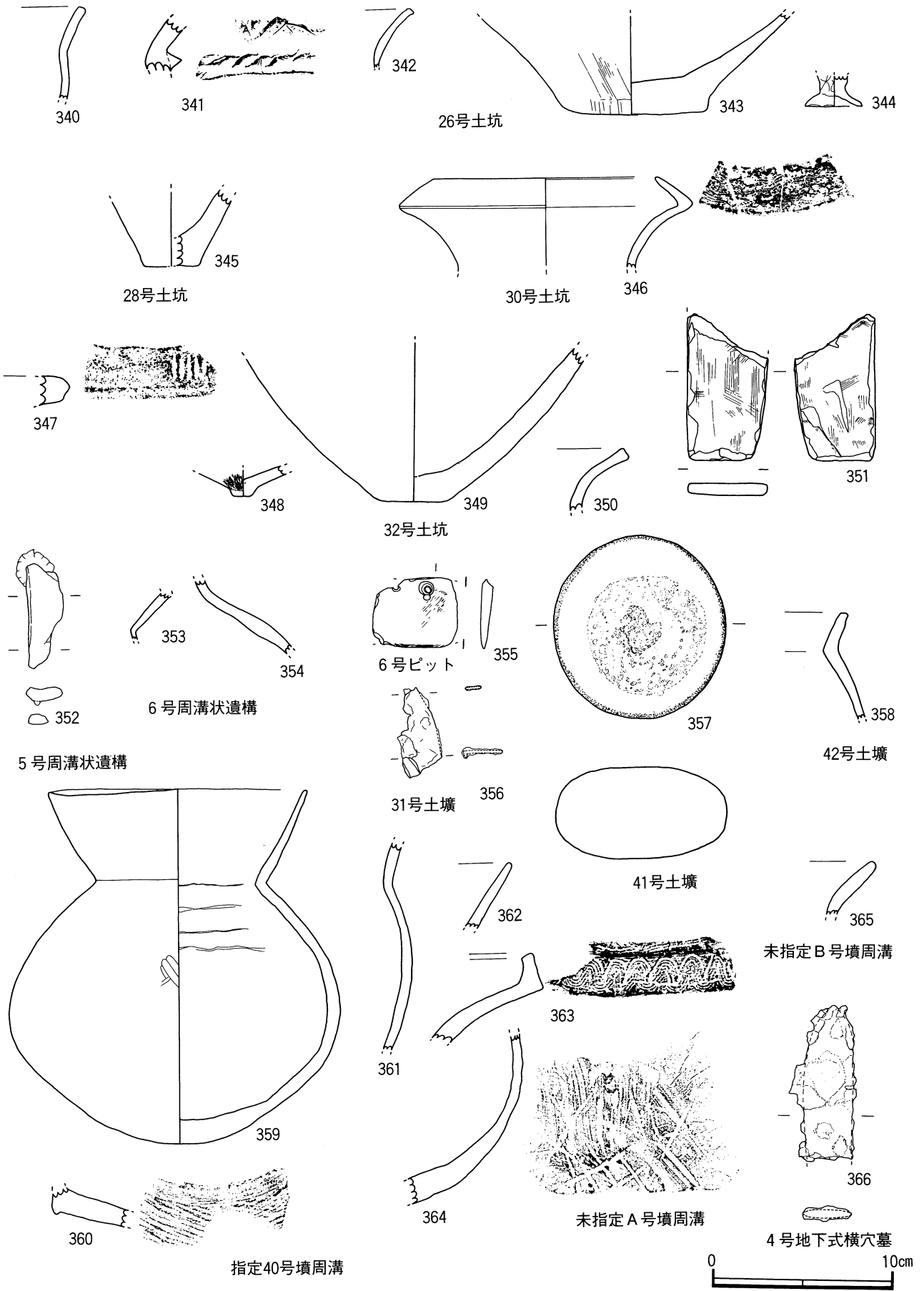
363・364は壺である。363は複合口縁壺の口縁部で上半は僅かに内傾し、波状文を施す。364は、胴部下位から底部にかけてで、格子目状の線刻を施す。

未指定B号墳周溝出土遺物（第108図）

365は土師器の甕の口縁部である。

4号地下式横穴墓出土遺物（第108図）

366は柳葉鍬である。身長8.4cm、身幅2.5cm、重さ42.3gを測る。



第108図 26・28・30・32号土坑、ピット、土壙、指定古墳周溝、未指定古墳周溝、地下式横穴墓出土遺物実測図

出土土器観察表 1

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
1	1号住居	弥生土器 壺	28.0cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ヨコナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を含む	複合口縁 波状文
2	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を含む	
3	〃	弥生土器 壺				外面 不明 内面 ハケ	外面 灰黄 内面 灰褐	砂粒を多く含む	
4	2号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	スス附着 突帯
5	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
6	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 丁寧なナデ	外面 におい黄橙 内面 におい赤褐	2mm以下の砂粒を 多く含む	スス附着
7	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ・ミガキ 内面 ミガキ	外面 におい褐 内面 におい赤褐	砂粒を少し含む	
8	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 明黄褐 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	突帯
9	〃	弥生土器 壺				外面 丁寧なナデ・ヨコナデ 内面 丁寧なナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を含む	
10	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 灰黄褐 内面 におい黄橙	細砂粒を含む	スス附着
11	〃	弥生土器 壺				外面 ミガキ 内面 ナデ・ハケ	外面 赤 内面 褐灰	細砂粒を多く含む	スス附着
12	〃	弥生土器 壺				外面 ミガキ 内面 丁寧なナデ	外面 におい黄褐 内面 灰黄褐	細砂粒を多く含む	スス附着
13	〃	弥生土器 壺	5.5cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ヨコナデ	外面 橙 内面 褐灰	細砂粒を少し含む	スス附着
14	〃	弥生土器 壺	1.5cm			外面 丁寧なナデ 内面 丁寧なナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	微細粒を含む	鋤先口縁
15	〃	弥生土器 高杯	25.4cm			外面 ミガキ 内面 不明	外面 赤褐 内面 赤褐	4mm以下の砂粒を 多く含む	
16	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 黄	細砂粒を多く含む	
19	3号住居	弥生土器 甕				外面 ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	6mm以下の砂粒を 多く含む	スス附着 刻目突帯
20	4号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	2mm以下の砂粒を 含む	スス附着
21	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	
22	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	スス附着
23	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	スス附着
24	〃	弥生土器 甕	5.5cm			外面 ハケ 内面 ナデ	外面 黒 内面 橙	砂粒を多く含む	
25	〃	弥生土器 壺	11.0cm	5.8cm	39.4cm	外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	線刻
26	〃	弥生土器 壺	10.2cm	3.6cm	20.6cm	外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 明黄褐 内面 褐灰	細砂粒を少し含む	スス附着 線刻
27	〃	弥生土器 壺	12.2cm	2.0cm	23.0cm	外面 ナデ・ハケ・ミガキ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	線刻
28	〃	弥生土器 壺	3.5cm			外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 明赤褐 内面 橙	細砂粒を多く含む	線刻
29	〃	弥生土器 壺	2.2cm			外面 ハケ・ミガキ 内面 ナデ	外面 橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	線刻 スス附着
30	〃	弥生土器 壺	4.3cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	線刻
31	〃	弥生土器 壺	7.6cm	1.5cm	15.2cm	外面 ハケ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	
32	〃	弥生土器 壺	9.9cm			外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	スス附着

出土土器観察表 2

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
33	4号住居	弥生土器 壺	8.9cm			外面 ミガキ・ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を多く含む	スス附着
34	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を含む	
35	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を少し含む	線刻
36	〃	弥生土器 壺	11.3cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
37	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を含む	複合口縁 波状文
38	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
39	〃	弥生土器 壺	9.0cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 黒	砂粒を多く含む	
40	〃	弥生土器 壺	4.5cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 黄灰	砂粒を多く含む	
41	〃	弥生土器 壺	4.3cm			外面 不明 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
42	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ハケ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	微細粒を多く含む	
43	〃	弥生土器 壺				外面 タタキ 内面 不明	外面 橙 内面 橙	砂粒を少し含む	
44	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	細砂粒を少し含む	線刻
45	〃	弥生土器 壺	8.0cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ハケ	外面 ぶい黄橙 内面 黄灰	砂礫を多く含む	
46	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ・ミガキ 内面 ハケ	外面 ぶい黄橙 内面 明赤褐	砂粒を多く含む	
47	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 黄橙 内面 灰	砂粒を多く含む	
48	〃	弥生土器 鉢	9.1cm	3.3cm	6.7cm	外面 ナデ・ミガキ 内面 ナデ・ミガキ	外面 明赤褐 内面 ぶい黄褐	砂粒を含む	
49	〃	弥生土器 鉢				外面 ハケ・ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	細砂粒を多く含む	
50	〃	弥生土器 鉢	4.5cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を含む	
51	〃	弥生土器 鉢				外面 丁寧なナデ・ハケ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 浅黄	細砂粒を多く含む	
55	5号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ・ミガキ 内面 ナデ・ミガキ	外面 ぶい赤褐 内面 赤褐	金雲母・及び2mm 以下の砂粒を含む	
56	〃	弥生土器 壺	8.5cm	17.0cm		外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	3mm以下の砂粒を 含む	線刻
57	〃	弥生土器 壺	2.5cm			外面 ハケ 内面 ナデ	外面 橙 内面 ぶい黄橙	細砂粒を少し含む	線刻
58	〃	弥生土器 壺	4.0cm			外面 ナデ 内面 ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を少し含む	
59	〃	弥生土器 鉢				外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい褐 内面 橙	細砂粒を含む	
60	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 橙	1.5mm以下の 砂粒を含む	
61	6号住居	弥生土器 壺	9.5cm	4.6cm	17.6cm	外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	線刻
62	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ミガキ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
63	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 丁寧なナデ	外面 橙 内面 ぶい黄橙	細砂粒を含む	
64	〃	弥生土器 鉢				外面 ナデ 内面 ナデ・ヨコナデ	外面 橙 内面 ぶい橙	細砂粒を含む	
65	〃	弥生土器 鉢	11.6cm	4.0cm	8.5cm	外面 ケズリ・ナデ 内面 ケズリ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	砂粒を多く含む	

出土土器観察表 3

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
66	6号住居	弥生土器 蓋				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を少し含む	
67	7号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ナデ	外面 褐灰 内面 褐灰	細砂粒を含む	スス付着 突帯
68	〃	弥生土器 甕				外面 丁寧なヨコナデ 内面 丁寧なヨコナデ	外面 黒褐 内面 におい褐	細砂粒を少し含む	
69	8号住居	弥生土器 甕	6.4cm	26.95cm		外面 ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 明赤褐 内面 橙	2mm以下の砂粒を 含む	スス付着
70	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ 内面 不明	外面 赤褐 内面 赤褐	砂粒を多く含む	
71	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	4.5mm以下の砂粒 を多く含む	
72	〃	弥生土器 鉢	5.6cm			外面 丁寧なナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	
73	〃	弥生土器 高杯				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ミガキ・ナデ	外面 橙 内面 橙	2mm以下の砂粒を 多く含む	透し
75	9号住居	弥生土器 甕	14.7cm	4.0cm	15.7cm	外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を多く含む	
76	〃	弥生土器 甕	4.7cm	14.6cm		外面 ナデ・ハケ 内面 丁寧なナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	2mm以下の砂粒を 含む	
77	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	複合口縁 波状文
78	〃	弥生土器 壺	11.4cm			外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	複合口縁
81	〃	縄文土器 深鉢				外面 撚糸文・ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	貝殻刺突文
82	10号住居	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 橙 内面 褐灰	砂粒を少し含む	スス付着 刻目突帯
83	〃	弥生土器 ミニチュア鉢				外面 丁寧なナデ 内面 不明	外面 橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	
84	11号住居	弥生土器 壺				外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を多く含む	長頸壺 線刻
85	〃	縄文土器 深鉢				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 黒褐 内面 灰褐	細砂粒を含む	貝殻刺突文 刻み
86	14号住居	弥生土器 高杯				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を多く含む	透し
87	15号住居	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 不明	外面 橙 内面 橙	4mm以下の砂粒を 多く含む	
88	〃	弥生土器 壺	10.9cm	4.8cm	22.6cm	外面 ヨコナデ・丁寧なナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
89	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を含む	複合口縁
90	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい褐 内面 におい褐	砂粒を少し含む	沈線
91	〃	弥生土器 高杯				外面 ハケ・ミガキ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を含む	透し
92	1号竪穴状遺構	弥生土器 壺	3.0cm			外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 におい橙 内面 灰黄褐	砂粒を含む	線刻
93	2号竪穴状遺構	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 明赤褐 内面 橙	砂粒を多く含む	スス付着
94	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ナデ	外面 橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	スス付着
95	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 におい黄橙	3mm以下の砂粒を 含む	スス付着
96	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 褐灰 内面 におい橙	砂粒を含む	
97	〃	弥生土器 甕	4.3cm			外面 丁寧なナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 灰白	砂粒を含む	
98	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 灰白	砂粒を含む	

出土土器観察表 4

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
99	2号竪穴状遺構	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 灰黄 内面 にぶい黄橙	砂粒を含む	
100	〃	弥生土器 壺	7.5cm			外面 ナデ・ヨコナデ・ミガキ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄	砂粒を多く含む	線刻
101	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 赤褐 内面 明赤褐	砂粒を多く含む	線刻
102	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 浅黄橙	5 mm以下の砂粒を多く含む	
103	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 浅黄橙 内面 にぶい褐	1 mm以下の砂粒を含む	複合口縁 波状文
104	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	線刻
105	〃	弥生土器 壺	1.8cm			外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 にぶい橙 内面 にぶい橙	細砂粒を含む	
106	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ミガキ・ナデ	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい橙	細砂粒を含む	透し
107	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ 内面 ナデ・ヨコナデ	外面 にぶい橙 内面 橙	砂粒を少し含む	透し
108	6号竪穴状遺構	弥生土器 壺				外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 黒 内面 橙	砂粒を少し含む	
109	〃	弥生土器 高杯	11.0cm			外面 ミガキ 内面 ミガキ・ハケ・ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を含む	
110	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を少し含む	
111	〃	弥生土器 器台				外面 ハケ 内面 ナデ	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい黄橙	砂粒を含む	
113	8号竪穴状遺構	弥生土器 甕	22.2cm	5.8cm	21.8cm	外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ナデ	外面 にぶい橙 内面 にぶい橙	砂粒を多く含む	スス附着
114	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 明褐 内面 橙	3 mm以下の砂粒を多く含む	スス附着
115	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 明褐灰 内面 にぶい橙	砂礫を多く含む	スス附着
116	〃	弥生土器 甕	6.0cm			外面 ナデ・ハケ 内面 丁寧なナデ	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい黄橙	3 mm以下の砂粒を含む	スス附着
117	〃	弥生土器 甕	7.6cm			外面 ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を多く含む	
118	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 にぶい橙 内面 灰	砂粒を多く含む	
119	〃	弥生土器 鉢				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を多く含む	口縁端部に沈線
120	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 にぶい橙 内面 橙	砂粒を少し含む	
122	9号竪穴状遺構	弥生土器 鉢				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ミガキ	外面 にぶい黄橙 内面 橙	2 mm以下の砂粒を含む	スス附着
123	〃	弥生土器 鉢	4.0cm			外面 ナデ・丁寧なナデ 内面 丁寧なナデ	外面 にぶい橙 内面 にぶい黄橙	砂粒を多く含む	
124	〃	弥生土器 鉢				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	壺か?
125	〃	弥生土器 ミニチュア甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	
126	11号竪穴状遺構	弥生土器 甕				外面 ハケ 内面 ハケ	外面 にぶい黄褐 内面 浅黄	砂粒を多く含む	スス附着
127	〃	土師器 鉢				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	
128	〃	弥生土器 高杯				外面 ナデ 内面 ミガキ	外面 にぶい黄橙 内面 灰褐	砂粒を含む	
129	〃	弥生土器 高杯				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 にぶい黄橙 内面 にぶい黄橙	砂粒を少し含む	
130	12号竪穴状遺構	弥生土器 甕				外面 ナデ・ハケ 内面 ハケ	外面 にぶい黄橙 内面 灰褐	砂粒を多く含む	

出土土器観察表 5

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
131	14号竪穴状遺構	弥生土器 甕	8.0cm			外面 ハケ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 明褐 内面 におい橙	砂粒を多く含む	スス附着
132	〃	弥生土器 鉢	4.3cm	9.9cm		外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 におい黄橙	2mm以下の砂粒を多く含む	
135	4号土杭	弥生土器 甕	7.85cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 褐灰	砂粒を多く含む	スス附着
136	〃	弥生土器 甕	15.6cm	5.8cm	21.9cm	外面 ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 灰褐 内面 におい橙	砂粒を含む	
137	〃	弥生土器 甕	5.4cm 17.0cm			外面 ナデ・ハケ・ヨコナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	3mm以下の砂粒を含む	スス附着
138	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ	外面 灰 内面 におい黄橙	砂礫を多く含む	
139	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 浅黄橙	4mm以下の砂粒を多く含む	
140	〃	弥生土器 甕	7.0cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 灰黄	砂粒を含む	スス附着
141	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 におい黄橙	5mm以下の砂粒を含む	スス附着
142	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ヨコナデ 内面 ハケ	外面 におい橙 内面 黄橙	砂粒を多く含む	
143	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	スス附着
144	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	
145	〃	弥生土器 甕	4.8cm			外面 ヨコナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい灰黄 内面 灰黄褐	3mm以下の砂粒を含む	スス附着
146	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 灰黄褐 内面 黒褐	砂粒を多く含む	線刻 スス附着
147	〃	弥生土器 壺	9.6cm	3.5cm	18.8cm	外面 丁寧なナデ 内面 ヨコナデ	外面 におい褐 内面 褐灰	細砂粒を多く含む	線刻
148	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ハケ	外面 灰黄褐 内面 におい褐	細砂粒を多く含む	
149	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい橙 内面 におい橙	3mm以下の砂粒を多く含む	線刻
150	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	2mm以下の砂粒を含む	スス附着 竹管文
151	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ナデ	外面 浅黄 内面 浅黄	砂粒を含む	複合口縁 波状文
152	〃	弥生土器 壺	13.2cm	2.0cm	21.1cm	外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
153	〃	弥生土器 壺				外面 不明 内面 不明	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
154	〃	弥生土器 壺	6.7cm			外面 ハケ・ミガキ 内面 ハケ	外面 浅黄 内面 浅黄	砂粒を多く含む	スス附着
155	〃	弥生土器 壺				外面 ミガキ 内面 ハケ	外面 灰黄褐 内面 灰黄褐	3mm以下の砂粒を多く含む	スス附着
156	〃	弥生土器 鉢	4.4cm	9.1cm		外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
157	〃	弥生土器 鉢	18.7cm	11.5cm		外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ミガキ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	2mm以下の砂粒を含む	
158	〃	弥生土器 器台				外面 ハケ・ナデ・ヨコナデ 内面 丁寧なナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	透し
159	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 におい橙 内面 灰褐	砂粒を多く含む	透し
160	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ 内面 ミガキ・ナデ	外面 におい橙 内面 淡赤橙	砂粒を多く含む	透し
161	〃	弥生土器 鉢	4.8cm	1.7cm	7.7cm	外面 ミガキ 内面 ハケ・丁寧なナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を少し含む	
162	〃	弥生土器 柄杓形土器				外面 ミガキ 内面 不明	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	

出土土器観察表 6

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
165	1号周溝状遺構	弥生土器 壺				外面 丁寧なナデ 内面 ヨコナデ	外面 浅黄橙 内面 灰黄褐	細砂粒を少し含む	
166	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ナデ・ミガキ	外面 におい褐 内面 橙	砂粒を含む	
167	〃	弥生土器 高杯				外面 ハケ・ミガキ 内面 ミガキ	外面 におい橙 内面 におい橙	2 mm以下の砂粒を含む	
168	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ・ハケ 内面 ミガキ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を多く含む	
169	〃	弥生土器 高杯				外面 ヨコナデ・ミガキ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 明黄褐 内面 明黄褐	細砂粒を含む	
170	〃	弥生土器 ミニチュア甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
171	〃	弥生土器 ミニチュア壺	1.5cm			外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	
172	〃	弥生土器 ミニチュア壺	0.7cm			外面 ミガキ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
173	2号周溝状遺構	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	スス附着
174	〃	弥生土器 壺	3.1cm	37.6cm		外面 ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	
175	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 黒褐	砂粒を含む	重弧文 平行沈線文
176	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい黄橙	細砂粒を多く含む	透し孔
177	〃	弥生土器 高杯				外面 丁寧なナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を多く含む	
178	〃	弥生土器 小型壺	11.9cm			外面 ミガキ・ナデ 内面 丁寧なナデ	外面 黄橙 内面 橙	細砂粒を多く含む	
179	〃	弥生土器 鉢	3.4cm			外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 明褐	砂粒を多く含む	
180	3号周溝状遺構	弥生土器 壺	2.7cm			外面 不明 内面 ハケ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	
181	〃	弥生土器 小型壺	8.7cm	10.7cm		外面 ナデ 内面 ナデ	外面 淡黄 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
183	1号溝状遺構	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 橙	2 mm以下の砂粒を含む	スス附着
184	〃	弥生土器 甕				外面 丁寧なナデ 内面 不明	外面 橙 内面 橙	2 mm以下の砂粒を含む	スス附着
185	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
186	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ	外面 明褐灰 内面 灰褐	細砂粒を多く含む	
187	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ	外面 におい橙 内面 におい橙	3 mm以下の砂粒を少し含む	複合口縁 波状文
188	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 黄橙 内面 におい黄橙	2 mm以下の砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
189	〃	弥生土器 壺				外面 丁寧なナデ 内面 ミガキ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	複合口縁 波状文
190	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	3 mm以下の砂粒を多く含む	
191	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	
192	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 明黄褐 内面 灰黄	砂粒を多く含む	
193	〃	弥生土器 壺	4.6cm			外面 ナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 黄灰	砂粒を多く含む	
194	〃	弥生土器 鉢				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を含む	
195	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ・丁寧なヨコナデ 内面 ナデ・ヨコナデ	外面 浅黄橙 内面 黒	砂粒を少し含む	

出土土器観察表 7

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
196	1号溝状遺構	弥生土器 ミニチュア壺	5.5cm	1.2cm	7.2cm	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	
197	〃	弥生土器 ミニチュア壺				外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 淡橙 内面 淡橙	1mm以下の砂粒を 少し含む	
198	〃	弥生土器 蓋				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を少し含む	
201	一括	弥生土器 壺				外面 不明 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 黒	砂粒を多く含む	
202	〃	弥生土器 壺		4.9cm		外面 ハケ・ナデ 内面 不明	外面 におい橙 内面 浅黄橙	細砂粒を多く含む	
203	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ミガキ 内面 丁寧なナデ・ミガキ	外面 明赤褐 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
204	〃	弥生土器 壺		3.4cm		外面 ハケ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
205	〃	弥生土器 鉢				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を多く含む	高杯か?
206	〃	弥生土器 高杯				外面 ハケ・ナデ 内面 不明	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を多く含む	
218	28号土壇	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	
223	19号住居	弥生土器 壺		2.8cm		外面 ハケ 内面 ハケ	外面 明赤褐 内面 明赤褐	細砂粒を含む	線刻
224	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 明赤褐	砂粒を多く含む	
225	〃	弥生土器 壺				外面 ミガキ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
227	20号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	2mm以下の砂粒を 含む	
228	22号住居	弥生土器 壺				外面 ナデ・ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂礫を多く含む	
229	23号住居	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 橙 内面 褐	砂粒を多く含む	
230	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	
231	24号住居	弥生土器 甕				外面 ハケ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	
232	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
233	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ	外面 におい黄橙 内面 明黄褐	3mm以下の砂粒を 含む	
234	〃	弥生土器 ミニチュア鉢	5.0cm	2.1cm	7.4cm	外面 ミガキ 内面 ナデ・ミガキ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
235	25号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を多く含む	
236	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ・ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
237	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
238	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ナデ	外面 黒褐 内面 灰褐	細砂粒を多く含む	スス付着 突帯
239	〃	弥生土器 甕		4.9cm		外面 ナデ 内面 ハケ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	3mm以下の砂粒を 含む	
240	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	
241	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ヨコナデ・ハケ	外面 浅黄橙 内面 におい黄橙	細砂粒を多く含む	複合口縁
242	〃	弥生土器 壺				外面 ミガキ 内面 ハケ	外面 橙 内面 におい黄橙	砂粒を多く含む	
243	〃	弥生土器 壺		6.8cm		外面 ミガキ 内面 丁寧なナデ	外面 黄褐 内面 黒褐	6mm以下の砂粒を 多く含む	

出土土器観察表 8

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
244	25号住居	弥生土器 壺	2.75cm			外面 丁寧なナデ・ミガキ 内面 ハケ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	微細粒を多く含む	
245	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	
246	〃	弥生土器 鉢				外面 ナデ・ミガキ 内面 ナデ・ミガキ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を含む	
247	〃	弥生土器 高杯				外面 ナデ・ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	
248	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	細砂粒を少し含む	
249	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ・ヨコナデ 内面 ハケ・ヨコナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	細砂粒を多く含む	
250	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ・ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	微細粒を少し含む	
251	〃	弥生土器 ミニチュア壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を多く含む	
252	〃	弥生土器 ミニチュア土器				外面 ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	器種不明
255	26号住居	弥生土器 甕				外面 ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	3mm以下の砂粒を含む	
256	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ・ヨコナデ 内面 ナデ	外面 赤褐 内面 赤褐	2mm以下の砂粒を多く含む	
257	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を多く含む	線刻
259	27号住居	弥生土器 甕				外面 ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	
260	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ナデ	外面 黄橙 内面 黄橙	砂粒を含む	
261	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
262	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	
264	〃	縄文土器 深鉢				外面 条痕 内面 条痕	外面 ぶい赤褐 内面 ぶい黄褐	砂粒を含む	
265	28号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	スス附着
266	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	砂粒を含む	突帯 (5本単位の刻み)
267	29号住居	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい褐 内面 ぶい褐	2mm以下の砂粒を含む	
268	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい褐 内面 灰褐	砂粒を含む	スス附着
269	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 不明	外面 橙 内面 不明	砂粒を多く含む	刻目突帯
270	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ナデ	外面 黒 内面 橙	砂粒を含む	刻目突帯
271	〃	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を含む	突帯
272	30号住居	弥生土器 甕				外面 不明 内面 不明	外面 黄橙 内面 黄橙	5mm以下の砂粒を多く含む	スス附着
273	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ・ハケ・ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい橙	細砂粒を多く含む	
276	31号住居	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を含む	
278	32号住居	弥生土器 甕	18.4cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ハケ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	スス附着
279	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 不明	外面 灰褐 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	スス附着
280	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	砂粒を多く含む	スス附着

出土土器観察表 9

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
281	32号住居	弥生土器鉢				外面 不明 内面 不明	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
282	〃	弥生土器高杯				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ヨコナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を含む	
283	〃	弥生土器ミニチュア鉢	4.5cm	1.8cm	5.6cm	外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を少し含む	
285	33号住居	弥生土器甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
286	〃	弥生土器甕				外面 ハケ・ナデ・ヨコナデ 内面 ハケ	外面 橙 内面 黒	砂粒を含む	
287	〃	弥生土器高杯				外面 不明 内面 ミガキ	外面 橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	
288	〃	弥生土器高杯				外面 ミガキ 内面 ミガキ・ナデ	外面 赤褐 内面 赤褐	微細粒を多く含む	
289	〃	縄文土器深鉢				外面 ナデ 内面 ヨコナデ	外面 におい黄橙 内面 灰黄褐	砂粒を含む	スス附着 連続刺突文 平行沈線文
290	34号住居	弥生土器甕				外面 丁寧なナデ 内面 丁寧なナデ	外面 におい橙 内面 橙	微細粒を多く含む	
291	〃	弥生土器鉢				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	2mm以下の砂粒を含む	
292	〃	弥生土器高杯				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 灰黄	細砂粒を含む	
293	〃	弥生土器高杯				外面 ミガキ 内面 丁寧なナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	
294	15号竪穴状遺構	弥生土器甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 浅黄橙 内面 灰白	砂粒を多く含む	
295	〃	弥生土器壺				外面 丁寧なナデ 内面 丁寧なナデ	外面 におい褐 内面 におい褐	細砂粒を含む	複合口縁 波状文
297	19号竪穴状遺構	弥生土器壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	細砂粒を含む	波状文
299	20号竪穴状遺構	弥生土器甕				外面 ナデ 内面 ハケ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を少し含む	突帯 スス附着
300	〃	弥生土器甕				外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい褐 内面 におい橙	細砂粒を多く含む	
301	〃	弥生土器甕				外面 ヨコナデ 内面 ナデ・ハケ	外面 におい黄橙 内面 におい橙	砂粒を多く含む	突帯
302	〃	弥生土器壺				外面 ミガキ・ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	突帯
303	9号土坑	弥生土器甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 褐灰 内面 黒	砂粒を含む	
304	〃	弥生土器壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	1mm以下の砂粒を含む	
305	〃	弥生土器壺				外面 ナデ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 におい橙 内面 におい橙	砂粒を含む	複合口縁 波状文
306	〃	弥生土器壺				外面 ハケ 内面 ナデ	外面 におい黄褐 内面 黒褐	砂粒を多く含む	丹塗 鋸齒文
307	〃	弥生土器壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ミガキ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 黒	砂粒を多く含む	
308	12号土坑	弥生土器甕				外面 ヨコナデ・ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 におい黄橙 内面 明褐灰	砂粒を含む	
309	〃	弥生土器壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 におい橙 内面 におい黄橙	砂粒を少し含む	
310	14号土坑	弥生土器壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を含む	
311	18号土坑	弥生土器高杯				外面 ナデ・ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 におい黄橙	砂粒を含む	
312	19号土坑	弥生土器ミニチュア壺		1.3cm		外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 青灰	砂粒を多く含む	平行沈線文
313	20号土坑	弥生土器甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を含む	スス附着

出土土器観察表10

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
314	20号土坑	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 ぶい橙	4 mm以下の砂粒を 含む	
315	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ナデ	外面 灰黄褐 内面 黒褐	砂粒を多く含む	口縁端に刻み 刻目突帯
316	〃	弥生土器 壺	12.0cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ハケ・ナデ	外面 黄橙 内面 浅黄橙	砂粒を少し含む	
317	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	細砂粒を多く含む	
318	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ミガキ 内面 ナデ	外面 橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
319	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 丁寧なナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	微細粒を多く含む	透し
320	〃	弥生土器 器台				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	
321	〃	弥生土器 器台				外面 ナデ 内面 不明	外面 黄橙 内面 黄橙	砂粒を多く含む	口縁端部に 格子目文
322	〃	弥生土器 ミニチュア甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	
323	21号土坑	弥生土器 壺	4.4cm			外面 ナデ・ハケ 内面 ナデ・ハケ	外面 ぶい橙 内面 黄灰	細砂粒を含む	
324	〃	弥生土器 高杯				外面 ミガキ 内面 ミガキ	外面 橙 内面 ぶい黄橙	細砂粒を多く含む	
327	22号土坑	弥生土器 甕				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 ぶい褐 内面 ぶい橙	細砂粒を少し含む	スス附着
328	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ナデ 内面 ヨコナデ	外面 橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
331	23号土坑	弥生土器 器台				外面 ミガキ・ヨコナデ 内面 ハケ・ヨコナデ	外面 浅黄橙 内面 浅黄橙	細砂粒を含む	透し
332	〃	弥生土器 ミニチュア鉢	4.8cm	2.1cm	3.7cm	外面 ナデ 内面 ナデ	外面 淡黄 内面 淡黄	1 mm以下の砂粒を 少し含む	
336	24号土坑	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 黒	砂粒を含む	
337	〃	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 黄橙 内面 黄橙	砂粒を多く含む	
338	25号土坑	弥生土器 甕				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 ぶい橙 内面 褐灰	砂粒を少し含む	
339	〃	弥生土器 高杯				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい黄橙	微細粒を多く含む	
340	26号土坑	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 橙	砂粒を多く含む	
341	〃	弥生土器 甕				外面 ハケ 内面 ハケ	外面 ぶい黄橙 内面 ぶい褐	砂粒を含む	刻目突帯
342	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	微細粒を多く含む	
343	〃	弥生土器 壺	9.2cm			外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 黒	3 mm以下の砂粒を 多く含む	スス附着
344	〃	弥生土器 ミニチュア高杯	3.2cm			外面 ナデ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	砂粒を多く含む	
345	28号土坑	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 橙 内面 黒	2 mm以下の砂粒を 含む	スス附着
346	30号土坑	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ・ナデ	外面 ぶい黄橙 内面 浅黄	2 mm以下の砂粒を 含む	複合口縁 波状文
347	32号土坑	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 不明	外面 橙 内面 不明	砂粒を多く含む	突帯
348	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ 内面 ナデ	外面 ぶい橙 内面 ぶい橙	1 mm以下の砂粒を 含む	
349	〃	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ハケ	外面 ぶい橙 内面 暗灰	砂礫を多く含む	
350	〃	弥生土器 高杯				外面 ヨコナデ 内面 ミガキ	外面 ぶい橙 内面 橙	2 mm以下の砂粒を 含む	

出土土器観察表11

番号	遺構名	種類・器種	法 量			器 面 調 整	色 調	胎 土	備 考
			口径	底径	器高				
353	6号周溝状遺構	弥生土器 壺				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 におい黄橙 内面 におい黄橙	砂粒を含む	
354	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ナデ	外面 におい橙 内面 灰褐	細砂粒を含む	
358	42号土壙	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ヨコナデ	外面 橙 内面 橙	2mm以下の砂粒を 含む	
359	指定40号墳周溝	土師器 壺	14.5cm	2.2cm	19.7cm	外面 ミガキ 内面 丁寧なナデ	外面 橙 内面 橙	微細粒を少し含む	
360	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・タタキ 内面 ナデ	外面 明赤褐 内面 明赤褐	砂粒を多く含む	
361	未指定 A号墳周溝	弥生土器 甕				外面 ナデ 内面 ナデ	外面 灰褐 内面 におい褐	砂粒を多く含む	スス附着
362	〃	土師器 壺				外面 ヨコナデ・ハケ 内面 ヨコナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を多く含む	
363	〃	弥生土器 壺				外面 ヨコナデ・ミガキ・ハケ・ナデ 内面 ヨコナデ・ミガキ	外面 におい橙 内面 橙	砂粒を多く含む	複合口縁 波状文
364	〃	弥生土器 壺				外面 ハケ・ナデ 内面 ハケ・ナデ	外面 橙 内面 灰白	細砂粒を多く含む	
365	未指定 B号墳周溝	土師器 甕				外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面 橙 内面 橙	細砂粒を含む	

V. まとめ

調査の結果、竪穴住居35軒、竪穴状遺構20基、土坑33基、周溝状遺構6基、土壙43基、古墳周溝5基、地下式横穴墓5基、溝状遺構4条（平成7年度調査を含む）が検出され、遺物は弥生土器を始め、土師器、縄文土器、石器、鉄器が出土した。遺物は、集中して出土する遺構とそうでない遺構との差が明瞭で、特に10年度調査区では出土遺物が少なく、遺構の時期を決定できる資料に恵まれなかった。

[弥生時代]

遺物から見た集落の時期について

今回の調査で集落は大きく2時期に分けることができた。

1期

甕は口縁端部に台形突帯、胴部に三角突帯を持つもの（4・67・265・267・268・299・300・301）、胴部が直線的に伸び、口縁端部と口縁部下に刻目突帯を施す下城式土器（19・266・270・271）。壺は口縁部が外反し、端部に下方に垂れる台形突帯を施すもの（7・9・10）。口縁部が大きく外反し、口縁部下に三角突帯を施すもの（8）。肩部と頸部の境に刻目三角突帯を施すもの（82）。口縁部が外反し、端部に刻目、口縁部下に刻目突帯を施すもの（315）。高杯は須玖Ⅱ式に相当する鋤先口縁を呈する、細長い脚部を持つもの（15）がある。

下城式の甕は中期末から後期初頭までその形態を残すが、その時期に相当する遺物が本遺跡では出土していないため、この時期に納まるものと考えられる。

2・3・7・10・28・29号竪穴住居、20号竪穴状遺構はこの時期に比定されると考えられ、上記以外の遺構からもこの時期の土器片が他の時期の遺構に混じって多く出土している（55等）。平成7年度の調査の際、調査区西側の畑で確認された南北に巡るV字溝（環濠）下層出土の土器と同時期であり、中期中葉に環濠集落を形成していたことがうかがえる。

2期

2期は2時期に分類することができる。

2a期は4号土坑から出土した遺物を中心とするものである。

甕は「く」の字外反するもの（136～138）と口縁部の「く」の字外反が緩くなるもの（114・115・135・139等）がある。底部形態、最大径の位置は様々である。壺は安国寺系の複合口縁壺を除けば、長胴のものが少なくなり小型化する。単口縁壺は胴部が張り、口縁部が直線的に外反するもの（61・88・102・146・147・150）と口径が広がるもの（148・149）があり、多くが平底を呈する。複合口縁壺は口縁部上半が緩く内傾する（152・153）。安国寺系の複合口縁壺は、口縁部上半は短く、内傾が強い（151）。鉢は平底もしくは丸底を呈し、内湾しながら立上がり、口縁部が外反するもの（157・64・72・119・156・246）、安定した平底を呈し、外反しない小型で椀形の鉢（65・161・179・281）。高杯は口縁部の外反がまだそれほど大きくならない（109・120・128・247）。器台は体部が太くなるもの（158）、体部が著しく細く、口縁部、裾部が大きく

外反するもの（159・160等）がある。また、柄杓形土器（162）もあり、県内では新富町園田遺跡、佐土原町下那珂遺跡、串間市大田井丘遺跡で出土例がある。この時期と比定できる遺構は6・8・15・23・25・30・32号竪穴住居、2・6・8・11号竪穴状遺構、4・9・26号土坑である。

2 b期は4号竪穴住居から出土した遺物を中心とするものである。

甕は2 a期と比べて殆ど形態変化が見られず、4号竪穴住居では、口縁部が「く」の字に外反し、胴部上位で張るものが見られる（20～23）。壺は2 a期に比べ胴部が張る様になり、底幅が狭くなり丸底を呈するものも見られる。線刻を施すものも多くなる。単口縁壺は長胴のもの（25）、口縁部が直線的に外反し、胴部が丸く張るもの（174・232）、口縁部径が広いもの（26・27）は2 a期から引き続き見られるが、底幅が狭くなり、丸底を呈するものも見られる。特に口縁部が強く直線的に外反し、胴部が丸く張るもの（30～32・56・61）が増える。複合口縁壺は2 a期と基本的に変化は見られず、端部を摘むもの（37・62等）、上半部の下位が下に垂れ下がるもの（38等）がある。後期前葉に、畿内第V様式の影響を受けて、甕のみに施されたタタキ調整が、壺にも施されるものもある（43）。安国寺式土器は口縁部上半が短く垂直に立つ（1・2）。また、2・3号周溝状遺構では丸底を呈する小型壺がある。78の壺は僅かに頸部が伸び、口縁部上半が垂直に立ち、長く伸びる複合口縁壺で、他の複合口縁壺と著しく形態が異なっているが、共伴する甕、複合口縁壺からこの時期に比定したい。鉢は2 a期から形態変化をしないが、特異なものに安定した平底を呈し、大きく内湾しながら立上がり、端部で僅かに摘んで外反するもの（48）がある。高杯は口縁部の外反が著しく、大きく伸びるようになる（86・166・167・169・287・311）。この時期と比定される遺構は5・9・14・24・33号竪穴住居、1～3号周溝状遺構がある。2・3号周溝状遺構の中央部からは、それぞれ2・7号竪穴状遺構が検出されており、都城市上大五郎遺跡からは、周溝状遺構に伴った竪穴状遺構が検出されており、当初これらもそのタイプになるものと考えられたが、2号周溝状遺構は2 b期、2号竪穴状遺構は2 a期に分類され、相互の遺構に関係はないと考えられる。3号周溝状遺構と7号竪穴状遺構は7号竪穴状遺構から時期を設定できる出土遺物がないため問題が残る。

今回設定した時期は1期が中期中葉、2 a・2 b期は後期後葉から終末に比定することができると考えられ、中期後葉から後期中葉の時期はその時期に相当する遺物が出土していないことから、本遺跡の弥生時代の集落に断絶期があったと考えられ、平成7年度の調査結果を指示できるものとなった。先述したように、石ノ迫第2遺跡において環濠集落が形成されていたのは中期中葉と考えられ、2期の遺物はV字溝埋土上層からの出土のみで、後期後葉から終末の時期には環濠としての役割は果たしていなかったと考えられる。

本遺跡から北西4.3kmの位置に塚原遺跡があり、弥生中期中葉から後期後葉の集落で、環濠集落が後期初頭から後葉に営まれていたと考えられ、石ノ迫第2遺跡の2期（石ノ迫2期）における集落と存在が重なる時期があると考えられる。

また本遺跡と大淀川を挟んで東方3.2kmの位置に下郷遺跡（註1）があり、前期末から後期後半の環濠集落で、竪穴住居23軒、竪穴状遺構25基、貯蔵穴19基、土坑22基、溝状遺構1条、土墳

1基が検出された。環濠はそれらの遺構を囲む状態で検出され、2重に巡っており、内側の環濠は前期末から中期初頭に、外側の環濠は後期初頭に掘り込まれたと考えられ、環濠から、後期前葉から後葉（下郷4期）の遺物が大量に出土しているため、その時期が下郷遺跡の弥生の集落における繁栄期と想定され、多くの遺構がそれらの時期に相当する。石ノ迫第2遺跡で環濠集落の営まれた中期中葉の時期は、下郷遺跡では出土遺物量が極端に少なくなる時期で、下郷遺跡における衰退期と考えられる。また、下郷の後期前葉から後葉にかけては、石ノ迫2期の集落と同時期の存在の可能性がある。下郷遺跡の4期は後期前葉から後葉とスパンが長く、さらに細分化されると考えられるため、一概に比較はできないが、石ノ迫第2遺跡の2期で多く見られる複合口縁壺が、下郷4期では見られず、それとは逆に下郷4期で大量に出土している長胴の壺、長頸壺が、石ノ迫2期では見られないことから、相互の集落は同時期に存在せず、後期終末まで続く石ノ迫2期の集落が後出するものと考えられる。

土壙

平成7年度の調査を含めて土壙は43基検出された。土壙は調査区内で何箇所かに集中しており、グループ内では主軸ラインがほぼ同じ方向にあることが解った。それを基に調査区北側からA 1・2・6～8号土壙（以後、番号のみ）、B 3～5号、C 12～17・26号、D 18～20・25号、E 22～24・27・28号、F 29～40、43号の6群に分類した。また、9・10・11・21号（41・42号は調査区南側にも墓域の展開が考えられるので今回は外して考えた。）は単独で立地していると考えられ、特に11号では組合せ式木棺跡が確認され、副葬品は出土していないものの被葬者の特種性がうかがえる。鉄器を副葬品とする土壙はA（6・7号）B（5号）C（15・16・26号）D（18・20号）E（21・22号）F（31・32号）群と、鉄器を副葬する土壙が群集する傾向はないことから、群間における階級差は考えられず、群内での階級差が想定される。しかし、B群の5号においては唯一鉄剣を副葬品としており、また、1号周溝状遺構のほぼ中心部から検出され、1号周溝状遺構も他の周溝状遺構と形態的な違いがあることから、円形周溝墓となる可能性があり、5号土壙の被葬者と他の副葬品を持つ被葬者との階級的な違いが考えられる。15と26号、20と25号、22と24号、35と36号は主軸方向をほぼ同じくし、隣り合って立地していることから、二列埋葬を行っていると考えられ、それらは血縁関係のある被葬者であったことを想定したい。また、F群内の今回の調査で横口式二段掘土壙と呼称したのも主軸方向が同群内の他の土壙とほぼ同方向にあるため、同時期のものであると考えられる。

土壙は至る箇所で竪穴住居を切っており、5号土壙と1号周溝状遺構を円形周溝墓とする肯定的な考えに立つならば、1号周溝状遺構の出土遺物から、この墓域は後期終末の集落廃絶直後に、墓域へと変化をしたと考えられ、また、土壙相互の切り合いが全く見られないことは、土壙を築造する段階で、埋葬位置の確認のできる特別な目印を設けたか、もしくは短期間で形成されたものと考えられるが、今回の調査では副葬品を伴う土壙が少なかったため、墓域として利用された期間を特定できなかったことが問題として残る。

〔古墳時代〕

石ノ迫第2遺跡からは5基の円墳の周溝と5基の地下式横穴墓が検出され、それらに伴い数点

の遺物が出土した。円墳は台地の東側縁辺部に位置し、それぞれが周溝を共有し、チェーン状に北から南へ連なっている。また、遺構の項で述べたように6号周溝状遺構についても古墳である可能性が高い。

地下式横穴墓は未指定A号墳から2号が、未指定B号墳から3・4号が、6号周溝状遺構から5号が、それぞれ検出されており、唯一、1号地下式横穴墓が単独で位置している。また、墳丘下に玄室が構築されている2号地下式横穴墓、4号地下式横穴墓はいずれも南側周溝に堅坑を掘り、堅坑—玄室の主軸がほぼ南北方向であるという共通点を持つ。

副葬品は4号地下式横穴墓から鉄鏃が出土したのみで、この墓のみ平入り方形プランを採用している。他の地下式横穴墓はすべて平入り楕円形のプランである。

各古墳の築造年代については、切り合い関係、地下式横穴墓の有無等から総合的に判断して、指定39号(40号)→指定40号(39号)→未指定C号→未指定B号→未指定A号→6号周溝状遺構の順で築造されたものと思われる。古墳それぞれの年代については、出土遺物が限られており、推測の域をでないが、指定40号墳周溝出土の壺(359)が5世紀後半でも中葉に近い時期に、平面プランから4号地下式横穴墓が6世紀中葉に、ほぼ同プランの2号地下式横穴墓、5号地下式横穴墓が6世紀後葉に位置づけることができる。

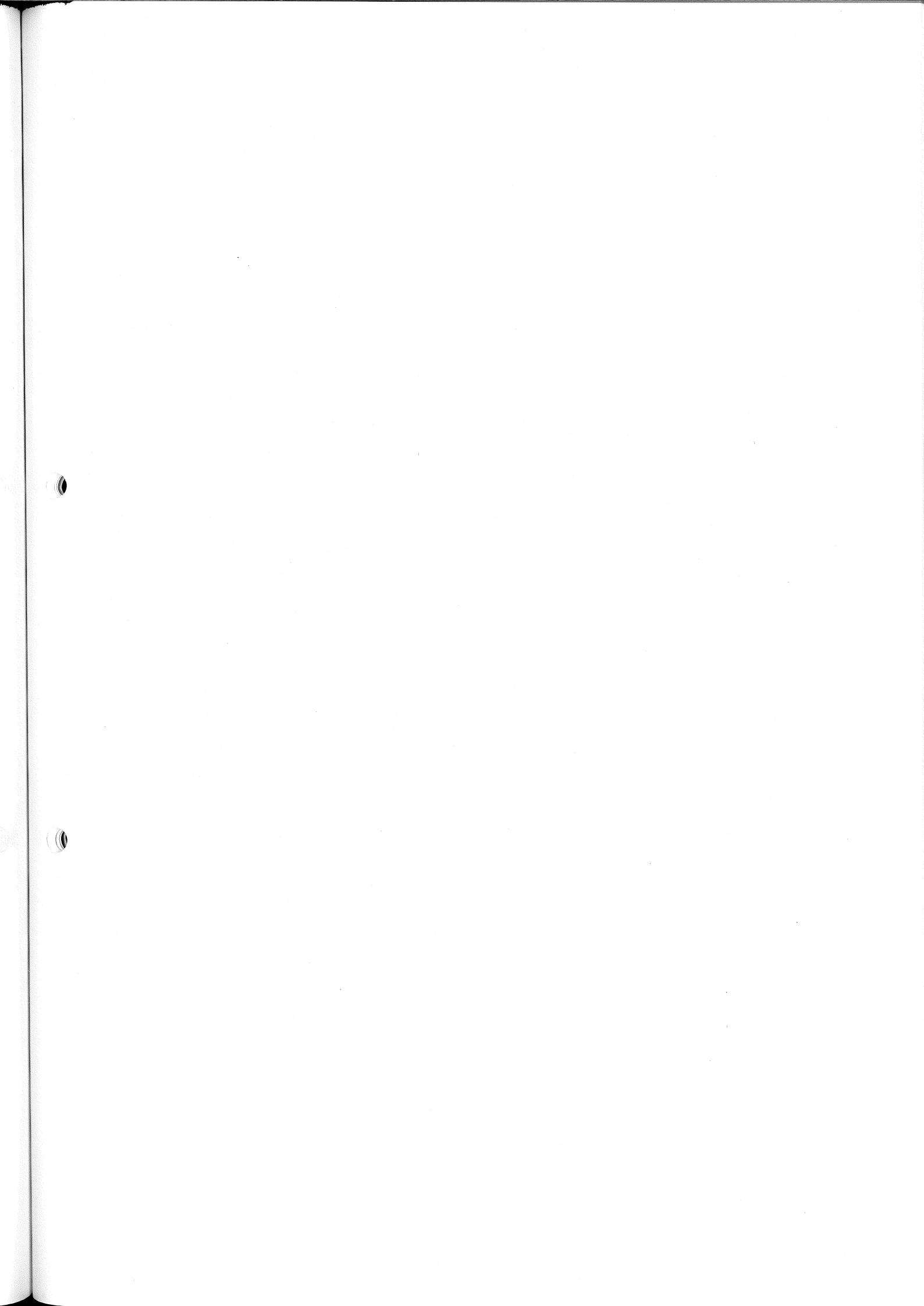
今回の調査で生目古墳群内から、円墳の埋葬施設としての地下式横穴墓の存在が確認された。対岸の下北方古墳群では5世紀後半より、妻入り長方形プランの地下式横穴墓が円墳の埋葬施設として採用されており、豊富な埋葬品が出土している。石ノ迫第2遺跡ではそれより遅れて、地下式横穴墓が導入され、導入の時期は下北方古墳群で前方後円墳の築造が終了する6世紀中葉以降と推測される。

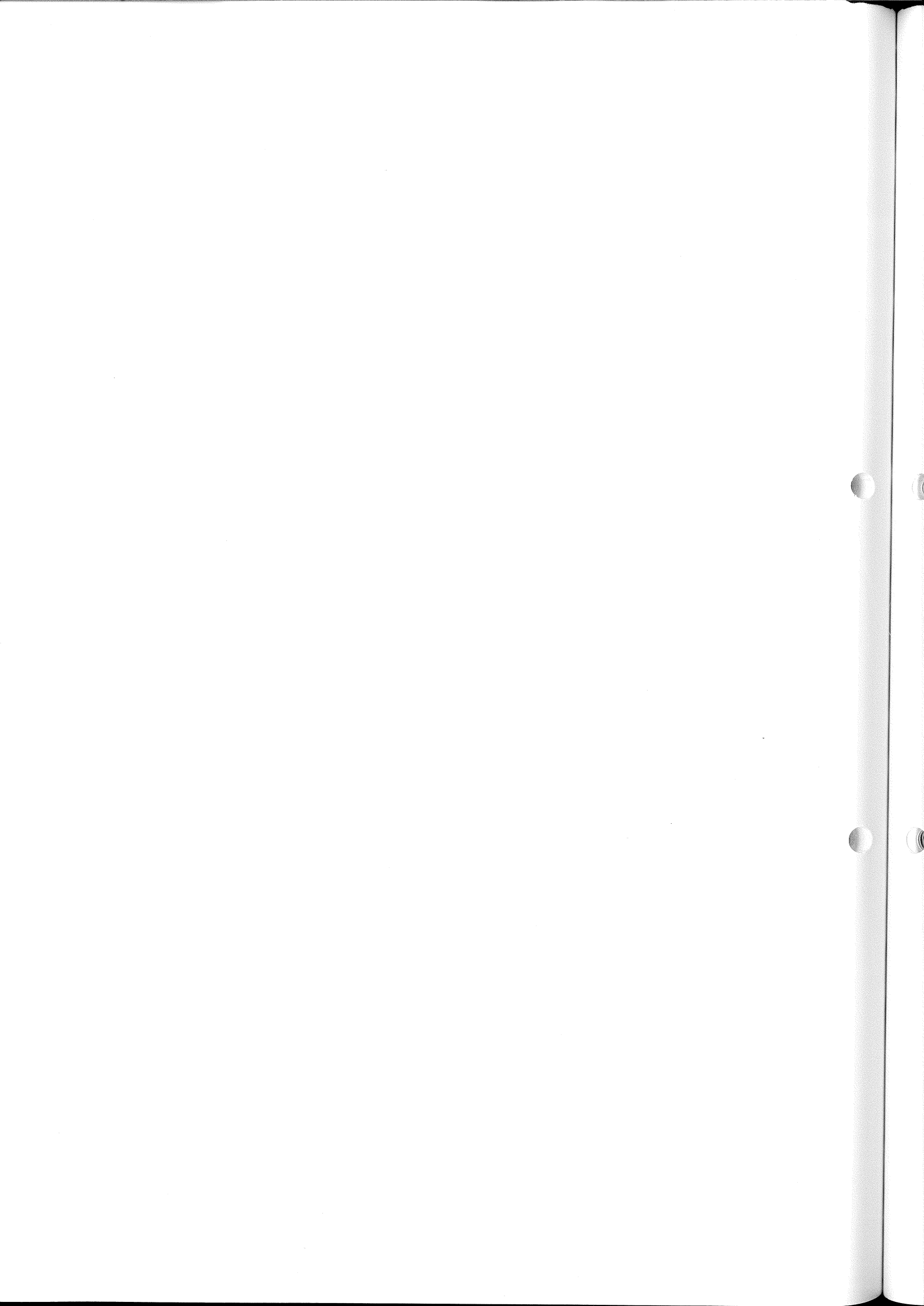
生目古墳群では、1・3・22号墳といった前期の大型前方後円墳ばかりが注目を集めているが、今回の調査では前方後円墳の築造が一時中断し、再び、前方後円墳が規模を縮小して築造を再開する5世紀から6世紀代の墓制の様相を明らかにすることができた。これまで、解らない部分の多かった生目古墳群及びその周辺の歴史が少しずつではあるが、明らかになってきている。生目古墳群史跡公園整備も軌道にのり、平成10年度より各古墳の調査も開始された。今後に残された課題も多いが、調査により各古墳の構造、位置づけを明確にし、よりよい整備を行えるよう努力していきたい。

(註1) 平成11年3月報告書刊行予定

[参考文献]

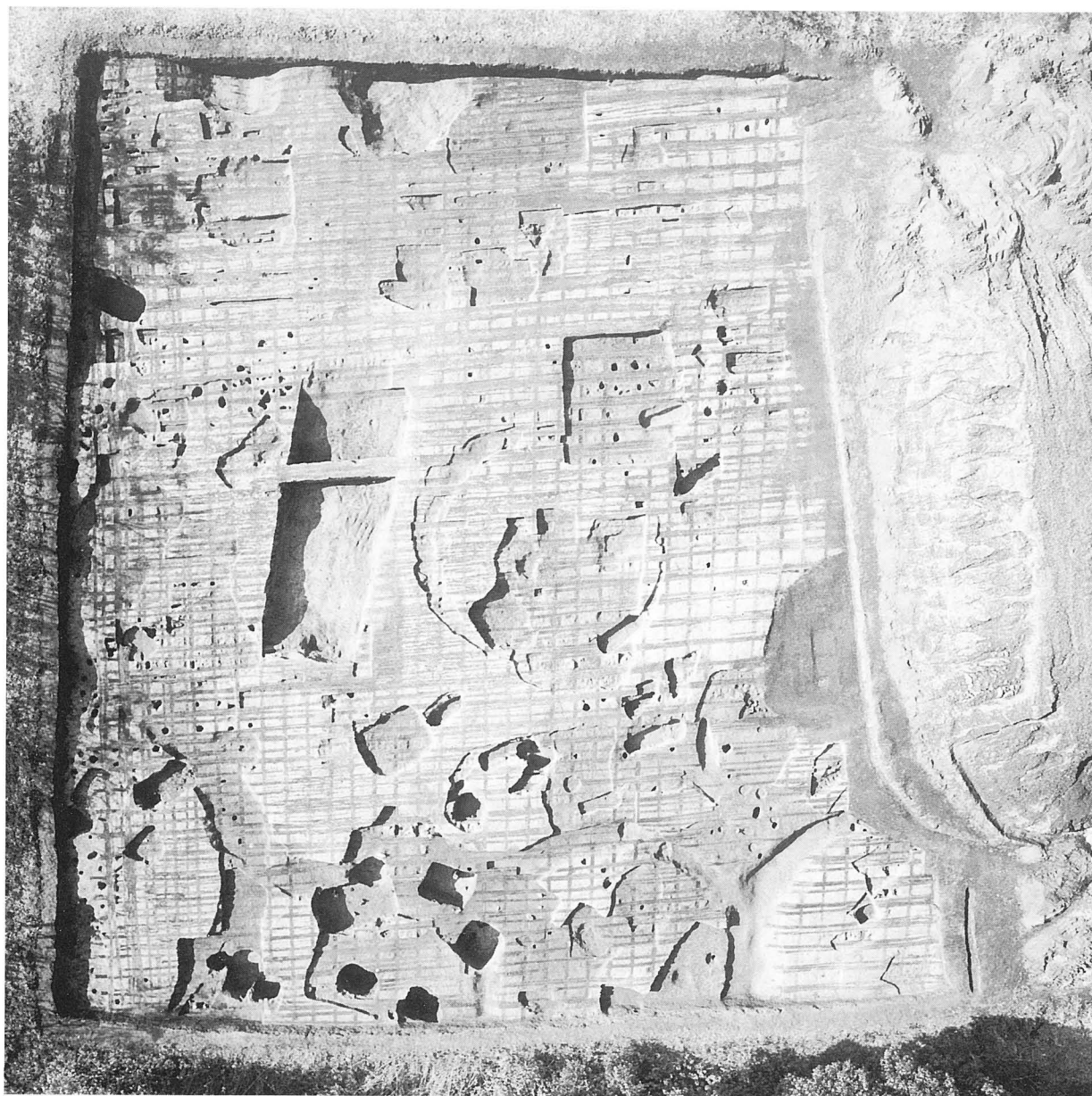
- 石川悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描(MK II)」『宮崎考古』第9号
- 塚原遺跡 国富町教育委員会 1995・1996
- 生目古墳群周辺遺跡発掘調査報告書 宮崎市教育委員会 1996
- 川床地区遺跡 新富町教育委員会 1985
- 中岡遺跡 宮崎市教育委員会 1987
- 市位遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター 1998
- 上大五郎遺跡 都城市教育委員会 1993
- 下北方地下式横穴墓第5号 宮崎市教育委員会 1997



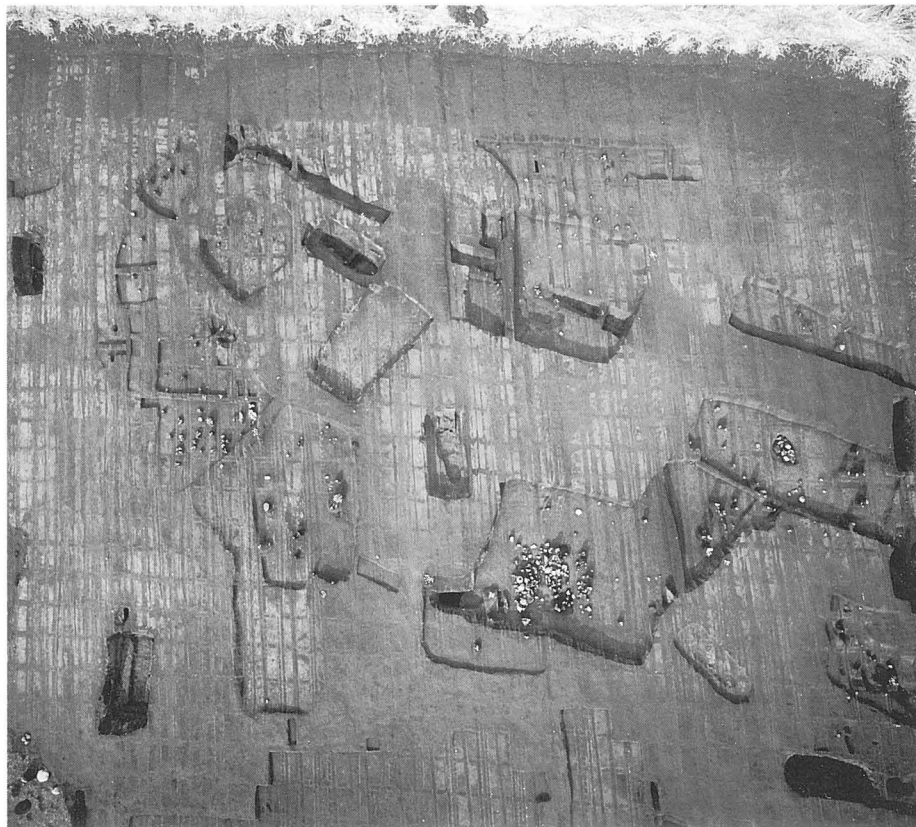




図版1 平成9年度調査区



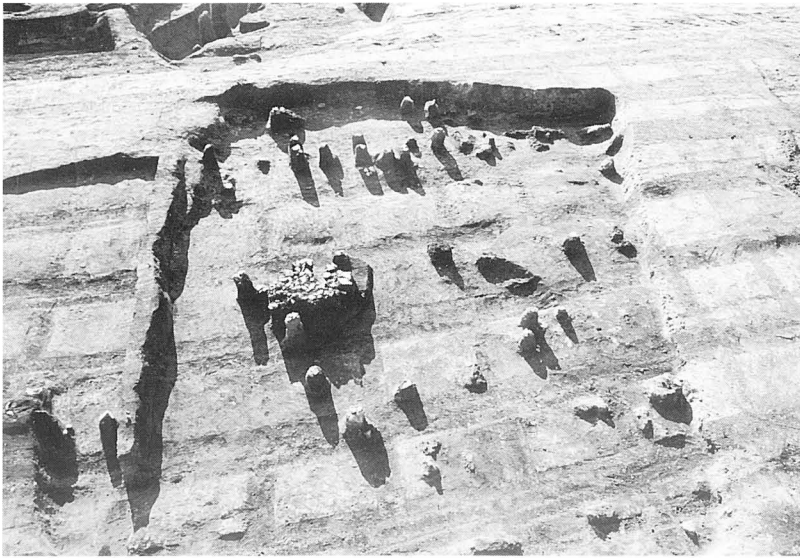
図版 2 平成10年度調査区



图版 3
1号周溝状遺構周辺



图版 4
2・3号周溝状遺構周辺



图版5 1号竖穴住居



图版6 2号竖穴住居



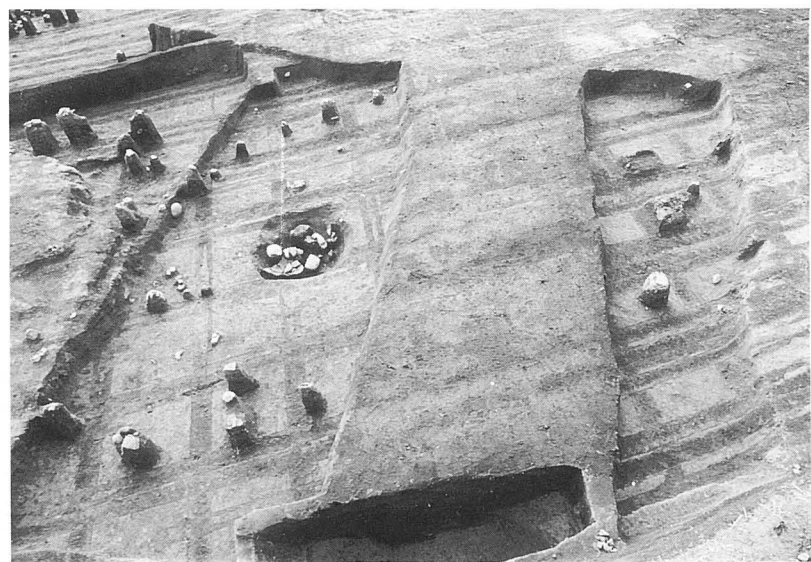
图版7
3号竖穴住居、9号土壤、
2号沟状遗构



图版 8 4号竖穴住居



图版 9 4号竖穴住居出土遺物



图版 10 5号竖穴住居



图版11 5号竖穴住居内炉



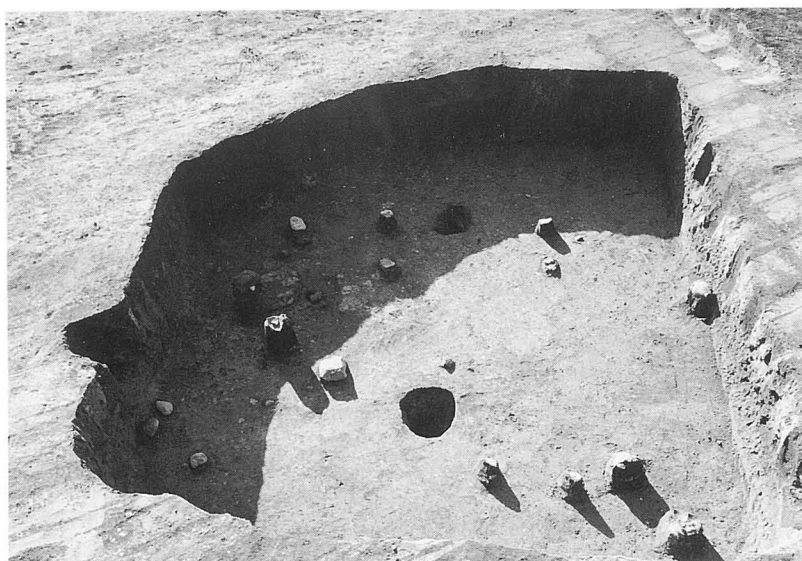
图版12 6号竖穴住居



图版13 6号竖穴住居出土遺物



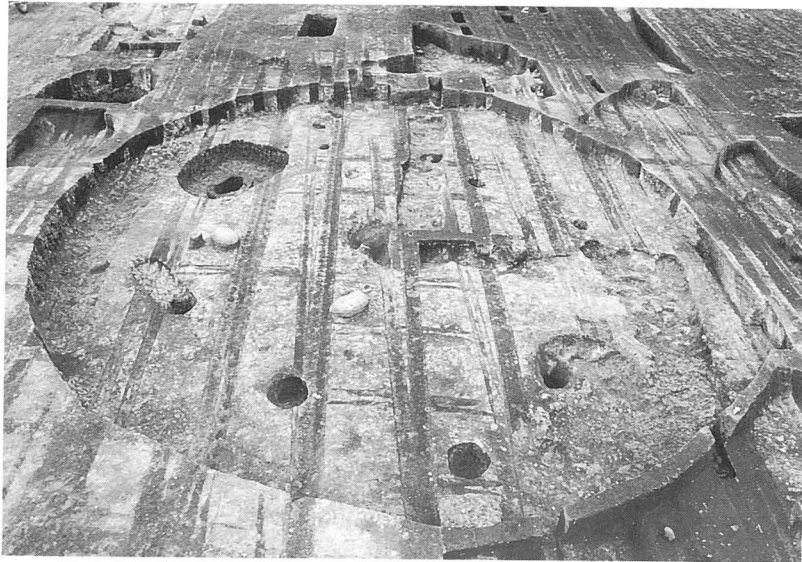
图版14
7号竖穴住居、8号竖穴状遺構



图版15 9号竖穴住居



图版16 9号竖穴住居出土遺物



图版17 10号竖穴住居



图版18 4号土坑



图版19 4号土坑出土遗物

图版20 2号周溝状遺構



图版21 5号土壙



图版22 5号土壙出土遺物

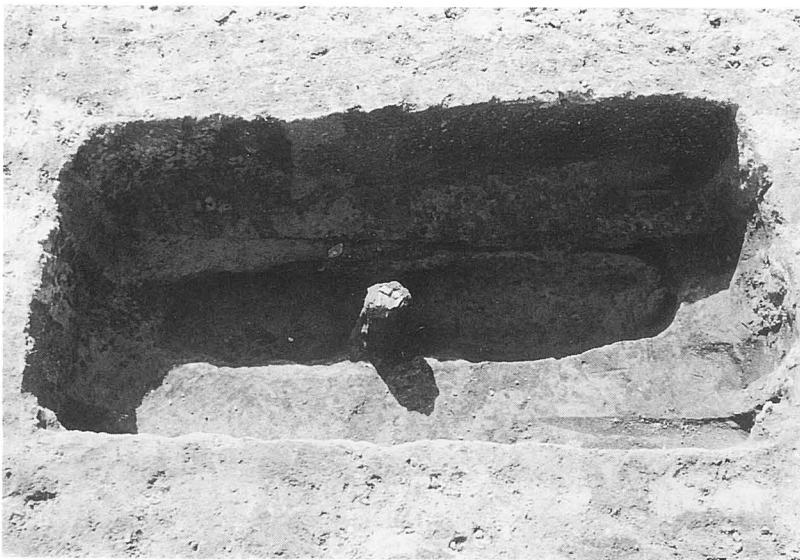




图版23 6号土壤



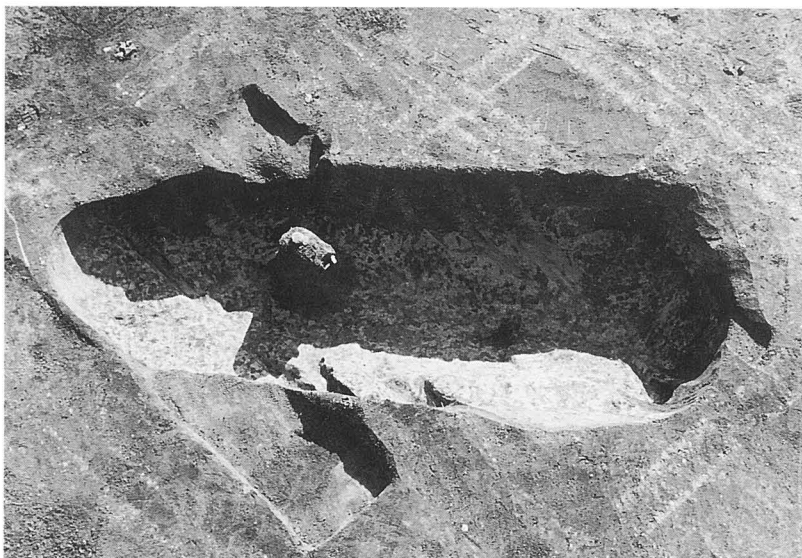
图版24 7号土壤



图版25 8号土壤



图版26 11号土壤



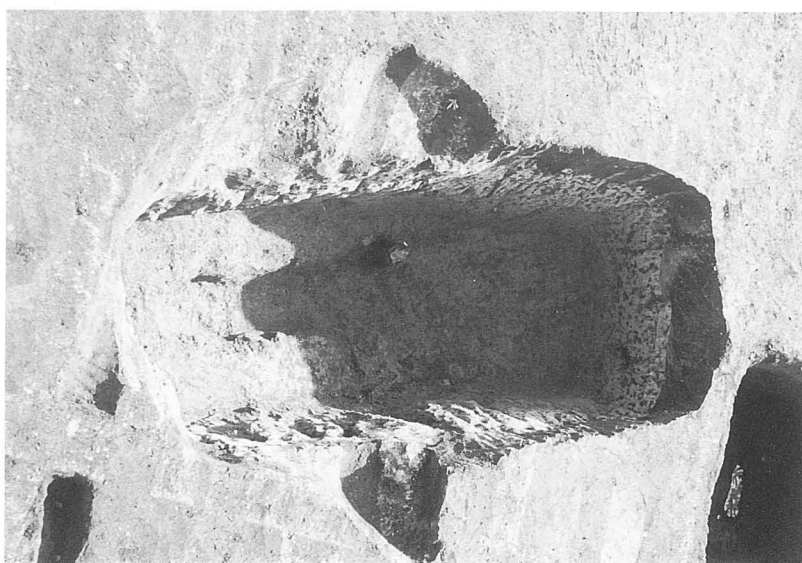
图版27 15号土壤



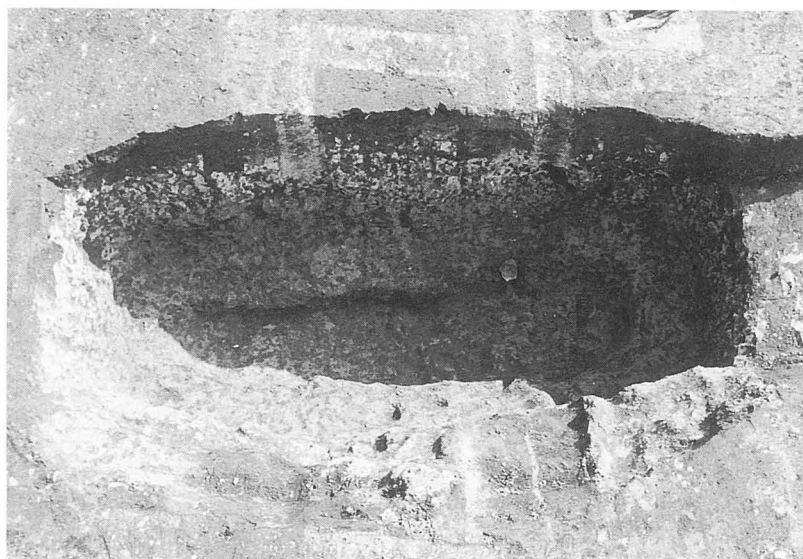
图版28 18号土壤



图版29 18号土壤出土遗物



图版30 19号土壤



图版31 20号土壤

图版32 21号土壤



图版33 22号土壤



图版34 22号土壤出土遺物





图版35 24号土坑



图版36 25号土坑

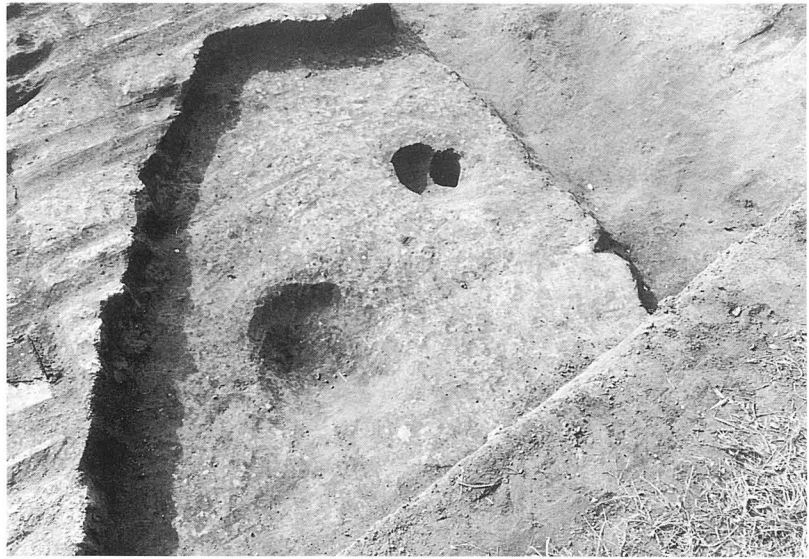


图版37 26号土坑

图版38 21·22号竖穴住居

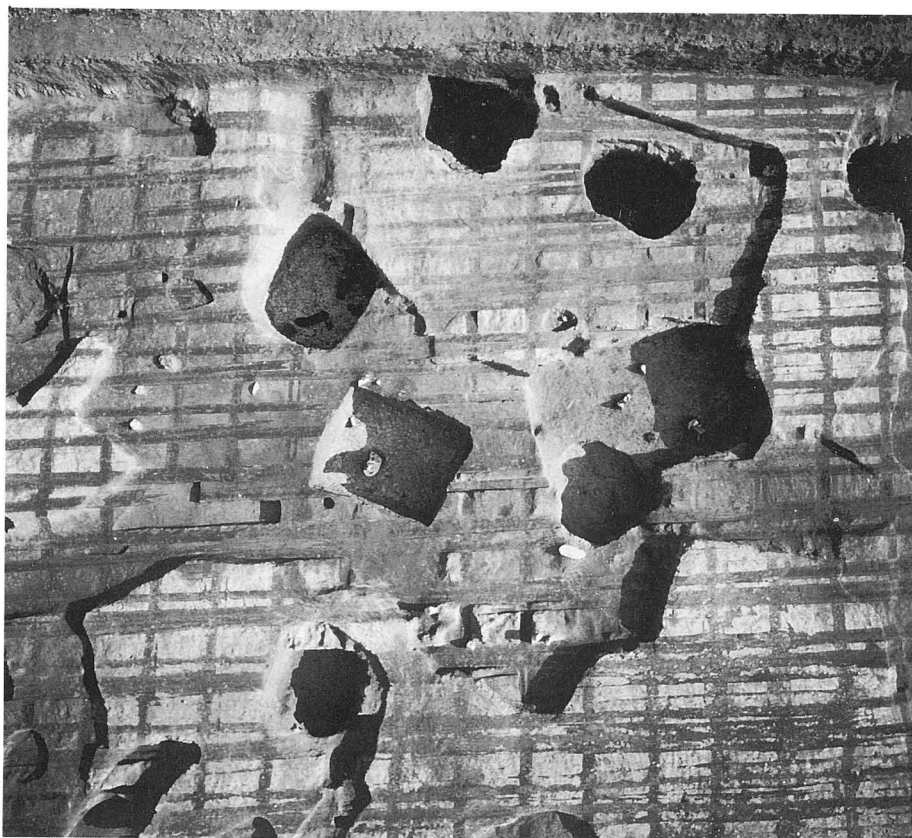


图版39 23号竖穴住居



图版40 26号竖穴住居

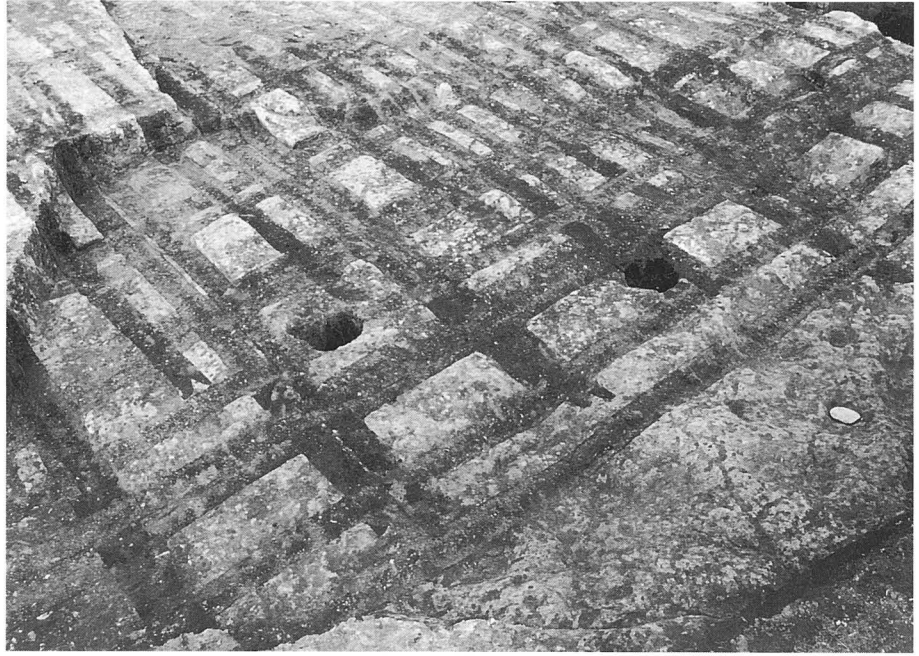




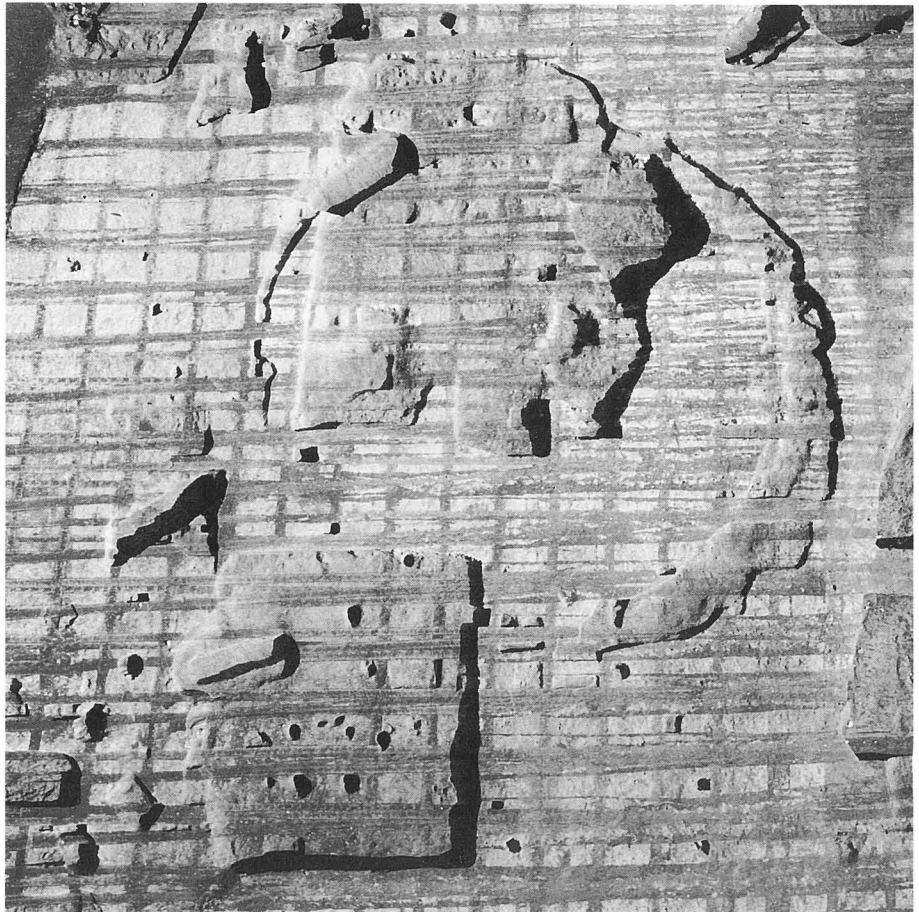
图版41 24·25号竖穴住居



图版42 27号竖穴住居



图版43 30号竖穴住居



图版44
32·33号竖穴住居、
5号周溝状遺構